

<sup>1</sup> apa /  
了

13. sapulalujalujan ati  
サブラルヤルヤンと  
sasulalulalui  
サスラルラリ

- <sup>5</sup> ti sapulalujalujan ati sasulalulalui ?a  
は サブラルヤルヤン(男)と サスラルラリ(女)共
- <sup>6</sup> marvalau / mano makiviñ azoa ti sasula-  
夫婦 ところが 有拵 其の は サスラ
- <sup>7</sup> lulalui ?a puliñu[i]ñuc ?a kinatsavatsavan /  
ルラリ共 全部 其 身體
- <sup>8</sup> qau nu ?eqöncan ?a simavaqavaqar apa /  
そこで 時 所見 共 甚不潔 了
- <sup>9</sup> qau masipats apa ti sapulalujalujan /  
そこで 嫌 了 は サブラルヤルヤン
- <sup>10</sup> qau sivrirts apa azoa ti sasulalulalui /  
そこで 所捨 了 其の は サスラルラリ
- <sup>11</sup> qau sa pavalit ?a pakaiv ci sacukucuku /  
そこで 而 改 其 娶 な サチュクチュク
- <sup>12</sup> qau ?a pakaiv ci sacukucuku / maöepu  
そこで 其 娶 な サチュクチュク 集
- <sup>13</sup> ?a qaleqali sa zian / qau ?isankuja azoa  
は 人々 而 踊 すると 怒 其の
- <sup>14</sup> ti sasulalulalui to si?a sivrirts timaju /  
は サスラルラリ 爲 理由 所捨 彼は
- <sup>15</sup> qau siminai i pasa [ikuz toa [ikizal /  
そこで 戯ふ で 方 後 の 窟
- <sup>16</sup> "kuda tsimuvud ?a zalum to ?u pavanau  
如何 湧出 が 水 爲 我の 洗
- <sup>17</sup> to ?u kiviñ" aja siminai azoa ti sasula-  
を 我の 拵といふ 歌ふ 其の は サスラ
- <sup>18</sup> lulalui / minto? / tsimuvud ?a paqo[id ?a  
ルラリ 見ると 湧出 其 本當に が
- <sup>19</sup> zalum / qau sipavanaw-apa toa kiviñ  
水 そこで 所用洗 了 な 拵
- <sup>20</sup> nimaju / minto? masoa[ap ?a kiviñ / qau  
彼の 見ると 説去 は 拵 すると
- <sup>21</sup> bu[abu[ai apa ti sasulalulalui /  
甚美 了 は サスラルラリ

10. si-virits 捨てる物,用具主,妻.  
12. ci <cai ...に,固有人名詞,人名詞に用ゐる.  
14. si?a si-virits 捨てる物になつた理由, si?a <\*sika 理由,用具主の形式.

てしまった。

13. サブラルヤルヤンと  
サスラルラリ

サブラルヤルヤンとサスラルラリ

イといふ夫婦の者があつた。ところがサスラルラリは、全身疥癬にかゝつたので、見ると不潔で醜くなつてしまつた。そこで、サブラルヤルヤンは嫌つて、サスラルラリを離縁した。而して新にサチュクチュクを娶つた。

サチュクチュクを娶つた時に、人々

が集つて踊つた。するとサスラルラリは、自分の離縁されたことを怒つて、窟の後側で、私の疥癬を洗ふ水が湧けばよいのに、といつて歌を唄つた。見る間に、水が本當に湧き出して来た。そこで彼は、自分の疥癬を洗つた。見る間に疥癬がとれて、サスラルラリは大變な美人になつた。

19. si-pavanaw-apa 其を以て體を洗ふ爲のものにした,用具主,水, ma-vanau 體を洗ふ.

- <sup>1</sup> qau sa ?i?a[?a]a[?a] / qau sa vaik ?a sma  
そこで 而 自分化粧 そこで 而 行 共 赴
- <sup>2</sup> coa qaleqali ?a zimiazian / la?oa ini zian /  
處 人々 共 踊つてゐる 併 不 踊
- <sup>3</sup> izoa i vavau toa qenalivan / ?a limiza-  
居其處に 上 の 屋根 其 眺めてゐ
- <sup>4</sup> lizau sa?amaja / la?oa kudain ?a bu[ai  
る 只 併 所如何 共 美
- <sup>5</sup> aravats / maqelqeil ?a qaleqali ?a zimi-  
甚 眩目 は 人々 共 歌つ
- <sup>6</sup> azian / qau tsoai apa ini apa tiziñ toa  
てゐる すると 暫 了 不 了 堪 に
- <sup>7</sup> qelqeilan ?a qaleqali / "aqo maqelqeil  
眩目 は 人々 何故 眩目
- <sup>8</sup> icin aravats" aja qaleqali ?a zimiazian /  
我等は 甚 といふ 人々は 共 歌つてゐる
- <sup>9</sup> sa ?eqönci ?a palivavau / minto? izoa ti  
而 所見 は 上方 見ると 居其處が
- <sup>10</sup> sasulalulalui ?a raqöemilaj e qenalivan /  
サスラルラリ 共 既坐 に 屋根
- <sup>11</sup> ?a mato qadau ?a ?inabu[ai /  
其 如 太陽 は 美しさ
- <sup>13</sup> qau liñlipan ni sapulalujalujan / sivi-  
そこで 所見 の サブラルヤルヤン 振
- <sup>14</sup> vis apa ?iniciakan ?a pinakaivan / qau  
放 了 逸手人 共 娶つた人 そこで
- <sup>15</sup> sa vaiki apa qöemvit ti sasulalulalui /  
而 所行 了 抱腰 は サスラルラリ
- <sup>16</sup> "parpövalavi anan" aja ti sapulalujalujan /  
互可成夫婦 再 といふ が サブラルヤルヤン
- <sup>17</sup> la?oa "masipats apa ?in canusun / azoa  
併 厭になる 了 我は 汝を あの
- <sup>18</sup> su sinivirits apa ?in" aja ti sasulalu-  
汝の 所捨了者 了 我は といふ が サスラル
- <sup>19</sup> lulai / "tsauwan ?a makiviñ sun / avan  
ラルリ 人 共 疥癬 汝は 其
- <sup>20</sup> ?u sivrirts" aja ti sapulalujalujan / la?oa  
我の 所捨理由 といふ が サブラルヤルヤン 併
- <sup>21</sup> no ?a kudain ?a zimipiñ ti sasulalulalui  
雖 其 所如何 共 強請 は サスラルラリ

そこで彼女は化粧して、踊つてゐる人々の處へ行つた。併し(自分は)踊らないで、屋根の上に居て、只眺めて計るた。併し、何ともいふ事の出来ない程に美しいので、歌ふ人々は(目が眩しくなつた。暫くすると、人々はその眩しきの爲に、堪へられなくなつてしまつて、何故我々は、こんなに大變眩しいのだらう)といつた。而して上の方を見た。見ると、サスラルラリが屋根の上に坐つてゐて、その美しさは太陽の様であつた。

サブラルヤルヤンは之を見て、手を

つないで(踊つて)ゐた花嫁を振り放して、向ふへ行つて、サスラルラリの腰を抱いた。サブラルヤルヤンは「もう一度夫婦にならう」といつたが、女は「私はお前が嫌ひになつた。私はあの、お前に捨てられた者だ」といつた。「汝は疥癬にかゝつた、それだから私が離縁したのだ」とサブラルヤルヤンがいつ

1. ?i?a[?a]a[?a] 自分を飾る,正装する, ?m-a[?a] 作る.  
14. ?in-i-ciak-an <k-in-i-ciak-an 自分で手をつないでゐる人, ma-ca-ciak 互に手をつなぐ.  
p-in-akaiv-an 娶つた人,客體主,妻, pakaiv 娶る.

15. vaik-i 其處へ行く,位置主,妻の處.  
16. par-po-valav-i 互に夫婦にならう, mar-valau 互に夫婦になつてゐる者.

- <sup>1</sup> ini apa ʔisaʔu aʔata / qau mavilad azoa  
不 了 承諾 やはり そこで 逃 其の
- <sup>2</sup> ti sasulalulalui / laʔoa [aijin ni sapulalu-  
は サスラルラライ 併 所追掛 の サブル
- <sup>3</sup> jalujan / qau ini kilap apa ti sasulalulalui  
ナルヤン すると 不 知 了 は サスラルラライ
- <sup>4</sup> to kimuda /  
な 為如何
  
- <sup>7</sup> qau jimalun i gadigadi maʔulai apa  
そこで 到着 に 山頂 疲 了
- <sup>8</sup> aravats ti sasulalulalui / qau "sau aʔapu  
其 は サスラルラライ すると 行け 取れ
- <sup>9</sup> ʔa ʔu linai / ʔa ʔu ʔinajoq izoa i qena-  
は 其の 笠 其 我の 忘物 在彼處に 屋
- <sup>10</sup> livan / nu maʔciz sun parpovalavi apaʔ/  
根 時 歸來 汝が 互可成夫婦 ぞ
- <sup>11</sup> ajain ʔa vintsa ti sapulalujalujan / laʔoa  
所言 其 爲 は サブルナルヤン 併
- <sup>12</sup> masaʔu ti sapulalujalujan / mintoʔoq ʔa  
喜 は サブルナルヤン 走 共
- <sup>13</sup> vaik / ʔa maʔap toa linai / qau sa tsikil  
行 共 取 を 笠 そこで 而 歸
- <sup>14</sup> ʔa sma coa kinaizoanan ni sasulalulalui /  
共 赴 處 居た處 の サスラルラライ
- <sup>15</sup> mintoʔ nika-ʔa ti sasulalulalui / qau  
見ると 無 了 は サスラルラライ そこで
- <sup>16</sup> livavau toa kasiu / sa lizavi ni sapulalu-  
登 に 木 而 所眺 の サブル
- <sup>17</sup> jalujan / mintoʔ izoa-ʔa i lavik ʔa nama-  
ナルヤン 見ると 居其處了に 海 共 既
- <sup>18</sup> vilad apa /  
逃 了
- <sup>19</sup> azoa ti sasulalulalui jimalun i lavik /  
其の は サスラルラライ 到着 に 海
- <sup>20</sup> azoa ti sasulalulalui "ila paru tsatsagal"  
其の は サスラルラライ なりたい 様 蛛
- <sup>21</sup> aja siminai / qau mamaw-apa toa tsa-  
といふ 歌ふ すると 成同 了 と

1. ʔi-saʔu 自分で認める, s-im-aʔu 許す, ma-saʔu 喜ぶ。  
8. sa-u 行け, 主體主, 汝, s-m-a ...へ赴く, -u は客體主  
にも用ゐる, aʔap-u ʔa ʔu linai 私の笠をば取れ,  
aʔap-u 取れ, 客體主, 笠, m-aʔap 取る。

た。併し、如何にねだつても、サスラル  
ラライはやはり承諾しなかつた。サ  
スラルラライは逃げ出したが、併しサ  
ブルナルヤンは追掛けた。サスラ  
ラライは如何してよいか分らなか  
つた。

山の頂に着くと、サスラルラライは  
大變疲れた。そこで彼女は偽つて、サ  
ブルナルヤンに、「屋根の上に置き忘  
れた、私の笠を取りに行け。お前が歸  
つて来たら、互に夫婦にならう」といつ  
た。すると、サブルナルヤンは喜ん  
で、走つて笠を取りに行つた。而して、  
サスラルラライの居た處へ戻つて来  
た。見るとサスラルラライは居ない。  
そこでサブルナルヤンは、木に上つ  
て眺めた。見るとサスラルラライは  
逃げて、海の處に〔行つて〕居た。

サスラルラライは〔逃げて〕海の處に  
着いた。彼は蛛の様になりたいとい  
つて歌つた。すると蛛と同じになつ

9. ʔin-ajoq 残して置いた物, 179頁, 註1。  
14. k-in-a-izoa-nan 居た處, ka-izoa-nan 居處, i-zoa 其  
處に居る。

- <sup>1</sup> tsagal kavakavin apa ʔa lavik / qau  
蛛 所歩行 了 は 海 そこで
- <sup>2</sup> jimalun i tagau izoa naqoemiʔaj / laʔoa  
到 に 果 彼處 既坐 併
- <sup>3</sup> ciʔai aravats / vaikin ʔa [imaip ni sa-  
墓 甚 所行 共 追掛 の サ
- <sup>4</sup> pulalujalujan ʔa sma tagau / laʔoa mintoʔ  
ブルナルヤン 共 赴 果 併 見ると
- <sup>5</sup> uzai a valau ni sasulalulalui i tagau /  
居 が 夫 の サスラルラライに 果
- <sup>6</sup> qau azoa sapulalujalujan ʔipatsai apa to  
そこで 其の サブルナルヤン 自殺 了 爲
- <sup>7</sup> ciʔajan /  
戀墓

て、海の上を歩いた。そこで海の果の  
處に到着して坐つた。併し〔一方〕サブ  
ラルナルヤンは大變女を慕つて、海の  
果迄追掛けて行つた。併し見ると、海  
の果にはサスラルラライの〔新しい〕夫  
が居た。それでサブルナルヤンは、  
戀墓の爲に〔到頭〕自殺してしまつた。

14. marɔava atoa marɔali  
女友 と 男友

- <sup>10</sup> uzai a marɔava atoa marɔali ʔa  
有 が 女友 と 男友 共
- <sup>11</sup> sitsoajan ʔa masiasik / masasuvaʔivaʔit  
昔 共 取草 交代
- <sup>12</sup> tiamaju ʔa masak / ʔilavaran ʔa marɔali  
彼等は 共 取草 言 が 男女
- <sup>13</sup> "timun aj-anan ʔa marɔava ʔa masak"  
汝等 そこ 一寸 共 女友よ 共 取草
- <sup>14</sup> ajain / "ui" aja azoa marɔava / qau  
所言 はい といふ 其の 女友は そこで
- <sup>15</sup> masak azoa marɔava / qau azoa marɔali  
取草 其の 女友は すると 其の 男友は
- <sup>16</sup> qoemiʔaj i coa qapaz noa kavoavoan /  
坐 に 處 縁 の 島
- <sup>17</sup> qau sa sanpaɔapani ʔa marɔava / no ma-  
そこで 而 爲所憑 是 女友 時 取
- <sup>18</sup> sik azoa marɔava / ʔijikitsan ʔa tsipaʔ  
草 其の 女友が 所附着 は 膝
- <sup>19</sup> noa qalitsi / qau "i: i" aja ʔa marɔava /  
の 男根 すると といふが 女友
- <sup>20</sup> sa sapsapi azoa qalitsi / laʔoa ini ʔa  
而 所携去 其の 男根は 併 不 共
- <sup>21</sup> masapsap / tsimiktʔikil azoa qalitsi ʔa  
去 幾度も歸來 其の 男根は 共

14. 女友と男友

昔、女の友達と男の友達とがあつて、  
草を取つてゐた。彼等は、男女交代し  
て草を取つた。男達は、「女達よ、お前等  
は先に草を取れ」といつた。女達は、「は  
い」といつて草を取つた。ところが、男  
達は島の縁の處に坐つてゐて、女達に  
惡戯をした。女達が草を取つてゐる  
と、男根が〔来て〕女の膝に附着した。女  
達は「おやおや」といつて、その男根を手  
ではねのけたが、取れない〔取れたかと  
思ふと〕其の男根は又膝の處へ戻つて  
来た。而して、その女達は〔島の〕端まで

6. ʔi-patsai < \*ki-patsai 自分で死ぬ, matsai 死ぬ, IN.  
matai.  
11. ma-sa-su-vaʔi-vaʔit 互に交代して仕事する, ma-vaʔit  
代る。  
17. san-paɔapan-i 其人に憑戯する, 位置主, san 爲る, -i 位

置主。  
18. ʔi-jikits-an < \*ki-jikits-an 自分で来て其處に附着す  
る, 位置主, 膝, j-im-ikits 附着する。  
20. sapsap-i 物を携除ける, 客體主, 男根, ma-sapsap 携は  
れてのく, 主體主, 男根, 21行。

- <sup>1</sup> sma coa tsipa/ qau timariv apa aza  
赴 處 膝の そこで 端まで 対 了 其の
- <sup>2</sup> marɔava/  
女友は
- <sup>3</sup> qau "timun aj-apa/ ?a masak" ajain  
そこで 汝等 こそよ 其 取草 所言
- <sup>4</sup> azoa marqa/i/ qau vaik azoa marqa/i ?a  
其の 男女は すると 行 其の 男女は 其
- <sup>5</sup> masak/ no masak azoa marqa/i/ ?i-  
取草 時 取草 其の 男女が 所附
- <sup>6</sup> kitsan noa kuci ?a tsipa/ "i: ?a kuci" aja  
着 の 女陰は 膝 おや 其 女陰 といふ
- <sup>7</sup> marqa/i/ sa sapsapi/ la?oa ini a soa/ap/  
男女が 而 所携去 併 不 其 離脱
- <sup>8</sup> qau luslusin toa vuka/ la?oa ini soa/ap  
そこで 所附 で 鍬 併 不 離脱
- <sup>9</sup> apata/ qau marikuc azoa marqa/i toa  
やはり そこで 恐 其の 男女は な
- <sup>10</sup> kuci/ qau pagirits azoa marqa/i/ sa  
女陰 そこで 時 其の 男女は 而
- <sup>11</sup> kavi/ad apa/  
逃去 了

草を取ってしまった。

すると[女達は[今度は]お前等が取る  
のだ]と、男達にいった。そこで男達は、  
行つて草を取った。男の友達が草を  
取つてゐると、女陰が[行つて、男の膝に  
附着した。[おや、女陰が]と、男達がいつ  
て、手で拂ひのけたが、併し取れない。  
そこで鍬で削つたが、併しやはり取れ  
ない。到頭、男達は女陰を恐れて、大聲  
を擧げて、逃げて行つてしまった。

15. imatsatsukis  
石 門

- <sup>14</sup> uzai ?a sitsoajan ?a naqoemalup ?a tsau-  
有 其 昔 が 狩した 其 人
- <sup>15</sup> tsau/ mano: qojalan/ qau vaik a siulai  
ところが 雨降時 そこで 行 其 宿泊
- <sup>16</sup> ?a sma coa liv noa qatsilai/ mano:  
其 赴 處 洞 の 石 ところが
- <sup>17</sup> miqatsa ?a qojal/ tsalinœq ?a qatsilai/  
大くなる が 雨 音なてる は 石
- <sup>18</sup> mano: "icoqcoqei apa icin noa qatsilai"/  
ところが 所押潰 了 我等は の 石
- <sup>19</sup> aja azoa matsijil/ "ini kuda/ ?u tsukis-  
といふ 其の 一人 非 如何 我の 所支
- <sup>20</sup> aw-apa toa ?u vilatan/ aja matsijil qau  
持 だ で 我の 弓 といふ 一人 そこで

15. 石 門

昔、狩に行つた人々があつた。する  
と、雨が降つて来たので、石の洞(今の石  
門の處)に行つて泊つた。ところが、雨  
かひどくなつて、[洞の上の]石が音を立  
て、[落ちて]来た。その時一人の者が、  
[我々は、石に押し潰されるかも知れな  
い]といふと、[又]一人が、[何でもなし。私

主。  
15. qojal-an 雨の時、雨天、-an 時。  
18. ?i-coqcoq-ei 自然に押潰す所となる。客體主我等。coq-  
coq-œen 人を押潰す。客體主、彼等。185頁、2行。c-in-  
oqcoq 押潰された人。185頁、7行。比。c-im-oqcoq ?a  
tsi[al]aq 雷が落ちる。

- <sup>1</sup> tsukisin/ mano: ini tizig ?a vilatan/  
所支持 ところが 不 堪 は 弓
- <sup>2</sup> qau coqcoqœen tiamaju/ ?a naqoemirig i  
そこで 所押潰 彼等は 其 臥してゐた者に
- <sup>3</sup> coa liv noa qatsilai/ matsai apa tiamaju  
處 洞 の 石 死 了 彼等は
- <sup>4</sup> ?a mapulat/ qau avan apa ?inasipatsan  
其 皆 すると 其 だ 所眠者
- <sup>5</sup> ?a kakivikivipan atoa kakorakorapan/  
は 疥癬だらけの人 と 皮膚病の人
- <sup>6</sup> ?a naqoemirig i tsasau toa liv noa qa-  
其 臥してゐた者に 外 の 洞 の
- <sup>7</sup> tsilai/ to cinoqcoq apa tiamaju/ ?a ci-  
石 な 成所押潰 了 彼等は 其 報
- <sup>8</sup> mumal toa i cumaq ?a tsautsau/ avan  
知 に 在家 其 人 其
- <sup>9</sup> si?a imatsatsukis ajain apa/  
故は 互に支へた處 所言 了

が私の弓で支へてやろう]といつて支  
へた。すると、弓は[重さに]堪へなかつ  
たので、洞に臥してゐた人々は、押潰さ  
れて、皆死んだ。ところが彼等の内に  
疥癬の人と白雲の如き皮膚病の人が  
あつたが、彼等は特に厭がられてゐた  
ので、洞の外に寝てゐた。それで人々  
が押潰されたことを、その家に報知し  
た。[今日石門の處のことを]イマツェ  
ツクス(互に支へた處)といふのはさう  
いふ譯である。

16. kakiɔian ?a livavau i  
子供 其 上る に  
coa ka[i]v[ivan]  
處 天

16. 天へ上つた

子供

- <sup>15</sup> uzai a sitsoajan ?a mar?alak/ i kava-  
有 其 昔 が 親子 於 處
- <sup>16</sup> voan ?a karakudaku:da/ ?a alak ?a ca-  
其 働いてゐる は 子 其
- <sup>17</sup> vu[up] ?a vavajan nasimval toa kaka  
年長 其 女 既負者 を 兄弟
- <sup>18</sup> calalak ?a oqalai/ qau karakudakuda ?a  
年少 其 男 そこで 働いてゐる は
- <sup>19</sup> kina/ mano: qœmaœp ?a sinval ?a kaka/  
母 ところが 泣 は 所負 其 兄弟
- <sup>20</sup> qau katsuin noa nasimval ?a kaka ca-  
そこで 所伴行 の 既負者 其 兄弟
- <sup>21</sup> vu[up] ?a vavajan/ ?a sma coa kina/ sa  
年長 其 女 其 赴 處 母の 而

昔、親子(母と姉と弟)の者が有つて、島  
で働いてゐた。姉は弟を負うて[向う  
の方に]ゐた。母が働いてゐると、負は  
れた弟が泣き出したので、負つてゐる  
姉は弟を母の處へ連れて来た。而し  
て、その弟に乳を飲ませてやれといつ  
た。すると母は、[仕事が忙しい]といつ

4. ?in-a-sigats-an (人の) 疲つてゐる者。客體主。ma-si-  
gats 疲ふ、主體主。  
5. ka-kivi-kivig-an 疥癬だらけの人。ma-kivig 疥癬に  
かゝる。  
ka-kora-korap-an 白雲だらけの人。kora-korap 白雲

の如く皮の剥ける病。  
17. na-s-im-val 負つてゐる者。主體主。s-in-val (人の)負  
つてゐる者。客體主。弟。19行。

- <sup>1</sup> ?ilavarani ?a kina / to patutu tazoa kaka  
 所話 は 母 ことを 使飲乳 其の 兄弟に
- <sup>2</sup> ?a calalak / mano "ma[acak to karakuda"  
 其 年少 ところが 多忙 で 仕事
- <sup>3</sup> ajain noa kina / qau ini patutui / la?oa  
 所言 の 母 そこで 不 所使飲 併
- <sup>4</sup> "matsula aravats / patutui anan" / ajain  
 飢 其 所使飲乳 一寸 所言
- <sup>5</sup> ?a mu:mal ?a ?ilavarani ?a kina / la?oa ini  
 其 再 其 話 は 母 併 不
- <sup>6</sup> patsupul / "kimoda-?a-in" aja / azoa  
 從 爲如何のだ 我は と思 其の
- <sup>7</sup> ki?iki?i?ian ?a sinval / tu si?a mapeq  
 子供は 其 負 爲 故 疲
- <sup>8</sup> apa timaju / maja si?a qoemaqaon azoa  
 了 自分は 其上 故 泣いてある 其の
- <sup>9</sup> ki?iki?i?i ?a sinval toa tsulam / ini apa  
 子供は 其 所負 で 飢 不 了
- <sup>10</sup> porokuz tu kimuda / vaik apa livavau  
 定 な 爲如何 行 了 上る
- <sup>11</sup> toa mui ?a qatsilai / qau sa sinai azoa  
 に ムイ 其 石 そこで 而 謔 其の
- <sup>12</sup> ki?iki?i?i ?a cavu[up / qau mano [ima-  
 子供は 其 年長 すると 丁度 聞
- <sup>13</sup> dija ?a tsimas toa sinai noazoa ki-  
 は 神 を 歌 其の
- <sup>14</sup> ?iki?i / ma?ciz ?a tsimas ?a ?eqenic /  
 子供の 來 は 神 其 見
- <sup>15</sup> minto? pinao[?a ?a tsimas / so[api?in ?a  
 見ると 機 は 神 子 所取下 は
- <sup>16</sup> kaka calalak ?a sinval / sa katsui ?a sma  
 兄弟 年少 其 所負 而 所伴行 其 赴
- <sup>17</sup> ka[iv[ivan azoa kaka ?a cavu[up / qau  
 天 其の 兄弟は 其 年長 そこで
- <sup>18</sup> azoa kaka ?a calalak / sisikam noa  
 其の 兄弟 其 年少 所典席 の
- <sup>19</sup> tsimas sa paqoeripi /  
 神 而 所使寝
- <sup>20</sup> qau si[iman apa avan apa qatop ?a  
 そこで 夕方 了 其 だ 泣聲 共
- <sup>21</sup> [adipadijan noa kina / qau pinao[?a /  
 所聞 の 母 そこで 機
- <sup>22</sup> "u vaikaw-anan ?a ?eqenic tu kimu-  
 我の 所行 一寸 其 見 を 爲

1. pa-tutu 乳を飲ませる。主體主。pa-tutu-i 其者に飲ませる。位置主。3行。又命令。位置主。4行。tutu 乳房。IN. susu.  
 4. ma-tsula 飢てゐる者。tsula-an 飢餓。9行。

て飲ませなかつた。併し[大變ひもじがつてゐる。一寸飲ませてやれ]と再び母にいった。併し[母は]聞かなかつた。負つてゐる姉は、自分ほだるくなるし、其上負はれた弟は、飢の爲に泣き止まないで、[如何しようか]と思つた。如何してよいか分らなくなつたので、ムイといふ石の上に上つて、歌を唄つた。すると神様がその子供の歌を聞きつけて来て見た。見ると、神様は可愛相に思つて、負はれた弟を下して置いて、その姉を天上へ連れて行つた。而してその弟には、神様が英産を與へて其處に寝かせて置いた。

夕方になつて[子供の]泣聲が母に聞えたので、母は可愛相に思つて、[子供は]如何してゐるか、一寸見に行かう]とい

11. mui 水晶の如き白い石といふ。  
 18. si-sikam …の爲に數物を數いてやる。用具主。弟。si-kam 席。數物。

- <sup>1</sup> dakuda" aja ?a kina / vaikin sa ?eqenci /  
 如何 といふが 母 所行 而 所見
- <sup>2</sup> minto? avan apa calalak ?a alak ?a na-  
 見ると 其 だ 年少 其 子 其 既
- <sup>3</sup> qoemirip ?a qoemaqaon / qau mapuvaron  
 寝 其 泣てある そこで 心配
- <sup>4</sup> azoa kina / karemin azoa alak ?a ca-  
 其の 母は 所捜 其の 子は 其
- <sup>5</sup> vu[up / mar?a qaoqa:van / la?oa nika-  
 年長 或 所叫 併 無
- <sup>6</sup> ?ata / qau misijima:n apa nika-?ata /  
 やはり すると 晩 了 無 やはり
- <sup>7</sup> vaik apa ?a cumaq azca kina / sa cumali  
 行 了 其 家 其の 母は 而 所告
- <sup>8</sup> ?a kama / qau mapuvaron ?a kama atoa  
 は 父 すると 心配 は 父 と
- <sup>9</sup> kina / tsima?itsanjit apa i cumaq sa-  
 母 泣いてある 了 で 内
- <sup>10</sup> ?amaja /  
 只
- <sup>11</sup> minto? si?apico ?a qadau to ?inao[avan  
 見ると 第七 は 日 から 消失した時
- <sup>12</sup> nazoa ki?iki?i?i / ma?ciz azoa ki?iki?i?i  
 其の 子供の 來 其の 子供は
- <sup>13</sup> ?a cumaq / la?oa qatsa-?a aravats bu[ai  
 其 家 併 成大了 甚 美
- <sup>14</sup> apa uta / qau ini kilap ?a mar?akama  
 了 又 そこで 不 知 は 父等
- <sup>15</sup> tu nima ?a alak / qau ?ivadaqan to ?asinu  
 ことを 誰の 其 子 そこで 所問 こゝを 何處から
- <sup>16</sup> ?a tsautsau / to tima ?a ?adan nimaju /  
 其 人 ことを 誰か は 名 彼の
- <sup>17</sup> qau cimamal azoa ki?iki?i?i toa vinaikan  
 すると 告 其の 子供は を 行つた處
- <sup>18</sup> ?a livavau /  
 其 昇
- <sup>19</sup> "tazoa qoemaon ?a ?u sinval / qao maja-  
 彼時に 泣 は 我の 所負人 そこで 且
- <sup>20</sup> ?a ?u peqan / qau vaik a?in ?a sma coa  
 了 我の 疲 そこで 行 我は 其 赴 處
- <sup>21</sup> mui ?a qatsilai / sa ?u sinai / manu  
 ムイ 其 石 而 我の 所謔 ところが
- <sup>22</sup> ma?ciz ?a tsimas / sa so[api ti aq[ip / sa  
 來 が 神 而 所取下 は 坊や 而

つて行つて見た。見ると、弟は寝て泣いてゐる[が姉は居なかつた]。そこで母は心配して、姉を捜した。呼んだり叫んだりしたが、併しやはり居ない。日が暮れたけれども、やはり居なかつた。母は家へ歸つて父に告げた。父と母とは心配して、家の内で只泣いてばかり居た。

すると、その子供は、見えなくなつてから七日目に、内へ歸つて來た。併し大變大きく成長して、又美しくなつてゐた。父等家内の者は、[其が誰の子か]分らないので、何處から來たのか、又その名は誰であるかと問うた。するとその子供は天上に上つた譯を告げた。

[あの時私の負つてゐる弟は泣くし、其の上、私はだるくもあつたので、私はムイの石の處へ行つて、歌を唄つた。すると神様が來て、坊やを下して、私を

9. ts-im-aji-tsanjit 泣いてゐる。ts-im-ajit 泣く。Mal. tangis, Ilok. panag-sangit <\*panag-tangis.  
 11. si-a-pico <si-ka-pico 第七。

?in-ao[av-an <k-in-ao[au-an 消失した時。m-ao[au 消える。-an 時。  
 17. v-in-aik-an 行つてゐた處。vaik 行く。

- <sup>1</sup> katsui a'in ?a sma vavau i coa kaliv-  
所伴行 我は 其 赴 上 へ 處 天
- <sup>2</sup> [ivan/ la'oa tutsu sinan alak apa'in  
併 今 所成 子 了 我は
- <sup>3</sup> noa tsimas/ ini apa more i cumaq  
の 神 不 了 思 居 家
- <sup>4</sup> a'in"/ aja azoa kiqikiqi/ qau pacara  
我は といふ 其の 子供は そこで 大體
- <sup>5</sup> kilapan noa kina atoa kama to niamaju  
所了解 の 母 と 父 ことを 自分達の物
- <sup>6</sup> ?a alak/ vitsoeqa[lin ?a [ima ?a ku]a/  
其 子 所握 は 手 は 足
- <sup>7</sup> masigats apa simau/ "maja-apa vaik/  
了 遺 勿 よ 行
- <sup>8</sup> imazai apa"/ ajain noa macalalak/ la'oa  
居此處 よ 所言 の 親 併
- <sup>9</sup> ini ?isa[u azoa kiqikiqi/ avan a "pa-  
不 承諾 其の 子供は 其物 共
- <sup>10</sup> vaii a'in toa vaqo to ci[u ?a vatan" aja/  
所與 我は を 粟 を 三 共 粒 といふ
- <sup>11</sup> qau ma[ap ?a matsijil/ sa pakaovuan  
そこで 取 其 自分 而 所挿入
- <sup>12</sup> toa qoval nimaju/  
に 髪 自分の
- <sup>13</sup> tsoaj-apa pagalu "more vaik apa'in/  
暫了 少 思 行 よ 我は
- <sup>14</sup> la'oa ?u katsuau tsua vaqo/ nu calu  
併 我の 所持行 此の 粟は 時 到
- <sup>15</sup> kaliv[ivan a'in ?u sitajim apa tsu/  
天 我が 我の 所用粒 だ 此は
- <sup>16</sup> qau nu [iau apa/ ?a maisu apa to ?u  
そこで 時 多 了 其 搗 の だ を 我の
- <sup>17</sup> kanin ?a matsijil/ nu maisu a'in ?izi-  
食物 共 自分 時 搗 我は 自然
- <sup>18</sup> muzup/ la'oa ?u mar'akama/ azoa ?a  
雷鳴 併 我の 父連よ 其は 共
- <sup>19</sup> maisuisu toa ?u kanin ajaw-apa"/ qau  
搗いてある を 我の 食物 と 思へ よ そこで
- <sup>20</sup> paitiz noa kai/ minto? maolau ini kilap  
終止 の 話 見ると 消 不 知
- <sup>21</sup> to sma inu/ avan apa kama atoa kina  
ことを 赴 何處 共 だ 父 と 母
- <sup>22</sup> sa'amaja ?a qoemaqoap i cumaq/  
具 共 泣いてある で 家

2. s-in-an ...に成した者, 客體主, 我は神が子に成した者  
の意, s-im-an 成す, 作る。  
9. pa-vai-i 與へよ, 位置主, 我。

天の上へ連れて行って下さった。併  
し私は今は神様の子に成つてゐるか  
ら、私は此の家に居ようとは思はない  
と其の子はいつた。そこで父と母と  
は、此が自分達の子であることが大體  
分つたので、手や足をつかまへて、(天上  
へ)遺るのを嫌がつた。親達は「行くな。  
此處に居よ」といつたが、併し子供は承  
諾しない。「只粟を三粒だけ下さい」と  
いつて、自分で取つて、自分の髪の中に  
入れた。

暫くしてから、私はもう歸らう。併  
し此の粟は私が貰つて行かう。天に  
歸つて私は此を裁えよう。粟が殖え  
たら、私は自分で私の食物(粟)を搗くが、  
私が粟を搗く時は雷が鳴る。併し父  
さん達、其の雷は私が私の粟を搗いて  
ゐるのだと思ひなさい。其で(彼の)話  
は終つた。見ると、子供の形は消えて、  
何處へ行つたか分らなかつた。父と  
母とは内で只泣いてばかり居た。

12. qoval 髪, Mal. uban 白髪。  
15. si-tajim 裁まる爲の物, 種物, 用具主, 粟。  
17. ?i-z-im-u-zug 雷が自然に鳴る, zug 雷。

17. vato  
犬

17. 犬

- <sup>2</sup> uzai a tsautsau ?a sitsoajan ?a poani-  
有 が 人 其 昔 共 物持
- <sup>3</sup> manima/ manox kamajan ?a maqiz ?a  
の人 ところが いつも 其 來 が
- <sup>4</sup> tsad/ ini papaol[ivni timaju/ qau kinim-  
賊 不 所安心 彼は そこで
- <sup>5</sup> nim timaju/ to "kudain tsua tsad sa  
考 彼は ことを 所知何 此の 賊は 而
- <sup>6</sup> ?arikuc"/ aja timaju ?a kinimnim/  
恐 と 彼は 共 考
- <sup>7</sup> la'oa ini kilap timaju to kudain/  
併 不 知 彼は ことを 可知何
- <sup>8</sup> manox maqiz ?a vujuvu[up ?a tsau-  
ところが 來 が 老者 共 人
- <sup>9</sup> tsau/ ?ivadaqan timaju/ "anima su  
所問 彼は 何 汝の
- <sup>10</sup> kinimnimnimin"/ ajain ?a ?ivadaq ti-  
所考 所言 共 問
- <sup>11</sup> maju/ qau cimupal toa varop nimaju/  
彼は そこで 告 を 心 彼の
- <sup>12</sup> "avan tsua tsad ?a corovo aravats/ ?u  
實際 此の 賊は 共 大勢 共 我の
- <sup>13</sup> kudain sa ?a so[ap aja ?u varop/ la'oa  
所知何 而 共 免 と思ふ 我の 心は 併
- <sup>14</sup> ini ?u kilap/ nu kimilap sun cumali  
不 我の 所知 若 知 汝が 所告
- <sup>15</sup> a'in"/ aja azoa poanimanima ?a tsau-  
我は といふ 其の 物持 共
- <sup>16</sup> tsau/ "manox avan azoa su kinimnim-  
人 挿は 共事 其の 汝の 所考
- <sup>17</sup> nimin/ la'oa maja mapuvarop/ ki-  
併 勿 心配
- <sup>18</sup> milap a'in aravats" ajain/ qau ma[iva  
知 我は 共 所言 すると 喜
- <sup>19</sup> azoa poanimanima ?a tsautsau/ "nu  
其の 物持は 共 人 若
- <sup>20</sup> maitazoa sa kimilap sun/ cumali a'in"/  
知其 而 知 汝は 所言 我は
- <sup>21</sup> "ui ?u cumalai sun/ uzai a vato ?a ?u  
宜 我の 所言 汝は 居 が 犬 共 我の

昔、物持の人が有つた。ところがい  
つも賊が来るので、彼は安心が出来な  
かつた。そこで彼は、此の賊は如何す  
れば恐れるだらうかと考へたが、併し  
如何すればよいか分らなかつた。

或る時(一人の)老人が来たので、彼は、  
「お前は如何考へるか」と彼に問うた。  
而して彼の心配の事を告げて、此の賊  
といふのは實に大勢だ。如何すれば  
免れることが出来ようかと、考へて見  
たが、併し分らない。若しお前が知つ  
てゐるなら、私に教へて呉れ」といつた。  
老人は「お前の考へてゐるのは其様な  
事か。併し心配するな。私はよく分  
つてゐる」といつた。そこで物持の人  
は喜んで、「若し其様にお前が知つてゐ  
るなら、私に教へてくれ」。「老人は」よし  
私はお前に教へよう。ゴロラン山(鯉  
龍山の北といふ)に犬が居るのを私は

1. vato IN. asu.  
2. po-anima-nima 何でも持つてゐる人, anima 何。  
10. kinimnim-nim-in 考へてゐる事, 客體主, kinimnim

考へる, 主體主, 4行。  
21. cumal-ai 告げよう, 現實未來, 位置主, 汝, c-im-umal  
主體主, 11行, cumal-i 命令, 位置主, 我, 20行。

- 1 linijiligan i gorolan / ?a [iau aravats / 所見了 にゴロラン山 其多 其
- 2 maja ?inababu[aj-apa / la?oa nu more 且 立派 だ 併 若 欲
- 3 vaik icin ?a ?ivato / ?a sma-zoa katsin 行 我等が 其 取犬 其 赴 其處 所咬
- 4 icin noa vato / la?oa nu ca seqavai toa 我等は の 犬 併 若 我等の 所作餅 で
- 5 vaqo / sa ca pataudi toa qoval ?a qavai / 菓 而 我等の 所混 な 髪 は 餅
- 6 sa ca pakani ?a kina noa vato / qau 而 我等の 所使食 は 母 の 犬 すると
- 7 sijikitsan ?a apal noa qavai / qau 所附着 は 口 の 餅 そこで
- 8 mapusimoalap ?a kina noa vato / qau nu 一生命に取除 は 母 の 犬 そこで若
- 9 ?a ca sazoain apa / ini apa kilap ?a vaio / 其我等の 所赴其處了 不だらう 知 は 犬
- 10 to ca ?al?alpin ?a alak / ca ?alpin ことな 我等の 所取 は 子 我等の 所取
- 11 ?a alak / qau ca katsuin ?a cumaq azoa 是 子 そこで我等の 所作來 其 家 其の
- 12 kuku sa ca pakani / qau nu miqatsa 子犬は 而 我等の 所飼 そこで時 成長
- 13 azoa kuku / gimorogor ?a kimats apa / 其の 子犬が 吠 其 咬 よ
- 14 nu mapciz ?a tsad nu qoemzimic / 若 來 が 賊 時 夜
- 15 qau nu katsin / nu gorogorin ?a tsad / そこで時 所咬 時 所吠 は 賊
- 16 ini apa tuju ?a mapciz ?a tsmakau" / 不 よ 敢 其 來 其 盜

見たが、大變澤山で、且又立派なものだ。  
 若し我々が其處へ犬を取りに行けば、  
 我々は犬に咬まれる。併し粟の餅を  
 作つて、その餅に髪を混せて、其を  
 犬の母に食はせる。すれば餅が犬の  
 口に附着するから、犬の母は一生懸命  
 に其を取除かうとする。其の處へ我  
 々が行けば、母犬は、我々がその子を捕  
 へてゐることを知らないから、[其の間  
 に]子を捕へる。そこで内へ連れて來  
 て、我々が之を養つておく。その子犬  
 が成長すれば、夜間賊が來た時には、吠  
 えたり咬んだりする。賊は吠えられ  
 たり、咬まれたりすれば、盜に來ること  
 は出來ない]といった。

2. 内 文 社  
(ca?ovo?ovol)

1. ti savali  
サグァリ

1. サグァリ

- 1. lin-igiligan 見た物、位置主、lin-igiligan 見る、主體主。
- 4. seqavai <si-qavai …の爲に餅を作る、用具主、犬、qavai 餅、5行。
- 7. sijikitsan 自然にそこに附着する、位置主、ii. j-im-ikits 附着する、主體主。
- 8. mapu-s-im-o-alap 一生命に取去る、s-im-o-alap 取

去る、mapu- 一生命、夢中になる。比、ma-pu-vavaja-vajan 女に夢中になる、vavajan 女。

採録期：昭和七年八月高雄州潮州郡内文社にて調査。  
 口授兼説明者：vu[aj ?a rovaniau 27歳、男。  
 補助者：警部補、寺田政重。

- 1 izoa sitsoajan / i pasuzajazaja toa tapau 有 昔 に 上方 の 家
- 2 ni [uvot?i / ?a tapau ni savali ?a pasusu の ルグチ が 家 の サグァリ 其バヌ家
- 3 atoa ?ina / sa ti savali / "mori vai? a?in と 母 而 は サグァリ 將 行 我
- 4 ?a sma cacan ?ina / la?oa maja smotsaqoev 其 赴 水汲所 母よ 併 勿 開蓋
- 5 ?a ?u caliv / aja ti savali / sa vai? ?a は 我の 行李 といふが サグァリ 而 行 其
- 6 sma cacan / mano "anima siajaja noa 赴 水汲處 ところが 何 如其理由 の
- 7 ?o ala? / ?o qajamau" / aja azoa ?ina / sa 我の 子 我の 所試 といふ 其の 母は 而
- 8 sutsaqoevi ?a caliv / mano minvar ?a ala? 所開蓋 は 行李 すると 四散 が 子
- 9 noa qacuvi / sma tonazoazoa-?a / の 蛇 赴 彼方此方 了
- 10 azoa ti savali ?a mori tsimi?i? ?a ?asi 彼 は サグァリ 其 將 歸 其から
- 11 cacan / mitsivuj ato ala? noa qacuvi / 水汲所 出會 と 子 の 蛇
- 12 ?a masa sinutsaqoevan apa ni ?ina" aja / 其 大概 所開蓋 了 の 母 と思
- 13 sa jimalun i tapau sa ?eqoencan ?a 而 着 に 家 而 所見 は
- 14 caliv / ni?a-?a ?a ala? / qau macalau ti 行李 無了 は 子 そこで 憤 は
- 15 savali / "aqo: so ajain ?a ?o ala? / mori サグァリ 何故 汝の 爲如其は 我の 子 將
- 16 vai? apa-?in ?a jimavats" aja ti savali / 行 よ 我は 其 出外 といふは サグァリ
- 17 sa mirava toa nanimanimaja / sa ki- 而 準備 を 種々の物 而
- 18 moidi / sa vai? ?a sma ?atsudas / ?a ?ina 被笠 而 行 其 赴 内脚頭 は 母
- 19 "maja vai? / maja vai?" aja / vai? ?a i 勿 行 勿 行 といふ 行 其 於
- 20 cavilil ?a ?ina aja / qau jimalun i lavi? / 後 は 母 さうだ すると 着 に 海

昔ルグチ家の上の方にバヌ家の  
 のサグァリ(女)と、その母の家が有つた。  
 [或時サグァリは、「私は水汲場へ行く、併  
 し母よ、私の行李を開けるな、]といつて  
 水汲場へ行つた。ところが母は、「私の  
 子がどういふ譯であんなに言ふのだ  
 らう、試に開けて見よう、]といつて行李  
 の蓋を取つた。すると蛇の子が澤山  
 出て來て、彼方此方へはひまはつた。  
 サグァリは水汲場から歸りかける  
 と、「途中で」蛇の子に出會つたので、母が  
 蓋を開けたのだらうと思つた。而し  
 て家へ着いて行李を見ると、子が居な  
 かつた。そこでサグァリは癪に障つ  
 て、「母に向つて」汝は何故私の子をあん  
 なにしたか。私は出て行く、]といつて、  
 色々の物を用意して、笠を被つて、内脚  
 頭へ行つた。母は「行くな、行くな」とい  
 つて、後からついて行つたさうだ。サ  
 グァリは海に着くと、海の中へはひつ

- 1. pasu-zaja-zaja 上の方、山手の方、zaja 比、IN. daya 川上、山手。
- 3. ?ina <kina 母、vai? <vaik 行、a?in <akin 我は、?u <ku 我の、5行、?o <ku 同上、7行、本社の語は普通 k な喉頭破音に轉訛す。
- 4. s-m-o-tsaqoev 蓋を取去る、主體主、su-tsaqoev-i 位置

- 主、行李、8行、s-in-u-tsaqoev-an 蓋を取去つた物、過去、位置主、12行、tsapoev 蓋。
- 6. <si-aja-aja そんなに度々いふ理由、aja さういふ。
- 7. qajam-au 現實未來、客體主、q-cem-ajam 主體主、194 頁、15行。

- <sup>1</sup> sa vai? i talaj toa lavi? / qau maqœ[jidi  
面行に中の海すると廻轉
- <sup>2</sup> maqœ[jidi ?a koidi / qau mau[au / qau  
廻轉は笠そこで消失そこで
- <sup>3</sup> mavan apa nu si aja cisavali / aja  
其だは理由言南勢湖如其
- <sup>4</sup> cautsi[i] ?a sitsoajan /  
言傳其昔
- <sup>6</sup> azoa ti savali namavup[ai toa va[alval  
其のはサグァリ既学を龍
- <sup>7</sup> ?asi lavi? / sa?a masa navai? ?a tsimi?i[  
から海それで大概行了其歸
- <sup>8</sup> ?a sma lavi? i cua va[alval /  
其赴海へ處龍

2. mi[ijan  
寶物

- <sup>11</sup> ?a sitsoajan ?inatsu ?a masi pinavavu-  
其昔持來物其から大武
- <sup>12</sup> qatsap / azaoa mi[ijan / sa azoa mi[ijan /  
山あの寶物は而其の寶物
- <sup>13</sup> ?a vai? ?a maqœnatsap ?a malici[u ?a  
其行其出草が三人其
- <sup>14</sup> sma coaqatslai / mano qœtsin ?a matsidil  
赴カチライ社ところが所殺は一人
- <sup>15</sup> noa sicoaqatsilai aja / sa qa[ui apa noa  
のカチライ人さうだ而所擧來了の
- <sup>16</sup> ma[usa ?a pasamaza / avan nu si?a ni?a  
二人其此處方其は故無
- <sup>17</sup> noa qo[o noa matsidil / aja ?a caotsi[i]  
の首の一人さういふは傳説
- <sup>18</sup> ?a masitsoai /  
其昔から

3. mavan カチライの avan と同じ。  
ci-savali サグァリの處, ci <ca-i.

10. mi[ijan 祖先傳來の物の義(?). mi[i-mi[ijan 口傳傳説。  
11. ?in-atsu <k-in-atsu 携へて來た物, k-im-atsu 持つて

た。笠はぐるぐる廻轉しながら、見え  
なくなつてしまつた。其地は今の南  
勢湖で、其處をサグァリ(サグァリノ  
處)といふのは、さういふ譯だと、昔から  
言傳へられてゐる。

そのサグァリは龍を孕んで海から  
來たのだ。それで龍の居る海へ歸つ  
たのであらう。

2. 寶物

[頭目の家に在る]あの[三つの]寶物は、  
昔大武山からもつて來たものだ。而  
してその寶物は[元來人であつた。或  
時その]三人が[連立つて]カチライ社へ  
出草に行つた。ところが一人はカチ  
ライの人の爲に殺されたさうだ。而  
して二人が[其を]此處へ擔いで來た。  
[現在、三つの寶物の]一つに首の無いの  
はさういふ譯だと、昔からの傳説であ  
る。

來る。

14. coa-qatsilai 石の有る處の義, si-coa-qatsilai カチラ  
イ社に屬する人。15行。  
15. qa[u-i 客體主, q-œm-a[u 二人で擧ぐ。

3. 石の團扇

- 3. sipaizan ?a qatsilai  
團扇其石
- <sup>2</sup> ?a sitsoajan ?a ma[ci[ci? ?a masi  
其昔其來其から
- <sup>3</sup> naqœmizip ti sa[a?ats / izoa sipaizan  
以前發祥地はサラアツ有團扇
- <sup>4</sup> ?a qatsilai / ?a si?ipaipaiz ni sa[a?ats /  
其石其所用自扇のサラアツ
- <sup>5</sup> azaoa sipaizan vintsi?an toa tsautsau  
其團扇所彫刻を人
- <sup>6</sup> atoa mar?a di[di / sa?a ma[ci? imaza /  
となど豚而來此處
- <sup>7</sup> sitaval pi coa qaqœripan noa maza[ilan /  
所立へ處寢床の頭目
- <sup>8</sup> sa mano marivu toa vi[vi[ilan / malama  
而ところが戰に最後時所燒
- <sup>9</sup> ?a tapau / sipalama azoa sipaizan / sa-  
は家所共燒其の團扇は而
- <sup>10</sup> ?a ni?a-ŋa totsu /  
無了个

昔[祖先の]サラアツが發祥の地から  
[此處へ]來た時に、石の團扇があつて、サ  
ラアツは其で自分を扇いだ。その團  
扇には人や豚などを彫刻してあつた。  
而して此處へ來ると、頭目の寢床の處  
へ立てる物にした。ところが最後の  
戦争の時、家が焼かれると共に、その團  
扇も焼かれてしまつたので、今は無く  
なつた。

4. alis noa ?uci  
齒の女陰

- <sup>13</sup> ?a sitsoajan izoa ?a[aijan ni qaqœapan  
其昔有跡取のココアガン家
- <sup>14</sup> ?a vavajan / no povalau / sa no ?iud[i /  
其女時結婚而時交
- <sup>15</sup> azoa valau / ?atsin noa ?uci ?a ?ulits /  
其夫が所咬の女陰は齒物
- <sup>16</sup> qau matsai ?a oqalai / simo malilima ?a  
それで死は男取去五人其
- <sup>17</sup> povalau / matsai ?a mapulat / "aqo maja  
結婚者死其昔何故如其
- <sup>18</sup> sa?a maitazoa ?a matsai ?a so valau /  
而如其共死は汝の夫
- <sup>19</sup> mano nama?uda sun / ca qajamau ?a  
擧まあ既成如何汝は我等の所調は

4. 女陰の齒

昔ココアガン家の長女が有つた。  
結婚して交をする時、その夫は陽物を  
女陰に咬まれて、それで男は死んだ。  
五人も結婚したが、皆死んでしまつた。  
[母は]汝の夫は何故そんなに死ぬのか、  
汝は如何かしてゐるのか、我々汝の物  
を調べて見よう]といった。[見ると]實

1. si-paiz-an 扇ぐ具, si?ipaipaiz <si-ki-pai-paiz いつも  
自分を扇ぐに用ゐる物, 4行. p-in-aiz 人を扇ぐ, ?i-paiz  
自分を扇ぐ, si- 用具。  
?a 同様、同一の物を表はす。石なる扇といふ意。かゝる  
場合は no-a (…の) を用ゐず。  
5. <v-in-tsik-an 模様をつけた物, 客體主, vitsik 模様。  
文字。  
6. mar?a …の類、…など。  
7. si-taval 立てるに用ゐる物, 用具主, t-im-aval 主體主。  
pi 他動詞に續く時は pi, 行く、在るなどの時は i。

qa-qœri[an 常に寝る處, q-œm-iri[an 寝る。  
8. ma-lama 家, 山など自然に燒ける, si-pa-lama まきぞ  
へになつて燒ける, 9行. si- 偶然に, i-im-ama 燒く。

13. <ka-[ai]n-an 戸主, 跡取, ~[-im-ai]n 後を追ふ。  
15. <kats-in 客體主, k-im-ats 主體主。  
16. s-im-o 取る, 取除く, 取去る, so-a[ap-i 取去る, 客體  
主, 194頁, 3行. s-in-o-a[ap 取去つた物, 194頁, 3行。  
m-a[ap 取る。

- <sup>1</sup> nisun ?a ?uci" ajain noa ?ina / mano  
汝の物 其 女陰 所言 の 母 ところが
- <sup>2</sup> izoa-pata ?a alis / qau tsintsinan sa  
有 眞寶 は 齒 そこで 所切 面
- <sup>3</sup> soa[api ?a alis / azoa sinoa[ap ?a alis ita /  
所取去 は 齒 其の 所取去了 其 齒 一
- <sup>4</sup> sa sipatsusoa apa toa zanaq / sa?a izoa-  
面 貫糸具 了 爲め 頭面 面 有
- <sup>5</sup> nan tots / aja ?a caotsi'i /  
尙 今 さういふ は 傳説

5. mapa[omal ?a ?ajunapan

- <sup>8</sup> aitsu a ?ajunapan qenajajan ni sa[a?ats  
此 其 土地 所縛物 の サラアツ
- <sup>9</sup> toa qoai atoa tsatsu'un / sa?a "qajau to  
で 藤 と ツァツウン(葛) 面 しらん ニニ
- <sup>10</sup> ?i namatsumo apa ?a ?u siniqajai" / no  
自 既 朽 了 が 我の 所縛具 時
- <sup>11</sup> aja ti sa[a?ats / qau pava[itan ?a siniqu-  
と思 が サラアツ それで 所交換 は 所縛具
- <sup>12</sup> jai aja / sa?a no pava[iva[it / qau ma-  
と思 面 時 互交換 その時
- <sup>13</sup> pa[omal ?a ?ajunapan aja / parimi? no  
動 が 土地 さうだ 適に 時
- <sup>14</sup> tsoai ?a pagalu ?a qimoqad[oc / sa uta  
永く 其 少 其 搖 面 又
- <sup>15</sup> qoqad[oc[en no po[a?ic / sa azoa qcem-  
所搖 も 何度 面 其の 試
- <sup>16</sup> ajam toa ?ajunapan toa na?uja toa napo-  
な 土地 を 良 を 惡
- <sup>17</sup> aq aja varon / aja ?a caotsi'i /  
と 考 さういふ は 傳説

6. qatsa ?a zalum  
大 其 水

- 2. tsintsin-an 位置主, ts-im-igtsin 主體主.
- 8. q-en-jai-an 過去, 客體主, s-in-i-qajai 縛りに用いた物, 過去, 用具主, 10行, q-cem-ajai 縛りつける, 主體主.
- 9. qoai Atay, qowaj-ux, IN, uwai, Sunda, howe.

際齒があつたので[母は]その齒を切り取つた。その取つた齒は一つで,糸を通して頭の飾にした。而して今も尙有ると言傳へられてゐる。

5. 地 震

此の土地は,サラアツといふ人が藤とツァツウンといふ葛とで縛りつけた物だ。而してサラアツが,自分の縛つた綱が若しや自然に腐つてはるないかしらんと思ふ時,そのものを取換へようと思つて,取換へる時に土地が動くのださうだ。たまに少し永く揺れたり,又幾度も揺れたりするのは,サラアツが,土地は大丈夫か否かを試す考から起るのだと,傳説はさういつてゐる。

6. 大 水

- 11. pa-va[it-an 他の物と換へる, 用具主, pa-va[i-va[it 互に交換する, 12行.
- 14. q-im-oqad[oc 搖がす, 主體主, qoqad[oc[en 客體主, 地, 15行.

- <sup>1</sup> ?a sitsoajan ?a mai[au ?a ?ajunapan /  
其 昔 其 溶解 が 陸地
- <sup>2</sup> sa?a zalum-apa pul[inu[inuc ?a gado /  
面 成水 了 全部 は 山
- <sup>3</sup> mano izoa nama[aul ?a kidikiqi ?a  
ところが 有 残つた物 其 小 其
- <sup>4</sup> gado / qau matsai ?a mapulat azoa tsau-  
山 それで 死 其 皆 あの人
- <sup>5</sup> tsau / sa izoa ma[usa ?a nama[aul ?a  
間 は 面 有 二人 其 残つたもの 其
- <sup>6</sup> nasi?i[ai toa ritsin noa lavi[lu i coa gado  
引掛つた に 枝 の ラグイル 於 處 山
- <sup>7</sup> aja / qau ma?oli ?a zalum / qau mivalut  
さうだ すると 潤 は 水 それで 生
- <sup>8</sup> azoa nasi?i[ai ?a mar?a?a / ni?a-apa no  
其の 引掛つた者 其 兄弟 無了も
- <sup>9</sup> sapui / ni?a-apa animanima / qau tsi'i-  
火 無了 何物 そこで 所
- <sup>10</sup> min apa azoa rugus noa lavi[lu ?a  
折 了 其の 小枝は の ラグイル 其
- <sup>11</sup> sini?i[ajan / sa patoti / qau maqati apa  
所引掛 面 燂火 すると 發生 了
- <sup>12</sup> ?a sapui / qau pitsupu apa / izoa-apa  
が 火 それで 焚 了 有了
- <sup>13</sup> si?isa /  
用煮物
- <sup>14</sup> sa azoa ma[usa-apa tiamaju qau mar-  
面 其の 二人 了 彼等は そこで 互
- <sup>15</sup> povalau / mano poala? to mar?a mavutsa  
成夫婦 ところが 生子 を や 盲
- <sup>16</sup> to mar?a mapilai to macoba[apa aja / sa?a  
な や 跛 を 癩癩 さうだ 面
- <sup>17</sup> no macoba[apa pasapairan / no mapilai  
なら 癩癩 所遺平地 なら 跛
- <sup>18</sup> no mavutsa pasapaqa[oqa[o[oin / no napoa-  
なら 盲 所遺臺東 なら 上等
- <sup>19</sup> poaq ?a ala? niamaju aja caotsi'i / sa  
其 子 彼等の さういふ 傳説は 面
- <sup>20</sup> azoa mar?a?a tiamaju / mavan nu si?a  
其の 兄弟 彼等は 其 は 故

昔[大水が出た爲に]陸地が溶けて,山も全部水になつてしまつた。ところが小山が一つ残つた。人間も皆死んでしまつたが,二人の人が残つて山の處に在るラグイルといふ木の枝に引掛つたさうだ。[暫く]すると,水が退いたので,その引掛つた兄弟(兄と妹)は生返つた。ところが火も無ければ,何も無い。そこで(二人は自分達の)引掛つたラグイルの木の小枝を折つて火を鑽つた。すると火が出来たので,それを焚いた。[それで]煮るのに使ふ[火]が有るやうになつた。

而して彼等二人は,そこで夫婦になつた。すると[彼等は]盲や跛や癩癩の者などを生んださうだ。それで癩癩の者は平地へ遣り,跛や盲は臺東へ遣り,良いのを自分の子にしたと,さう言傳へてゐる。而して盲や跛や癩癩の出来たのは,彼等兄弟が結婚したから

- 3. na-ma-[aul 残つてゐるもの, 取残されてゐるもの.
- 6. <na-si-ki[ai 偶然引掛つた物, 主體主, s-in-i-ki[aj-an 偶然引掛つた處, 位置主, 木, 11行, si-偶然, k-im-i[ai 引掛ける.
- 8. <mar-kaka 互に兄弟, Tag. Mal. kaka 兄.
- 9. <tsikim-in 客體主, ts-im-i'im 主體主.

- 11. <patot-i 客體主, p-in-atut 火を燂る, 主體主.
- 13. <si-kisa 煮る爲の物, 火, ?im-isa 煮る.
- 17. pa-sa-pairan-in pairan (本島人)の處へ行かせる者, 客體主, pa-sa 行かせる.
- 18. pa-sa-paqa[oqa[o[oin paqa[oqa[o (臺東のバイワン)の處へ行かせる者, 客體主, 母音の後 -in >-in



- <sup>1</sup> maja ?a maqati ?a mavutsa macobap  
如其 其 發生 其 首 瘰癧  
<sup>2</sup> mapilai aja / sa?a tsoatsoaj-apa marpo-  
跛 さうだ 而 久 了 互  
<sup>3</sup> valavalau / jimalun apa toa mar?apoaq /  
結婚 到 了 に 良  
<sup>4</sup> maqati apa ?a tsautsau ?a ini ?a mavutsa /  
發生 了 が 人 其 非 其 首  
<sup>5</sup> ?a ini ?a mapilai / ?a ini ?a macobap aja /  
其 非 其 跛 其 非 其 瘰癧 さうだ  
<sup>6</sup> ?a caotsi?il ?a masitsoai /  
其 傳說 其 昔から

7. siman pana  
作 川

- <sup>9</sup> ?a sitsoajan ni?a pana aja caotsi?il /  
其 昔 無 川 といふ 傳説は  
<sup>10</sup> sa izoa sisil ca?apa qadis [ital / qau  
而 居 シシル 處 瘰癧 鶯 そこで  
<sup>11</sup> malavar tiamaju / "san panai / ni?a no  
相談 彼等は 作 川 無 も  
<sup>12</sup> zalum ?a ca ti?il'in" / aja azoa sisil atoa  
水 其 我等の 所飲 といふ 其の シシル と  
<sup>13</sup> ca?apa / mano ini ?au?i ?a pusa[aj azaoa  
處 ところが 不 諾 其 手傳 其の  
<sup>14</sup> qadis atoa [ital / "ma?apa[a? nia [atip" /  
瘰癧 と 鶯は 能毀 我等の 針線腕輪  
<sup>15</sup> qau sman pana azoa sisil atoa ca?apa /  
そこで 作 川 其の シシル と 處は  
<sup>16</sup> "no ini no pusa[aj / maja-apa timi?il  
若 不爲 も 手傳 物 と 飲  
<sup>17</sup> toa zalum i coa nia sinan pana / no  
を 水 で 處 我等の 所作 川 若  
<sup>18</sup> timi?il mun inona matsapavo" / aja  
飲 汝等が しまふ 瘰癧 といふ  
<sup>19</sup> azoa ca?apa atoa sisil / sa?a no timi?il  
其の 處 と シシルは 而 時 飲  
<sup>20</sup> azaoa qadis atoa [ital / matsapavo ini  
其の 瘰癧 と 鶯が 瘰癧 不  
<sup>21</sup> apa ?a min[ajap aja caotsi?il / sa no a  
了 其 飛 さういふ 傳説は 而 ても 其

ださうだ。而して互に結婚の關係が  
遠くなるに従つて、盲でもない跛でも  
ない、瘰癧でもない人が出来て、良くな  
つて来たのだと、昔からの傳説はさう  
いつてゐる。

7. 川を作る

昔は川が無かつたと言傳へられて  
ゐる。而してシシル鳥と鶯と鷹と鶯  
とが居た。或時彼等が話し合つてゐ  
ると、シシル鳥と鶯とは、[[我々は]川を  
作らう、我々は飲む水もないといつた。  
ところが鷹と鶯とは手傳ふことを承  
知しないで、我々の針線の腕輪が毀れ  
る]といつた。そこでシシル鳥と鶯と  
は[自分で]川を作つた。鶯とシシル鳥  
とは[手傳もしないなら、我々の作つた  
川で水を飲むな。汝等若し飲んだら  
體が脹れてしまふぞ]といつた。それ  
で鷹と鶯とが水を飲むと、脹れて飛べ

12. <tikil-in 飲むべき物。客體主。t-im-i?il 主體主。  
16行。  
13. <kau-i <臺灣語、可以(kho-i)、宜しい。

14. <maka-pajak 破損の可能性が有る。ma-paja? 破損。  
18. ino-na ...になつてしまふ(?) ~ino-na matsai 死んで  
しまふ。

- <sup>1</sup> mavan totsu no timi?il ?a qadis atoa  
實際 今 時 飲 が 瘰癧 と  
<sup>2</sup> [ital matsapavo apata /  
瘰癧 瘰癧 やはり

なくなるのだ、と傳説はさういつてゐ  
る。而して今でも鷹と鶯とが水を飲  
むと實際體が脹れる。

8. ?man toa qacuvi  
食 を 蛇

- <sup>6</sup> azoa ti sa[a?ats ?man toa qacuvi sa-  
あの は サラアツ 食 を 蛇  
<sup>7</sup> ?amaja / izoa i cu[uton i coa tsaqo ?a  
具 居 に チュルトンに 處 茄萼 其  
<sup>8</sup> na?isajil ?a ?ma?an / sa?a no mapciz ?a  
既自避 共食つてゐる 而 ても 來 が  
<sup>9</sup> vadis sipa[al ?a pi?atsasavan / qau no  
獸租 掛 其 置外 すると 若  
<sup>10</sup> tsoatsoai apa majapiiz izoa / mano izoaza  
久 了 處 於其處ところが 居  
<sup>11</sup> cu[uj / "aqo so ajain tsa vucul pao[ain /  
チュルン家 何故汝の 如其 此の 肉は 可惜物  
<sup>12</sup> nia a[apau sa nia ?ani" aja azoaza cu[uj /  
我等の 所持行 而 我等の 所食 といふ 其の チュルン  
<sup>13</sup> sisa[o ni sa[a?ats / a[apin ni cu[uj / sa  
所承諾 の サラアツ 所取 の チュルン 而  
<sup>14</sup> vai? / qau calu zoa i ci taupij / gimugu  
行 そこで 迄 共處 於處 タウヒリ家 嘯  
<sup>15</sup> "azoa ini ?a ?an ni [ovaniau ?a vadis /  
其 非 共 食 の ログニアウ家は 獸租  
<sup>16</sup> more ?a niamin apa ?a ?ajunapan / azoa  
飲爲 其 我等の物 ぞ は 土地 あの  
<sup>17</sup> imalipa coaqatsilai" / aja azoa la cu[uj /  
マヨバの地 カチライ社 といふ 其の 等 チュルン  
<sup>18</sup> ?atava?an apa niama[aj / aja caotsi?il /  
慣例 了 彼等の さういふ 傳説は

8. 蛇を食ふ

あのサラアツ(ログニアウ家の頭  
目)は蛇計り食つてゐた。茄萼の木の  
あるチュルトンといふ處に居て、[普通  
の處でなく]自分で[人を]避けて食つて  
ゐた。而して獸租(狩の時に頭目に贈  
る肉)が來ても[食はないで]外へ掛けて  
置いた。久しくなると[肉は]共儘腐つ  
てしまつた。ところがチュルン家の  
者が居て、[何故汝は此の肉をそんなに  
しておくか、惜しいものだ、我々が持つ  
て行つて食はう]といふと、サラアツは  
其を承諾した。それでチュルン家の  
者は肉を取つて歸つて行つた。タウ  
ヒリ家の處まで歸つて來ると、チュル  
ン家の者は大聲で喊んで、[獸租は ログ  
ニアウ家(サラアツ)が食はないから、

5. <k-im-an, ?ma?an <k-im-a-kan 食つてゐる。8行。  
9. vadis 獸租。毒丁が狩した時、頭目に贈る獲物の肉。  
si-pada[ 持つていつて、木を三本組合せた處に掛ける。  
用具主。p-in-ada[ 同上に掛ける。主體主。  
12. <kan-i 食ふ物。現實未來。客體主。

13. si-sa[o 人の爲に承諾する。用具主。チュルン。s-im-a[o  
承諾する。許す。主體主。  
17. la cu[uj チュルン家の人々。la 復數。  
18. <ka-tavak-an 例。慣例。ma-tava? 習慣になる。

あのマリアもカチライもその土地は我々のものになつた」といつた。而して其が彼等の慣例になつたと、さう言傳へられてゐる。

- 5 sa'a sitsoajan ?a uta / cimalava la  
面 昔 共 又 手傳 等
- 6 lovaniau / ?imsa ti sa[a]ats to tsijil /  
ロヴァニアウ家 煮 は サラアツ な 煮食
- 7 pa'isaan toa qacuvi ?a vu[up] ?a ?insa / sa-  
所使煮 を 蛇 共 長老 は 飯 面
- 8 ?a ma'isa ?a ?insa / qaqevuin ?a cinalava  
煮える が 飯 所呼 は 手傳人
- 9 sma tapau / ?a cinalava more ?man /  
へ 家 が 手傳人 將 食
- 10 palitikoin a ?insa / more su[amudan  
所下 は 飯 將 所取蓋
- 11 noa zuma / mano "pagalui ?a ?u ?insa /  
の 或人 と ころが 徐にせよ は 我の 飯
- 12 izoa cavinikiniki" / aja azoa ti sa[a]ats /  
有 チャグニキニキ といふ 其の は サラアツ
- 13 "ianima sijajaja cavinikiniki" / aja ?a  
何 こいつてぬる譯は チャグニキニキ と思 は
- 14 cinalava / ?a su[amudan izoa qacuvi ?a  
手傳の人 共 所取蓋 有 蛇 共
- 15 vu[up] ?a sinipa'isa namints'as / qau  
長老 共 所使煮了 肉が割れる すると
- 16 mari'uc ?a cinalava / "ano ajain icin  
恐 は 手傳人 食べよ 所言 我等は
- 17 toa pina'isaan toa qacuvi / cala smava-  
を 煮させたもの を 蛇 最 汚い
- 18 qaran" / aja ?a cinalava / sa ?avi[ad] ?a  
もの といふ が 手傳人 而 逃 が
- 19 mapulat / aja ?a caotsi'ijil ?a sitsoajan /  
昔 さういふは 傳説 共 昔

又昔(或時)ロヴァニアウ家が他人から手傳を受けた時に、サラアツは御馳走として晝飯に百歩蛇を煮た。飯が煮えると、手傳つた人々を家へ呼んだ。手傳つた人々は食べようと思つて飯を下すと、或人が蓋を取らうとした。ところがサラアツは「飯はそろそろ食へ、チャグニキニキ(蛇の異名)が有るか」といつた。手傳つた人々は「チャグニキニキといふのは何か」と思つて蓋を取ると、よく煮えて肉のひび割れてゐる百歩蛇が有つた。すると手傳つた人々は恐れて、「最も汚らしい蛇を煮たものを我々に食へといふのか」といつて皆逃げていつた、と昔の傳説はさういつてゐる。

5. c-im-alava 手傳を受ける. c-in-alava 手傳つた人. 8行.  
7. <pa-kisa-an 蛇を入れて煮させる物. 位置主. 飯. p-in-a'isa-an 同上. 過去. 17行. s-in-i-pa'isa 人の爲に煮させた物. 用具主. 15行.

10. su-[amud-an 蓋を取去る. 位置主. [amud-an 木の葉を蓋にしたもの. s-im-o- 取去る.

9. cimo  
チモ

- 2 ?a sitsoajan cimo ti taopi[i] / ?man toa  
共 昔 チモ は タオビリ家 食 な
- 3 tsautsau aja / no izoa poala? sa ini  
人 さうだ 時 有 生子 面 不
- 4 pasma[avan cai taopi[i] / sa ?ilapi to izoa  
報告 へ タオビリ家 面 所知 な 有
- 5 napoala? / vai'in ?a ma[ap] ?a ala? sa  
既生子 所行 共 取 は 子 面
- 6 ?ani / sa?a no qoemtsi toa tsautsau /  
所食 而 時 殺 な 人
- 7 ?anin ?a uta aja caotsi'ijil / ?a tapao ini  
所食 共 亦 さういふ 傳説 は 家 非
- 8 ?a imaza i qenalan / izoa i coa cin'al / ?a  
共 在此處於 蕃社 在に 處 チヌアル 共
- 9 izoazoa-nan no ?man toa tsautsau /  
居其處 一寸 時 食 な 人

昔タオビリ家にチモ種族の者があつて、人を食つたさうだ。子が生れた時、タオビリ家に行つて知らせないで、[後で]子の生れたことが知れた時は、[チモ]がそこへ行つて子を取つて食つた。而して人を殺した時も、亦食つたと言傳へられてゐる。彼の家は此處の社内でなく、チヌアルといふ處に在つた。人を食ふ時は一寸其處に居て食つた。

10. vinan / vavui / sizi / ta'its  
鹿 山豚 山羊 小鹿

10. 鹿, 山豚, 山羊, 小鹿

- 13 ?a sitsoajan izoazoa ti savu[uvu]ug /  
共 昔 居 が サグルグルン
- 14 mano pajuma? toa ala? ?a oqalai mava-  
或時 見附 な 子 共 男 匂つ
- 15 vuvavui i coa litsaq / qau alapin azoa  
である に 處 泥 そこで 所取 其の
- 16 ala? / sa paramatai / sa paitoji / sa  
子は 而 手足を洗つてやる 而 使着 而
- 17 pa?ani / "pao[aa]n to miqatsa" / aja ti  
使食 運搬 な 成長 といふ が
- 18 savu[uvu]ug / mano miqatsa /  
サグルグルン と ころが 成長
- 20 azoa ti savu[uvu]ug ?a tsima[is] toa  
其の は サグルグルン 共 糞 な

昔サグルグルンといふ人が居た。或時彼は泥の處に匂つてゐる男の子を見附けた。サグルグルンはその子を連れて来て、手足を洗つてやつたり、着物を着せたり、物を食はせたりして、「大きくなればよいのに」といつた。ところが[段々と]大きくなつた。[或時]サグルグルンは糞を一束糞つ

1. cimo 昔. 人間を食つたといはれる種族の名.  
4. pasma[av-an 或事を行つて話す. 用具主. 事. pasma-lau 主體主.  
7. <kan-in 一般現在. 客體主.  
13. ti sa-vu[uvu]ug プルグルンといふ者. 普通サブアルルンといふ.  
14. ma-vavu-vavui 匂つてゐる. ma-vavui 匂ふ.

16. pa-iramata-i 洗つてやる. 客體主. <iramata 手足を洗ふ. pa-itog-i 着せてやる. 位置主. <itog 衣. pa-an-i 食はせてやる. 位置主. 17行.  
17. pao[aa]-an 其人の爲に可愛相に思ふ. 残念がる. じれつたがる. 用具主. 子. 比. pao[aa]-an to izoa valicoq 金があつたらよいのに. p-in-ao[a 構れむ. 主體主.  
20. ts-im-a[is] 糞る. tsa[is] 糞. 糞. 200頁. 3行. IN. tali.

- <sup>1</sup> [i?i? ?a ta qapiz / sa vai? a sma tsim-  
亭 共 一 東 面 行 共 赴 雜
- <sup>2</sup> tsimil / ?atsuin azoa ?a?idian / "jajaso  
木林 所伴 共の 子供は 所持
- <sup>3</sup> tso ci?ci? noa tsajis" ajain / qau jajasin  
此の 端は の 緒 所言 而 所持
- <sup>4</sup> noa ?a?idian / vai? ti savu[uvu]u? i  
の 子供 行 は サグルグルン に
- <sup>5</sup> pa[igul] toa tsimtsimil / sa papitsivugi  
周囲 の 雜木林 而 所總話
- <sup>6</sup> ?a tsajis / ?a sma coa ?a?idian / sa vilvili  
は 緒 共 赴 處 子供の 而 所引
- <sup>7</sup> ?a tsajis / qau mapip[loq] ?a ?asiu ?a  
は 緒 すると 切斷 は 木 共
- <sup>8</sup> mapulat / vai? ?a sma tapau /  
皆 行 共 赴 家
- <sup>10</sup> tsoatsoaj-apa pagalu matsai ?a ?asiu /  
久 了 少 死 が 木
- <sup>11</sup> lamain / sa cuguti toa [avu noa vaqo /  
所燒 而 所蒔 を 雜 の 粟
- <sup>12</sup> tsoatsoaj-apa pagalu / "sau qoenci ?a ca  
暫 了 少 行け 所見 は我等の
- <sup>13</sup> cinugut" / ajain azoa ala? ni savu[uvu]u? /  
所蒔了 所言 共の 子は の サグルグルン
- <sup>14</sup> vai? azoa ala? ?a ?eqoenic / mapciz ?a  
行 共の 子は 共 見 歸 は
- <sup>15</sup> ala? ?a na?eqoenic / "ni?a no anima  
子 共 見了者 無 も 何
- <sup>16</sup> vuvu: " aja azoa ?a?idian / "pasa[aji /  
伯父よ といふ 共の 子供 所委任
- <sup>17</sup> napaq no tsoaj-apa" aja ti savu[uvu]u? /  
良 若 暫 よ といふ は サグルグルン
- <sup>18</sup> tsoatsoaj-apa ?a uta pagalu / "sau ?eqo-  
暫 了 共又 少 行け 所見
- <sup>19</sup> nici anan" ajain ni savu[uvu]u? / vai?  
よ 一才 所言 の サグルグルン 行
- <sup>20</sup> ?a ?a?idian / qau mapciz ?a uta "izoa-  
は 子供 すると 來 共又 居 よ
- <sup>21</sup> vuu: / ?a ga[avagavagav] ?a ki[iki]k[i]an /  
伯父よ 共 蠢動 共 極小者

2. jajaso 命令、客體主、端、jajas-in 一般現在、客體主、  
端、3行、y-im-ajas 手で持つ、つかむ、主體主。  
5. pa-pi-tvivug-i 両方から出會はせる、客體主、緒、mi-  
tsivug 出會ふ、主體主。

て緒を作った。而してその子を連れ  
て雜木林へ行つた。[而して子供に]緒  
の此方の端を持って]といった。子供が  
持つと、サグルグルンは[緒を引張り乍  
ら]林の周囲を一週して、子供の處へ來  
て[緒の兩端を]一緒にした。而して緒  
を引張つた。すると、林の木が皆[一度  
に]伐られてしまった。[そこで二人は]  
家へ歸つた。

其後暫くすると、木が枯れたので、燒  
いて[その跡へ]粟の糠を蒔いた。暫く  
すると、サグルグルンはその子に、[我々  
の蒔いたのを見に行け]といった。そ  
の子は見に行つた。子は見て歸つて  
來ると、[伯父さん、何も無い]といった。

サグルグルンは[はうつておけ、その内  
良くなる]といった。又暫くすると、サ  
グルグルンは[一寸見に行け]といふ。  
子供は行つた。すると又歸つて來て、  
[居たよ、伯父さん、極小さなものが動い  
てるたが、何だか分らない、伯父さん]と

11. cugut-i 蒔く、位置主、地、c-in-ugut 蒔いたもの、13行、  
c-im-ugut 蒔く、主體主。  
16. pa-sa[aj-i] 任せよ、原意、連れになれ、客體主、我、pa-  
sa[aj-i] a'in 私に従へ、sa[aj] 連れ、同伴。

- <sup>1</sup> vuvu: qajau anima" aja azoa ?a?idian /  
伯父よ 所不判明 何だか といふ 共の 子供は
- <sup>2</sup> "pasa[aji / napaq no tsoaj-apa" / tsoa-  
所委任 良 若 暫了 久
- <sup>3</sup> tsoai pagalu ?a uta "sau ?eqoenci anan"  
少 共又 行け 所見 一才
- <sup>4</sup> ajain ni savu[uvu]u? / vai? ?a ?a?idian  
所言 の サグルグルン 行 は 子供
- <sup>5</sup> ?a ?eqoenic mapciz / "izoa-apa vuvu: / ?a  
共 見 歸 居よ 伯父よ 共
- <sup>6</sup> ?ud[?]ud[?]a[?]an ?a pagalu / qajau anima"  
太物 共 少し 所不判明 何だか
- <sup>7</sup> aja azoa ?a?idian / "pasa[aji anan" aja  
といふ 共の 子供は 所委任 尙 といふ
- <sup>8</sup> ti savu[uvu]u? /  
は サグルグルン
- <sup>9</sup> tsoatsoaj-apa pagalu ?a uta / vai?in ni  
久 了 少 共亦 所行 の
- <sup>10</sup> savu[uvu]u? atoa ala? ?a ?eqoenic / mano  
サグルグルン と 子 共 見 すると
- <sup>11</sup> ?a uta ?ud[?]a[?]an apa / ?a mar? a vinan ?a  
共又 太物 了 共 や 鹿 共
- <sup>12</sup> vavui ?a mar? a sizi mar? a ta?its" aja /  
山脈 共 や 山羊 や 小鹿 さうだ
- <sup>13</sup> qau mavan apa nu si? a izoa noa vinan  
それで 共 了 は 故 居 の 鹿
- <sup>14</sup> noa vavui noa sizi noa ta?its totsui / aja  
の 山脈 の 山羊 の 小鹿 今 といふ
- <sup>15</sup> ?a caotsi?i? ?a masitsoai /  
は 傳説 共 昔から

11. d[i]d[i]  
豚

- <sup>18</sup> ?a sitsoajan ni? a d[i]d[i] / qau qoepoin ?a  
共 昔 無 豚 それで 所集 は
- <sup>19</sup> tsoqo[al] noa vavui / sa ?isina? "asan-d[i]-  
骨 の 山脈 而 自語 成れ
- <sup>20</sup> d[i]u ?asan-d[i]d[i]u" / sa ajain azoa tsoqo[al] /  
豚 成れ 豚 而 所言 共の 骨は
- <sup>21</sup> qau masan d[i]d[i] / avan nu si? a izoa noa  
すると 成 豚 共 は 故有 の

6. <kuda-kuda[an] 少し太い物、?ud[?]an 太い物。11  
行、?ud[?] 太い。

18. qoepo-in 集める、客體主、qoem-po 主體主。

いふと、[はうつておけ、その内良くなる]  
といふ。又暫くするとサグルグルン  
は[一寸見に行け]といった。子供は見  
に行つて歸つて來ると、[伯父さん、少し  
太くなつてゐるたが、何だか分らないと  
いつた。サグルグルンはも少し、はう  
つておけ]といった。

又暫くすると[今度は]サグルグルン  
と子供とが見に行つた。すると[その  
物は]又太つて、鹿や、山脈や、山羊や、小鹿  
などになつてゐるたさうだ。今日鹿や、  
山脈や、山羊や、小鹿が居るのは、さうい  
ふ譯だと、昔からの傳説はいつてゐる。

11. 豚

昔は豚が居なかつた。それで[人々  
が]山脈の骨を集めて、その骨に向つて、  
[豚に成れ、豚に成れ]といつて唄つた。  
すると[その骨は]豚に成つた。今日豚

19. <ki-sina? 自分で語ふ、s-im-inai 語ふ、  
?asan-d[i]d[i]-u 豚に成れ、?asan <kasan 成る、d[i]d[i] 豚、  
-u 命令、主體主。  
20. aja-in 其物にさういふ、客體主、骨、aja 主體主。

<sup>1</sup> diji totsu / aja ?a caotsi?il ?a masitsoai /  
豚 今 さういふは 傳説 其 昔から

の有るのは、その譯だと、昔からの傳説  
はさういつてゐる。

12. ?utsu  
風

- <sup>6</sup> ?a sitsoajan ni?a no ?utsu / sa ni?a no  
其 昔 無 も 風 而 無 も
- <sup>7</sup> sipsipan / sa?a maspil / ?imoda icin /  
仕事 而 退屈 爲如何 我等は
- <sup>8</sup> sa ?aqati ?a ca sipsipan / aja ?a ma-  
而 發生 が 我等の 仕事 といふ 其
- <sup>9</sup> lavar / "ca mapoag ?a ci navini?i toa  
相談 尙 良 が 方 買 了 な
- <sup>10</sup> ?utsu" aja / vini?i toa ?utsu aja / sa  
風 といふ 買 な 風 さうだ 而
- <sup>11</sup> cugutan ?a pa?acoa qo?o / qau maqati  
所時 は 處 頭 すると 發生
- <sup>12</sup> apa ?a sipsipan / no maspil ma?a?utsu  
了 が 仕事 時 退屈 互取風
- <sup>13</sup> apa ini apa ?a maspil / sa?a navini?i  
了 非 了 其 退屈 而 買了者
- <sup>14</sup> ti qaqaqan / aja ?a caotsi?il ?a sitsoa-  
は ココアガン家 さういふは 傳説 其 昔
- <sup>15</sup> jan /

12. 風

昔は風も無く、仕事も無かつたので、  
退屈であつた。[或時人々が]我々は如  
何したら、我々の仕事が出来よう]とい  
つて話し合つた。[その時或人が]風を  
買はうではないかといつて、風を買つ  
て、頭の處に蒔いた。すると仕事が出  
来て、退屈な時は、互に風を取り合つた  
ので退屈でなくなつた。而してその  
風を買つたのはココアガン家の人だ  
と、昔の傳説はさういつてゐる。

13. pomoqan atoa ni?u  
腫物 と レウマチ

- <sup>16</sup> ?a sitsoajan ni?a pomoqan / ni?a ni?u /  
其 昔 無 腫物 無 レウマチ
- <sup>17</sup> ni?a sipsipan / sa maspil icin / ?imoda  
無 仕事 而 退屈 我等は 爲如何
- <sup>18</sup> icin sa ?aqati ?a ca sipsipan / aja ?a  
我等は 而 發生 が 我等の 仕事 といふ 其
- <sup>19</sup> malavar / "ca mapoag ?a ci navini?i toa  
相談 尙 良 が 方 買 了 な
- <sup>20</sup> ni?u toa pomoqan / sa ca tavalan ?a pi-  
レウマチ と 腫物 而 我等の 所移植 は 處

13. 腫物とレウマチ

昔は腫物も無く、レウマチも無く、仕  
事も無かつたので、我々は退屈であつ  
た。[或時人々が]我々は如何したら我  
々の仕事が出来よう]といつて話し合  
つた。[その時或人が]レウマチと腫物

4. <kutsu. IN. kutu.  
7. <ka-qati ~ma-qati 發生する、生ずる。10行. sa に續  
く時は ka-qati.  
8. na-v-in-i?i 買つた、過去、主體主、v-in-i?i 買ふ、主體主、  
9 行. 此處にては過去の意に用ゐる。

10. cugut-an 位置主、頭、c-im-igut 蒔く、主體主。  
16. <pa-umoq-an 腫物、原意、腫をもつてゐる處、物、  
umoq 腫。  
21. taval-an 位置主、體、t-im-aval 移植、主體主。

- <sup>1</sup> cu ca ?u?u / no [imotod icin ?a maso-  
我等の 脚 時 疼 我等は 其 免
- <sup>2</sup> spilan" aja ?a malavar / qau vini?i sa  
退屈 といふ 其 相談 そこで 買 而
- <sup>3</sup> tavalan ?a picu ?u?u aja / avan-u si?a izoa  
所移植 は 處 脚 さうだ 其 は 故 有
- <sup>4</sup> noa pomoqan noa ni?u totsu / \*sa ?a  
の 腫物 の レウマチ 今 而 其
- <sup>5</sup> navini?i ti tso?ul ati taupi?i / aja ?a  
買了者 は ツルル家 と タウビリ家 さういふは
- <sup>6</sup> caotsi?il ?a masitsoai /  
傳説 其 昔から

を買つて我々の脚へ裁急ようではな  
いか[さうすれば疼く時は退屈を凌ぐ  
ことが出来る]といつて話し合つた。  
それで買つて来て、脚に裁急たさうだ。  
今日腫物とレウマチの有るのはさう  
いふ譯だ。而して其を買つた人はツ  
ルル家とタウビリ家の人だと、昔か  
らの傳説はさういつてゐる。

14. savi?i  
檳榔

- <sup>11</sup> ?a sitsoajan izoa ti sacu?ucu?u / qau  
其 昔 居 が チュウチュウ そこで
- <sup>12</sup> mapo toa di?ipon atoa a?oviculatan / sa  
喃 な ディボボン(木)と アログチュラタン(木) 而
- <sup>13</sup> vai? ?a sma cacan / qau siji?ai i cacan  
行 其 赴 水汲場 その時 吐唾 へ 水汲場
- <sup>14</sup> azoa inapoan / sa qau tsimuvoq azoa  
其の 所喃物は 而 すると 發芽 其の
- <sup>15</sup> jil?ai toa savi?i / qau miqatsa azoa savi?i  
唾は な 檳榔 すると 成長 其の 檳榔は
- <sup>16</sup> vinagal / qau ?isavi?in apa ni sacu?ucu?u  
生買 そこで 所取檳榔 了 の チュウチュウ
- <sup>17</sup> to apoin /  
爲 所喃物
- <sup>20</sup> azoa ti sacu?ucu?u ?a vai? a ?iva?a  
其の は チュウチュウ 其 行 其 遊

14. 檳榔

昔チュウチュウといふ[女が]居た。  
ディボボンといふ木とアログチュラ  
タンといふ木を口で喃みながら、水汲  
場へ行つた。其の時、その喃んでゐる  
ものを唾と一緒に水汲場へ吐いた。  
すると、その唾から芽が出て、檳榔が生  
えた。而して其の檳榔が生長して、實  
が出来たので、チュウチュウは[いつも]  
その實を取つて喃んでゐた。

或時チュウチュウは男の友達の内

1. ma-so-spil-an 退屈を免れる、spil-an 退屈。~ma-spil  
退屈する、202頁、18行. ma-so- 取除かれる、s-im-o-  
取除く。  
10. <saviki 比、註 16。  
13. si-jil?ai 唾と共に吐く物、用具主、喃んだ物、j-im-i?ai

喃を吐く、jil?ai 唾。  
14. in-apo-an 喃んだ物、apo-in 喃むべき物、客體主、17行。  
m-apo 喃む、12行。  
16. v-in-apal 實が生る、vapal 實。  
<ki-saviki-in 檳榔子を取る物、客體主、檳榔樹、比、  
註 10。

- <sup>1</sup> smazoa i coa tapau noa marqali / ini ?a  
赴其處 在 處 家 の 男 友 不 共
- <sup>2</sup> pina[imasuj ?a tapau / qau soapan ni  
所整理了 は 家 そこで 所持 の
- <sup>3</sup> sacu?ucu?u / sa capcapan ta savi?i / sa  
チュウチュウ 而 所準備 な 檳榔 而
- <sup>4</sup> vai? a tsi?i?i?i? / ?a cumaq / ma?ciz ?a  
行 共 歸 共 内 歸來 は
- <sup>5</sup> marqali / "laqa / tima nasimoap toa ca  
男 友 何だ 誰 掃いた者 な 我等の
- <sup>6</sup> tapau / ca ma?oap ?a ca [aopin" aja /  
家 向 良 は 我等の 所隠 といふ
- <sup>7</sup> qau [aopin noa marqali / mano ma?ciz  
そこで 所隠 の 男 友 と ころが 来
- <sup>8</sup> azoa ti sacu?ucu?u / qau poyalawan apa  
其の は チュウチュウ そこで 所為妻 了
- <sup>9</sup> noa marqali / aja ?a caotsi?i?i / sa?a ma-  
の 男 友 といふ は 傳説 而
- <sup>10</sup> van nu si?a izoa noa savi?i /  
其 は 故 有 の 檳榔

15. ti saqa[amudis atoa va[aluval  
カラムデイス と 龍

- <sup>14</sup> ?a sitsoajan ti saqa[amudis ?a tsulul  
其 昔 は カラムデイス 其 ツルル家
- <sup>15</sup> navai? ?a qoemalup / mano si?i?i?i? / sa  
行 了 共 狩 と ころが 轉倒 而
- <sup>16</sup> ?a[avut ?a vu[oq / mano ma[ini?i?i? ?a  
放 が 槍 すると 龍に滑 共
- <sup>17</sup> sma coa vatsal / qau ini ?a ?ilap to  
赴 處 淵 そこで 不 共 知 な
- <sup>18</sup> ?udain no ma[ap / qau [idipin apa ?a  
可如何 時 取 それで 所潛入 了 は
- <sup>19</sup> vatsal i dinoa[an / mano [imidip ?a i  
淵 在 ダイノアラン と ころが 潛入 共 於
- <sup>20</sup> ta[aj izoa qacuvi ?a va[aluval / "ino apa  
中 居 蛇 共 龍 在何處ぞ

- 2. p-in-a[imasuj 整理してある物、客體主、pa[imasuj 主體主。  
soap-an 掃く處、位置主、家、na-s-im-oap 掃いた人、5 行、s-im-oap 掃く。
- 3. capcapan 人の爲に準備する、用具主、男友、c-im-ag-capan 準備する、主體主。
- 5. <la qaljan (?) 友よ、轉じて、おや、何だ、などの感動

へ遊に行つた。ところが[友達は留守で]家の中が亂雑になつてゐたので、チュウチュウは掃除して、檳榔を嘔む設備をして、内へ歸つて行つた。[暫くして]友達が歸つて見ると[驚いて]、[何だ。我々の家は誰が掃除したのだらう。隠れて待つてゐてやらう]といつて隠れてゐた。するとチュウチュウが又來た。そこで友達が自分の妻にした、とさう言傳へられてゐる。檳榔の有るのは其の譯だ。

15. カラムデイスと龍

昔、ツルル家のカラムデイスといふ人が狩に行つた。ところが、轉んだ拍子に[持つてゐた]槍を放した。槍は縦に滑つて淵の中に落ちてしまつた。如何して取つて良いか判らない。そこで彼は、ディノアラン(淵の名)の淵に潜つた、ところが潜つて行くと、中に

詞となる(?)

- 15. <si-ki?i?i?i? つい転倒する、si- 偶然に、つい。
- 16. <ka[avut ma-[avut 自然に放れる、[-im-avut 放す、vu[oq 比。Mal. buluh 竹。
- 18. [idip-in 潜り入る、客體主、[-im-idip 主體主、19行、日が入るにといふ。

- <sup>1</sup> ?u vu[oq" ajain ni saqa[amudis / "izoa  
我の 槍は 所言の カラムデイス 在 其處
- <sup>2</sup> ?u sinipa[asuy toa culug a[apo" aja ?a  
我の 所並列 と 竹筒 取れ といふが
- <sup>3</sup> va[aluval / qau a[apin / malavar tiamaju /  
龍 すると 所取 相談 彼等は
- <sup>4</sup> "parpaqali: / vavai sa ca ?invava" / aja ?a  
互可成友人 可造酒 而 我等の 飲酒 といふ 共
- <sup>5</sup> malavar /  
相談

ヴァラルヴァルといふ蛇(龍)が居た。カラムデイスが私の槍は何處に在るか)といふと、龍は私が其處に竹筒(水汲用の)と並べて置いたから取れ)といつた。槍を取ると、彼等は相談して、[龍は]「我々友達にならう、酒を造つて共に飲まう)といつた。

- <sup>8</sup> qau mirava ti saqa[amudis ?imulup /  
そこで 支度 は カラムデイス 着衣
- <sup>9</sup> ?imat?in / qoemizic toa pinulailajan / sa  
穿褲 飾頭 で 靈羽の飾 而
- <sup>10</sup> vai? a lita[aj toa zalum / ?a ?invava /  
行 共 底 の 水 其 飲酒
- <sup>11</sup> qau mapu[aw-apa ti saqa[amudis / sma  
それで 酔 了 は カラムデイス 赴
- <sup>12</sup> ?atsawan / "pa?cizo apa i canoa?in no  
外 來れ よへ 我處 時
- <sup>13</sup> tsoatsoaj-apa" / ajain ni saqa[amudis /  
久 了 所言の カラムデイス
- <sup>14</sup> qau ma?ciz ?a va[aluval i cai tsulul ?a  
そこで 来 が 龍へ 處 ツルル家 共
- <sup>15</sup> ?invava / sa mapu[aw-apa azoa va[aluval  
飲酒 而 酔 了 其の 龍は
- <sup>16</sup> vai? apa tsi?i?i?i? / maroqoroqo i ja[an  
行 了 歸 轉倒 で 道
- <sup>17</sup> aja /  
さうだ

そこでカラムデイスは[一旦内へ歸つて]袖無の着物を着たり、褲を穿いたり、鷹の羽を挿した頭の飾をしたり[萬事]支度して、水の底へ出掛けて行つた。[而して二人で]酒を飲んだ。[暫くすると]カラムデイスは酔つたので、外へ出て[歸りがけに]龍に「此次には私の處へ來い)といつた。其後、龍はツルル家へ來て酒を飲んだ。而してその龍は酔つて歸つて行つたが、途中で轉んださうだ。

カラムデイスのその友達は、他人が

- <sup>18</sup> sa azozoa qali ni saqa[amudis / no  
而 共の 友 の カラムデイス 時
- <sup>19</sup> ?eqoenic ?a qaleqa[i qacuvi: / la?oa no  
見 が 他人 蛇 併 時
- <sup>21</sup> ?eqoenic ti saqa[amudis tsautsau / aja  
見 が カラムデイス 人 さういふ
- <sup>22</sup> ?a caotsi?i?i? /  
は 傳説

見ると蛇に見えるが、併しカラムデイスが見ると人であつた、とさう言傳へられてゐる。

- 2. s-in-i-pa[asuj 人の爲に揃へて置いた、用具主、汝、[-im-asuj 揃へる、主體主。
- 4. vava-i 客體主、酒、?in-vava < kin-vava 酒を飲む。

- 8. ?im-ulup < ?ulup 袖無しの衣。
- 9. ?im-at?in < ?atsin 前個丈の褲。  
p-in-u-lailai-an 靈の羽で作つた頭巾、lailai 靈の羽。

16. ʔajulian noa vato  
定着處の犬

- <sup>2</sup> ʔa sitsoajan ʔa maŋciŋciŋ qoemi[aj i  
共昔共昔來坐に
- <sup>3</sup> sinilizau / ʔa sa[asa[aj ni sa[ʔaʔats / ti  
シニリザウは仲間等のサラアツ
- <sup>4</sup> qaqaŋan / ti palailai / ti tiqoŋ / ti qa-  
カコアガン家バライライ家トッコン家カ
- <sup>5</sup> vu[uj / ti valuan / ti taupi[i / "icin  
ヴルン家ヴルアン家タウピイ家我等
- <sup>6</sup> a imaza-ŋa i sinilizau" aja ʔa varoŋ  
共居此處の於シニリザウと思ふは心
- <sup>7</sup> niamaju /  
彼等の

- <sup>13</sup> mano izoa vato voqavoqal / qau qoe-  
ところが居犬白それで
- <sup>14</sup> moŋa[ azoa vato ini ʔa juli i sinilizau /  
遠吠其の犬は不共居附にシニリザウ
- <sup>15</sup> "ca maŋoaq ʔa ci navai? aja ʔa varoŋ noa  
尙良が方行つたと思ふ心の
- <sup>16</sup> vato / masa ini ʔa juli ʔa vato" aja / qau  
犬だらう不共落付が犬といふそこで
- <sup>17</sup> mirava toa nanimanimaŋa mapulat / sa  
支度な何れも皆而
- <sup>18</sup> vai? simʔiz i canomaq ʔa vato / "masa  
行休にチャノマクは犬だらう
- <sup>19</sup> ore ʔa imaza icin / ʔa simʔiz ʔa vato"  
欲共居此處我等が共休が犬
- <sup>20</sup> aja / qau vai? a uta ʔa vato / qau simʔiz  
と思すると行其又は犬そこで休
- <sup>21</sup> i coa ɖaɖaɖaqa / qau simʔiz ʔa tsautsau /  
で處ダカダカそこで休は人
- <sup>22</sup> "masa ore ʔa imaza icin" aja / qau vai?  
だらう欲共居此處我等がと思すると行

1. <ka-juli-an 居附く處、落つく處、ini ʔa juli <ini ka juli 落つかない、14行、ma-juli 落つく、定着する。

16. 犬の居附いた處

昔サラアツ(内文社のロバニヤウ家  
の祖)は、その同伴者のカコアガン家(キ  
ナジャン社に居る)、バライライ家(アジ  
ュボン社に居る)、トッコン家(内文社に  
居る)、カヴルン家(元内文社に居た、今は  
無い)、ヴルアン家(内文社に居る)、タウ  
ピリ家(内文社に居る)の者と皆一緒に  
シニリザウ(今のキナジャン社の上方)  
に来て共處に居處を定めた。而して  
「我々は此處のシニリザウに居よう」と  
彼等は思つてゐた。

ところが[一匹の]白犬が居た。其の  
犬は悲しきうに鳴いて、シニリザウに  
居附かない。そこで「犬は他所へ行く  
方が良いと思つて、それで落付かない  
のだらう」といつて、品物を皆始末して  
出發の用意をした。すると犬はチャ  
ノマクといふ處へ行つて共處で休ん  
だ。「犬が休んだのは、我々の此處に居  
るのを好むのだらう」と思つた。する  
と犬は又行つて、ダカダカといふ處で

15. ma-ŋoaq カチライ社等の na-ŋa:q に同じ。 ma-ŋoaq >na-ŋa:q (?)

- <sup>1</sup> a uta ʔa vato / calu-zoa i ca tapau totsu /  
其又は犬迄共處於我等の家今
- <sup>2</sup> ʔma[i toa qepo ʔa vato sa qazau / "masa  
掘を土は犬而坐だらう
- <sup>3</sup> ore ʔa imza-ŋa ʔa ʔajulian noa vato / ʔa  
欲共居此處の於共落付處の犬共
- <sup>4</sup> qoemazau imaza / ca maŋoaq ʔa ci na-  
坐在此處尙良が方
- <sup>5</sup> sman tapau" aja malavar / qau sinan  
作つた家なといふ相談そこで作
- <sup>6</sup> tapau ʔa mapulat / sa azaoa vato ini apa  
家を共昔而共の犬は不了
- <sup>7</sup> ʔa garavagav / sa ʔa tsoai apa masan  
共動而久了爲
- <sup>8</sup> ta[aw-apa / aja ʔa caotsi[i] ʔa masitsoai /  
タラウ了 303:5 は傳説共昔から

休んだので、人も亦(共處で)休んだ。「犬  
は我等の此處に居るのを好むのだら  
う」と思ふと、犬は又現在我々(内文社の  
頭目)の家のある處まで行つて、土を掘  
つて坐つた。「此處へ坐るのは、犬が此  
處を落付處にしようと思ふのだらう、  
それでは家を建てようではないか」と  
いつて相談した。そこで皆が家を建  
てると、その犬はそのまま動かなくなつ  
た。而して後に白い六方石になつた  
と、昔からの傳説はさういつてゐる。

17. ti sapajas atoa la  
サバヤスと等  
qavu[uj  
カヴルン家の人

17. サバヤスとカヴルン  
家の人々

- <sup>13</sup> ʔa sitsoajan izoa ti sapajas vai? a sma  
共昔居がサバヤス行共赴
- <sup>14</sup> vi[i]il / qau mitsivuj atoa la qavu[uj /  
ヴリイルすると出會と等カヴルン家の人
- <sup>15</sup> qau malavar toa ʔajunapan i vi[i]il /  
そこで相談を土地在ヴリイル
- <sup>16</sup> "more ʔa nia'in tsoa ʔajunapan" aja  
思共我の物此の土地はといふ
- <sup>17</sup> ti sapajas / mano "ʔa niamin tsoa ʔaju-  
がサバヤスところが共我等の物此の土
- <sup>18</sup> napan" / aja marivu tiamaju / "mitsivuj  
地はといふ争彼等は面會
- <sup>19</sup> apa ʔa malavar no ca ivi[i]il" aja / sa vai?  
しよう共相談時尙後といふ而行
- <sup>20</sup> a mavadai / tsoatsoaj-apa pagalu / qau  
共別久了少すると

昔サバヤスといふ人が居て、ヴリイ  
ル社へ行つた。するとカヴルン家の  
人々と出會つた。そこで[問題になつ  
てゐた]ヴリイルに在る土地の事に就  
いて相談した。サバヤスは「此の土地  
は自分の物の筈だ」といつた。すると  
[カヴルンは]「此土地は我々の物だ」と  
いつて互に争つた。[結着が付かない

2. <k-lm-a[i 掘る。比。Mal. mēng-gali < \*mēn-kali 掘る。

8. ta[au 石の名、白い六方石なりといふ。

- <sup>1</sup> mitsivup sma-zoa i pinooqulatan / ma-  
會 赴 其處 於 ヒナカクラタン
- <sup>2</sup> tsidil ti sapajas / ?a sivu[avul]at izoa  
一人 は サバヤス は グラグラット社 居
- <sup>3</sup> mapulat / "alavari to ?ajunapan" aja ti  
皆 所相談 を 土地 といふ は
- <sup>4</sup> sapajas / qau "ido: paqaqetsi" aja la  
サバヤス すると 來れ 所戦 といふ 等
- <sup>5</sup> qavu[up] / qau panaqen ti sapajas / "maja  
カグルン家の人 そこで 所射 は サバヤス 勿
- <sup>6</sup> pinanaq ?alavari" aja ti sapajas / ini  
射 所相談 といふ は サバヤス 不
- <sup>7</sup> [apida ?a majan ?a panaq / ano panaqen  
間 其 やはり 其 射 時 所射
- <sup>8</sup> ?epoq ti sapajas / ini ?ajamaq / qau "maja  
顔身 は サバヤス 不 申 そこで 勿
- <sup>9</sup> pinanaq ?alavari" aja ti sapajas / ini  
射 所相談 といふ は サバヤス 不
- <sup>10</sup> [apida la qavu[up] ?a majan ?a panaq /  
間 等 カグルン家人 其 やはり 其 射
- <sup>11</sup> "no qoemaqiu mun / galo anan qi / tima-  
若 拒 汝等は 待て 一寸 よ 磨
- <sup>12</sup> liu anan a?in toa ?u tsiqalap" / aja  
一寸 我は を 我の 刀 といふ
- <sup>13</sup> ti sapajas / timaliu azaoa ti sapajas /  
は サバヤス 磨 其の は サバヤス
- <sup>14</sup> pisapui sipu[ipu]ipuc toa azacan / ma-  
發火 全體になる に 平地
- <sup>15</sup> [ipat i riluriluan ?a sapui / "oa ini na-  
到 ヘリルリルアン は 火 おやいや
- <sup>16</sup> ?oja tsu / ini ca ?amore timuzip / ca  
返 此は 不我等の 所能 堪 我等の
- <sup>17</sup> ?avi[adai] / aja la qavu[up] sa ?avi[ad] /  
所可逃 といふ 等 カグルン家 而 逃
- <sup>18</sup> qau "cizoa-pa / nia sisa[oa]n apa ?a  
そこで 止めよ 我等の 所承認 そは
- <sup>19</sup> ?ajunapan" / ajain ni qavu[up] ti sapa-  
土地 所言 の カグルン家 は サバ
- <sup>20</sup> jas / qau pautiz apa / sa?a ni sapajas  
ヤス それで 止 了 それでの物 サバヤス
- <sup>21</sup> ?a ?ajunapan totsu azaoa i vi[ipil] / aja  
は 土地 今 あの 在 グリイル 3312
- <sup>22</sup> ?a caotsi[i] /  
は 傳説

5. panaq-cen 射る。客體主。p-in-anaq 一般現在。主體主。6行。panaq 現實現在。主體主。10行。Mal. panah 弓。mēmanah < mēn-panah 弓を射る。

ので「此の次に會つて相談しよう」とい  
つて、別れて行つた。其後暫くたつて、  
〔彼等は〕ヒナカクラタン(グリイル社の  
上の平地)といふ處で會つた。サバ  
ヤスの方は一人、グラグラット社(カヴ  
ルン家の社)の方は全社皆居た。サバ  
ヤスは「土地の事を相談しよう」といつ  
た。するとカグルン家の人々は「さあ  
來い戦はう」といつて、サバヤスを弓で  
射らうとした。サバヤスは「射るな、相  
談しよう」といつたが、やはり聞かない  
で射た。〔敵が射た時、サバヤスは身を  
傾けて避けたので、矢は中らなかつた。  
そこでサバヤスは又「射るな、相談しよ  
う」といつたが、カグルン家の人々は、や  
はり聞かないで射た。するとサバヤ  
スは「汝等聞かないなら、一寸待て、私は  
刀を磨ぐから」といつた。サバヤスが  
刀を磨ぐと、その刀から火を發して平  
地全體に廣がつた。而してその火は  
リルリルアンの地まで燃えて行つた。  
「おや、いけない、此は大變、我々は叶はな

8. <ka-jamaq ~ma-jamaq 中たる。j-im-amaq 中てる。  
11. t-im-aliu 携帯用の砥石で磨ぐ。taliu 同上砥石。

い、逃げよう」といつてカグルン家の人  
々は逃出した。カグルンはサバヤス  
に、「もう止めてくれ、我々は土地を承諾  
する」といつたので、此の争は止んだ。  
それから後、今グリイルに在る其の土  
地は、サバヤスの物になつたのだ、と言  
傳へられてゐる。

3. リキリキ社

(la|ik|ik)

1. scaova<sup>v</sup>iva<sup>i</sup>

チャオグアイグアイ社人

- <sup>12</sup> azoa scaova<sup>v</sup>iva<sup>i</sup> ?a vavajavajan sa-  
あの チャオグアイグアイ社人 其 女連
- <sup>13</sup> kamaja / nika no oqalai / saka "salipa  
只 無 の 男 そこで 欲しい
- <sup>14</sup> to poalak icin" aja / sa sma gaðo ci-  
な 生子 我等は といふ 而 赴 山
- <sup>15</sup> moguluj / ?a pava<sup>v</sup>iva<sup>i</sup> / saka mavu<sup>v</sup>ai /  
箭 其 使風吹 すると 孕
- <sup>16</sup> saka poalak / mano vavajan sakamaja /  
そこで 生子 ところが 女 只
- <sup>17</sup> saka mapilai sakamaja / ini ka vina<sup>v</sup>a /  
而 不具者 只 不 其 肚體
- <sup>20</sup> mano momal ?a sma gaðo / ?a  
そこで 再 其 赴 山 其
- <sup>21</sup> cimoguluj / saka izoa ?a qoemaloqalop  
箭 その時 居 が 狩してゐる人

1. チャオグアイグアイ社の人

あのチャオグアイグアイ社の者は女  
連ばかりで、男は居なかつた。そこで  
〔或時〕我々は子を生またいものだとい  
つた。而して山へ行つて俯けになつ  
て、〔尻を出して〕風にあてた。すると孕  
んで子を生んだ。ところが〔生れたの  
は〕女ばかり〔しかも其が〕不具者ばかり  
で、〔其上〕丈夫でなかつた。

そこで〔彼等は〕再び山へ行つて、俯い  
てゐた。すると其時丁度チャオグアイ

採録期：昭和七年八月。高雄州潮州郡リキリキ社にて調査。  
口授者：pualujan ?a kazapilan 顔目；sakavai ?a palo-  
vak.

説明者：gago ?a vo<sup>v</sup>ovo<sup>v</sup>o, 23歳。男。

補助者：警部補 山野福太郎。

11. <si-caova<sup>v</sup>iva<sup>i</sup> si- 其の社に屬する者、パイワンの]

(=IN. 1) はリキリキ社附近にては普通弱きKの如  
く聞え、又屢々省略せらるゝことあり。

14. c-im-oguluj 俯く。na-c-im-oguluj 俯いてゐる。210頁、  
3行。

15. pa-va<sup>v</sup>i-va<sup>i</sup> 風に吹かせてゐる。風に當ててゐる。va<sup>v</sup>i  
風。pa- 他動詞構成の接頭辭。

- <sup>1</sup> scaozajazaja / saka livavau toa kasiu ?a  
チ、オザヤザヤ社人 面 上 に 木 共
- <sup>2</sup> limizau / mano izoa ?a vavajavajan ?a  
眺 すると 居 が 女達 共
- <sup>3</sup> nacimoguluj / saka limigilij azoa oqalai /  
俯いてゐる そこで 見 共の 男は
- <sup>4</sup> "aqo izoa vavajan ?a namaitazoa" aja /  
何故 居 女 共 如其してゐる といふ
- <sup>5</sup> saka palili / mano cij<sup>v</sup>ai toa oqalai azoa  
それで 見舞 ところが 好 な 男 共の
- <sup>6</sup> vavajavajan / saka jimajas saka pozikac /  
女達は そこで 捕 而 通
- <sup>7</sup> sa poalak toa oqalai / saka mirazik ?a  
それで 生子 な 男 それで 殖 は
- <sup>8</sup> kicoqenalan aja ?a caotsiki: /  
共社の者 といふ は 傳説

2. vato  
犬

- <sup>11</sup> izoa azoa vato ?a nakicoqeizij / aja ?a  
居 あの 犬が 共 ケイジン社のもの といふ は
- <sup>12</sup> caotsiki: / izoa i pa<sup>v</sup>ila<sup>v</sup>ilao ?a vato /  
傳説 居 に 下蕃 は 犬
- <sup>13</sup> saka no qoemalup / no qaqatsaqatsaan /  
而 時 狩 時 非常大な物
- <sup>14</sup> ?a vavui ?a vinan ?a takits / <sup>v</sup>ipilin  
共 山豚 共 鹿 共 小鹿 所圍
- <sup>15</sup> noa vato ?a pasa du<sup>v</sup>ut toa qenalan / sa  
の 犬 共 方 近傍 の 社 而
- <sup>16</sup> jajasi sa kani ?a mapulat / azoa no kasi  
所捕 而 所食 は 皆 共 若から
- <sup>17</sup> tsaja / ini ka makakatsu to qaqatsaqatsa-  
遠方 不 共 能持來 を 非常大な物
- <sup>18</sup> an / avan nu sika <sup>v</sup>imijil ?a pasa du<sup>v</sup>ut  
共 は 故 圍 共 方 近傍
- <sup>19</sup> toa tapau / avan a kakrikrian ?a tappa-  
の 家 共物 共 小な物 は 所圍口
- <sup>20</sup> tsin ?a sma tapau / sa kani ?a mapulat /  
共 赴 家 而 所食 は 皆

4. na-mai-tazoa 其様にしてゐる, mai-tazoa 其様な。  
7. mirazik カチライ社等, me-razik。  
8. kico-qenalan 自分の屬する蕃社の者, qenalan 蕃社。  
~na-kico-qeizij 11行。  
caotsiki: <caotsiki<sup>v</sup> <caotsiki<sup>v</sup>。  
11. na-ki-co-qeizij 以前自分でケイジン社に屬してゐた者。比・註・8。

ザヤ社の人が狩に来てゐた。木に上つて眺めて見ると、女達が俯いてゐた。男は共を見て、[何故女はあんなにして居るのであらう]といった。そして女を見舞つた。ところが、女達は男が好になつて、捉へて通じた。而して男の子が出来た。それで共社の人は殖えたのだと、さう言傳へられてゐる。

2. 犬

あの犬は以前はケイジン社の者であつた、と言傳へられてゐる。その犬は[元]下蕃に居つて、狩する時、獲物が山豚や鹿や小鹿などの、大きなものである場合には、犬が圍んで蕃社の近傍まで押寄せて來た。而して[人々が]皆捕つて食つた。其は[大きな獲物は遠い所から持つて來ることが出來ないから、自然家の近傍まで圍んで來たのだ。共が小さな獲物であれば、口に啣へて

13. qa-qatsa-qatsa-an <qatsa 大きい。  
14. <sup>v</sup>ipil-in 圍む, 客體主, <sup>v</sup>im-ijil 主體主, 18行。  
15. pasa-du<sup>v</sup>ut du<sup>v</sup>ut 近處 pasa …の方。  
16. jajasi 捕へる, 客體主, j-im-ajas 主體主, kan-i 食ふ, 客體主, k-im-an 主體主。  
17. maka-katsu maka- 能ふ, k-im-atsu 携へる。  
19. ka-kri-kri-an <kiri 小さい, カチライ社等 kidi-kidi。

- <sup>2</sup> mano sma paerap ?a tsautsau ?a ma-  
ところが 赴 平地 が 人 共 二
- <sup>3</sup> rusa matqa<sup>v</sup>i / mano jumakin nazoa  
人 仲間 すると 所見附 共の
- <sup>4</sup> vato / sa katsi / sa patsai azoa tsautsau  
犬の 而 所咬 而 死 共の 人は
- <sup>5</sup> ?a marusa / "aqo izoa-zazoa vato salipa  
共 二人 何故 居 あの 犬が 欲しい
- <sup>6</sup> auavats<sup>v</sup> aja ?a tsautsau / saka kimats  
甚 といふ が 人 而 咬
- <sup>7</sup> azoa / mano "ca ku<sup>v</sup>ain apa" aja / saka  
共が ところが 我等の 所知何 ぞ といふ そこで
- <sup>8</sup> qoemavai / sa pa<sup>v</sup>uv<sup>v</sup>uvi toa qoval / saka  
作栗餅 而 混 を 髪 而
- <sup>9</sup> kiman ?a vato / saka tsipap ?a alis noa  
食 が 犬 而 引掛る は 齒 の
- <sup>10</sup> vato / sa jikipi noa tsautsau / ?a koko  
犬 而 所捕 の 人 は 子犬
- <sup>11</sup> ?a rusa / ?a oqalai ?a ita / ?a vavajan ?a  
共 二 共 牡 は 一 共 牝 は
- <sup>12</sup> ita / sa vaikan apa ?a sma ?a paqa<sup>v</sup>u-  
一 而 所歸 了 共 赴 共 東東方
- <sup>13</sup> qa<sup>v</sup>u / sa poalak apa / sa povato apa ?a  
而 而 生子 了 そこで 有犬 了 は
- <sup>14</sup> tsautsau / aja ?a caotsiki: /  
人 といふ は 傳説

3. takits  
小鹿

- <sup>19</sup> aitsu ?a vinan kimasi <sup>v</sup>o<sup>v</sup>oan i lavik  
此 共 鹿 から來 處 於 海
- <sup>20</sup> ?a mapciz / aja ?a caotsiki: / saka no  
共 來 といふ は 傳説 而 時
- <sup>21</sup> patagil ?a kimasi i lavik / ini ka ca  
初 共 から來 處 海 不 共 我等の

3. mar-qa<sup>v</sup>i カチライ社等 mar-qa<sup>v</sup>i。  
4. kats-i 咬む, 客體主, k-im-ats 主體主, 6行。  
8. q-oem-avai <qavai 栗餅。

家へ持つて來ると[人々が]皆食つた。  
[犬を狩に用ゐる様になつたのは]、或時[バカルカル(台東方面の蕃人)の者が]二人平地(本島人)へ行つて、犬を見附けたが、二人共その犬に咬まれて死んだ。人々は、[如何してあの犬が居るのか、我々は欲しいものだ]といった。ところが、その犬は[近附いたら咬付くので、我々は如何したらよからう]といった。そこで栗餅を作つて髪を混ぜた。犬が共を食ふと[髪が]犬の齒に引掛つた。[その間に]人が追かけて行つて、犬の子二匹[即ち]牡一匹と牝一匹とを捕へて、バカルカルへ歸つて來た。共が子を生んだので、人が犬を持つやうになつたのだ、と言傳へられてゐる。

3. 小 鹿

あの鹿は海の方から來たものだと、いひ傳へられてゐる。初め海から來た時は、我々は共を殺さなかつた。其

13. po-vato apa 犬を有つ體になつた, vato 犬。  
19. k-im-asi …から…する, kani …から。



- 1 scaozajazaja / saka livavau toa kasiu ?a  
チャオザヤヤ社人 面 上 に 木 共  
2 limizau / mano izoa ?a vavajavajan ?a  
眺 すると 居 が 女達 共  
3 nacimoguluj / saka limigilij azoa oqalai /  
俯いてある そこで 見 共の 男は  
4 "aqo izoa vavajan ?a namaitazoa" aja /  
何故 居 女 共 如其してある といふ  
5 saka palili / mano ciŋ'ai toa oqalai azoa  
それで 見舞 ところが 好 な 男 共の  
6 vavajavajan / saka jimajas saka pozikac /  
女達は そこで 捕 而 通  
7 sa poalak toa oqalai / saka mirazik ?a  
それで 生子 な 男 それで 殖 は  
8 kicoqenalan aja ?a caotsiki: /  
其社の者 といふは 傳説

2. vato  
犬

- 11 izoa azoa vato ?a nakicoqeizij / aja ?a  
居 あの 犬が 共 ケイジン社の者 といふは  
12 caotsiki: / izoa i pa<sup>14</sup>ila<sup>15</sup>ilao ?a vato /  
傳説 居 に 下蕃 は 犬  
13 saka no qoemalup / no qaqatsaqatsaan /  
而 時 狩 時 非常大な物  
14 ?a vavui ?a vinan ?a takits / <sup>16</sup>igilin  
共 山豚 共 鹿 共 小鹿 所圍  
15 noa vato ?a pasa du<sup>15</sup>ut toa qenalan / sa  
の 犬 共 方 近傍 の 社 而  
16 jajasi sa kani ?a mapulat / azoa no kasi  
所捕 而 所食 は 皆 共 若 から  
17 tsaja / ini ka makakatsu to qaqatsaqatsa-  
遠方 不 共 能持來 な 非常大な物  
18 an / avan nu sika <sup>16</sup>imijil ?a pasa du<sup>15</sup>ut  
共 は 故 圍 共 方 近傍  
19 toa tapau / avan a kakrikrian ?a tappa-  
の 家 共物 共 小な物 は 所圍口  
20 tsin ?a sma tapau / sa kani ?a mapulat /  
其 赴 家 而 所食 は 皆

4. na-mai-tazoa 其様にしてある, mai-tazoa 其様な。  
7. mirazik カチライ社等, me-razik.  
8. kico-qenalan 自分の属する蕃社の者, qenalan 蕃社。  
~na-kico-qeizij 11行。  
caotsiki: <caotsiki<sup>14</sup> <caotsiki<sup>15</sup>。  
11. na-ki-co-qeizij 以前自分でケイジン社に属してゐた者。比。註8。

ザヤ社の人が狩に来てゐた。木に上つて眺めて見ると、女達が俯いてゐた。男は共を見て、何故女はあんなにして居るのであらうといつた。そして女を見舞つた。ところが、女達は男が好になつて、捉へて通じた。而して男の子が出来た。それで其社の人は殖えたのだと、きう言傳へられてゐる。

## 2. 犬

あの犬は以前はケイジン社の者であつた、と言傳へられてゐる。その犬は〔元〕下蕃に居つて、狩する時、獲物が山豚や鹿や小鹿などの、大きなものである場合には、犬が圍んで蕃社の近傍まで押寄せて來た。而して〔人々〕皆捕つて食つた。其は〔大きな獲物は遠い所から持つて來ることが出来ないから、自然家の近傍まで圍んで來たのだ。其が小さな獲物であれば、口に啣へて

13. qa-qatsa-qatsa-an <qatsa 大きい。  
14. <sup>16</sup>igil-in 圍む, 客體主, <sup>16</sup>im-igil 主體主, 18行。  
15. pasa-du<sup>15</sup>ut du<sup>15</sup>ut 近處 pasa …の方。  
16. jajasi 捕へる, 客體主, j-im-ajas 主體主。  
kan-i 食ふ, 客體主, k-im-an 主體主。  
17. maka-katsu maka- 能ふ, k-im-atsu 携へる。  
19. ka-kri-kri-an <kiri 小さい, カチライ社等 ki-ki-kidi。

- 2 mano sma paerap ?a tsautsau ?a ma-  
ところが 赴 平地 が 人 共 二  
3 rusa marqa<sup>16</sup>i / mano jumakin nazoa  
人 仲間 すると 所見附 共の  
4 vato / sa katsi / sa patsai azoa tsautsau  
犬の 而 所咬 而 死 共の 人は  
5 ?a marusa / "aqo izoa-zazoa vato salija  
共 二人 何故 居 あの 犬が 欲しい  
6 avavats" aja ?a tsautsau / saka kimats  
其 といふが 人 而 咬  
7 azoa / mano "ca ku<sup>16</sup>ain apa" aja / saka  
共が ところが 我等の 所如何 ぞ といふ そこで  
8 qoemavai / sa pa<sup>16</sup>uv<sup>16</sup>uvi toa qoval / saka  
作粟餅 而 混 な 髪 而  
9 kiman ?a vato / saka tsipap ?a alis noa  
食 が 犬 而 引掛る は 齒 の  
10 vato / sa jikipi noa tsautsau / ?a koko  
犬 而 所捕 の 人 は 子犬  
11 ?a rusa / ?a oqalai ?a ita / ?a vavajan ?a  
共 二 共 牡 は 一 共 牝 は  
12 ita / sa vaikan apa ?a sma ?a paqa<sup>16</sup>u-  
一 而 所歸 了 共 赴 共 東東方  
13 qa<sup>16</sup>u / sa poalak apa / sa povato apa ?a  
而 而 生子 了 そこで 有犬 了 は  
14 tsautsau / aja ?a caotsiki: /  
人 といふは 傳説

3. takits  
小鹿

- 19 aitsu ?a vinan kimasi <sup>16</sup>opoan i lavik  
此 共 鹿 から來 處 於 海  
20 ?a mapciz / aja ?a caotsiki: / saka no  
共 來 といふは 傳説 而 時  
21 patagil ?a kimasi i lavik / ini ka ca  
初 共 から來 處 海 不 共 我等の

3. mar-qa<sup>16</sup>i カチライ社等 mar-qa<sup>16</sup>i。  
4. kats-i 咬む, 客體主, k-im-ats 主體主, 6行。  
8. qoem-avai <qavai 粟餅。

家へ持つて來ると〔人々〕皆食つた。〔犬を狩に用ゐる様になつたのは〕或時〔バカルカル(台東方面の蕃人)の者が〕二人平地(本島人)へ行つて、犬を見附けたが、二人共その犬に咬まれて死んだ。人々は、如何してあの犬が居るのか、我々は欲しいものだといつた。ところが、その犬は〔近附いたら〕咬付くので、我々は如何したらよからうといつた。そこで粟餅を作つて髪を混ぜた。犬が共を食ふと〔髪が〕犬の齒に引掛つた。〔その間に〕人が追かけて行つて、犬の子二匹(即ち)牡一匹と牝一匹とを捕へて、バカルカルへ歸つて來た。其が子を生んだので、人が犬を持つやうになつたのだ、と言傳へられてゐる。

## 3. 小 鹿

あの鹿は海の方から來たものだと、いひ傳へられてゐる。初め海から來た時は、我々は其を殺さなかつた。其

13. po-vato apa 犬を有つ様になつた, vato 犬。  
19. k-im-asi …から…する, kasi …から。

- <sup>1</sup> sunaşian / azoa mamau toa ujuru anan /  
所取命 共は 同 に 軟芽 向
- <sup>2</sup> saka ini ka cin ?a jimamœq / no kimoaŋ  
それで不 共我等共 捕 も 打銃
- <sup>3</sup> icin / azoa ini anan ?a sansatsimi<sup>ki</sup> / no  
我等は 共は 不 尙 共 所成獸 時
- <sup>4</sup> tsoatsoaj-apa saka namasan vinan apa /  
甚久 了 そこで 既成 鹿 了
- <sup>5</sup> sa poqoval apa / sa potsoqarolqolan a-  
面 生毛 了 而 分 蹄
- <sup>6</sup> pa / tsaliqel apa ?a ko<sup>va</sup> / vaik apa sma  
了 屢 了 は 脚 行 了 赴
- <sup>7</sup> gaðo ?a jimavats / avan-apa zaoa ?a ca  
山 共 歩 共物 だ あ の 共我等の
- <sup>8</sup> qalupin apa / sa ca koapi apa / avan  
所狩 了 而 我等の 所打銃 了 共物
- <sup>9</sup> apa-zaoa ?a patagil ?a ma<sup>va</sup>ap icin toa  
だ あ の 共 初 共 取 我等が な
- <sup>10</sup> vinan / saka ma<sup>va</sup>ap apa toazoa vinan ?a  
鹿 而 取 了 共 の 鹿 を 共
- <sup>11</sup> vitsivitsikan / saka no oqalai ma<sup>va</sup>o<sup>o</sup> ?a  
有模倣物 而 若 牡 有八 が
- <sup>12</sup> tiqoŋ / saka no vavajan ini ka putiqoŋ /  
角 而 若 牝 不 共 生角
- <sup>13</sup> sa<sup>va</sup>iaw-apa / sa vaik apa ja<sup>va</sup>avats ?a  
而 多 了 而 行 了 歩廻 共
- <sup>14</sup> pinu<sup>va</sup>igu<sup>va</sup>iguc toa kajunapan /  
全部…する な 土地
- <sup>15</sup> mano mitsivug toazoa takits / "kasinu  
ところが 出會 共 の 小鹿に 何處から
- <sup>16</sup> sun ?a ja<sup>va</sup>ava<sup>va</sup>avats" aja azoa takits /  
汝は 共 歩廻つてある といふ 共 の 小鹿は
- <sup>17</sup> "imaza-kin apata ?a ja<sup>va</sup>ava<sup>va</sup>avats" / "aqo  
在此處 我は 實に 共 歩廻つてある 何故
- <sup>18</sup> izoa-zaoa namaitazoa / aqo putiqoŋ toa  
有 共 の 如共物 何故 生角 な
- <sup>19</sup> ?iau / aqo vitsivitsikan" / aja-zaoa ?a  
多 何故 有模倣 といふ あ の 共

は丁度木の芽の様に軟かかったので、我々は捕へも、又銃で打ちもしなかつた。共は、まだ獣になつてゐなかつた。後になつて鹿になつた。而して毛が生えて、蹄が分れて、脚も丈夫になつたので、山へ行つて歩く様になつた。我々が狩して、銃で打つて取るのはその鹿である。我々が始めて取つた鹿も其であつた。而して我々はその模様のある鹿(花鹿)を取つたのだ。その鹿は、牡には角の又が八つあるが、牝には角が生えてゐない。その鹿が段々澤山になつて、到る所の土地を歩き廻るやうになつた。

[或時花鹿が]小鹿に出會つた。小鹿は、「お前は何處から来て、歩き廻つてゐるのか」といふと、[花鹿は]、「私は元から此處に居て、歩き廻つてゐるのだ」といふ。小鹿は、「彼は どうしてあんなのだ

1. su-nasi-an 生命を取る物、位置主。nasi 呼吸、生命。su- 取る。s-im-u-nasi 命を取る、主體主。  
3. san-satsimi<sup>ki</sup>-i 獸の形を成してゐる物、客體主。<sa-tsimi<sup>ki</sup> 野獸 san ~ma-san 成る。  
4. na-ma-san 鹿に成つた物、註 3. na- 過去。  
5. po-tso-qarolqolan 蹄が分れる。qarolqolan 蹄。  
8. qalup-in 狩する物、一般客體主。q-œm-alup 主體主。koap-i 銃で打つ物、現實客體主。k-im-oaŋ 主體主。

11. vitsi-vitsik-an 模倣の有るもの、vitsik 模倣、文字。ma<sup>va</sup>o<sup>o</sup>a<sup>va</sup>o 八つ有る、[角の枝が]。a<sup>va</sup>o 八、ma<sup>va</sup>o-nim 水鹿、213頁、7行。角の枝が六つ有る意、inim 六。  
12. pu-tiqoŋ 角を生ずる。tiqoŋ 角、12行。  
13. ja<sup>va</sup>avats <ja<sup>va</sup>ava<sup>va</sup>avats (?), ja<sup>va</sup>ava<sup>va</sup>avats 歩き廻つてゐる。16行。比。j-im-avats 歩く、7行。<javats。  
14. pinu<sup>va</sup>igu<sup>va</sup>iguc <pu<sup>va</sup>iguc 全部。

- <sup>1</sup> takits / vaik a sma cokavu<sup>va</sup>upan /  
小鹿が 行 共 赴 大武山の處
- <sup>4</sup> saka izoa-zaoa vinan ?a nakimizip /  
而 有 彼 の 鹿 が 共 先祖
- <sup>5</sup> izoa i cokavu<sup>va</sup>upan / saka "izoa-zaoa ko  
居 に 大武山 而 居 あ の 我 の
- <sup>6</sup> sinitsivupan / salipa toa ca<sup>va</sup>opoŋ noa  
可會者 欲しい な 帽 の
- <sup>7</sup> vinan / azoa ma<sup>va</sup>onim / vaik akin ?a  
鹿 共 の 水鹿 行 我は 共
- <sup>8</sup> ciqala" aja azoa takits / sa ca<sup>va</sup>opoŋan  
訪問 といふ 共 の 小鹿は 而 所被
- <sup>9</sup> ?a ca<sup>va</sup>opoŋ noa ma<sup>va</sup>onim / sa vaik azoa  
は 帽 の 水鹿 而 行 彼は
- <sup>10</sup> ?a ciqala ?a smazoa toa vinan ma<sup>va</sup>o<sup>o</sup> /  
共 訪問 共 赴其處 へ 鹿 八又
- <sup>11</sup> mano malavar azoa / "aqo<sup>va</sup>ia<sup>va</sup>u ?a su  
すると 話 彼は 何故 多 は 汝の
- <sup>12</sup> tiqoŋ / kiri ?a niakin" aja-zaoa / vaik ?a  
角 少 は 我の といふ 彼は 行 共
- <sup>13</sup> tsimiki: ?a sma cokavu<sup>va</sup>upan / "kin ?a  
歸 共 赴 大武山 我は 共
- <sup>14</sup> kizulu anan / ?a ko tiqoŋ / ?a ko ca<sup>va</sup>o-  
自分足す 尙 は 我の 角 は 我の 帽
- <sup>15</sup> poŋ" / aja-zaoa takits / mano "nika /  
といふ 共 の 小鹿は ところか 無
- <sup>16</sup> idan patsiki<sup>va</sup>u" / aja-zoa ma<sup>va</sup>onim / saka  
よこせ 返せ といふ 共 の 水鹿は すると
- <sup>17</sup> "upai ko palilii azoa so siajaja" / sa  
此から 我の 所見歸 あ の 汝の さういつた言は 而
- <sup>18</sup> vaik apa-zaoa ?a ciqala / lakoa ini ka  
行 了 彼は 共 訪問 併 不 共
- <sup>19</sup> mitsivug / "aqo nika" aja-zaoa ma<sup>va</sup>onim  
出會 何故 無 といふ 共 の 水鹿は
- <sup>20</sup> ka tsimiki<sup>va</sup>u" apa / "nasa so<sup>va</sup>ucokin  
共 歸 了 多分 汝の 所愚弄

らう、何故角の又が多いのだらう、何故模様があるのだらう」といつて大武山へ行つた。

大武山には、あの先祖の鹿(水鹿)が居た。小鹿は、「私の相談相手(水鹿)が居る。あの水鹿の帽子が欲しいものだ、私は訪問に行かう」といつて[出掛けた]。而して水鹿の帽子を(借りて、其を被つて花鹿を訪問に行つた。行くと小鹿は、「何故お前の角は又が多くて、私の角は少いのだらう」といつて、又大武山(水鹿の處)へ歸つて行つた。而して小鹿は、「私は、私の角も、私の帽も、もつと足して殖やさう」といつた。ところが水鹿は、「[そんな物は]無い。[貸したものを]よこせ、返せ」といつた。而して水鹿は、「私はお前の話した花鹿を見に行かう」といつて訪問に出かけたが、併し出會はなかつた。その水鹿は、「[花鹿は]何故居ないのだらう」といつて歸つて来た。而

1. cokavu<sup>va</sup>upan <kavu<sup>va</sup>upan 大武山、co- 其の處。  
6. s-in-i-tisivug-an 面會すべき者と定めてゐる者、用具主。mi-tisivug 面會。s-in-i- <si- …する爲の者、用具主。  
8. ca<sup>va</sup>opoŋ-an 被ぶる爲の物、用具主。帽。ca<sup>va</sup>opoŋ 帽、9行。  
16. <id-an 来る物、此方へよこす物、用具主。比。id-o 来い、近く来い、222頁、註 3。

pa-tšiki<sup>va</sup>u- 命令、主體主。ts-im-iki<sup>va</sup> 歸る、戻る。  
17. palili-ai -ai 現實未來、位置主。<si-aja-aja 其者についてかうかうだといつた、其の話の材料、用具主、花鹿。  
20. nasa 多分…だらう、nasa:ja <nasa-aja 多分其體であらう、214頁、2行。

- <sup>1</sup> akin / lakoa kisijami ?a so ca<sup>v</sup>opon /  
我は 併 所借 は 汝の 帽
- <sup>2</sup> nasaja so vanon / ero apa kauri ?a pa-  
多分如其 汝の 心は 豈ぞ 所承諾 共
- <sup>3</sup> sijam canusun<sup>v</sup> / aja-zoa ma<sup>v</sup>onim toa  
貸 汝に といふ 其の 水鹿は に
- <sup>4</sup> takits / mano qoemaon apa-zoa takits aja /  
小鹿 それで 泣 了 其の 小鹿は さうだ
- <sup>5</sup> avan nu sika malitotsu apa / timu<sup>v</sup>ats  
其は 故 到今 了 鳴
- <sup>6</sup> ?a takits ?a: ?a: / aja ?a caotsiki: /  
が 小鹿 アーアー さういふ は 傳説

して小鹿に向つて〔花鹿は居ないでは  
ないか〕お前は〔嘘をいつて〕私を愚弄す  
るつもりだらう。お前のつもりは私  
から帽を借りようといふ氣だらうが、  
如何してお前に貸すことを承諾する  
ものかといつた。すると小鹿は泣い  
たさうだ。今でも小鹿がアーアと  
いつて鳴くのは、其の譯だと傳説はさ  
ういつてゐる。

4. ti satsujui  
ツヂユイ

- <sup>12</sup> izoa azazoa qenalan i kalojon / ma-  
有 彼の 社 於 カロヨン
- <sup>13</sup> caini:nim ?a omaq / aja ?a caotsiki: / sa  
六戸 は 家 といふは 傳説 而
- <sup>14</sup> mano ?a qoemalup ?a sma-zoa i laitau /  
ところが 其 狩 其 赴 彼處 於 ライタク
- <sup>15</sup> ka tsimiki<sup>v</sup> apa maqoepo azoa izoa i  
而 歸 了 集 彼は 彼處 於
- <sup>16</sup> pucazan / i pasa<sup>v</sup>au<sup>v</sup>auz i kalojon ?a  
プチャザラン 於 下の方 於 カロヨン 共
- <sup>17</sup> namaqoepo / mano "patsuni akin" aja-  
既集 すると 所見 我は といふ
- <sup>18</sup> zoa ti satsujui / no vitsi<sup>v</sup>oqoen ?a kasiu  
彼は ツヂユイ 時 所折 は 木
- <sup>19</sup> ?a papitsivtsivupin / "aqo maja" aja  
其 所爲一緒 何故 如其 といふ
- <sup>20</sup> ?a sa<sup>v</sup>asa<sup>v</sup>aj / mavi<sup>v</sup>ad ?a sma omaq / ka  
は 仲間 歸 共 赴 内 而

- 1. ki-sijam-i 借りようとする、現實未來、客體主、帽、ki-sijam 借りる、ki- 自分、比、pa-sijam 貸す。
- 5. ma-li-totsu <totsu 今、ma-li-…に、…迄。
- 11. sa- …といふ人。
- 12. ma-ca-ini-inim 六ヶ處になつてゐる、inim 六、ma-ca-ita 一ヶ處になつてゐる、ma-ca <ma-coa (?) <

4. ツヂユイ

〔昔〕カロヨンといふ社があつて、家は  
六戸あつたさうだ。ところが〔或時人  
々は〕ライタクといふ處へ狩しに行つ  
た。而して歸りにカロヨンの下の方  
の、プチャザランといふ處に集つた。  
するとツヂユイといふ者が〔私を見て  
くれ〕といつて、木と一緒に集めて折曲  
げた。仲間の者は、〔何故其の様なこと  
をするのか〕といつて驚いた。それか

- coa 處。
- 16. pasa<sup>v</sup>au<sup>v</sup>auz <auz、下の方、下流、Mal. laut.
- 17. patsun-i 見よ、見てくれ、命令、客體主、我。
- 18. vitsi<sup>v</sup>oqoen 折る、客體主、v-in-tsi<sup>v</sup>oq 主體主、215頁、4行。
- 19. pa-pi-tsiiv-tsiivup-in 皆一緒にまとめる、客體主 mi-tsiivup 出會ふ。

- <sup>1</sup> cevi<sup>v</sup>il apa azoa ti satsujui ci<sup>v</sup>o apa ?a  
其後 了 其の は ツヂユイ 三 了 は
- <sup>2</sup> qa<sup>v</sup>au to qenalupan / "aqo maja sun"  
日 を 狩 何故 如其 汝は
- <sup>3</sup> ajain noa mamazapilan / mano "a ki kin  
所言 の 題目 すると 共<sup>v</sup>私
- <sup>4</sup> ?a mako<sup>v</sup>da aja ?a vintsi<sup>v</sup>oq toa kasiu<sup>v</sup>  
其 如何 如其 共 折 を 木
- <sup>5</sup> aja-zazoa / lakoa "ori kicutapau akin /  
といふ 彼は 併 欲 分戸 我は
- <sup>6</sup> saka no masan pa<sup>v</sup>ak akin / maja ki-  
それで 時 成 亂暴 我は 勿 自
- <sup>7</sup> aut / matsai mon<sup>v</sup> / ajain azoa sa<sup>v</sup>asa<sup>v</sup>aj /  
近 死 汝等は 所言 其の 仲間は

ら家へ歸つた。其後ツヂユイは三日  
間、狩に行つた。〔而して又木を折つた  
ので〕題目は、〔何故お前はそんなことを  
するか〕といふと、彼は〔私はどうしてそ  
んなに木を折るのだらう、それは實は  
私は分戸したいのだ。それで時々亂  
暴になる時があるが、其時は家に近よ  
るな。〔さうしないと〕お前等は死ぬぞ〕  
と、その仲間にいふた。

- <sup>10</sup> sa vaik azoa ?a sman ja<sup>v</sup>an to sisa-  
而 行 彼は 其 作 路を を 行く 爲
- <sup>11</sup> cacan / ka maqatsuvup ?a sman ja<sup>v</sup>an /  
水汲場へ 而 終 共 作 路を
- <sup>12</sup> sman ja<sup>v</sup>onjan pizoa i vitsika<sup>v</sup>an toa  
作 桶を 置 に 眞中 の
- <sup>13</sup> jiloqei / saka maqatsuvup apa azoa sinan  
岩石 而 成就 了 其の 作つた
- <sup>14</sup> cacan / saka vaik a ki kasiu to sisan  
水汲場 而 行 其 採 木 を 作る 材料
- <sup>15</sup> tapau / lakoa ini ka masi kakit / ini ka  
家を 併 不 共 持行 刀 不 共
- <sup>16</sup> masi pucan / vitsi<sup>v</sup>oqoen toa<sup>v</sup>ima / saka  
持行 斧 所折 で 手 而
- <sup>17</sup> no masi kasiu / makatal toa sia<sup>v</sup>apan /  
時 運 木 一回 を 棟木
- <sup>18</sup> saka ki qatsilai to siopo makapusal /  
而 採 石を 爲め 壁材料 二回
- <sup>19</sup> vinatsaq toa sia<sup>v</sup>apan / sa vaik apa ?a ki  
所擔 で 棟木 而 行 了 共 採

而して彼は水汲場(水源地)へ行く爲  
の路を作りに行つた。而して道を作  
つてしまふと〔水を溜める〕桶を作つて  
岩石の眞中に据ゑた。それでその水  
汲場は出来上つた。それから、彼は家  
を作る材木を採りに行つたが、併し彼  
は刀も持つて行かない、斧も持つて行  
かないで、手で折つた。而して材木を  
運ぶ時、棟木は一回で、壁にする石は棟  
木で擔いで二回で運んだ。大黒柱を

- 1. <ca-i-vijil 其より後。
- ci<sup>v</sup>o apa ?a qa<sup>v</sup>au 日は三つ…した、三日間した。
- 2. <q-in-alup-an 狩した事、q-tem-alup 狩する。
- 5. ori カチライ等、m-ore。
- ki-cu-tapau 自分のままになる家を作る、分戸する。
- tapau 家、ki- 自分、cu …のまま、ki-cu-varog 自分  
の心のまま、我がまま、217頁、註5。
- 10. si-sa-cacan 水汲場へ行く爲の物、用具主、路、cacan  
川、又は泉にて、水を汲む處、14行、sa- 比、s-m-a …

- へ赴く、行く、si- 用具。
- 13. 14. s-in-an 作つた物、si-san 作る爲の材料、~s-im-an  
作る。
- 16. pucan <臺灣語、斧頭 (po-thau)。
- 17. maka-ta-i 一度、~ita 一、maka-pusa-i 二度、18行、  
~rusa 二。
- 18. si-opo 壁の材料、opo 石板石の壁。
- 19. v-in-atsaq 擔いだ物、v-in-atsaq 棒の兩方に荷をつけ  
て一人で擔ぐ。

- <sup>1</sup> tsokis/ kimaja rusa catal ?a pasami<sup>v</sup>a-  
大黒柱 位 二 尋 其 幅
- <sup>2</sup> va/ saka pasa<sup>v</sup>aroq kimaja ci<sup>v</sup>u ?a catal/  
而 長さ 位 三 其 尋
- <sup>3</sup> saka maqatsuvuq aqa kinqenpo/ sa san  
而 皆揃 了 所集物 そこで 作
- <sup>4</sup> tapav-apa-zaoa aja/ saka "aqo izoa-  
家 了 彼は さうだ 而 何故 有
- <sup>5</sup> zaza ?a popitsu: ?a mamau to tsimas"  
あの 共 強人 其 同 と 神
- <sup>6</sup> aja/ saka samali aravats azoa na sa<sup>v</sup>a-  
といふ 而 怪しむ 其 其の 等 仲
- <sup>7</sup> sa<sup>v</sup>aj/ aja ?a caotsiki:/  
間 さういふ は 傳説

5. pali  
バリ

- <sup>12</sup> izoa i kalojon azoa lapaiqo<sup>v</sup>ovui ?a  
居 に カロン あの ラバイコオグイ 其
- <sup>13</sup> namasan pali/ aja ?a caotsiki:/ no  
なまさん バリ といふ は 傳説 時
- <sup>14</sup> kivapavap azoa/ izoa patsunan ?a saseq  
遊 彼は 有 所見 は 蟻
- <sup>15</sup> anima pardu/ ?a matsai aja/ "aqo  
何 種々 其 死 さうだ 何故
- <sup>16</sup> majaja sun/ nasa ore nakuja sun" aja  
如其 汝は 多分 將 悪 汝は といふ
- <sup>17</sup> ?a lamaju/ sivaik a sma pana/ ore  
は 人々 伴行 其 赴 川 將
- <sup>18</sup> paqajam toa tseqau/ mano ka keqoenic  
使試 を 魚 と ころが 其 見
- <sup>19</sup> toa tseqau matsaj-apa/ "ai nasa ore ka  
を 魚 死 了 おや 多分 將 其
- <sup>20</sup> pali sun" / aja-zaoa sa<sup>v</sup>asa<sup>v</sup>aj/ saka  
バリ 汝は といふ 其の 同伴者は それで

3. k-in-i q-en-po k-in-i- 自分で…した物(?), q-en-po 集めた物, 客體主, q-tem-po 主體主, ma-qapo 集まる, 214頁, 15行, na-ma-qapo 集つた, 214頁, 17行.  
5. <po-pitsu<sup>v</sup> 力を有する者, pitsu<sup>v</sup> 力.  
6. sa-mali <mali 異なる.

探りに行つたが、幅は二尋位、長さは三尋位あつた。而して集めた物が皆揃つたので、彼は家を作つたさうだ。仲間の人々は、何故、神の様な強い人が有るのだらう]といつて、不思議に思った、と傳説はさういつてゐる。

5. バリ(目, 其他體の部分から

光を發して此に射られる者は皆死ぬといふ)

カロヨン社にラバイコオグイとい

ふ者が居たが、此がバリになつたと傳へられてゐる。彼が遊んでゐる時、蟻や、其他何でも色々の物を見ると、その物は死んださうだ。家の人々は、何故お前は其様なのだ、お前は悪者に成るのかもしれん]といつて、川へ連れて行つて、魚を見せて試さうとした。ところが、彼が魚を見ると、魚は皆死んでしま

14. patsun-an 見る, 位置主, 蟻, patsun 主體主.  
17. la-maju 彼等, 人々, ti-maju 彼, あの人, 217頁, 3行, la- 複数.  
si-vaik 人を伴ひ行く, 又は物を持ち行く, 其の場合は, 其の人, 其物を用具主とする, 其の人, 其物の爲に行く意.

- <sup>1</sup> tsimiki: ?a sma omaq/ lakoa sivaik a  
時 其 赴 家 併 伴行 其
- <sup>2</sup> sma pasanavanaval/ sa san tapavan/  
赴 南方 而 作 小屋
- <sup>3</sup> saka izoa-qa timaju ?a matsiril/ "azoa  
而 居 了 彼は 其 一人 其
- <sup>4</sup> no ki tivil toa sa<sup>v</sup>asa<sup>v</sup>aj azoa simuqats"  
若 自分 共同 と 仲間 其 厭
- <sup>5</sup> aja/ avan-u si kicukuða/  
といふ 其 は 故 別居

- <sup>8</sup> saka-zoa pali ?a papatsai timaju/  
而 其 バリ 其 殺 彼は
- <sup>9</sup> matikuc a malaqalan ?a qa<sup>v</sup>eqa<sup>v</sup>i/ saka  
恐 は 他社 其 他人 而
- <sup>10</sup> avan-u si pakicavi<sup>v</sup>ij toa vawa toa vucul  
其 は 故 交代持行 を 酒 を 肉
- <sup>11</sup> toa qavai toa kinsa aja/ mano nasa  
を 餅 を 飯 さうだ ところが 多分
- <sup>12</sup> masopi<sup>v</sup> aqa azoa malaqalan/ sa sunasii  
面倒 了 其の 他社は それで 所取命
- <sup>13</sup> noa sivopa<sup>v</sup>iz/ sa lului/ mano sivaik  
の ボンガリ人 而 取首 すると 所持行
- <sup>14</sup> azoa caluzoa i pana i coaka<sup>v</sup>apan/ "ca  
彼は 其處迄 於 川 於 チョアカアガン 我等の
- <sup>15</sup> qajamau" aja-zaoa/ mano kasoqo<sup>v</sup>o<sup>v</sup>apan  
所試 といふ 其人は そこで 所向此方
- <sup>16</sup> ?a murepan/ mano matsai ?a sivopa<sup>v</sup>iz/  
は 顔 すると 死 其 ボンガリ人
- <sup>17</sup> saka matsiril aqa ?a pinatsiqeisan ?a  
而 一人 了 其 所觀了 は
- <sup>18</sup> pitsupa<sup>v</sup> aja/ saka matsiril aqa no paka-  
膝頭 さうだ 而 一人 了 時 観
- <sup>19</sup> qejau sma omaq i vopa<sup>v</sup>iz/ "matsai  
告 赴 家 在 ボンガリ 死
- <sup>20</sup> amin" aja/ aja ?a caotsiki:/  
我等は といふ さういふ は 傳説

2. pasa-nava-naval 南方, 原意, 右の方, naval 右, 比 IN, wanan.  
tapav-an 小屋の形した物, tapau 小屋, 南部バイロンにては tapau は家の意.  
5. ki-cu-kuða 自分の思ふまま如何でしする, kuða 如何 ki- 自分, cu- …のまま, 215頁, 註5.  
9. malaqalan <mali ?a qalan 異つた社(?).  
12. su-nasi-i 現實現在, 位置主, nasi 呼吸, 生命, su- 取去

つた。同伴者は、おや、お前はバリになるのかも知れん]といつた。それで内へ歸つた。併し其から南の方へ伴れて行つて、家を作つてやつた。而して彼は一人で其處に居た。彼は「自分は仲間と一緒に居るのは厭だ]といつて、それで別居することになつたのだ。

而してそのバリは[目の力で]人を殺すので、他社の人々は恐れた。それで、社の人々が酒と肉と餅とを、代る代る持つて行つてやつたさうだ。ところが、他社の人々は面倒だと思つたと見えて、ボンガリ社の人々が[遂に]バリを殺して首を取つた。而してチョアカアガンの川の處まで持つて行つた時、我々は試みて見よう]といつて、バリの顔を此方へ引向け[て見]た。するとそのボンガリ人は死んだ。又一人は膝頭を脱まれたさうだ。又一人はボンガリの家へ歸つて来て、我々の仲間]は死

8. ~s-im-u-  
13. lulu-i 現實現在, 客體主, l-im-ulu 該首, 原意, 拾ふ, 主體主.  
15. qajam-au 現實未來, 客體主, q-tem-ajam 試みる, 主體主, pa-qajam 試みさせる, 主體主.  
17. p-in-atsiqeisan 覗んだ處, patsiqeisan 覗む.

んだといつて報告したと、傳説はさう  
いつてゐる。

6. cukucuku  
チュクチュク

- 5 izoa ti cukucuku ?a pinatsajan noa  
居 が チュクチュク 其 所既死 の
- 6 kama noa kina aja ?a mi<sup>mi</sup>ipan / saka  
父 の 母 さういふ は 口碑 すると
- 7 izoa ti sacamoakakai / sa kaga<sup>imgimi</sup>  
居 が モアカカイ 而 所著
- 8 azoa ti cukucuku / saka-zoa vavajan ?a  
其の は チュクチュク それで 其の 女は 其
- 9 kakrian pulatan toa nanimanimaja toa  
子供 全く…する所を 財産 於
- 10 qenalan toa kajunagan / ma<sup>nciz</sup> azoa  
番社 を 土地 來 彼は
- 11 co makazajazaja / ti pulalulujan kati  
處 マカザヤザヤ は プラルラルヤン と
- 12 kolilululu ?a kisuju toazoa ti cukucuku /  
コルルル 其 訪 其の チュクチュクを
- 13 saka-zaoa ti sacamoakakai pata<sup>aq</sup> a-  
すると 其の は モアカカイ 嫉 其
- 14 zoa / "aqo no kisujan zaoa namaja"  
何故 汝等の 所訪問 あの 如彼者は
- 15 ajain azoa tia pulalulujan kati kolilu-  
所言 其の 等 プラルラルヤン と コルル
- 16 lilu / azoa ti cukucuku cipi<sup>ajin</sup> noazoa  
ルル 其の は チュクチュク 所愛 其の
- 17 marusa / vaik azoa sma vavoa maza-  
二人の 行 其人は 赴 島 互に
- 18 zi<sup>kizi</sup>iul / ka najimalun i vavoa / "aqo  
手傳 而 既到着 に 島 何故
- 19 no kizi<sup>iul</sup> anan namaja / savaqar toa  
汝等の 所手傳 尙 如彼者は 汚 も
- 20 kalali / toa nakujan / sau tsiki<sup>u</sup> / ajain  
着物 且 醜者 行け 歸れ 所言

5. p-in-atsaj-an 死んで後に残した者、過去、客體主、遺子。  
7. ka-ga<sup>imgim-i</sup> 現實現在、客體主、k-in-a-ga<sup>imgim-an</sup> 苦を受けた者、過去、客體主、221頁、3行。  
9. pulat-an [所有物を]全部失つて後に残る自分、位置主、  
娘、p-in-ulat 昔。  
14. kisuju-an 位置主、kisuju 青年が女を訪問する。

6. チュクチュク

チュクチュク[といふ娘]が有つたが、  
その父母に死別れたさうだ。すると  
モアカカイ[といふ叔母]があつて、チュ  
クチュクをいぢめた。そこでその娘  
は、社の財産である土地を全部なくし  
てしまつたので、マカザヤザヤへ來た。  
そこでプララルヤンとコルルル  
とがそのチュクチュクを訪問した。  
すると[叔母の]モアカカイは嫉んで、プ  
ラルラルヤンとコルルルの二人に、  
「何故お前等は、あんな者を訪問するの  
か」といつた。二人はチュクチュクを  
愛してゐるので、三人は島へ行つて互  
に手傳ひ合つた。島に着くと[モアカ  
カイ]が又來て二人に、「何故お前等は、あ  
んな者を手傳つたりするのか。着物

16. cipi<sup>ai-in</sup> 客體主、cipi<sup>ai</sup> 愛する。  
17. ma-za-z<sup>i</sup>i-zi<sup>iul</sup> 互に仕事を手傳ひ合ふ、ki-zi<sup>iul</sup>  
自分で手傳ふ、19行、z-in<sup>iul</sup> 賃錢。  
20. sa-u tsiki<sup>u</sup> 命令、主體主、s-m-a 赴く、ts-im-iki<sup>u</sup>  
歸る、-u 命令。

- 1 ni sacamoakakai ?a marusa / mano ini  
の モアカカイ 其 二人は ところが 不
- 2 kilajida azaoa ?a maci<sup>u</sup> / sman qoma  
聞 其の 共 三人は 作 島
- 3 toa vasa / saka sma tapau / zaoa kin-  
な 半 而 赴 小屋 其人は
- 4 tsijil / ka kiman azoa / "maja ki<sup>adut</sup>  
畫食 而 食 其人 勿 近寄
- 5 toa marusa / sasqo sun savaqar / ajain  
に 二人 臭 汝 汚 所言
- 6 ni sacamoakakai ti cukucuku / sa paca-  
の モアカカイ は チュクチュク 而 所
- 7 a<sup>aan</sup> ni sacamoakakai azoa ti cukucuku /  
分の モアカカイ 其の は チュクチュク
- 8 saka no paca<sup>da</sup> / sino kakrian ni cuku-  
而 時 分 計り 小さい のは チュク
- 9 cuku / avan a ni sacamoakakai qatsaqa-  
チュク 其物 其の モアカカイ 大
- 10 tsaan / mano saka kiman azoa / smazoa  
なの ところが そこで 食 其人は 來其處
- 11 i cai cukucuku / saka maka ka:n vaik  
へ處 チュクチュ 而 後 食 行
- 12 ?a sma kavavoan /  
共 赴 島
- 13 saka si<sup>iman</sup> aga ?a sma tapau / ka  
すると 日暮 了 其赴 小屋 而
- 14 ote vaik azoa / ka "siulaju" / ajain ti  
將 歸 其人 そこで 泊れ 所言 は
- 15 cukucuku ni sacamoakakai / ini kauri ti  
チュクチュクの モアカカイ 不 承諾 は
- 16 cukucuku / i vavau toa tapau ?a ka<sup>otso</sup>-  
チュクチュク 於 上 の 小屋 其 高い處
- 17 kots / "ate" ajain azoa marusa / mano  
さあ 所言 其の 二人は ところが
- 18 qoemaon sakamaja / mano "ane sakamaja"  
泣 只 ところが さあ 只とにかく
- 19 aja-zaoa marusa / ajain ti cukucuku /  
といふ 其の 二人は 所言 は チュクチュク
- 20 ini kauri apata / vaikan ?a sma omaq  
不 承諾 やはり 所行 其赴 家
- 21 masa<sup>asa</sup>aj /  
互同伴

4. kin-tsigil 畫食する、tsijil 畫食。  
ki-<sup>aa</sup>-out <ki- 自分、out 側。  
6. paca<sup>da</sup>-an 飯を分與する、位置主、paca<sup>da</sup> 主體主。

を汚いし、顔も醜いのに、まあ歸つて行  
け]といつた。ところが二人は聞かな  
いで、三人して芋を裁き後、小屋へ行  
つて、晝食を食べた。[すると]叔母は又  
チュクチュクに、「お前は二人に近寄る  
な、お前は臭くて汚い」といつた。そこ  
でモアカカイは飯をチュクチュクに  
分けた。分けると、チュクチュクのは  
小さいのばかり、自分のは大きいので  
あつた。ところが其二人の男も食つ  
てチュクチュクの處へ來た。而して  
食つてから皆島へ行つた。

日が暮れかゝると小屋へ行つた。  
而して歸らうとする時、モアカカイは  
[自分が二人の男を連れて歸らうとて]  
チュクチュクに、「此處へ泊れ」といつた。  
しかしチュクチュクは承知しない。  
[モアカカイ]は小屋の高い所へ登つて  
その二人の男に、「さあ行かう」といふ。  
チュクチュクは只泣いてばかりゐた。  
するとその二人の男はチュクチュク  
に「さあ行かう」といつたが、今度はチュ

8行。  
14. siulai-u 命令、主體主。  
20. vaik-an 人を其處に發して去る、位置主、女。

- 4. mano kimilap apa azoa vuvu / ?a  
ところが 知 了 其の 祖父は 其
- 5. sitsoajan ?a namatsaj-apa / mapciz azoa  
昔 其 既死 了 来 其の
- 6. ti savu<sup>v</sup>uvu<sup>v</sup>up / ?a vinatsaq toa okol /  
アウアウンは 其 擔 な 箱
- 7. izoa animanimapa sipavai cai cukucu-  
有 種々の物 與へる爲 に チュクチュ
- 8. ku / toa zapaq toa kalat toa sitopan /  
ク や 頸飾 や 腕輪 や 反物
- 9. "viretsan apa ?a so kava / nasa sakuja" /  
所捨 そは 汝の 衣 多分 汚
- 10. ajain ni savu<sup>v</sup>uvu<sup>v</sup>up / sa ki pava<sup>it</sup>  
所言 の アウアウン そこで 自分 換
- 11. apa azoa ti cukucuku / saka "one vaik  
了 其の は チュクチュク 而 將 行
- 12. akin" / aja azoa vu<sup>v</sup>uvu<sup>v</sup>up / "kitsior  
我は といふ 其の アウアウンは 自分同行
- 13. akin" / aja-zoa ti cukucuku / mano "maja  
我は といふ 其の は チュクチュク ところが 勿
- 14. aqo kitsior sun / la namatsai apa-kin  
何故 自分同行 汝は よ 死人 了 我は
- 15. ?a sitsoajan" aja / saka ini kaui / sa-zoa  
其 昔 といふ それで 不 承諾 而 其は
- 16. vaik apa sakamaja azoa vu<sup>v</sup>uvu<sup>v</sup>up /  
行 了 そのまま 其の アウアウンは
- 17. mano malia-<sup>pa</sup> / zaoa mapciz apa kasi  
ところが 夜明 了 彼等 来 了 から
- 18. omaq azaoa maci<sup>ku</sup> / saka nakimava-  
家 其の 三人は 而 既着衣
- 19. pa nazimapaq apa nakimalat apa / saka  
了 既着頸飾 了 既着腕輪 了 そこで
- 20. "uki kasinu / sa tsinakau ni tsaqei" / aja  
自分 から何處 而 所盜物 の 農野郎 といふ

- 7. si-pavai 與へる爲の物, 用具主, s-in-i-pavai 與へた物  
221頁, 2行. pavai 與へる, 主體主.
- 8. si-itog-an 着物にする材料, itog 着物.
- 9. virets-an 命令, 用具主, 衣, 捨てる物を用具と見る,  
v-in-irets 主體主.
- 12. ki-tsio<sup>v</sup> 自分で人の後について行く, tsjo<sup>v</sup> 串, ts-im-  
io<sup>v</sup> 串にさす.
- 18. na-k-im-ava 衣を着てある者, kava 衣, 9行.

クチュクが承知しない。それで他の  
者はチュクチュクを残して皆打連れ  
て内へ歸つてしまった。

すると、昔死んだブウブウンといふ  
祖父が、その事を知つて、箱を擔いで現  
れて来た。[箱の中には]頸飾や腕輪や  
反物など、チュクチュクに與へる色々  
の物が入れてあつた。老人は、「お前の  
衣を捨てよ、汚いだらう」といつた。そ  
れでチュクチュクは自分で衣を脱ぎ  
換へた。すると老人は、「私はもう行か  
う」といつたので、チュクチュクは、「私も  
一緒に」といつた。すると、「いけない。  
何故お前は一緒にといふか、私は昔死  
んだ人だよ」といふ。それで承知しな  
いで、その老人は行つてしまった。

すると夜が明けて、前の三人が家か  
らやつて来た。[見ると、チュクチュク  
は美しい着物を着て、頸飾を着け、腕輪  
をはめてゐる。モアカカイは[其を見

- 19. na-z-im-apaq 頸飾を付けてある者, zapaq 頸飾,  
8行.
- na-k-im-alat 腕輪をはめてある者, kalat 腕輪,  
8行.
- 20. ts-in-akau 盗入た物, 客體主, ts-im-akau 盗む, 主體  
主, IN, takau,  
tsaqei 大便, IN, tahi,

- 1. azoa ti sacamoakakai / "ni vuvu ?a  
其の は モアカカイ の 老人 其
- 2. sinipavai taqozimic / "kimilap akin to  
所典了 昨晚 知 我は こゝを
- 3. kinaga<sup>v</sup>imgiman sun nia caina / tsi-  
所苦 汝は 汝等の 叔母の
- 4. miki<sup>v</sup> apa sun ?a sma omaq / qa<sup>v</sup>qevu:  
歸 のだ 汝は 其 赴 家 呼べ
- 5. apa toa va<sup>vi</sup> / toa simoap to so omaq /  
よ な 風 爲に 我 を 汝の 家
- 6. ajain ni vuvu" aja ti cukucuku / mano  
所言 の 老人 といふ は チュクチュク ところが
- 7. one vaik apa azoa / "vatsaq azoa ko  
將 歸 了 彼等は 所擔 其の 我の
- 8. nanimanimapa" / aja ti cukucuku toazoa  
品物は といふ が チュクチュク 其の
- 9. marusa / mano "maja" / ajain ni camoa-  
二人に ところが 勿 所言 の モア
- 10. kakai azoa marusa / mano "vatsaq  
カカイ 其の 二人は ところが 所擔
- 11. sakamaja / ini ka ko tsinakau / sinipavai  
只 非 其 我の 所盜 所典了
- 12. ni vuvu" / aja azoa ti cukucuku / sa  
の 老人 といふ 其の は チュクチュク 而
- 13. vatsaqe apa nazoa marusa / ?a jimalun  
所擔 了 其の 二人の 其 到着
- 14. i omaq / pasaqaqevu<sup>in</sup> ?a va<sup>vi</sup> / sa soapi  
に 家 所使呼 は 風 而 所後
- 15. ?a omaq ni cukucuku / sa pasaqomaqani  
は 家 の チュクチュク 而 所持行家
- 16. apa azoa nanimanimapa / sa pasapuz-  
了 其の 品物は 而 上手の方に
- 17. jazajai ?a zalum ?a riri / sa kavanok ?a  
持行く所は 水 は 豚 而 兎 其
- 18. "makuli ?a zalum" aja-zaoa / makuli  
潤 は 水 といふ 彼は 潤
- 19. ?a zalum / saka nika-<sup>pa</sup> no sikisa / no  
は 水 而 無 了 の 飲料 の
- 20. tiki<sup>v</sup>in / mano matsaj-apa ?a kakrian  
飲物 すると 死 了 は 小供等

- 2. ta-qozimic <qozimic 夜, ta-過去, ~ta-tiau 昨日,  
比, nu-未来, nu-qozimic 明夜, nu-tiau 明日.
- 4. qa<sup>v</sup>qevu-u 命令, 主體主, q-<sup>v</sup>oem-qa<sup>v</sup>qevu 呼ぶ, 主體主.
- 7. vatsaq-o 命令, 客體主, vatsaq-e 現實現在, 客體主, 13  
行.
- 14. pasa-qa<sup>v</sup>qevu-in 人をやつて呼ぶ, 客體主, 風-比, 註4.  
soap-i 位置主, 家, s-im-oap 持つ, 主體主, 5行.
- 15. pasa-qomaq-an-i 持つて行つて家に入れる, 客體主, 品

て「農野郎が、何處から盗んで来たのか」  
といふと、チュクチュクは、「昨晚老人が  
呉れたのだ、老人は『お前はお前等の叔  
母にいちめられてゐることを私は知  
つてゐる。お前は家へ歸つて、風を呼  
んでお前の家を祓ひ清めよ』といつた」  
と話した。そこで彼等が家へ歸らう  
とする時、チュクチュクは二人の男に、  
「私の品物を擔げ」といつた。モアカカ  
イは二人に、「するな」といふ。するとチ  
ュクチュクは「兎に角擔げ、其は盗んだ  
のではない、老人から貰つた物だ」とい  
つた。そこで二人は擔いで家へ着い  
た。するとチュクチュクは風を呼ん  
で、家を祓ひ清めて、その品物を家へ入  
れた。而して水と豚とを家の奥の方、  
上手の炊事場の所に置いて、彼女が「水  
が潤れるやうに」と唱へると、水が潤れ  
て、炊く水も飲む水も、皆無くなつてし  
まつた。而して子供も大人も死んで

- 物, qomaq-an 屋内.
- 16. pasa-pu-zaja-zaja-i 持つて行つて室内の上手の方, 炊  
事場に近い處に置く. pu-zaja-zaja 上手の方に置く,  
zaja 上手, IN, daya.
- 19. si-kisa 炊くに用ゐる物, 用具主, 水, k-im-isa 主體主.
- 20. tiki<sup>v</sup>in 飲むべき物, 飲料, 客體主, t-im-iki<sup>v</sup> 飲む,  
主體主.

- <sup>1</sup> ?a namalimalig / mano keqaon apa  
は 大人等 ところが 自良願 了
- <sup>2</sup> sikataqalan / maŋciz azoa vu<sup>v</sup>uvu<sup>v</sup>uŋ /  
社人は 来 其の 老人は
- <sup>3</sup> "pavai: akin toa zalum" / "idan ?a su  
所興 我は な 水 よこせ は 汝の
- <sup>4</sup> cakomoj / sa civipi ni cukucuku / sa  
毛布 そこで 所講 の チュクチュク 而
- <sup>5</sup> pavajan apa toazoa vu<sup>v</sup>uvu<sup>v</sup>uŋ / mano  
所興 了 其の 老人に ところが
- <sup>6</sup> maqoepo ?a qa<sup>v</sup>eqa<sup>v</sup>i ?a tiptipan / saka  
集る は 人々 共 チューチュー吸 そこで
- <sup>7</sup> miganaŋ ti cukucuku "tsoqetsoqe" / aja  
叱 は チュクチュク よい気味 といふ
- <sup>8</sup> toa sikataqalan / mano "nia patsuvuŋi  
に 社人 そこで 我等の 所使湧出
- <sup>9</sup> toa zalum ?a so qenalan" aja / tsuvuŋ  
な 水 は 汝の 社 といふ 湧出
- <sup>10</sup> apa ?a zalum / sa mirazuk apa ?a qe-  
了 は 水 而 榮 了 は
- <sup>11</sup> nalan / aja ?a caotsiki: /  
社 といふは 傳説

7. ko<sup>v</sup>oi  
コオイ

- <sup>16</sup> naizoa-zazoa ti sa ko<sup>v</sup>oi / ?a napa-  
有了 あの はといふ者 コオイ 共 既
- <sup>17</sup> tsikil toa vo<sup>v</sup>ovo<sup>v</sup>oŋ / aja ?a caotsiki: /  
為配偶 な 百歩蛇 といふは 傳説
- <sup>18</sup> saka no qoemzimimic tsautsau / saka no  
而 時 夜 人 而 時
- <sup>19</sup> maqadau qacuvi / ini ka ca lipilipan  
晝 蛇 非 共 我等の 所見
- <sup>20</sup> ?a zoma / izoazoa toa vakar ?a pinasi-  
共 他人 在其處 に 竹籠 共 所

1. namali-malig 大人等, namalig 大人。  
<ki-qaon 自分で泣く, q-œm-aon 泣く。
3. <pavai- 命令, 位置主, 私, pavaj-an 現實現在, 用具  
主, 毛布, 5行。  
ið-an 此方へよこせ, 用具主, 毛布, 比. ið-o 来い, 近  
く来い, 238頁, 註18。
4. civipi- 現實現在, 客體主, 毛布, c-im-ivipi 講す, 主體  
主。

しまった。すると社の人々は哀願し  
て[水をくれといつて,老人をよこした]。  
老人は来て[私に水を呉れ]といふと,チ  
ュクチュクは[お前の毛布をよこせ]と  
いつて,毛布を水で濡して老人に與へ  
た。すると,人々は集つて来て,皆がチ  
ューチューとその水を吸うた。チュ  
クチュクは社人を罵つて[好い気味だ]  
といつた。そこで又チュクチュクは,  
[我々は,汝の蕃社に水を湧出させてや  
らう]といふと,水が湧出して,それから  
蕃社は榮えるやうになつた,と傳説は  
さういつてゐる。

7. コオイ

[或時]コオイといふ女があつて,百歩  
蛇と夫婦になつてゐたさうだ。而し  
て[その夫は]夜は人になるが,晝は蛇で  
あつた。竹籠に入れて,着物で暗く被  
うてあるので,我々他人は見たことは

6. tiptip-an 位置主, 毛布, t-im-iptip 吸ふ, 主體主。  
8. pa-tsvuŋi-i 湧出させる, 現實現在, 位置主, 蕃社, ts-  
im-uvuŋ 湧出する, 主體主。
16. na-pa-tsikil 夫にしてゐた, tsikil 配偶。  
19. ma-qaðau 太陽がある, 太陽が照る。  
lipilip-an 位置主, 蛇, l-im-igilip 見る, 主體主。  
20. p-in-a-si<sup>im</sup> im-an 暗くした所, ma-si<sup>im</sup> 暗い。

- <sup>1</sup> \*iman toa itoŋ / saka ini kauri ca  
暗 で 衣 而 不 承諾 我等の
- <sup>2</sup> patsunan ni ko<sup>v</sup>oi / mano "ki anima  
所見 の コオイ ところが かしらん 何
- <sup>3</sup> izoa" / aja ti saoloŋ ?a kaka / "aqo  
在彼處 と思ふが サオロン 共 見 何故
- <sup>4</sup> sikaqeili aja ca qajamin /  
所情 知彼我等の 所講
- <sup>6</sup> "sau sa cacano" / ajain ti ko<sup>v</sup>oi ni  
行け 而 水汲め 所言 は コオイ の
- <sup>7</sup> saoloŋ / ka qajamin / mano qacuvi ?a  
サオロン 而 所講 ところが 蛇 共
- <sup>8</sup> vo<sup>v</sup>ovo<sup>v</sup>oŋ / saka "aqo ka qajamin akin"  
長老 すると 何故 共 所講 我は
- <sup>9</sup> aja / sa vaik apa-zazoa milapat va<sup>v</sup>oko  
といふ 而 行 了 彼は 入 穴
- <sup>10</sup> ?a inaval /  
共 在南方

- <sup>13</sup> ka maŋciz ti ko<sup>v</sup>oi kasi cacan / ka  
すると 来 は コオイ から 水汲場 而
- <sup>14</sup> qajamin ?a vakar / nika-ŋa ?a qacuvi /  
所講 は 籠 無 了 は 蛇
- <sup>15</sup> "ino apa" aja ti ko<sup>v</sup>oi / "aqo so pi-  
何處 了 といふが コオイ 何故 汝の
- <sup>16</sup> nivakar ?a qacuvi" aja ti saoloŋ / sa  
所入籠 は 蛇 といふは サオロン 而
- <sup>17</sup> kagarapi ti ko<sup>v</sup>oi / "mano ko zukac  
所叱 は コオイ まあ 我の 夫
- <sup>18</sup> azoa" aja ti sako<sup>v</sup>oi / "kimaja no nara-  
彼は といふが コオイ 如其 汝等の 故意に
- <sup>19</sup> vin to vaik amin / ka no qajamin /  
する な 行 我等は 而 汝等の 所講
- <sup>20</sup> lakoa ki ca koðain / vaik akin ?a  
件 かんらん 我等の 所如何 行 我は 共

4. si-ka-qeili 情しむ理由, ma-qeili 情しむ。  
qajam-in 客體主, 蛇, q-œm-ajam 調べる, 試みる。
6. sa-u 命令, 主體主, s-m-a 赴く。  
cacano-o 命令, 主體主, cacan 水汲む處。
8. vo<sup>v</sup>ovo<sup>v</sup>oŋ 老人, 長老の意, 百歩蛇を蛇の中の長老と  
見る。
10. i-naval 右の方, 比. i-viril 北左の方, 東に向つて左右

ない。[のみならず]我々の見ることを  
コオイが許さない。ところが,兄のサ  
オロンは[彼處に在るのは何かしらん,  
何故あんなに我々に見せ惜みするの  
だらう]と思つた。  
[それで,或時]サオロンはコオイに,水  
汲場に行つて,水を汲んで来いといつ  
た。而して[コオイの留守の間に]見て  
みると,百歩蛇であつた。すると[蛇は],  
[何故私を見るのか]といつた。而して  
外へ行つて南の方の[水の流れこむ]穴  
へはひつてしまった。

それからコオイは水汲場から歸つ  
て来て,籠を見て見ると,蛇が居なくな  
つてゐる。コオイは[何處へ行つたの  
か]といふと,サオロンは[何故お前は蛇  
を籠に入れてゐるのか]といつた。す  
るとコオイは怒つて[まあ,其は私の夫  
だもの]といつた。而して[お前等は其  
様に故意に我々を外へ遣つて[其の間

- の方位。  
15. ino apa 何處へ行つたのだ, ino 何處。  
p-in-i-vakar 竹籠に入れた物, pi-vakar 同上入れる。  
vakar 竹籠, 222頁, 20行。  
17. kagarapi 客體主, 妹, maganaŋ 叱る。  
18. nakav-in 客體主, R-im-anau 故意にする, 主體主。

- <sup>1</sup> kitsion" aja / saka mao"au apa aja ?a  
自從後 さうだ 而 消失 さうださういふは
- <sup>2</sup> caotsiki: /  
傳說

に]見たりする。併し我々は如何しよ  
うかしらん。[夫と]一緒に行かう]とい  
つて、跡方もなく行つてしまつた、と傳  
説はさういつてゐる。

4. クナナウ社  
(kulalau)

1. ti dajil kati gagap  
猿 と 蟹

- <sup>9</sup> izoa ti dajil kati gagap / "are kiitui"  
居 が 猿 と 蟹 さあ 採柿
- <sup>10</sup> aja / sa vaik a maçusa / ðimalun ta  
といふ 而 行 は 二人 到 に
- <sup>11</sup> kasiu / ore pasalivavau ti gagap / mano  
木 將 登 は 蟹 ところが
- <sup>12</sup> ini ka limaut / sitsalaput sakamaja /  
不 其 能 滑 只
- <sup>13</sup> saka ti dajidajil apa ?a livavau / mano no  
そこで が 猿 了 共 上る ところが 時
- <sup>14</sup> izoa-ña kiniitu ni dajidajil / gisgisin ?a  
有 了 採つた柿 の 猿 所掛 は
- <sup>15</sup> kaikapo / sa kacani ?a namaçum / sa  
方布 而 落 は 熟したの 而
- <sup>16</sup> lului ni gagap / "ako ?a kiçi apa ko  
所拾 の 蟹 何故 共 少 了 我の
- <sup>17</sup> kiniitu qaçian / lipu so gitsil'in ?a ko  
所採 友よ 多分 汝の 所鉄 は 我の
- <sup>18</sup> kaikapo" / "animan aja qaçian / qajamo  
方布 何 といふ 友よ 所謂
- <sup>19</sup> ?a so kaikapo / to ki zoa virits kimoda /  
は 汝の 方布 ことを 汝 其 破 如何
- <sup>20</sup> sa qajamin nika / "pai qaçian / ku linulu  
而 所謂 無 さあ 友よ 我の 所拾

1. 猿 と 蟹

[或時猿と蟹とが居た。[さあ柿を採  
りに行かう]といつて、二人は出掛けた。  
[柿の]木の處へ着くと、蟹は登らうとし  
た。ところが滑つてばかりゐて、登る  
ことが出来なかつたので、猿が登つた。  
ところが猿は採つた柿を方布(肩から  
掛ける袈裟の様な布片)に入れた。す  
ると、蟹は方布を揺動かして熟したの  
が落ちると共を拾つた。[猿は]私の採  
つた柿は、如何して少なくなつたのだ  
らう、友よ、お前が私の方布を鉄破つた  
のであらう]といふと、蟹は]何をいふか。

採録期：昭和七年八月、高雄州潮州郡クナナウ社にて調査。  
口授者：maitçiaç ?a giçij 45歳、男、komaça ?a cuçup  
41歳、女、poçupa ?a paçivul 49歳、男、kolulu ?a  
paregul 35歳、男、siçip ?a çikimul 五十歳、女。  
説明者：tinsip ?a movoçovol 20歳、男、(潘天生、父は本島  
人)。  
9. ki-itu-i 現實現在、客體主、柿、ki- 採る、k-in-i-itu 採  
つた柿、14行、itu 柿、本社の語は [k], [q], [ç], [ç]

を有す。  
13. daj-dajil-apa ?a li-vavau 上るの(は猿であつた、dajil  
8行、猿、vavau 上。  
16. lulu-i 客體主、柿、l-in-ulu 拾つた物、20行、l-im-ulu  
多くの物を拾ふ、主體主、比、226頁註20。  
18. qaçiam-o 命令、客體主、qajam-in 客體主、20行、q-  
cem-ajam 主體主。

- <sup>1</sup> sakamaja" aja ti gagap / "açe saomaçe"  
只 といふは 蟹 さあ 行家

友よ、お前のその方布を調べて見よ、破  
れてゐるかもしれん]といふ。調べて  
見ると、何事も無かつた。蟹は、[其見よ、  
友よ。私のは拾つたのばかりだ]とい  
ふ。[さあ、内へ歸らう]といつて二人は  
歸つた。

- <sup>2</sup> mano malia / "vaik a kizaman / pai  
ところが 夜明 行 共 取松明 さあ
- <sup>3</sup> qaçian / palalamai" / "tiakin aj-anan taisa-  
友よ 所焼 我 は一寸 先
- <sup>4</sup> pas" / sa lamain ni dajidajil / "skoda sun  
に 而 所焼 の 猿 如何 汝は
- <sup>5</sup> toa ku sapoi qaçian" / "makoda la oçalai /  
を 我の 火 友よ 如何 よ 男だ
- <sup>6</sup> uza tsu anan akin / sa tisun aj-anan /  
居 此處 尙 我は 而 汝 は一寸
- <sup>7</sup> qaçian i dajidajil" / livavau ta kasiu ti  
友よ よ 猿 登 に 木 は
- <sup>8</sup> dajidajil / lamain ni gagap / "skoda sun  
猿 所焼 の 蟹 如何 汝は
- <sup>9</sup> toa ku sapoi qaçian" / "makoda la oçalai /  
を 我の 火 友よ 如何 よ 男だ
- <sup>10</sup> uza tsu anan akin" / sa maçoævuc ?a  
居 此處 尙 我は 而 消 は
- <sup>11</sup> sapoi / mano ini apa ka maçapida / "ku  
火 ところが 不 了 其 聞える 我の
- <sup>12</sup> kimaw-anan ti ko qaçi" aja / mano  
所獲 一寸 は 我の 友 といふ ところが
- <sup>13</sup> dumakin namatsaj-apa / "ki ku kudai /  
所見附 既死 了 だらう 我の 所如何
- <sup>14</sup> sa ti ko qaçi sa ivalut" / sa vutçeçi sa  
而 は 我の 友 而 生返る 而 所切 而
- <sup>15</sup> soaçapi ?a qavuvu sa tsapai / "kimoda  
所取出 は 心臓 而 所焼 爲如何
- <sup>16</sup> mivalut ti ko qaçi" aja / mano mivalut /  
生返 は 我の 友 といふ すると 生返

夜が明けると[猿が]さあ友よ、松明を  
採りに行かう[而して互に隠れん坊を  
して]野原を焼かう]といふと、蟹は]私は  
一寸先に[隠れよう]といつて隠れた。  
すると猿が焼いた。[而して]友よ、私の  
火をお前は如何思ふか]といふ。[蟹は]  
[何ともない、私は男だ、私はまだ此處に  
生きてゐる。友よ、今度はお前[が隠れ  
るのだ]といふと、猿は木に上つた。そ  
こで蟹が焼いて]友よ、私の火をお前は  
如何思ふか]といふと、猿は]何ともない、  
私は男だ。私はまだ此處に生きてゐ  
る]といつた。すると火は消えたが、[聲  
が]聞えない。蟹が]私は一寸友達を搜  
さう]といつた。ところが見ると、猿は

1. sa-omaçe 現實未來、位置主、s-m-a 赴く、omaçe 家。  
7. ki-zaman <\*zamar (?) 比、IN. damar, 樹膠。  
8. pa-la-lama-i お互に山野を焼かう、現實未來、客體主、  
lama-in 一般現在、客體主、9行、l-im-ama 主體主。  
9. s-koda 如何感ずるか、s- <sa 而して、擇、(?)、ma-koda

如何か、どんな物、事、14行、k-im-oda 如何する。  
16. ma-çapida 聞える、[-im-çapida 聞く。  
17. kim-au 現實未來、客體主、ki:m ~ k-im-i:m 獲す、  
主體主。



1 "uzai qaljan ?a ko kiniɗajulan toa sicu-  
有 友よ が 我の 所取競争 から シチュ  
2 valulukai" ajain / sa kani sa "ari saom-  
ヴェルルカイ 所言 而 所食 而 さあ 行家  
3 aqej-apa" /  
のだ

10 sa masilim / "ari qaljan kisudui" / sa  
而 日暮 さあ 友よ 所訪女 すると  
11 "i ka-kin ?a ore kisudu qaljan" aja ti  
不 其 我は 其 欲 訪女 友よ といふが  
12 gagap / mano kicaviɗil ti gagap / sa  
蟹 ところが 自從後 は 蟹 而  
13 pakapatiktiko toa gaɗaɗigal / mano gi-  
入下方 の 糲床 そこで 所  
14 tsilim ?a qalitsi ni ɗaiɗaiɗ / sa vaikan /  
鉄切 は 男根 の 猿 而 所去  
15 mano vaik a sma vaŋau ti gagap /  
それから 行 其 へ 窓 は 蟹  
16 sipalitiko toa kinsa ni cukucuku ti  
所下 を 飯 の チュクチュク は  
17 ɗaiɗaiɗ / kimakan apa ti ɗaiɗaiɗ / ɗanian  
猿 食居 了 は 猿 所落  
18 ?a paka vaŋau toa qalitsi pasatoa kinsa /  
は 方 窓 を 男根 處へ 飯  
19 "ia: niakin ?a qalitsi tsu" aja ti ɗaiɗaiɗ /  
おや 我の は 男根 此は といふが 猿  
20 sa sululi sa vaikan ?a tomaq / "ako  
而 所拾 而 所去 は 家 何故  
21 azoa / so soaɗapin ?a ko qalitsi" / "na-  
彼の事 汝の 所取 は 我の 男根

11. <ini ka akin 私は…しない、私は…する者でない、ti-akin 私。  
13. paka-pa-tik-tiko 下にはひる。比。註15。  
16. si-pa-li-tiko …の爲に下ろす、用具主、猿、pa-li-tiko 下ろす、原意、下に行かせる、下にやる、tiko 下。

死んでしまつてゐた。[蟹は]私の友は、如何したら生返るだらう]といった。そこで心臓を切つて、取出して火で焙つた。而して、[我が友よ、生きたらどうか]といふと、[猿は]生返つた。[そこで蟹は]私がシチュヴェルルカイ(地名)で競争で取つた物が有るといつて、[焙つた心臓を食はせた。猿は]食つたので、[さあ家へ歸らう]といつて歸つた。

而して日が暮れた時、猿は「さあ、友よ、女を訪問に行かう」といふと、蟹は「友よ、私は女を訪問しに行きたくない」といふので、猿は獨りで出掛けた。ところが、蟹はこつそり後から来て、寝臺の下に居て、猿の男根を鉄切つた。而して其處を去つて、窓の處へ行つた。[内では]チュクチュク(女)が猿の爲に飯を[棚から]下して来たので、猿は其を食べてゐた。[蟹は]窓から、飯の上へ[前の]男根を落した。すると猿は「おや此は私の男根だ」といつて、其を拾つて其家

k-in-sa 煮た物、飯、k-im-isa 煮る。  
14. vaik-an 其處を去つて他へ行く、位置主、其處。  
17. ɗani-an 其處から落す、位置主、窓、ma-ɗani 落る。  
20. sululi 客體主、s-im-ulul 一つの物を拾ふ、主體主、比。224頁、註16。

1 taqoed akin sakamaja" aja ti gagap ?a  
眠了 我は 只 といふは 蟹 其  
2 kitiviɗa / sa amin apa ?a kai /  
自答 而 此丈 だ は 話

から歸つた。[而して蟹に向つて]お前は如何して私の男根を取つたのか。如何して彼様な事をするのか]といふと、蟹は「私は只寝てゐるばかりだ」と答へた。話は此丈である。

2. ti pulalulujan kati  
ブラルラルヤン と

tukutuku  
チュクチュク

9 izoa ti pulalulujan ?a silinasaɗas /  
居 は ブラルラルヤン 其 リナサラス社人  
10 saka izoa ti tukutuku ?a simakaɗauɗau /  
而 居 は チュクチュク 其 マカラウラウズ社人  
11 "are qalupi" aja toa sikataqalan / sa  
さあ 所狩 といふに 社人 而  
12 vaik a sma qoemalup / mano izoa kasiu  
行 其 赴 狩 ところが 有 木  
13 ?a qatsaqatsa / mano livavau ti pulalu-  
其 其大 すると 登 は ブラル  
14 lulujan / mano lipilipan ti tukutuku /  
ラルヤン ところが 所見附 は チュクチュク  
15 ?a pasa makaɗauɗau / mano tiɗai ti  
其 方 マカラウラウズ社 すると 好む は  
16 pulalulujan / "ko kodawau tsu" aja ti  
ブラルラルヤン 我の 所如何 此は といふは  
17 pulalulujan / sa sikivulu toa qoval to  
ブラルラルヤン 而 所自拔 を 焚 を  
18 ta ɗajan / mano sipavaɗi / sa ɗalum tai  
一 本 そのまゝ 所使飛風 すると 到 處  
19 tukutuku / mano sma tapulu /  
チュクチュク そのまゝ 赴 燵

2. ブラルラルヤンと

チュクチュク

リナサラス社にブラルラルヤン[といふ男]がゐた。又マカラウラウズ社にチュクチュク[といふ女]が居た。[或時ブラルラルヤンは]社の人に向つて、「さあ、狩しよう」といつて、狩に出かけた。ところが[途中で]大きな木が有つたので、ブラルラルヤンはその木に登つた。するとマカラウラウズ社の處に、チュクチュクが居るのが目に止つたので、ブラルラルヤンは心が動いた。彼は、「此は如何したものであらう」と思つたが、[頓て]自分の髪を一本抜いて、そのまゝ風に飛ばした。すると[その髪が]チ

9. si- …に屬する人、比。si-paiwan バイワン人。  
14. lipilip-an 其物に目がとまる、位置主、女、l-im-igilip 見る。  
16. koda-w-au 如何すべき者、現實未來、客體主、女、w は

口調の爲の挿入、k-im-oda 如何する。  
17. si-ki-vulu 自ら抜く理由、…の爲に抜く、用具主、女、v-in-ulu 抜く、主體主。  
18. si-pa-vaɗi 風に吹かせる爲の物、用具主、髪、vaɗi 風。

- <sup>3</sup> saka vup[ai ti tukutuku / maka]imal  
而 孕 は テュクテュク 五日間
- <sup>4</sup> ?a vup[an]ai / poalak to oqalai to ti ko-  
は 孕んでゐる 生 を 男 を コ
- <sup>5</sup> lilululu / "ako ?a: poalak ?a: paqœti[in /  
ルルル 何故 共 生子 共 妾
- <sup>6</sup> ?a nika no tsikil / kalavaru ?a tima-  
が 無い者の 夫 相談せよ は 全社
- <sup>7</sup> qalan to ki tima ?a navinup[ai]" / mano  
人 ことな だらう 誰 は 使孕了者 ところが
- <sup>8</sup> nika /  
無
- <sup>9</sup> "kilu:" ajain ti pulalululujan ?a silina-  
来い 所言 は プラルラルヤン 共 ヲナ
- <sup>10</sup> sa[as] / mano ma[ti]z ti pulalululujan /  
サラス人 ところが 来 は プラルラルヤン
- <sup>11</sup> "pai la kina avan tsu a ko kama" / saka  
そらよ 母 實際 此 は 我の 父 そこで
- <sup>12</sup> "ija mano avan tsu a kama" aja ?a  
おや きては 實際 此 は 父 といふは
- <sup>13</sup> timaqalan / sa pavai apa sakamaja toa  
全社人 而 興了 とうとう な
- <sup>14</sup> sini[isi] / sa pariputsikil apa sakamaja /  
結納 而 互成夫婦 了 とうとう
- <sup>15</sup> saka amin ?a kai /  
而 此丈 は 話

3. ti pulalululujan katoa qad̄is  
ブラルラルヤン と 鷹

- <sup>19</sup> izoa ti pulalululujan ?a vavu[uvu]lujan /  
居 が プラルラルヤン 共 ヲナ家
- <sup>20</sup> izoa ti tukutuku ?a kaq̄apijian i qenalan  
居 は テュクテュク 共 カダギアギアン家 在 蕃社
- <sup>21</sup> ?a mamau / izoa koko ni pulalululujan ?a  
共 同一 有 愛物の プラルラルヤン 共
- <sup>22</sup> qad̄is / no kisuđu ti pulalululujan ?a sma  
鷹 時 訪女 が プラルラルヤン 共 赴

6. t-im-a-qalan ta —, qalan 蕃社(?) 比. q-en-alan 社.  
7. na-v-in-up[ai] 孕む體にした人. vup[ai] 孕む. 3行.

ユクテュクの處へ[飛んで]行つて、その  
懐へはひつた。

するとテュクテュクは孕んだが、  
娠五日間で、コルルルルといふ男の子  
を生んだ。[社の人々は]夫が無くして何  
故妾に子を生んだか。孕ませたのは  
誰だらう、社人に相談せよといつて調  
べたが、その男は居なかつた。

それでリナサラス社のブラルラル  
ヤンに來いといつた。ところがブラ  
ルラルヤンが來ると、[その子は]「そら、母  
よ、此れが實際私の父だ」といつたので、  
社の人々は「あゝさうか、扱は此が實際  
お前の父か」といつた。そこで[ブラル  
ラルヤン]が結納を送つて、互に夫婦に  
なつた。而して話は此丈である。

3. プラルヤルヤンと鷹

ヅヅルヅルガン家にブラルラル  
ヤン[といふ男]が居た。同蕃社のカダ  
ギアギアン家にテュクテュク[といふ  
女]が居た。ブラルラルヤンは[平生]鷹

vup[ai] 孕んでゐる. 4行.  
14. s-in-i[isi] 結納として用ゐる物. si[isi] 一般結納品.

- <sup>1</sup> kaq̄apijian / avan-u qaq̄eivuin azoa qa-  
カタギアギアン 實際は 所呼 其の 鷹
- <sup>2</sup> q̄is / mano izoa qoma i[toa] qala / mano  
は ところが 有 鳥 處に テュラル ところが
- <sup>3</sup> vaik tia pulalululujan katoa qad̄is / mano  
行 等 プラルラルヤン と 鷹 ところが
- <sup>4</sup> renao[?] noa qala ?a silinasa[as] / mano  
所持伏 の 敵 共 ヲナサラス人 すると
- <sup>5</sup> kimilap ?a qad̄is to izoa qala / "are  
知 は 鷹 ことな 居 敵が さあ
- <sup>6</sup> tsikil[i] pulalululujan / imaza qala / "pu-  
所歸 プラルラルヤンよ 居此處 敵が かまは
- <sup>7</sup> maja" aja ti pulalululujan / mano q̄ima-  
ない といふは プラルラルヤン ところが 着
- <sup>8</sup> lun toa qoma / sa koapi noa qala ti  
に 鳥 すると 所打銃 の 敵 は
- <sup>9</sup> pulalululujan / mano matsai / "ai apa ti  
ブラルラルヤン そのまゝ 死 残念だ
- <sup>10</sup> kaka i pulalululujan / aja ?a koko ?a  
兄 よ プラルラルヤン といふが 愛物 共
- <sup>11</sup> qad̄is / "ku kodawau ti kaka ?a papiva-  
鷹 我の 所如何 は 兄 共 使生返
- <sup>12</sup> lut / mano mivalut / ma[ti]z ?a qejajau /  
すると 生返 来 共 驚蟻
- <sup>13</sup> "anima no qaq̄eivin" aja ti pulalulul-  
何 汝等の 所歸 といふは プラルラル
- <sup>14</sup> jan / "matsaj-apa aja-min tanusun" /  
ヤン 死 了 と思我等は 汝な
- <sup>15</sup> "kizoaza matsai / la oqalai / are sakamaja  
何有 死 よ 男だ さあ 鬼に角
- <sup>16</sup> saomaqei" / ma[ti]z i omaq / qoemaqo[?] /  
所行家 来 に 家 泣いてゐる
- <sup>17</sup> ?a kina / "maja qoema[?] kina / izoa-nan  
は 母 勿 泣 母よ 居 尙
- <sup>18</sup> akin / makoda la oqalai" / amin ?a kai /  
我は 如何 よ 男だ 此丈 は 話

を可愛がつてゐた。ブラルラルヤン  
がカダギアギアン家に[テュクテュク  
を]訪問に行く時は、[いつも]其の鷹を呼  
[んで連れて行つた]。ところが途中の  
テュラルといふ處に鳥があつた。或  
時ブラルラルヤンと鷹とが行つた時、  
リナサラス社の敵が[其處に]待伏して  
ゐた。すると鷹は敵の[居る]ことを知つ  
たので、[ブラルラルヤンよ、さあ歸らう。  
此處に敵が居る]といつたが、ブラルラ  
ルヤンは、「何構はない」といつた。それ  
で鳥に着くと、ブラルラルヤンは敵の  
爲に打たれて、死んでしまつた。可愛  
がられてゐた鷹は、「残念だ。ブラルラ  
ルヤン兄さん」といつて悲んだ。「さて  
如何したら兄さんが生返るだらう」と  
いふと、不思議にもブラルラルヤンは  
生返つた。[蕃社の人々は]ブラルラル  
ヤンの殺されたことを聞いて驚き騒

1. avan-u qaq̄eivuin 其の鷹は實際に呼んで連れて行く。  
客體主. 鷹. q-cem-aq̄eiv 呼ぶ。  
3. ti-a ti 人的冠詞. 主格. ti-a 同上複数。  
4. <r-in-a[?] 過去. 客體主. プラルラルヤン. r-im-a[?] 待伏する. 主體主。  
6. tsikil-i 現實未來. 位置主. ts-im-ikil 歸る. 主體主。  
8. koap-i 客體主. k-im-oap 銃を打つ。  
11. koda-w-au 現實未來. 客體主. ma-koda 如何なる. 18 行. -w- は挿入。

pa-pi-valut 生返らせる. 主體主. mi-valut 生返る.  
12行.  
12. qeja-jau <qejau 願ぐ qa-qejav-in 願ぐ事柄. 客體主.  
13行.  
15. kizoaza <ako izoa-azoa (?) 何で其處に其事が有らう  
ぞ. 何で死ぬことがあるものかといふ意。  
16. sa-omaq-ei 家へ行かう現實未來. 位置主. s-m-a 赴く  
-ei<-i.

いで[其處へ]来た。[すると生返つた]  
 ヲルヲルヤンは「お前等の騒ぎは何だ」  
 といつた。[人々が]我々はお前を死ん  
 だと思つてゐた[といふと、ヲルヲル  
 ヤンは]死ぬ事が有るものか、男だもの。  
 さあ兎に角、家へ歸らう]といつて家へ  
 歸つた。[ところが]母が泣いてゐるの  
 で[彼は]母よ、泣くな。私はまだ生きて  
 ゐる。男だもの、如何なるものかとい  
 つた。話は此丈である。

4. kiman toa tsautsau

13. izoa sipaŋipulai ʔa kiman toa tsautsau  
 居 バア;グライ社人 共 食 を 人  
 14. aja ʔa taotsikil / qajamin a ɬamoq na  
 といふは 口碑 所試 は 血 の  
 15. alak / no qadiʔadid sivrirs / no qalim-  
 子供 若 甚苦 所捨 若 甚  
 16. qoemqoem papiqatsain / sa tsuluj-apa no  
 甘 所使大 而 所展了時  
 17. miqatsa /  
 成大

5. pana ʔa paŋiʃi

20. naizoa ti saɬapaɬap / navaik a sma  
 居た が だガダン 行つた 共 赴  
 21. pana sma coroqolivaŋraurau / ka mano  
 川 赴 チョロコリヴァンランラウ 而 その時

14. qajam-in 客體主, q-cem-ajam 試みる, 主體主.  
 15. <qadi-qadid 甚苦い, qadid, 苦い.  
 si-ivrirs 其物を捨てる, 用具主, 子, v-in-nirirs 主體  
 主.  
 qalimqoem-qoem 甚甘い, qalimqoem, 甘い.  
 16. pa-pi-qatsa-in 其物を大きくさせる, 客體主, mi-qatsa

4. 人を食ふ

バディグライ社には人を食ふ者が  
 居た,といふ口碑がある。子供の血を  
 味はつてみて,大變苦ければ捨て、し  
 まふ。大變甘ければ養育して,大きく  
 なつた時に屠つて[食つたといふ]。

5. 不吉な川

だガダンといふ者が居た。チョコ  
 コリヴァンランラウといふ川へ行つ

大くなる。17行. qatsa 大きい。  
 tsulu-i 其物を屠る, 客體主, ts-im-ulu 主體主。  
 21. <coa ro qolivaŋrau-rau 缸の多い處 [?], coa 處, ro  
 多い, qolivaŋrau 缸, よく缸の出る處の義にて土名と  
 なりたるものならん。

1. manadip ʔa liputs ʔa pinanadipan / saka  
 釣れる が 巨羅 共 所掛釣針 而  
 2. momal ʔa manadip ʔa kavakava-ŋa / saka  
 再 共 釣れる が 上衣 了 而  
 3. malia manadip uta / saka tsautsaw-apa /  
 夜明 釣れる 又 すると 人 了  
 4. sa “nakuja tsu / kimaja siqazal / kimaja-  
 すると 惡 此は 或 暗示 或  
 5. kin ʔa ore matsai” aja / sa vaik apa  
 我は 共 將 死 と 思 而 行 了  
 6. sma omaq / ka maŋtiz i omaq / “paŋiʃi  
 へ 家 時 來 に 家 不吉  
 7. apa izoa / maja-ŋa ʔa sma-zoa pinanadip /  
 だよ 彼處 物 よ 共 赴 彼處 釣  
 8. ʔa omaq no tsimas” aja-ŋa tamaqalan /  
 共 家 の 神 といふ了 社人  
 9. saka ini apa ka sma-zoa / marikuŋ apa  
 而 不 了 共 赴其處 恐 了  
 10. sakamaja /  
 只  
 11. naizoa ti qoeluj kati sapapil / ʔa sma-  
 居た が クルン と サバグル 共 赴  
 12. zoa simnasinai ʔa marsudusudu / nama-  
 共處 順つてゐる 共 互訪問 既  
 13. tsai ti saqoeluj / ka maŋtiz i omaq / sa  
 死 は クルン すると 來 に 家 而  
 14. nika-ŋa no liadut ʔa sma-zoa / amin ʔa  
 無了の 近づく者 共 赴其處 此丈は  
 15. kai /  
 話

6. ti kolilululu

19. naizoa tia sapulalulujan kati sasulu-  
 居た 等 プラルヲルヤン と スル  
 20. plupan / ʔa poalak toa alak ʔa maɬusa /  
 プルバン 共 生子 を 子 共 二人  
 21. ka “iomaqan so kaka / vaik anan amin  
 而 居家理由 汝の 弟は 行 一寸 我等は

1. <ma-panadip 自然に針にかかる, p-in-anadip 人が  
 針にかける, 釣る, 主體主, 7行. p-in-anadip-an 針に  
 かけた物, 客體主, 1行。  
 4. si-qazal 暗示の爲の物, 暗示の印, 用具主。  
 21. i-omaq-an …の爲に家に居てやれ, 用具主, 弟, i-omaq

て,釣してゐると,機襟が釣針にかゝつ  
 た。それから又釣してゐると,上衣が  
 かゝつた。夜明の頃又釣してゐると,  
 人間がかゝつた。[彼は]此はいけない。  
 或は私が死ぬ前兆かも知れないと思  
 つて,家へ歸つた。而して家へ歸つて  
 [其事を話すと]社の人々は,[彼處は不吉  
 だ。彼處へ行つて釣するな。神の家  
 だ]といつたので,恐ろしくなつて其處  
 へ行かなかつた。

その後クルン[といふ女]とサバグル

[といふ男]とがあつた。二人は互に訪  
 問しあつて,其處へ行つて歌を唄つて  
 ゐるが,クルンが死んだので[一人は]家  
 へ歸つた。それから其處へ近づく者  
 は無くなつた。話は此丈である。

6. コルルルル

ヲルヲルヤンと,スルブルバンと  
 いふ[夫婦の]者があつて,二人の子供を  
 生んだ。[或時,父と母とは兄の]コルル

家に居る, -an 用具主, 命令の接尾辭, ki:m-an…の爲  
 に捜してくれ, 用具主, 我等, 232頁, 1行. ~k-im-i:m  
 主體主, tsuŋtsug-an…の爲にコッコツやつてくれ, 用  
 具主, 我等, 232頁, 2行. ~ts-im-ugtsug 主體主, [ala-an  
 …の爲に湯を沸してやれ, 用具主, 豚, 232頁, 18行。

- <sup>1</sup> ʔa sma vavoa / ki:man aṗa toa ta vaqo  
其 赴 島 所獲 ぞ 我等の業
- <sup>2</sup> sa tsuṗtsuṗan aṗa” ajain ti kolilululu /  
而 コツコツ搗く所 ぞ 所言 は コルルル
- <sup>3</sup> saka vaik a kina katoa kama ʔa sma  
而 行 は 母 と 父 其 赴
- <sup>4</sup> vavoa /  
島
- <sup>5</sup> sitsuṗtsuṗ a kaka toa dulup / azoa  
コツコツする所 は 弟 に 石柱 其は
- <sup>6</sup> “tsuṗtsuṗan aṗa” aja tia kina / sa patsai  
コツコツする所 ぞといふ等が 母 すると 死
- <sup>7</sup> azoa kaka / sa paṗtiz a kama katoa  
其の 弟は それから 歸來 は 父 と
- <sup>8</sup> kina / “a ino aṗa so kaka” / “uzai / nama-  
母 \* 其在何處ぞ 汝の 弟は 有 既
- <sup>9</sup> tsaj-aṗa / ‘tsuṗtsuṗan aṗa’ no aja-mun /  
死 了 コツコツする所 ぞ 時 汝等は
- <sup>10</sup> avan u ko sitsuṗtsuṗ” / “ako ʔa su sitsuṗ-  
其 は 我の コツコツする理由 何故 其 汝の コツコツ
- <sup>11</sup> tsuṗ / avan a vaqo ʔa ku siaja / to  
する物 其物 其 業 其 我の さういふ として
- <sup>12</sup> su sitsuṗtsuṗ” /  
汝の コツコツする物
- <sup>13</sup> sa kalia / vaik azoa kina kato kama /  
而 夜明 行 其の 母 と 父は
- <sup>14</sup> “[alaan aṗa ta ḡiḡi” ajain ti kolilululu /  
沸す理由 ぞ 我等の 豚は 所言 は コルルル
- <sup>15</sup> sa vaik azoa kama kato kina / sa po[ala-  
而 行 其の 父 と 母は すると 沸
- <sup>16</sup> zoa uta / ka maka[ala / ḡikipin ʔa ḡiḡi /  
彼は 又 而 沸後 所捕 は 豚
- <sup>17</sup> sa pasapareoki / sa patsai azoa ḡiḡi / sa  
而 所入鍋 すると 死 其の 豚は 煮て

5. si-tsuṗtsuṗ コツコツやる爲の材料、用具主、弟、又コツコツやる理由、父母の言、10行。  
11. si-aja さういつた其の譯は、si-理由、aja さういふ。

ルルに「我々は一寸島に行くから、汝は家に居て、汝の弟の守をせよ。又我々の粟を捜してコツコツやつて置け」といつて、二人は島へ行つた。

[コルルルルは]入口の石の柱へ弟の頭をコツコツ當てた。それは母達が「コツコツやつて置け」といつたからだ。すると弟は死んでしまった。其から父と母とが歸つて来て「汝の弟は何處に居るか」といふと「兄は居るよ、もう死んでゐる。お前等が「コツコツやつて置け」といつたから、其で私はコツコツやつて置いた。[といふ。父母は「何故汝は弟をコツコツしたのか。私が汝にコツコツせよ」といつたのは、その粟のことだのに」といつた。

すると夜が明けた。父と母とは[島へ]行つた。[その時]コルルルルに、「我々の豚の爲に湯を沸せ」といひ置いて、父と母とは出て行つた。すると彼は又湯を沸した。湯が沸騰すると、豚を捕

20. maka[ala 湯を沸して後、maka…の後、…してから。  
21. pasa-pareok-i 客體主、豚、pa-sa- 行かせる、入れる、pareok 鍋-i 客體主の接尾辭。

- <sup>1</sup> paṗtiz a kina kato a kama kasi vavoa /  
歸來 は 母 と は 父 から 島
- <sup>2</sup> “a ino aṗa ta ḡiḡi” / “azoa [lalaan aṗa’ aja-  
其在何處ぞ 我等の 豚は 其 沸す理由 ぞといふ
- <sup>3</sup> mun / saka uzai namatsaj aṗa” / “azoa  
汝等は それで 有 既死 了 其の
- <sup>4</sup> “[lalaan aṗa’ aja-min / aja avan a su  
沸す理由 ぞといふ我等が まあ 實際 其 汝の
- <sup>5</sup> sipakanan / nia siaja / saka nakuja tsu”  
爲 使食 我等の さういふ譯 それで 惡 此は
- <sup>6</sup> aja / sa ḡaulan toa pu[ṗau / sa “ta  
といふ 而 呼ぶ理由 を 祭司 而 我等の
- <sup>7</sup> kapa[isi: / sa ḡikipu a ta ḡiḡi” / ajain  
所捕 而 所捕 は 我等の 豚 所言
- <sup>8</sup> noa kama / mano avan a kama ḡikipin /  
の 父 と ところが 實際 其 父 所捕
- <sup>9</sup> “nakuja maitazoa / avan a ḡiḡi ʔa ku  
悪 如其 實際 其 豚 は 我の
- <sup>10</sup> siaja / ini nakuja tsu / kapa[isi ʔa kere-  
さういふ譯 不 惡 此は 捕 其 速
- <sup>11</sup> mu / ta soku[ṗai / ta so[ṗukai” / sa  
我等の 所取去馬鹿 我等の 所取去亂暴 すると
- <sup>12</sup> ḡikipi ʔa kama katoa pu[ṗau / sa patsaj-  
所捕 は 父 と 祭司 而 死
- <sup>13</sup> aṗa sakamaja / izoa saka amin /  
了 とうとう 於其處 而 其丈

へて鍋の中へ入れたので、その豚は死んでしまった。其の後、父と母とが島から歸つて来て「我々の豚は何處に居るか」といふと「兄は「お前等が「豚の爲に湯を沸せ」といつたから「豚を湯に入れたら、豚は死んでしまつて、あそこに居るよ」といつた。父母は「我々は湯を沸せ」といつたが、まあ、我々がさういつたのは豚に飲ませる爲であつたのに、此はいけない」といつて、祭司を呼んだ。[而して]父が[兄に]「我々は今祝をする。我々の豚をつかまへてゐるよ」といつた、ところが兄は其の父をつかまへた。[父は]そんな事をしてはいけない、私がいつたのは、その豚の事だのに。此は速く祝をして、我々は彼の馬鹿と亂暴を直さなければならぬ」といつた。すると父と祭司は[兄に]捕まれたので、皆死んでしまった。其處で終。

5. si-pa-kan-an 食はせる爲の物、食料、用具主、pa-kan 食はせる、主體主。  
7. <kapa[isi-i 現實未來、位置主、家、pa[isi 14、縁喜の悪い事。  
ḡikip-u 命令、客體主、豚、ḡikip-in 一般客體主、父、8行、ḡikip-i 現實現在、客體主、父、12行。

10. ini nakuja しなければ悪い、…せればならぬ。  
11. so-ku[ṗ-ai …から馬鹿を取除かう、ku[ṗ 馬鹿、so-[ṗuk-ai …から亂暴を取除かう、[ṗuk 亂暴、11行、so- 除去る、-s-im-o、-ai 現實未來、位置主、弟。

7. dakasi  
ダカシ

- <sup>2</sup> izoa tia moaka:kai kati tokotoko / "are  
居 等が モアカーカイ と テョコテョコ さあ
- <sup>3</sup> kivasai" aja sa vaik a talo vavoa / izoa  
所採芋 といふ 前 行 共 迄 島 居
- <sup>4</sup> dakasi maqusa ?a qolo / "da:kasi da:  
ダカシ 有ニ は 頭 ダーカシ ダー
- <sup>5</sup> kasi / kisamulao la maqusa / ore matsai  
カシ 働け よ 二人 將 死
- <sup>6</sup> mun maqozimit / da:kasi da:kasi /  
汝等は 今 晩 ダーカシ ダーカシ
- <sup>7</sup> kivasao ?a keremo / ore matsai mun  
採芋 其 速 將 死 汝等は
- <sup>8</sup> maqozimit" / sa vaik a sma omaq /  
今 晩 前 行 共 へ 家
- <sup>9</sup> mano maka qozup ?a matsidil / maka  
ところが 窓 は 一人 から
- <sup>10</sup> palip ?a matsidil / maqazolis i ta?a na-  
入口 は 一人 互に衝突 で 床上
- <sup>11</sup> matsai / amin ?a kai /  
死んだ 此丈 は 話

8. malivoeq  
五年祭

- <sup>16</sup> naizoa ti sa ropili?an ?a natsimoka-  
居た といふ人 ロギリガン 共 乾衣
- <sup>17</sup> tsokar / matani ?a litiko ?a sma lipatal /  
落 其 下る 共 へ リグテール家
- <sup>18</sup> sa dumakin ni sa limud / "kimasi-nu  
所見付 の 二人 ルムド 何處から來
- <sup>19</sup> sun" / "kimasi tarivavaw-akin / pai pi-  
汝は から來 天上 我は さあ
- <sup>20</sup> tsuguan akin / ola akin ?a kiajan toa  
所焚火 我は した 我は 共 同行 と

1. dakasi 頭の二つある妖怪,ダーカシ,ダーカシといつて  
暗くといふ。
3. ki-vasa-i 現實未來,位置主, ki- 採る, vasa 芋, ki-  
vasa-o, 命令,主體主, 7行。
5. ki-samula-o 命令,主體主, ki 自分。

## 7. ダカシ

モアカーカイとテョコテョコ(とい  
ふ二人の女)が居た。「さあ芋を掘りに  
行かう」といつて出かけた。島へ來る  
と、頭の二つあるダカシ(怪物)がゐる[ダ  
ーカシ,ダーカシ(啼聲)。二人よ、働け。  
お前等は今晚死ぬのだ。ダーカシ,ダ  
ーカシ。速く芋を掘れ。お前等は今  
晩死ぬのだ]といふ。[二人は驚いて、一  
生懸命に走つて家へ歸つた。ところが  
一人は窓から(飛込み)一人は入口か  
ら(飛込んだので)頭が衝突して床の上  
で死んでしまった。話は此丈。

## 8. 五年祭

[昔天上に]ロギリガンといふ者が居  
て、衣を干してゐた。[ところが]リグテ  
ール家の家の處へ落ちて來た。する  
とルムドといふ人が見付けて「お前は  
何處から來たか」といふと「私は天上か

15. 五年毎に一回行ふ大祭にして關係の番社が共同に行ふ  
もの。
16. na-ts-im-oka-tsokar 衣を干してゐた, ts-im-okar.
18. <k-im-asi inu 何處から來る, kimasi …から, 19行。
20. pitsugu-an 我の爲に焚いてくれ, 命令, 用具主, 我, pi-  
tsugu 主體主, 235頁, 1行。

- <sup>1</sup> tsivul / ?a sma tarivavau" / sa pitsugu  
煙 其 赴 天上 すると 焚火
- <sup>2</sup> apa / "nu sika[ima / sa kiajan apa toa  
了 時 第五日 其時 同行 だよ と
- <sup>3</sup> tsivul / ore sman pu[igau amin / nu  
煙 將 爲 祭司 我等は 時
- <sup>4</sup> sika[ima / sa nu maqiz sun i tarivavau /  
第五日 而 時 來 汝がへ 天上
- <sup>5</sup> tukatsasavanu apa / sa ki[apda?daj-apa /  
居庭 だぞ 而 所聞 ぞ
- <sup>6</sup> nu ma[ada min / nu ta[ap[ap[ap / sa  
時 念誦 我等が 時 未明 其時
- <sup>7</sup> tilivaru apa / no ore nimigats apa-min" /  
來倉上 だよ 時 將 始念誦 了 我等が

- <sup>11</sup> saka i tilivar apa ti ?alimud / ?a pa-  
すると 居 倉上 了 は ルムド 而 見
- <sup>12</sup> tsutsun toa kisan pu[ipa[igau / ka malia /  
てある を 自成 祭司 而 夜明
- <sup>13</sup> "ki kin ?a vaik anan" aja ti ?alimud /  
だらう 私 其 行 もう といふは ルムド
- <sup>14</sup> "anima ?a no vusam / anima no ta-  
何 は 汝等の 種物 何 汝等の 粟
- <sup>15</sup> jan" / "qa[idodo / va[?a" / "katsu: tutsa  
種は カリドド ヴェラ 持行け 此の
- <sup>16</sup> vusam / ?a ti[?u ?a vusaman / ?a vo[?o-  
粟種を 其 三 は 粟種 其 ヴェロ
- <sup>17</sup> vo[?op / ?a tamikil / ?a lai[iman / are sau  
ヴェロン 其 テムクル 其 ライリマン さあ 行け
- <sup>18</sup> toa qotsuli / katsu: toa di[?i ?a vu[ivu-  
處 コツリの 持行け な 豚 其 庭
- <sup>19</sup> [eqan" / "malivivoeq amin" / ajain ni  
行五年祭 我等は 所言 の
- <sup>20</sup> sa[opili?an / "a[?au pai kalivoeqo apa / sa  
ロギリガン まあ さあ 五年祭 だよ 而
- <sup>21</sup> tsiktsiku apa toa kasiu" /  
挿せ よ を 木

2. sika[ima 第五。
5. tu-ka-tsasav-an-u 庭に居れ, 命令, 主體主, katsasavan  
庭<tsasau 外, tu- 處, -u 命令, 主體主。  
ki-[apda-?da-i 聞いて居れ, 命令, 位置主, 庭, ki- 自分,  
[-im-apda 聞く。

ら來た,さあ私の火を焚いてくれ。私  
は煙と共に天に上りたい]といつた。  
すると[ルムドは]火を焚いた。[ロギリ  
ガンは]五日目になつたら,お前は煙と  
一緒に[天上へ]來い。我々は[お前を]祭  
司にしてやらう。五日目にお前が天  
上へ來た時は,庭の處に居て,我々が念  
誦する時には聞いて居れ。夜明に我  
々が念誦を始めようとする時には,倉  
(室内にある)の上に来い]といつた。

するとルムドは[天に上つて教へら  
れた通り]倉の上に居て,[ロギリガンが]  
祭司になるのを見てゐた。夜明にな  
つてルムドは「私はもう歸らう」といつ  
た。ロギリガンは「お前等の種物は何  
か,お前等の粟の種は何か」といふ。ル  
ムドは「カリドドとヴェラ[といふ芋の  
種がある]」といふ。ロギリガンは「[其な  
ら]ヴェロヴェロンと,テムクルと,ライ  
リマン,此の三種の粟の種を持つて行  
け,又コツリといふ處へ行け,而して斑

7. tilivar-u 倉の上に来い, 命令, 主體主, tilivar 屋内の  
倉, 11行。
21. tsiktsik-u 命令, 主體主, ts-im-iktsik 挿す, 236頁, 6  
行。

- 3 sa vaik apa ti šalimud ?a sma tari-  
そこで行 了 は ルムド 其 赴 下
- 4 tiko / mañtiz ti šalimud / tsimiktsik  
界 來 は ルムド 挿
- 5 toa kasiu mañtiz i [ivulivuan / sa vaik  
な 木 來 へ リヴリヴアン 而 行
- 6 a sma rosivawan uta / timiktsik / saka  
其 赴 ロシヴワワン 又 挿 すると
- 7 "nakuja tsu a nika no puñjau" aja /  
惡 此 其 無 の 祭司 といふ
- 8 sa kisan puñjau ?a markakakaka ?a  
而 成 祭司 は 兄弟 其
- 9 malujima / ?a sirovitsik ni salimud / sa  
五人 其 兄弟 の ルムド 而
- 10 to[oi toazoa kinito[?a kasi tarivavau /  
所教 な 所學 其 カラ 天上
- 11 sa patagil apa uta malivoq ?a itaritiko /  
而 始 了 又 五年祭 は 在下界者
- 12 saka izoa saka amin /  
而 其 而 其丈

9. qalitsi ?a mutsautsau  
男根 其 成人

- 13 naizoa tia kolilululu katoa sidila  
居た 等 コルルルル と 丈の者
- 14 qalitsi / pinatsajan apa noa kina kato  
男根 成所死 了 の 母 と
- 15 kama / sa vaik a kisuđu ?a sma pakuda-  
父 而 行 其 訪女 其 赴 バクダ
- 16 vadavai ti kolilululu / sa katsui azoa /  
ヴダヴアイ家は コルルルル 而 所作 其は

5. tari-tiko 下界, i-tari-tiko 下界に在る者, 13行, tiko  
下, tari-vavau 天上, 12行, vavau 上。
12. to[oi-i 客體主, 兄弟, k-in-i-to[oi 自分で學んだ事, 教へ  
られた事, 客體主<ki-to[oi 主體主, t-im-o[oi 教へる。

の脈を持つて行け]といった。ロギリ  
ガンは又「我々は五年祭をする, さあ[お  
前等も]五年祭をせよ, 而して木を挿せ  
よ]といった。

そこでルムドは下界へ行つた。下  
界へ來ると, リヴリヴアンへ來て木を  
挿した。又ロシヴワワンへ行つて木  
を挿した。すると, 此はいけない, 祭司  
が無い]といつて, ルムドの兄弟五人が  
皆祭司になつた。而して[ルムドが]天  
から教はつた事を教へたので, 下界で  
も亦五年祭がはじまつた。其で終。

9. 人になつた男根

[或時]コルルルルと, 男根だけの人と  
[兄弟]が居た。[二人共]父母に死なれて  
[孤兒であつた]。而してコルルルルが,  
バクダヴアイ家へ女(モアカー

16. mu-tsautsau <tsau-tsau 人, IN. tau. 人。  
18. p-in-atsaj-an 死んだ後に残つた者, 死なれた者, 客體  
主, matsai 死ぬ。

- 1 ?a kisuđu azoa qalitsi ?a pinituvuq / saka  
其 訪女 其の 男根は 其 所入箱了 而
- 2 no siminai / ?a kisilaq azoa qalitsi /  
時 頃 其 自分共同 其の 男根は
- 3 saka malia / sa vaik a sma tañan / azoa  
而 夜明 すると 行 其 へ 泉 其の
- 4 marsuđusuđu / ?a tia kolilululu / katia  
互訪問者 其 等は コルルルル 等と
- 5 moaka:kai / katia tukutuku / ti moaka:kai  
モアカーカイ 等と テュクテュク は モアカーカイ
- 6 ?a sañasapan / saka ti tukutuku / saka  
其 最先 而 テュクテュク 而
- 7 ti qalitsi / saka ti kolilululu ?a viji-  
男根 而 コルルルル は
- 8 viñilan / mañtiz i tañan / timajau ?a  
最後 來 へ 泉 汲竹筒 が
- 9 mapulat / ka kiramata / patsual azoa  
皆 而 洗面手足 眞似 其の
- 10 qalitsi / taluktuk ?a pasa puzaluman /  
男根は チャブヂャブ 其 處 水溜
- 11 madodo ti tukutuku / visqet:in toa  
竈に降 は テュクテュク 所打 で
- 12 kasiu / sa sivuloq mañpat i [auz /  
木 而 所跳飛 失 へ 下方
- 13 "adadadadada" aja ti qalitsi /  
痛い痛い といふ は 男根

- 14 "are saomaqej-apa" aja / ti moaka:kai  
さあ 所行家 れ といふ モアカーカイ
- 15 ?a sañasapan / saka ti tukutuku / saka  
は 最先 而 テュクテュク 而
- 16 ti qalitsi / saka ti kolilululu ?a paptiz i  
男根 而 コルルルル 其 來 へ
- 17 omaq / tara maka tomatomaq apa / azoa  
家 各 歸 家 了 其の
- 18 vavajavajan katoa tia kolilululu katia  
女等 と 等 コルルルル 等と

1. p-in-i-tuvuq 箱に入れた物, pi-tuvuq 箱に入れる。  
i-tuvu-tuvuq-u 箱の中にゴットして居れ, 238頁, 5行,  
tuvuq 箱。
2. ki-silaq 自分も同じ様にする, mi-silaq 同様。
4. mar-suđu-suđu 互に訪問する者, suđu 相手の女, 238  
頁, 4行。

カイとテュクテュクの二人)を訪問に  
行く時は, 男根を箱に入れて連れて行  
つた。而して唄ふ時は, その男根も共  
に唄つた。夜明になつて, 其の男女等,  
[即ち]コルルルルとモアカーカイとテ  
ュクテュクは, 泉(水汲む所)へ行つた。  
モアカーカイ(女)が一番先で, それから  
テュクテュク(女)それから男根, それか  
ら最後がコルルルル(男)であつた。泉  
へ來ると, 皆が竹の筒で水を汲んだ。  
[皆が]顔や手足を洗ふと, 男根も眞似し  
て水溜の中でヂャブヂャブ音をさせ  
た。するとテュクテュク(女)が竈に降  
つて, 木で打つたから男根は, 下に跳飛  
ばされて「痛い, 痛い」といつた。

「さあ家へ歸らう」といつてモアカー  
カイが一番先, 其からテュクテュク, それ  
から男根, それからコルルルルと[打つ  
れて皆一緒に]歸つた。而してその女  
達もコルルルルと男根も, それぞれ自

6. saña-sapa-an 最も前の位置, sañas 前, viji-viñil-an  
最も後の位置, 7行, viñil 後。
10. pu-zalum-an 水を溜めた處, zalum 水 IN. danum.
12. si-vuloq 自然の勢で飛んで行く, v-in-uloq 投げける。  
si- 自然に。  
mañpat 物に遮られて見えなくなる。

- <sup>1</sup> qalitsi / 男根
- <sup>2</sup> maptiz i tomaq tia kolilululu katia 来へ家等はコルルルル等と
- <sup>3</sup> qalitsi / "nakuja sun masiaq-eitin / su 男根 悪 汝は 耻 我等は 汝の
- <sup>4</sup> dupusin sakamaja toa ta suđu / ka 觸鼻 兎に角に我等の情婦而
- <sup>5</sup> ituvutuvupu no ku suajain / ini ka sun 箱に居れと 雖 我の 所言 不 其 汝は
- <sup>6</sup> ?a kilapda / "are no maja salazuki / aja 其 聞 さあ 若 如其 所行平地 といふ
- <sup>7</sup> ti qalitsi tai kolilululu / "are no maja" は 男根 に コルルルル さあ 若 如其
- <sup>8</sup> ajain / sa paptiz i lazuk / sa "anima su 所言 而 来 へ 平地 そこで 何 汝の
- <sup>9</sup> katijajan ola tin ?a sma tsiam / "avan 好物 したい 我等 共 赴 店 あれ
- <sup>10</sup> a tseqau katoa piau ?a ko katijajan / 其 魚 と 猫 は 我の 好物
- <sup>11</sup> saka amin no vilin / sa vaik / sa paptiz それで 共だけ 時 所買 而 行 而 来
- <sup>12</sup> i omaq / "pasapuzajajano akin i tavi / へ 家 所入別室 我は へ 石の欄
- <sup>13</sup> sa pasazoai uta azoa piau katoa tseqau / 而 所置共處 又 其の 猫 と 魚は
- <sup>14</sup> mano kiku[at anan noa piau / sa kasa[i- ところが 所戯 一寸の 猫 それで 轉
- <sup>15</sup> sa[iit ?a maka toa dui noa tseqau ?a 々 其 から 處 鱈 の 魚 は
- <sup>16</sup> qalitsi / mano magutsa] mano mutsau- 男根 ところが 剥 そのまま 成人
- <sup>17</sup> tsau / saka ti pulalululujan ?a padan / 而 フララララン は 名
- <sup>18</sup> "kilu apa kaka / idan ?a ku sitopan" / 来い よ 兄よ 所典 は 我の 衣
- <sup>19</sup> mano miptus ti kolilululu / "ako izoa-pa すると 驚 は コルルルル 何故 居共處だ
- <sup>20</sup> tsa ku sa[ad] aja / mano namagutsa] 此の 我の 仲間 といふ ところが 既剥

3. <masiaq itin 我等は耻かしい。  
 4. dupus-in 客體主,鼻, d-im-upus 犬などが嗅ぐときの 様に鼻を近づける。比. pudus 鼻。  
 6. sa-lazuk-i lazuk 平地, sa 赴く, -i 現實未來, 位置主。  
 9. ka-tijaj-an 好きな物, 客體主, tijajai 好む。  
 tsiam <臺灣語, 店 (tiam)。

分の家へ歸つた。  
 コルルルルと男根は家へ歸つた。  
 [コルルルルは]「お前が悪い事をするか  
 ら、我々は耻しい。お前は我々の相手  
 の女に觸つたりする。箱の中に居れ  
 と私がいふのに、お前は聞かない」とい  
 った。すると男根はコルルルルに「そ  
 れなら、さあ、平地の人[の所]へ行かう」と  
 いった。[コルルルルも]「さあ、それなら」  
 といつて平地へ行つた。そこで[コル  
 ルルルは]「我々は店へ行くのだが、お前  
 の好きなものは何か」といふと、男根は  
 [私の好きな物は、あの魚と猫だ]といふ。  
 それで共だけ買つて、家へ歸つて来た。  
 [すると男根は]私を別室へつれて行つ  
 て、石の臺の上に坐らせよ。而してそ  
 の猫も魚も亦共處に置け]といつた。  
 [其の通りにすると猫が巫山戯たので、  
 男根は魚の鱈にかゝつて共處から轉  
 げ落ちた。その拍子に[皮が]剥けて共

11. <vilin-in 買ふ物, 客體主, v-in-i 主體主。  
 14. ka-sa[i-sa[iit コロコロ轉げる, ma-sa[iit 材木など横に 轉げる。  
 15. dui =刺, IN, dursi。  
 18. id-an 其物によこせ, 命令, 用品, 衣, id-o 来い, 命令, 主體主, 213頁, 註16。

- <sup>1</sup> apa azoa qalitsi / saka riva-pa ti kolilu- 了 其の 男根は 而 喜了は コルル
- <sup>2</sup> lulu sakamaja / sa paluppavi apa / sa 只 而 使着衣 了 而
- <sup>3</sup> pazapaqej-apa / "are tsasavi apa sma sa- 使附頭飾 さあ 出外 よ 赴
- <sup>4</sup> ululai / ?a qoem[ad] ?a mapapau dusa / 立石 共 坐 共 並 二人
- <sup>5</sup> ola limigilig tia moaka:kai kati tuku- 見 等は モアカーカイ と テュク
- <sup>6</sup> tuku / テュク
- <sup>12</sup> mano ligiligan ni tukutuku / "tsasavo ところが 所見 の テュクテュク 外出せよ
- <sup>13</sup> kina" aja / sa tsasau ?a kina / "sau kina 母よ といふすると 出 が 母 行け 母よ
- <sup>14</sup> palilii azoa i vavu[uvu]lujan / ki tima- 見舞へ あ の 在若 ヴェグルグルガン家だらう 誰
- <sup>15</sup> zoa qalaqala / mano sa sa-zoa kina / sa 其の 客は すると 其時行 共處 母は 而
- <sup>16</sup> paptiz i pakudavadavai azoa kina / 来 處 バクダダダダ 其の 母は
- <sup>17</sup> "qadau ki tima / i ka-kin ?a kimilap / 不知 だらう 誰 不 共 我 共 分明
- <sup>18</sup> "sau / ido ajau / kina" / vaik a kina 行け 来い といへ 母よ 行 は 母
- <sup>19</sup> dimalun i vavuluvulujan / "are la mađu- 到 處 ヴェグルグルガン さあ よ 二人
- <sup>20</sup> sa kivapavapi ?a sma tanoamin" ajain / 所遊 共 赴 我等へ 所言
- <sup>21</sup> mano "oa: masiaq amin / sipidan tazoa ところが さあ 耻しい 我等は 何時か 其時に

まま人間になつた。その名はブラル  
 ラルヤン。[男根は]「見よ、来い、私に着物  
 をくれ」といふ。するとコルルルルは  
 驚いて、「仲間よ、お前は何故共處に居る  
 のか」といふ。見ると、男根は皮が剥け  
 て[人間に成つて]ゐたので、コルルルル  
 は大に喜んだ。上等の着物を着せた  
 り、頭の飾を附けたりして、さあ、立石(頭  
 目の門前)の處へ出よ。我々二人並ん  
 で坐らう。モアカーカイとテュクテ  
 ュクが見たがることだらう]といつた。  
 ところがテュクテュクが見附けた。  
 [而して母に]「母よ一寸外へ出よ」といつ  
 た。母が出て来ると、「母よ、あのヴェグ  
 ルグルガン家へ行つて、共處にゐる客  
 は誰か見て来い]といつた。すると母  
 は共處へ行つて見て、家へ歸つた。[客  
 は居たが]誰か知らぬ。私には分らな  
 い]といふ。テュクテュクは「母よ、行つ  
 て[其人に]来いといへ」。母は行つてヴ  
 ェグルグルガン家へ着くと、「さあ、お二

2. pa-luppau-i 其人に着せてやる, 位置主, luppau 臺灣 語, 籠物 (lengpo). pa-zapaq-ei 其人に頭飾を附け てやる, 位置主, zapaq 頭飾。  
 3. tsasau-i 現實未來, 位置主, 庭. tsasau-o 外に出よ, 命 令, 主體主, 12行, tsasau 外。

12. ligilig-an 位置主, 其人, lim-igilig 主體主, 5行。  
 17. i ka-kin<ini ka akin 我は…しない。  
 21. <si-pida-an 何時か以前の時, 比, ta-pida 何時, 過去, nu-pida 何時, 未來。

- <sup>1</sup> nu san taotsiktsiki/ tanoamin" / aja ti  
汝等の為 奇酷 我等に といふが
- <sup>2</sup> pulalulalujan / sa vaik apa azoa kina/  
ブラルラルヤン すると行 了 其の 母は
- <sup>3</sup> mañtiz i pakudavadavai / "ini kaoui /  
来 へ バクダグダグダグダ 不 承諾
- <sup>4</sup> "masiaq amin / i ka magalu ?a nu san  
耻 我等 不 其 寛大 其汝等の為
- <sup>5</sup> taotsiktsiki / aja la ko alak" / "kimaja  
奇酷 といふよ 我の子 或は
- <sup>6</sup> avan apa azoa qalitsi makilañ" aja  
其物 よ あの 男根 知 といふ
- <sup>7</sup> malvar azoa maralaalak / "sau liliu [a-  
話合 其の 親子は 行け 見舞へラ
- <sup>8</sup> volivolian / ula-kin ?a povavo[onan" /  
ヴォリヴォリアンよ といふ 我は 其 無結納
- <sup>9</sup> vaik ti sa[avolian / mañtiz i vavulu-  
行 は ラグヴォリアン 来 へ ヴァグ
- <sup>10</sup> vu[un / "ako ?a mañtiz sun vuvu" /  
ググガン家 何故 其 来 汝は 伯母さん
- <sup>11</sup> aja ti pulalulalujan / "sau liliu / aja ti  
といふが ブラルラルヤン 行け 見舞へ といふが
- <sup>12</sup> tukutuku / 'ula-kin ?a povavo[onan' aja /  
テュクテュク 欲 我は 其 無結納 といふ
- <sup>13</sup> avan u ko si sa maza" / "aja iro: ka-kin  
其は 我の 譯来 此處 まあ 登 其我は
- <sup>14</sup> ?a pokaoui / i ka magalu ?a nu taotsik-  
其 承諾 不 其 寛大 其汝等の 奇
- <sup>15</sup> tsiki / aja ti pulalulalujan / sa vaik  
酷 といふが ブラルラルヤン 面 行
- <sup>16</sup> sa[avolian / mañtiz i pakudavadavai /  
ラグヴォリアンは 来 へ バクダグダグダグダ
- <sup>17</sup> "oa ini ka pokaoui / lalak" / "sau sakamaja  
まあ 不 其 承諾 子等 行け 只
- <sup>18</sup> vuvu: ku tukujawaw-apa toa rivut ?a  
伯母さん 我の 所賠償 だ を 自 其
- <sup>19</sup> ñiñi to [ima" / vaik ti sa[avolian ?a sma  
豚 を 五 行 は ラグヴォリアン 其 赴
- <sup>20</sup> vavulu[un / "ku tukujawaw-apa toa  
ググガン家 我の 所賠償 だ を
- <sup>21</sup> rivut ?a ñiñi to [ima / aja lalak" / "iro:  
白 其 豚 を 五 といふ 子が 登

7. lili-u 命令, 主體主, pa-lili-i 命令, 客體主, 239頁, 14行.  
i-im-ili 見舞ふ, 様子を見る.  
12. povavo[onan 結納を要しない, 此の語は普通話に限り用

人,我々の内へ遊びに来い]といった。  
ところがブラルラルヤンは「まあ,我等  
は耻しい,以前何時か,お前等は我々を  
いぢめた事があつた」といった。する  
とその母はバクダグダグダグダへ歸  
つて行つて,「先方は承諾しないで,『我  
々は耻しい,何時かお前等がいぢめた』  
といつてゐる,我子よ」といった。する  
と其の親子は,「若しや(先日の)あの男根  
かも知れん」と話し合つた。[するとテ  
ュクテュクは]「ラグヴォリアン(媒人)  
よ,行つて見よ,私は結納無しに只でも  
行き度い」といふので,ラグヴォリ  
アンはヴァググガン家へ行つた。  
[すると]ブラルラルヤンは「伯母さん,お  
前は何故来たのか」といった。媒人は  
「テュクテュクが見に行け」といふ,而して  
結納無しに只でも来たいといふ。其  
で私は此處へ来たのだ」といふと,ブラ  
ルラルヤンは「まあ,私は如何して承諾  
ができるものか,先日お前等がいぢめ

あるといふ。  
18. tukujaw-apa 現實未來, 客體主, ブラルラルヤン, t-im-  
ukujaw 賠償する。

- <sup>1</sup> ka-kin ?a pokaoui apata" / aja ti pulalu-  
其 我は 其 承諾 やはり といふは ブラル
- <sup>2</sup> lalujan / vaik ti sa[avolian ?a sma paku-  
ラルヤン 行 は ラグヴォリアン 其 赴 バク
- <sup>3</sup> davadavai / "ini ka pokaoui ?a parakit" /  
ダグダグダグダ 不 其 承諾 其 繰返
- <sup>4</sup> "toari / ku sazowaw-apa sakamaja" / aja  
構はない 我の 所行其處 だ 只 といふ
- <sup>5</sup> ti tukutuku / kimatsu to qata ñanoita i  
は テュクテュク 持 を 玉 一杯に
- <sup>6</sup> kavatis / saka avan a nanimanimaña  
芋籠 而 特別 其 種々の物
- <sup>7</sup> sinutalavulu[un / sa vaik apa sma  
撰抜最優物 而 行 了 赴
- <sup>8</sup> vavulu[un ti tukutuku / ?au sa pari-  
ググガン家 は テュクテュク そこで 而 互
- <sup>9</sup> putsikil apa sakamaja / saka izoa saka  
結婚 了 到頭 而 於其處 而
- <sup>10</sup> amin /  
其丈

たから[といつた]。さういつたのでラ  
グヴォリアンはバクダグダグダグダ家  
へ歸つて来て,「まあ,逆も承諾しないよ,  
子等よ」といふと,テュクテュクは「是非  
行け,伯母さん。私は賠償として白豚  
を五匹出すから」といった。ラグヴォリ  
アンは[又]ヴァググガン家へ行つ  
て,「子等は,『私は賠償として白豚を五  
匹出す』といつてゐる[といふと],ブラル  
ラルヤンは「本當に私は如何して承知  
が出来ものか」といふ。そこでラグ  
ヴォリアンは又バクダグダグダグダ家へ  
行つて,「如何しても承諾しない」といつ  
た。そこでテュクテュクは「其なら構  
はない,私が兎に角其處へ行かう」とい  
つて,芋籠に蜻蜓玉を一杯と,撰り抜の  
最上等の色々の品物を持つて,ヴァグ  
ググガン家へ行つた。而してブラ  
ルラルヤンと結婚してしまつた。其  
處で[話は]其丈です。

4. sazowaw <sa azoa-au 其處へ行かう, 現實未來, 客體  
主, 行く事。  
7. s-in-u-ñala-vulu-vulu[un 撰出した最上の物, s-in-u-  
~s-im-u- 取除ける, 取出す, ñala 一番, 最も, vu[un-

vu[un-an 優れた物, 比. vu[un-vu[un 長老。  
8. <qau sa そこで而して, q を省くは例外。



10. ti saiduidup  
イドゥイドゥン

- <sup>2</sup> izoa ti saiduidup / mano "are ta paqe-  
居 が イドゥイドゥン と ころが さあ 我等の 所
- <sup>3</sup> natsapau" / aja ?a şilinasas / patadalan  
出 草 といふ は リナサラス社人 所見付
- <sup>4</sup> ni saiduidup / "ai apa tsa vuroq sa koap /  
の イドゥイドゥン おやまあ此の竹槍 と 銃
- <sup>5</sup> ?a mato kalaluđiludun / ?a mato puđu-  
共 如 鬼茅の穂 共 如 切
- <sup>6</sup> puđulan / galo anan / ko sikisa:n anan  
株 待て 一寸 我の 所煮 一寸
- <sup>7</sup> toa pu:k / sa ko qaliđi[ad]i[avi]" maka  
な 木豆 而 我の ぎつと煮る所 後
- <sup>8</sup> kisa ti saiduidup / "ido apa la qala /  
煮 は イドゥイドゥン 来い よ よ 敵
- <sup>9</sup> tupaliu ?a mamazañilan / tuvañavu kilu-  
入口 頭目 天窓よりせよ 塞
- <sup>10</sup> puđu ?a vavuvu[upan]" / paqœtiť ti saidu-  
孔せよ は 老人等 放屁 は イドゥ
- <sup>11</sup> idup toa pu:k / sa kađamœq ?a qala  
イドゥン な 木豆 すると 所的中 は 敵
- <sup>12</sup> matsai ?a mapulat / matsidil apa valut ?a  
死 は 皆 一人 了 生存 共
- <sup>13</sup> ti şavupavan / dinamœq ?a pitsupa / vaik  
グガグァン 所的中了 は 膝頭 行
- <sup>14</sup> a sma omaq /  
へ 家
- <sup>15</sup> ?a pakaqejau mañtiz i omaq / "nakuja  
共 報知 来 へ 家 悪
- <sup>16</sup> tsu / i ka řin nasa vina[la] / ta papu-  
此は 不 共 我等は大抵 勝 我等の 所使
- <sup>17</sup> tsikilau tia iduidup kati tukutuku / sa  
結婚 等は イドゥイドゥン と テュクテュク 而

2. paqenatsap-au 現実未来,客體主,敵, maqenatsap 出草.  
3. patadal-an 位置主.  
5. <kalaluđin 鬼茅の穂, 反覆は多数を表はす.  
<puđu-puđu 切株.  
6. galo 原意, ゆつくり, そろそろ.  
si-kisa-an (敵を打つ)爲に煮る, 用具主, 敵, k-im-usa  
主體主.  
7. qaliđi[a-đi]au-i 現実現在, 客體主, 豆.

10. イドゥイドゥン

イドゥイドゥンといふ者が居た。  
ところが敵のリナサラス社の人々が  
「さあ我々首狩しよう」といつて[出掛け  
て来た]。イドゥイドゥンは其を見つ  
けて、「おや敵の槍は鬼茅の穂の様だ、銃  
は[木の]切株の様だ。[敵よ]一寸待て、私  
は一寸木豆を煮る、ほんのぎつと煮る  
のだから」といつた。木豆が煮えると、  
イドゥイドゥンは[其を食つて]さあ来  
い敵よ[私の逃げない様に]頭目は門口  
から来い、老蕃は天窓から来て孔を塞  
げ」といつた。そこでイドゥイドゥン  
は木豆の屁を放つた。すると敵は其  
に中つて皆死んでしまった。只一人  
グガグァンといふ男は[木豆が膝に  
中つたので、生残つて家へ歸つた。

[グガグァンは]遠方から大聲を揚げ  
て[其の事を]報知しながら家へ歸ると、  
[社の人々は]此はいけない、我々は迎も

9. tu-paliñ-u 命令, 主體主, tu- 處, paliñ 入口, tu-vañav-u  
9 行, vañav 天窓, ~vañav-vañav 頭門, -u 命令,  
ki-lupuť-u 命令, 主體主, ki- 自分, i-im-upuť 塞ぐ。  
10. pa-qœtiť qœtiť 屁, Mal kœntut.  
11. ka-đamœq 物に的中する, 主體主, 敵, q-in-amœq 的中  
した物, 客體主, 膝, 13 行。  
19. pa-pu-tsikil-au pa- 使役, pu-tsikil 結婚する, -au 現  
実未来, 客體主, イドゥイドゥン。

- <sup>1</sup> 'papuvaluto ?a so qentsi ?a oa malu-  
使生 は 汝の 所殺者 其まあ 百
- <sup>2</sup> taidai' / ta-jawau ti saiduidup" / sa vaik a  
人 我等の 所言 は イドゥイドゥン 而 行 共
- <sup>3</sup> masan kai ti şavupavan / mañtiz i tai  
爲 話な が グガグァン 来 へ 處
- <sup>4</sup> saiduidup / "papuvaluto ?a so qentsi /  
イドゥイドゥン 使生 は 汝の 所殺者
- <sup>5</sup> saka taidai ?a diđi ?a goñ / to so şilisi  
而 百 は 豚 は 牛 な 汝の 結納品
- <sup>6</sup> tai tukutuku" /  
處に テュクテュク
- <sup>7</sup> sa papuvaluti ?a qentsi / sa vaik apa  
すると 使生 は 所殺者 而 行 了
- <sup>8</sup> ?a putsikil / sa pañtiz i linasa[as] /  
共 結婚 而 来 へ リナサラス社
- <sup>9</sup> sa kasilim sa qœroen tia iduidup kati  
而 日暮 而 風 等は イドゥイドゥン と
- <sup>10</sup> tukutuku / mano dimadip ti saiduidup /  
テュクテュク と ころが 觸 は イドゥイドゥン
- <sup>11</sup> mano ka đumakin ?a kuťi / "toqtoqan  
と ころが 其 所見付 は 女陰 所打碎
- <sup>12</sup> toa lamlam / sa putsimiđi izoa-zoa pe-  
な 置 而 所附薬 其處に 其の
- <sup>13</sup> qai" / "ini ka peqai azoa / avan azoa  
傷 非 共 傷 其は 其物 あの
- <sup>14</sup> kuťi / ?a ta siputsiksikil" / "oa: ini ka-  
女陰は 其我等の 爲 結婚 まあ 不 共
- <sup>15</sup> kin ?a řiñlai ?a peqai azoa" / sa vaik a  
我 共 好 は 傷 其は 而 行 共

1. pa-pu-valut-o pa- 使役, pu-valut 生きる, -o 命令, 客  
體主, pa-pu-valut-i, -i 現実現在, 客體主, 13 行。  
2. <ta-aja-w-au さういふ, 客體主, aja さういふ, -au  
現実未来, 客體主, -w- 挿入

勝てない。我々はイドゥイドゥンと  
テュクテュク(社の美人)とを結婚させ  
よう。而して『汝の殺した百人の者を  
生返らせてくれ』とイドゥイドゥンに  
いはう[といつた]。而して[膝を打た  
れた]グガグァンといふ者が仲裁者と  
なつて出掛けた。[グガグァンは]イド  
ゥイドゥンの處へ来て、「汝の殺した者  
を生かせ、さうすればテュクテュクと  
(結婚させてやろう、而して)その結納も  
豚と牛と[合せて]百匹[にまけてやらう  
といつた]。

イドゥイドゥンは殺した者を生返  
らせて、結婚の爲にリナサラスへ出掛  
けて来た。すると日が暮れてイド  
ゥイドゥンとテュクテュクは寝た。と  
ころがイドゥイドゥンが局部に觸れ  
て見た時其を切傷だと思つて『其處に  
傷が有る、生薑をコツコツ叩碎いて薬  
にしてつけよ』といつた。[テュクテュ  
クは]其は傷でない、其は女陰といつて

17. toqtoq-an …の爲に叩碎け, 命令, 用具主, 傷, ř-im-  
oqtoq- 主體主。  
18. pu-tsimiđi-i 薬を附けよ, 命令, 位置主, 傷, tsimiđ 草,  
薬。

- <sup>1</sup> tomaq / masoqam apa sakamaja toa kuti  
家 嫌 了 只 な 女陰
- <sup>2</sup> ?a peqapeqai / "patsiki|u apa ?a ko  
其 傷 返せ よ は 我の
- <sup>3</sup> sini|isi ?a goq katoa d|idi / sa pavajan /  
結納 其 牛 と 豚 而 所與
- <sup>4</sup> saka sa vaik apa sakamaja tomaq / saka  
而 其儘 行 了 到頭 家 而
- <sup>5</sup> izoa saka amin /  
於其處 而 其丈

我々の結婚の爲の物だといふ。[イド  
ンは]まあ、私は好かない、其は  
傷だといつて家に歸つた。而して傷  
だといつて何處までも女陰を嫌つて  
[私の結納の牛と豚とを返せ]といつた。  
それで其を貰つて家へ歸つてしまつ  
た。[話は]其で終りです。

5. 大鳥萬社  
(pacaval)

1. ti savaculajan  
グァチュラヤン

- <sup>12</sup> tiamin ?a spaiwan tapidapida / ?a  
我等 其 バイワン人 以前 は
- <sup>13</sup> vaki<sup>v</sup>a ?a vu<sup>v</sup>oq ?a koap / na navonavoq  
矢 は 槍 は 銃 で 竹
- <sup>14</sup> ?a ina<sup>v</sup>ap / qau no maqenatsap i toazoa /  
其 所作物 而 時 出草 於 其時
- <sup>15</sup> maqaqoetsi toazoa ina<sup>v</sup>ap navonavoq / ?a  
戦争 其の 所作物で 竹 は
- <sup>16</sup> vato kijajan ?a pusa<sup>v</sup>aj /  
犬 一緒に 其 爲仲間
- <sup>17</sup> azoa tsautsau ?a padan no tapau  
彼の 人 は 名 の 家
- <sup>18</sup> paitujan / padan no tsautsau vaculajan  
バイト<sup>v</sup>チャン 名 の 人 グァチュラヤン
- <sup>19</sup> aja tapidapida / namaqaqoetsi toa lapilapi  
といふ 以前 既戦争 と 隣社
- <sup>20</sup> timajo ta po<sup>v</sup>oq ?a vato / azoa lapilapi  
彼は 一 十 は 犬 其の 隣社

1. グァチュラヤン

昔我々バイワン人は、矢も槍も銃も  
皆竹で作つた。而して出草する時は、  
その竹で作つたもので互に戦争をし  
た。犬も仲間になつて一緒に手傳つ  
た。  
昔家の名はバイト。チャン、人の名  
はグァチュラヤンといふ人があつた。  
彼は十匹の犬を連れて、隣の社へ出草  
に行つた。その隣の社は五十人もあ

3. s-in-i-|isi 結納に用ゐる物、si-|isi 結納に用ゐる物。243  
頁、5行。  
pavaj-an 與へられる所の物、用具主、結納品。

採録期：昭和七年八月、臺東廳、大武にて調査。  
口授者兼説明者：[igi] ?a da|ia[ip] (柏義禮) 51歳、男、ka-

pucajan ?a takejivan (嘉茂爾市) 40歳、男。  
12. tapida-gida ~ ta-gida 昨日。  
14. in-a<sup>v</sup>ap 作つた物、m-a<sup>v</sup>ap 作る。  
15. ma-qa-qoetsi 互に斬殺し合ふ、na-ma-qa-qoet-i 同上  
した。19行、q-oem-it-si 斬殺す。

- <sup>1</sup> ?ima po<sup>v</sup>oq ?a tsautsau / conovo ?a matsai  
五 十 其 人 大勢 は 死
- <sup>2</sup> marosa-ja mivalut / aja ?a caotsiki<sup>v</sup> ?a  
二人 了 生存 といふは 傳説
- <sup>3</sup> kimasitsoajan /  
昔から
- <sup>4</sup> azoa ti sa vaculajan apa no o<sup>v</sup>ain  
其 といふ人 グァチュラヤン だ 時 所呼
- <sup>5</sup> ?a vato / ?a mapaqaoepo / no migatsal  
は 犬 其 若集 時 出發
- <sup>6</sup> timajo i saqas ?a vato / no mavi<sup>v</sup>ad ?a  
彼が 在 先 は 犬 時 逃 が
- <sup>7</sup> qala / avan a vato ?a ?imaip / qau ti  
敵 其物 は 犬 其 追掛者 すると は
- <sup>8</sup> savaculajan vaik / ?a viniluj ?a ?ai<sup>v</sup>aijin  
グァチュラヤン 行 其 待 其 所追掛
- <sup>9</sup> apa noa vato timajo / qau azoa qala ini  
了 の 犬 其人 すると 其の 敵は 不
- <sup>10</sup> apa ka jima<sup>v</sup>im / livavau toa kasiu /  
了 其 勝 登 に 木
- <sup>11</sup> qau katšin ?a zuma azoa qala / no  
それで 所咬 は 或者 其の 敵 雖
- <sup>12</sup> livavau toa kasiu / katšin noa vato ?a  
登 に 木 所咬 の 犬 は
- <sup>13</sup> qapu|u noa kasiu / qau ini ka jima<sup>v</sup>im  
根本 の 木 それで 不 其 勝
- <sup>14</sup> ?a tsautsau / saka mali ti savaculajan ?a  
は 人 而 特には グァチュラヤン 其
- <sup>15</sup> pinanapanaq / avan-u sika pajavai ?a  
類射 其 は 故 大勢 が
- <sup>16</sup> matsai noazoa qala / maja ?a kai ?a  
死人 其の 敵の 知其 は 話 其
- <sup>17</sup> kimasitsoajan tapidapida /  
昔から 以前

つたが、大勢死んで二人だけ生残つた  
と、昔から言傳へられてゐる。  
そのグァチュラヤンといふ人は犬  
を呼ぶと、犬が集つて来る。自分が出  
發する時は、犬が先へ行く。敵が逃げ  
ると、その犬が追掛ける。するとグ  
ァチュラヤンは行つて、犬の追掛けて來  
る敵を待つてゐる。その敵は勝てな  
いで、木に登る。[登れない]一部の敵は  
犬に咬まれるし、又木に上つても、木の  
根元を犬に咬まれる。それで敵は勝  
つことが出来ない。尙其上グァチュ  
ラヤンは弓を續け様に射るので、その  
爲め敵の大部分は死んでしまつた、と  
昔からの傳説はさういつてゐる。

2. qatsa ?a zalum  
犬 其 水

- <sup>20</sup> tapidapida ?a nacaotsiki / ?a qatsa ?a  
以前 其 昔傳説 其 大 其
- <sup>21</sup> zalum / maciliv ?a kajunapan ?a izoa to  
水 崩 は 山 其在 に

2. 洪水

昔の傳説に、[或時]洪水が起つて、方々  
に在る山が[雨の爲に]土を流された。

3. k-im-a-si-tsoai-an si-tsoai-an 昔、tsoai 久、si-過去、  
-an 時。  
8. ?ai<sup>v</sup>aijin-in 客體主、其人、?im-aijin 追掛ける。  
10. j-im-a<sup>v</sup>im 勝つ、ma-ja<sup>v</sup>im 負ける、勝たれる。  
11. katš-in 客體主、敵、k-im-ats 咬む、主體主。

14. mali 異なる、特別。  
15. p-in-ana-panaq 射續ける、p-in-anq 射る、比、Mal.  
panah 弓。  
20. <na-caotsiki<sup>v</sup> na- 過去。

- <sup>1</sup> nazoa-ŋa / nika-ŋa no kajunapan tsunoq  
彼方此方了 無了も 山 崩
- <sup>2</sup> aŋa sakamaja / izoa marosa maŋkaka /  
了 ばかり 有 二人 兄弟
- <sup>3</sup> nakijajas toa lagagaz / qau azoa marosa  
既提 な ラガガス草 そこで 其の 二人は
- <sup>4</sup> nika-ŋa no kajunapan / nika-ŋa no ta-  
無了も 土地 無了も
- <sup>5</sup> pau / naqoemaogaon aŋa sakamaja / pa-  
家 頓泣 了 只 偶
- <sup>6</sup> roemik ʔa izoa qacuʔai ʔa piroŋiroq / qau  
然 共 居 蚯蚓 共 一片 そこで
- <sup>7</sup> no putsaqe ʔa paita / ita vuʔidan ʔa  
時 放尿 共 一つする 一 糞 は
- <sup>8</sup> kajunapan / qau jimumak to parejuk ʔa  
山 そこで 見附 な 鍋 共
- <sup>9</sup> tsivitsiyeq aŋa /  
缺 了
- <sup>10</sup> qau zaŋin niamaju / lakoa nika no  
そこで 所定着 彼等の 併 無 の
- <sup>11</sup> sapui / ai aŋa tiamaju / “anima ca  
火 困る 了 彼等は 何 我等の
- <sup>12</sup> sapui” aja / pa-roemik ʔa maŋciz ʔa  
火は といふ 偶然 共 来 が
- <sup>13</sup> vavaŋapan / kimatskatsu toa sapui / ʔa  
甲虫 持来 な 火 共
- <sup>14</sup> kinats ʔa pinajikits ʔa picoajaleq / qau  
所咬 は 有熱火物 共 火繩 そこで
- <sup>15</sup> azoa marusa ʔa kakrian patsunan / “ani-  
其の 二人 は 子供 所見 何
- <sup>16</sup> ma-zoa” aja / ka jimalun i cajamaju  
あれは といふ 而 到 へ 彼等の處
- <sup>17</sup> izoa sapui / qau aʔapin noa marusa / ʔa  
有 火 そこで 所取 の 二人 は
- <sup>18</sup> kinatsu noa vavaŋapan / ka aʔapin aŋa  
持来物 の 甲虫 而 所取 了
- <sup>19</sup> noazoa marusa ʔa sapui / zaoa ʔa vava-  
其の 二人の は 火 共 は 甲

それで山が崩れてなくなるばかりで  
あつた。二人の兄妹があつて[水に流  
されたが],ラガガスといふ草を捉まへ  
[て助かつ]た。彼等二人は土地も無く、  
家も無いので、只泣いてばかりゐた。  
ところが、たまたま半分に切れた蚯蚓  
がゐる、其が一度糞をすると、山の稜線  
が一つ出来た。彼等は鍋を見附けた  
が其も毀れてしまつた。

彼等は[漸く]或處に定着したが、火が  
無いので困つた。「何を我々の火にし  
ようか」といつた。たまたま一種の甲  
蟲が現れて、火の附いてゐる火繩を啜  
へて来た。二人の子供は[遠くから]見  
て[あれは何だらう]といつた。自分の  
處へ着いたので、見ると火が有つた。  
そこで二人は甲蟲の持つて来た火を  
取つた。二人が火を取ると、その甲蟲  
はプーンといつて歸つてしまつた。

3. na-ki-jajas 自分で捉へた, j-im-ajas 捉へる。  
5. na-q-cem-ao-qaon 頼りに泣いてゐた, q-cem-aon 泣く。  
7. pu-tsaqe ʔu- 動詞化, tsaqe 大便, pu-ita 一つする。  
7行, ita 一つ。  
vuʔid-an 薄錐形の山脈, vuʔi-vuʔid 圓柱形。  
8. parejuk 鍋, カチライ註 pareuk, Tag. palayok。  
9. tsivi-tsiyeq ma-tsiyeq 缺ける, 完備してゐない, 又不  
具, 247頁, 15行。

13. k-im-ats-katsu 持つて来つゝある, k-im-atsu 携へる,  
k-in-atsu 持つて来た物, 18行。  
14. k-in-ats 咬んでゐる物, k-im-ats 咬む。  
p-in-a-jikits [火な]つけた物, pa-jikits 附着させる。  
pi-coa-jaleq 火繩に…する, jaleq 火繩, coa 處, pi- 他  
動。  
17. aʔap-in 客體主, 火, m-aʔap 主體主。

- <sup>1</sup> ʔapan “viŋ” aja tsimiki / kimasi izoa  
虫 アン といふ 歸 から 共
- <sup>2</sup> toazoa / ini aŋa ka maqoevuc ʔa sapui /  
時 不 了 共 消 は 火
- <sup>3</sup> zaoa marusa miqatsa-ŋa tiamaju /  
其の 二人は 成大 了 彼等は
- <sup>4</sup> qau azoa qacuʔai avan azoa paʔidau toa  
そこで 其の 蚯蚓 共物 彼 排遣 な
- <sup>5</sup> qeipu / azoa marusa patsun toa qoma /  
土 其の 二人は 見 な 島
- <sup>6</sup> nika no vovasi / nika no vasa / nika  
無 も 薯 無 も 芋 無
- <sup>7</sup> no vaqo / vaivaik aŋa ʔa pikivavavav /  
も 業 行行 了 共 捜
- <sup>8</sup> qau jimumak to tsuvoq no vovasi  
すると 見附 な 芽 の 薯
- <sup>9</sup> katoa vasa katoa vaqo / qau avan aŋa  
と 芋 と 業 そこで 共物 だ
- <sup>10</sup> zaoa ʔa kiudalin /  
其は 共 取種
- <sup>11</sup> zaoa marusa ka miqatsa tiamaju /  
其の 二人は 共 成大 彼等は
- <sup>12</sup> “kimuda icin” aja kimi:m toa saʔasa-  
如何する 我等は といふ 捜 な 仲間
- <sup>13</sup> ʔaj / nika no patsunan ʔa tsautsau /  
無 も 所見附 は 人
- <sup>14</sup> tiamajo aŋa mapovalau ʔa maŋkaka /  
彼等 了 成夫婦 共 兄弟
- <sup>15</sup> saŋasan ʔa poalak matsiyeq / mavutsa /  
始時 共 生 不具者 盲
- <sup>16</sup> matail / ka sika masan musal naŋoaq aŋa  
片輪 而 故 成 二度目 良 了
- <sup>17</sup> ʔa pagalu no poalak / ka sika masan  
共 少 時 生 而 故 成
- <sup>18</sup> ciʔul naŋoaq aŋa / ʔa poalak ini aŋa ka  
三度目 良 了 共 生 非 了 共
- <sup>19</sup> mavutsa / ini aŋa ka matail / qau avan  
盲 非 了 共 片輪 そこで 共
- <sup>20</sup> aŋa zaoa kakilaŋan to ini ka povalau  
了 其の 所知 ことな 非 共 爲夫婦

その時から、火は消えないで[今日まで  
續いてゐる]。

彼等二人は成長した。あの蚯蚓が  
土を出したので[栽培地が出来てゐた]。  
二人はその島を見ると[栽るべき]薯も  
無ければ、芋も粟も無いので、方々捜し  
に行つた。すると薯と芋と粟の芽を  
見付けたので、二人は其を種にして栽  
ゑた。

二人は成長したが[相手がないので]、  
[我々は如何しよう]といつて相手を捜  
したが、人間は見付からなかつた。[仕  
方がないので]彼等兄妹同士で夫婦に  
なつた。ところが、初に生れた子は、體  
に傷がある者や、盲や、手足の片輪の者  
であつた。二代目に出来た子は稍良  
かつたが、三代目には、盲でも手足の片  
輪でもない、良い子が生れた。そんな  
事があつたので、兄妹は夫婦になるも

7. vai-vaik 方々に行く, vaik 行。  
pi-ki-vavavav ぶらぶら歩いて捜す, ki-vavavav 遊ぶ。  
逍遙する, pi- 他動。  
13. patsun-an 位置主, 人, patsun 見る。  
15. saŋas-an 一番前の時, -an 時。  
16. ma-tail 體の或る部分が缺けてゐる者。  
16. ma-tail 片目, 片手など, <tail 片方。

si-ka 二度目に成つた故に良くなつたといふ意, si- 理  
由, ka その事。  
musa-i-rusa 二, cilu-i-cilu 三 18行, -i IN -n.  
比, Tag. min-sa-n 一度。  
20. ka-kilaŋ-an 知つてゐる事, 知識, k-im-ilag 知る, ka-  
…-an 抽象名詞。

<sup>1</sup> toa kaka / masapa<sup>isi</sup> / aja-<sup>pa</sup> <sup>2</sup>a caotsi-  
 な 兄弟 成不吉 さういふ了は 傳  
<sup>2</sup> ki:  
 説

のではない、不吉になるといふことが  
 判つた、と傳説はさういつてゐる。

3. malivoq  
 五年祭

<sup>3</sup> tiamin <sup>2</sup>a spaiwan no <sup>5</sup>ima tsavil <sup>2</sup>a  
 我等は 其 バイワン人 時 五 年 其  
<sup>6</sup> malivoq / <sup>2</sup>a patagil ma<sup>ap</sup> toa qapu<sup>uq</sup>  
 行五年祭 其 初 作 な 球  
<sup>7</sup> katoa vu<sup>oq</sup> / qau ita qelas <sup>2</sup>a kipa<sup>ak</sup> /  
 と 槍 そこで一 月 は 練習  
<sup>8</sup> no ita-<sup>pa</sup> <sup>2</sup>a qelas sma coa mamazapilan /  
 時 一了は 月 赴 處 頭目  
<sup>9</sup> <sup>2</sup>a malivoq katsuin <sup>2</sup>a vu<sup>oq</sup> katoa  
 其 行五年祭 所携 は 槍 と  
<sup>10</sup> qapu<sup>uq</sup> / qau sman tsakar i <sup>5</sup>ikuz toa  
 球 そこで 作 腰掛臺 於 後 の  
<sup>11</sup> tsatsaval / pico <sup>2</sup>a qadau i <sup>5</sup>ikuz toa  
 社門 七 は 日 在 後 の  
<sup>12</sup> tsatsaval / qau sma cai qajaw-<sup>apa</sup> toa  
 社門 そこで 赴 處 前 のだ の  
<sup>13</sup> tsatsaval / ma<sup>ap</sup> tauta toa tsakar toazoa  
 社門 作 又 な 腰掛臺 其の  
<sup>14</sup> qadau / <sup>2</sup>a vavajan smani qavai smani  
 日に は 女 作 餅を 作  
<sup>15</sup> vawa / no ci<sup>o</sup> <sup>apa</sup> <sup>2</sup>a qadau zimiazian  
 酒を 時 三 だ は 日 續踊  
<sup>16</sup> <sup>2</sup>a rusa <sup>2</sup>a qadau / kin vawa / qoemapu<sup>u</sup>  
 其 二 は 日 飲 酒 突  
<sup>17</sup> pu<sup>uq</sup> <sup>apa</sup> / i ce qajau i tsatsaval / avan  
 球 のだ て 處 前 の 社門 其  
<sup>18</sup> <sup>apa</sup> toazoa qoemaqevu toa vuvu / qau  
 だ 其時に 呼 な 祖先 そこで  
<sup>19</sup> pakan <sup>apa</sup> toa qavai toa vawa / siminaj-  
 歌 のだ な 餅 を 酒 歌ふ  
<sup>20</sup> <sup>apa</sup> mapulat / avan a lapilapi qenalan <sup>2</sup>a  
 のだ 皆 其物 其 隣 社 其

3. 五年祭

我々バイワンは五年毎に五年祭を  
 する。初め木の皮の球と竹槍とを作  
 つて、一ヶ月間(球を突く)練習をする。  
 一ヶ月が終ると、頭目の處へ槍と球と  
 を持つて行つて五年祭をする。而し  
 て社門の後に腰掛臺を作つて、七日間  
 社門の後に居る。それから社門の前  
 の處へ行つて、其日に又腰掛臺を作る。  
 女は餅と酒とを作つて、三日の内二日  
 間踊り續ける。而して社門の前で酒  
 を飲んだり、球突をしたりする。其時  
 祖先を呼んで、餅と酒とを獻じて、皆が  
 歌ふ。歌ふ時は、隣の社の頭目と勢力  
 者の名を唱へる。其は昔から始めた  
 ものだ。

1. masa-pa<sup>isi</sup> <pa<sup>isi</sup> 不吉, masa 成る。

6. qapu<sup>uq</sup> 木の皮で作つた球。

10. <sup>5</sup>ikuz IN likud.

14. s-m-an-i 語尾の i は音便。

15. z-im-ia-zian 踊り續ける, z-im-ian 踊る。

16. q-cem-apu<sup>u</sup>-pu<sup>uq</sup> 球を投げては突き、投げては突き  
 する, <q-cemapu<sup>uq</sup>, <qapu<sup>uq</sup> 球, 6行。

17. ce qajau <ca-i qajau, 12行。

19. pa-kan 食はせる, si-pa-kan 食はせる材料, 祭品, 249  
 頁, 14 行。

<sup>1</sup> mamazapilan katoa poqonc <sup>2</sup>a tsautsau /  
 頭目 と 勢力者 其 人  
<sup>2</sup> <sup>2</sup>a sipacanima <sup>2</sup>a padan / no siminai /  
 其 所唱 は 名 時 歌  
<sup>3</sup> kimasitsoai azoa <sup>2</sup>a pinatagil /  
 昔から 其は 其 所始了  
<sup>4</sup> no <sup>5</sup>ima <sup>2</sup>a qadau qoematsuvuq vaik a  
 時 五 は 日 終 行 其  
<sup>5</sup> qoemalup / no mapciz <sup>2</sup>a naqoemalup /  
 狩 時 歸 其 既狩  
<sup>6</sup> <sup>2</sup>a tsono noa vu<sup>oq</sup> a<sup>apin</sup> / qau vaik a  
 は 穂 の 槍 所作 それから 行 其  
<sup>7</sup> sma icoa vuto <sup>2</sup>a maqenatsap / no qoemtsi  
 赴 處 敵 其 出草 時 斬  
<sup>8</sup> katsuin <sup>2</sup>a qo<sup>o</sup> / qau ma<sup>iva</sup> / no  
 所持來 は 首 そこで 喜 時  
<sup>9</sup> mapciz i comaq maqoepo / qau sman  
 歸 へ 内 集 そこで 爲(祭)  
<sup>10</sup> qala / sma coa mamazapilan / qau zimian  
 敵 赴 處 頭目 そこで 踊  
<sup>11</sup> napaq <sup>2</sup>a ca tsavil / <sup>2</sup>a oqalai vavajan  
 良 は 我等の 年 は 男 女  
<sup>12</sup> kakrian mapulat maqoepo sma coa ma-  
 子供 皆 集 赴 處  
<sup>13</sup> mazapilan / <sup>2</sup>a naqoemtsi <sup>2</sup>a tsautsau  
 頭目 は 既斬 其 人  
<sup>14</sup> kimatsu toa riri / to sipakan toa qentsi  
 持來 な 豚 な 祭品 に 所斬者  
<sup>15</sup> qau zimiazian / saka qoemaqaoqao <sup>2</sup>a  
 そこで 續踊 而 歡呼 其  
<sup>16</sup> ma<sup>iva</sup>iva toa qentsian / <sup>2</sup>a qo<sup>o</sup> noa  
 甚喜 な 所斬 は 首 の  
<sup>17</sup> qentsi pinivitsikadan toa katsasavan /  
 所斬者 所置中央 の 庭  
<sup>18</sup> <sup>2</sup>a pinivavau toa va<sup>apa</sup> / qau oqalai  
 其 所置上 の 臼 そこで 男  
<sup>19</sup> vavajan kakrian kipa<sup>ipil</sup> <sup>2</sup>a zimian /  
 女 子供 作圓陣 其 踊  
<sup>20</sup> no <sup>5</sup>ima <sup>2</sup>a qadau poamin <sup>apa</sup> / sica-<sup>pa</sup>  
 時 五 は 日 終 了 だ

五日が終ると狩に行く。狩から歸  
 ると、竹槍の穂先を作つて、敵の處へ出  
 草に行く。首を斬ると首を持歸つて  
 喜ぶ。内へ歸ると集つて頭目の處へ  
 行つて敵の首を祭る。而して我々今  
 年は良いようにと(斬つて)踊る。男も  
 女も子供も亦皆頭目の處へ集る。殺  
 した人は殺された人に供へる爲に、豚  
 を持つて來て踊る。而してオーオー  
 と歡び叫んで首を取つたことを喜ぶ。  
 殺された者の首は庭の真中に臼を逆  
 にしてその上におく。而して男も女  
 も子供も圓陣を作つてぐるぐる廻つ  
 て踊る。五日が満ちると、我々の敵の  
 首萬歳といつて祭を終る。

2. si-pacanima 唱へる材料, 用具, 主, 名。

14. q-en-tsi 新つた物, 客體主, 人, q-en-tsi-an 新つた事,  
 16行, na-q-cem-tsi 新つた人, 主體主, 13行, q-cem-tsi  
 斬る人, 主體主。

15. q-cem-ao-qao-qao オーオーといつて歡び喚ぶ。

17. p-in-i-vitsikadan 眞中に置いた物, p-in-i-vavau 上に  
 置いた物, 18行, p-in-i- 過去 <pi- 其處へ…する。

19. ki-pa-<sup>ipil</sup>-<sup>ipil</sup> 自分達で圓陣を作る, <sup>im</sup>-<sup>igil</sup> 圓  
 ち, ki- 自分。

20. po-amin 終へる, amin …だけ, 皆,  
 si-ca-<sup>pa</sup> qala-qala 万歳と譯せり, 敵は我等の爲にやら  
 れたといふ意 (?), qala 敵, ca 我等の (?), si- 用具,  
 原因の接頭辭 (?).

<sup>1</sup> qalaqala / qau poamin apa /  
敵は そこで 終 のだ

6. 大麻里社  
(caovali)

1. caci  
鳥鷺

- <sup>2</sup> izoa la ma[usa markaka / qau vai? a  
有 等 二人 兄弟 すると行 は
- <sup>3</sup> cavu[up ?a sma cacán / qau ajoq[en i  
年長者 共 赴 水汲場 すると所殘 に
- <sup>4</sup> omaq ?a calala? a oqalai / qau ma[ci? a  
内 は 年少者 共 男 すると歸 は
- <sup>5</sup> cavu[up ?asi cacán / ni?a kaka / ina[ap  
年長者 から 水汲場 無 弟 所取
- <sup>6</sup> na qala ma[au / qau q[emaon ?a cavu-  
の 敵 失 そこで 泣 は 年長
- <sup>7</sup> [up / "pa[amol / ?a sma ino ?a kaka"  
者 困 共 赴 何處 は 弟
- <sup>8</sup> vai? a ?imim sa qaoq[on /  
行 共 捜 而 泣いてゐる
- <sup>9</sup> qau tivuta ?a caci ?i[iti? ta ?asiu /  
すると 來 が 鳥鷺 止 に 木
- <sup>10</sup> qau "caci caci / pagalugal: ?a q[oe-  
而 チャチュー チャチュー 待て 共
- <sup>11</sup> maon / pazi[ul i a[im ta kalaulavan / ?u  
泣 所與負 我は な 眞の油 我的
- <sup>12</sup> siki[ilkaulau ?a so palikakain / i curoza-  
所作來 は 汝の 弟 在 チュロザ
- <sup>13</sup> qozaqoin" / qau pavain ta q[uv / qau ?a  
コザコイン そこで 所與 な 油 すると共

採録期：昭和七年八月、臺東廳、大麻里社にて調査。  
口授者：tsivuluan ?a toagado 50歳、男、qacincij ?a toa-  
gado (虎松武之助) 21歳、男。  
説明者：tiansu (羅義斌、父は本島人) 18歳、男。  
5. caci 鳥鷺、台灣鳥ともいふ。  
6. vai? <vaik 本社の語は q を有し、k を喉頭破音? に轉  
すること内文社に同じ。  
7. ca-vu[up 年長者、vu[up 長者、ca-lala? 年少者、8 行。  
la-alak <ala-alak 幼、ca-...より命。  
ajoq-cen 客體主、im-ajoq 後に殘す。  
9. kaka 兄又は弟、比、Mal. kaka 兄。  
in-a[ap 客體主、im-alap 取る。

1. 鳥鷺

二人の兄弟が有つた。姉は水汲場  
へ[水を汲みに]行つた。而して弟を内  
に残して置いた。姉が水汲場から歸  
つて見ると弟は居ない、敵にとられて  
居なくなつたのだ。そこで姉は泣き  
出した。「困つた。弟は何處へ行つた  
のだらう」といつて、泣きながら捜しに  
行つた。

すると鳥鷺が來て木に止まつた。  
而して「ヂャチュー、ヂャチュー、泣くのは  
待て、賃を呉れ、本當の油を。チュロザ  
コザコインに居る、お前の弟を連れて  
來てやらう」といつて唄つた。それで

- 14. <ki-jikits 自分で止まる、pa-jikits 附ける、附着する。  
Tag, pang-dikit 貼附ける。
- 15. pagalu-galu-u 原意、ゆつくりせよの意、命令、主體主、  
pagalu ゆつくり。
- 16. pa-zilul-i 命令、位置主、我、pa-zilul 賃を與へる、主  
體主、z-in-[ilul 與へた賃銀。  
ka-laulav-an <laulau 油、ka-...-an 眞の物、比、ka-  
gun-an 眞の牛、黄牛、gun 水牛。
- 17. si-ki[ilkaulau 使に行つて伴れて來る者、用具主。  
cu-ro-zaqo-zaqo-in 木櫛子の木の多くある處、cu- 處、  
ro- 多い、zaqo 木櫛子。

- <sup>1</sup> ma?a q[uv / qau sinai / "caci caci  
後 餘油 そこで 眼 チャチュー チャチュー
- <sup>2</sup> imazamazau / ?u siki[ilkaulau ?a so pali-  
此處に居れ 我的 所作來 は 汝の 弟
- <sup>3</sup> kakain / i curozaqozaqoin" / qau vai? a  
在 チュロザコザコイン そこで 行 共
- <sup>4</sup> ma[ap ta kaka aza caci / tivuta ?a  
取 な 弟 共の 鳥鷺は 來 は
- <sup>5</sup> kaka ?inats?atsu na caci / qau avanan-o  
弟 所作 の 鳥鷺 それで 共は
- <sup>6</sup> si?ilap ta caci to mazapilan / qau ini  
知る譯 な 鳥鷺 ことな 偉者 それで 非
- <sup>7</sup> ?a q[etsiq[etsiin na paiwan ?a caci /  
共 所殺 の バイワン は 鳥鷺

姉が油を與へた。すると[鳥鷺は]油を  
喰つてから、「ヂャチュー、ヂャチュー、此處  
に居れ。チュロザコザコインに居る、  
お前の弟を連れて來てやらう」といつ  
て唄つた。而して鳥鷺は弟を連れに  
行つた。すると[間もなく]弟は鳥鷺に  
連れられて歸つて來た。それで鳥鷺  
はえらい者であることが判つたから、  
バイワンは鳥鷺を殺さないのだ。

2. qaruqaruman ata d[ail  
穿山甲 と 猿

2. 穿山甲と猿

- <sup>12</sup> izoa qaruqaruman ata d[ail ?a mariqa-  
居 穿山甲 と 猿 共 友達同士
- <sup>13</sup> [i / aza d[ail "are ?asivi q[aijan" ajain ?a  
共の 猿は さあ 所探薪 友よ 所言 は
- <sup>14</sup> qaruqaruman / qau vai? a ?i?asiu / qau  
穿山甲 そこで 行 共 探薪 すると
- <sup>15</sup> matsaqo aravats ?a d[ail ?a ?i?asiu / aza  
上手 共 は 猿 共 探薪 共の
- <sup>16</sup> qaruqaruman ini ?a matsaqo ?a ?i?asiu /  
穿山甲 非 共 上手 共 探薪
- <sup>17</sup> "ca kudain no ?i?asiu icin" / aja ?a  
我等の 所知何 時 探薪 我等は といふ が
- <sup>18</sup> qaruqaruman toa d[ail ?a ?ivadaq / "ca  
穿山甲 に 猿 共 問 我等の
- <sup>19</sup> ?i[udajan / qau matsaqo icin ?a ?i?asiu" /  
所寝轉 すると 上手 我等は 共 探薪
- <sup>20</sup> ajain noa d[ail / qau ?i[udajan noa qaru-  
所言 の 猿 そこで 所寝轉 の 穿
- <sup>21</sup> qaruman ?a ma?apavavau ?a laviavia /  
山甲 共 から 上面 共 穿原

穿山甲と猿とが居て互に友達同士  
であつた。[或時]猿は穿山甲に、「友よ、さ  
あ薪を探りに行かう」といつて[一緒に]  
薪を探りに行つた。ところが猿は薪  
をとるのが大變上手であつたが、穿山  
甲は薪を探るのが上手でなかつた。  
それで穿山甲は猿に、「薪を探る時、我々  
は如何するのか」と問うた。すると猿  
は、「我々は寝て轉ぶのだ。さうすれば  
うまくとれる」といつた。そこで、穿山

- 5. <k-in-ats-katsu 連れて來た者、客體主、k-im-atsu 主  
體主、携へる、伴ふ。
- 6. ma-za-zapilan 偉い者、又頭目の意。

- 11. qar-qarum-an <qarum 穿山甲、カチライ社、qaom.
- 13. 14. ?asivi <kasiu-i 現實來來、客體主、薪、?i?asiu  
<ki-kasiu 薪を探る。
- 21. pa-vavau 上面、vavau 上。

- <sup>1</sup> ini ?a pucaomal / qau vai? i umaq  
非 其 告の通 ところで 行 へ 内
- <sup>2</sup> tiamaju /  
彼等は
- <sup>4</sup> ?a malia "are ?iga:ŋ icin" / aja ?a qa-  
は 翌朝 さあ 取蟹 我等はといふは
- <sup>5</sup> ruqaruman toa dajil / qau vai? a ?iga:ŋ /  
穿山甲 に 猿 ところで 行 共 取蟹
- <sup>6</sup> qau ini ?a matsaŋo ?a ?iga:ŋ ?a dajil /  
すると 非 共 上手 共 取蟹 は 猿
- <sup>7</sup> "ca kudain / no ?iga:ŋ icin" aja ?a dajil /  
我等の 所知何 時 取蟹 我等はといふが 猿
- <sup>8</sup> ?a ?ivadaŋ toa qaruqaruman / qau "ca  
共 問 に 穿山甲 すると 我等の
- <sup>9</sup> coqcoqœn ?a ca [ima] ajain noa qaruqa-  
所叩 は 我等の手 所言 の 穿
- <sup>10</sup> ruman / ?a cimumal / qau coqcoqœn ?a  
山甲 共 告 ところで 所叩 は
- <sup>11</sup> [ima noa dajil / la?oa saqco sa?amaja / ini  
手 の 猿 併 痛 只 不
- <sup>12</sup> ?a matsaŋo ?a ?iga:ŋ ?a dajil /  
共 上手 共 取蟹 は 猿
- <sup>13</sup> qau "timapi-cin toa vasa" aja tiamaju-  
すると 焼 我等はを 芋 といふ 彼等
- <sup>14</sup> ju / qau timapi / pinulat ?a tinapi / are  
は ところで 焼 皆 共 所焼 さあ
- <sup>15</sup> mavanau icin ?a sma janau" / aja vai? a  
水浴 我等は共 赴 池 といふ 行 共
- <sup>16</sup> mavanau / qau "pari?idi?idipi / tima ?a  
水浴 すると 互に潜水 誰 は
- <sup>17</sup> tsoatsoai" aja tiamaju / "no maitazoa  
久 といふ 彼等は 若 如其
- <sup>18</sup> tia?in aj-anan" aja ?a dajil / qau [imidip  
我 こそ一す といふが 猿 ところで 潜
- <sup>19</sup> ?a dajil / ini ?a tsoatsoai ci?atsawan /  
が 猿 不 共 久 出外

4. malia 夜明。  
?iga:ŋ <ki-ga:ŋ ga:ŋ 蟹, ki- 捕る。  
9. coqcoqœn こつこつ叩く, 客體主, 手, c-im-oqcoq 主  
體主。  
18. pari?idi?idipi 互に潜水をしよう, 現實未來, 客體主。

甲は茅の上へ上つて寝て轉んだが、教  
はつた通りにならなかつた。それで  
彼等は内へ歸つた。

翌朝になると、穿山甲は猿に「さあ我  
々は蟹を取りに行かう」といつて二人  
は蟹を取りに行つた。ところが猿は  
蟹を取るのが上手でなかつた。それ  
で猿は「蟹を取る時、我々は如何するの  
か」といつて、穿山甲に問うた。すると  
穿山甲は「我々は自分の手を石でこつ  
こつ叩くのだ」といつて教へた。そこ  
で猿は自分の手を石でこつこつ叩い  
たが、痛いばかりで、蟹取は上手になら  
なかつた。

すると彼等は又「我々は芋を焼(灰の  
中で)かう」といつて芋を焼いた。皆焼  
けた。[穿山甲は芋を食ふ前に]「さあ我  
々は池へ行つて水浴をしよう」といつ  
て二人は水浴しに行つた。而して彼  
等は「潜り合をしよう、誰が永く潜るか」  
といつた。すると猿は「其なら私が一

水 [im-idip 水を潜る。20行。pari- 互に。  
20. <ti-a?in ai anan 私こそ一す。  
21. ci-katsawan <katsawan 外, ci 出る。比。ci-qala  
出て他の社へ行く。

- <sup>1</sup> "tia?in aj-apa" aja qaruqaruman / qau  
我 こそだよ といふ 穿山甲は ところで
- <sup>2</sup> [imidip ?a qaruqaruman / sa ?mali ?a  
潜 が 穿山甲 而 掘 共
- <sup>3</sup> lita[aj toa qepo / pajalun toa tinapi  
中へ行 の 土地 到着 に 焼いた物
- <sup>4</sup> niamaju / qau ?anin ?a ?uða?uða[an ?a  
彼等の ところで 所食 は 太いの 共
- <sup>5</sup> tinapi / qau ci?atsawan ?a qaruqaruman /  
焼いた物 すると 出外 は 穿山甲
- <sup>6</sup> qau "ca ?anau ?a ca tinapi" aja / suta-  
そこで 我等の 所食 は 我等の 所焼物 といふ 取出自
- <sup>7</sup> pian / qau ni?a-pa ?a ?uða?uða[an / qau  
焼處 すると 無了 は 太いの ところで
- <sup>8</sup> ?anin apa azoa ?idipidjan /  
所食 了 其の 小いの
- <sup>12</sup> ?a ma?a?an / "putsaqei-cin / to ?i tima  
共 食後 放屎 我等 爲 誰
- <sup>13</sup> ?uða?uða[an ?a tsaqei / azoa ca?uða[an ?a  
太 共 大便 其の より太い は
- <sup>14</sup> tsaqei / avan no na?iman toa tinapi ?a  
大便 共者 は 食つた者 を 所焼 共
- <sup>15</sup> ?uða?uða[an" aja tiamaju ?a ma?usa /  
太いの といふ 彼等は 共 二人
- <sup>16</sup> qau putsaqei tiamaju / ca?uða[an ?a tsaqei  
そこで 放屎 彼等は より太い は 大便
- <sup>17</sup> noa qaruqaruman / qau vitsiqœ[lin ?a  
の 穿山甲 ところで 所絞首 は
- <sup>18</sup> qaruqaruman noa dajil /  
穿山甲 の 猿
- <sup>19</sup> qau "palalamai" aja tiamaju ?a mala-  
そこで 互焼山 といふ 彼等は 共 相談

3. <k-im-aji 掘る, Mal. gali.  
3. t-in-api 焼いた物, 芋. t-im-api 芋など灰の中で焼く。  
252頁, 15行。比。註6。  
4. <kan-in 客體主: <kan-au 現實未來, 客體主, 6行:  
<na-k-im-an 食つた者, 14行: <k-im-a-kan 食つて  
ゐる者, 254頁, 8行: <k-in-an 食つてしまつた物, 客  
體主, 254頁, 15行。比。254頁, 註6。  
<kud-a-kud[an 太いの: <ki-li-ki-li-an 小いの。  
8行。

寸先にやろうといつて潜つたが、間も  
無く出て來た。そこで穿山甲は「私の  
番だ」といつて潜り込んだ。すると穿  
山甲は土の中を掘つて行つて、彼等が  
先に芋を焼いた處へ行つた。而して  
焼芋の太いのを食つてから、外へ出て  
來た。而して[猿に]「我々の焼いた芋を  
食はう」といつて[先に焼いた處へ行つ  
て]芋を灰から出した。すると太いの  
は皆無くなつてゐた。それで彼等は  
その小さなのを食つた。

食つてしまふと、彼等二人は「我々は  
大便をして見よう。誰の方が太い大  
便をするか。太い大便をした者こそ  
は太い焼芋を食つた者だ」といつた。  
而して彼等が大便をすると、穿山甲の  
が太かつたので、猿は穿山甲の首を絞  
めた。

彼等は又[二人が隠れんぼうをして]

6. su-tapi-an 焼いた處から取出す, tapi-an 焼く處。比  
註3. su- ~ s-im-u- 取出す, 取除く。  
12. <maka-kan 食後, maka-...してから, kan 食ふ。  
<to ki tima 誰だらう【といふことを知る】爲に。  
17. vitsiqœ[lin 客體主, 穿山甲, v-in-tsiqœ[lin 要をしめる,  
主體主。  
19. pa-la-lama-i 互に山野を焼き合はう, 現實未來, 客體主,  
lama-in 焼く, 客體主, 254頁, 2行, l-im-ama 主體主。

- <sup>1</sup> var / qau "tia'in ai isapas" aja ti qaruqa-  
すると 我こそ先にといふが 穿山甲
- <sup>2</sup> ruman / qau lamain ti qaruqaruman ini  
そこで 所焼 は 穿山甲 不
- <sup>3</sup> ?a matsai / "tia'in apa" aja ?a dail / qau  
其 死 我 だといふが 猿 すると
- <sup>4</sup> livavau ta ?asiu / ?a lamain matsai ?a  
登 に 木 其 所焼 死 は
- <sup>5</sup> dail / ?a matsai ?a dail / ?icin ?a qalitsi  
猿 其 死 は 猿 所切取 は 男根
- <sup>6</sup> noa dail / sa?a mivalut ?a dail / sipa'an  
の 猿 而 生返 は 猿 所使食
- <sup>7</sup> ni qaruqaruman toa dail azoa qalitsi /  
の 穿山甲 に 猿 其の 男根は
- <sup>8</sup> qau "ima'an ti dail toa qalitsi nimaju"  
すると 食つてある は 猿 を 男根 自分の
- <sup>9</sup> siminasinai ti qaruqaruman / "anima-  
眼つてある は 穿山甲 何
- <sup>10</sup> nima-ja sun" aja ?a dail / ?idavadavai  
といふ 汝は といふが 猿 話してある
- <sup>11</sup> a'in toa sicava'iluk / toa ?u kinipa-  
我は と チェヴァリルクの人 爲 我の 分
- <sup>12</sup> ?alan" aja ti qaruqaruman / sauniuni  
前 といふは 穿山甲 後に
- <sup>13</sup> "au pai patsuni ?a nisun" / ajain ?a dail  
よしきあ 所見 は 汝の物 所言 は 猿
- <sup>14</sup> noa qaruqaruman / qau qajamin ?a  
の 穿山甲 そこで 所食 は
- <sup>15</sup> nimaju na dail ni?a-?a ?a qalitsi / ?inan  
自分の物の 猿 無了 は 男根 所食
- <sup>16</sup> apa ?a nimaju  
了 は 自分の物

3. ti vaļuiaiu  
ヴァルリアウ

- 5. <kic-in 客體主, 男根, k-im-ic 肉など切る。
- 6. <sipa-kan 食はせる爲の材料, 用具主, 男根, pa-kan 食はせる, 主體主。
- 10. <ki-dava-davai 自分が話してある。
- 11. <k-in-i-pajal-an 自分で分けてもらった物, p-in-ajal

互に山を焼かう」といつて相談した。  
穿山甲は「私が先に[隠れよう]」といつて  
[草原にはひつた。猿は]穿山甲を焼い  
たが死ななかつた。[今度は]私の番だ  
といつて、猿は木に登つたので、猿は焼  
かれて死んだ。猿が死んだので、[穿山  
甲は]猿の男根を切取つた。それから  
猿は又生返つた。穿山甲は、その男根  
を猿に食はせた。[猿は其とは知らず  
食つてゐると]穿山甲は、猿が自分の男  
根を食つてゐる」といつて唄つてゐた。  
猿は、「お前は何をいつてゐるのだ」とい  
ふと、穿山甲は、「私は肉を分けてもらつ  
たので、今チェヴァリルクの人と話し  
てゐるのだ」といつて[ごまかした]。後  
になつて穿山甲は猿に、「さあお前の一  
物を見ろ」といつた。そこで猿が自分  
の物を調べて見ると男根は無かつた。  
自分の物は食つてしまつたのであつ  
た。

3. ヴァルリアウ

- 分配する, <k-in-i- 自分…した, -an 其の物。
- 12. sauni-uni <sauni 後, 其後。
- 13. patsun-i 命令, 位置主。

- <sup>1</sup> izoa ti vaļuiaiu / ni?a no ?ina / ni?a  
居 が ヴァルリアウ 無 し 母 無
- <sup>2</sup> no ?ama / ni?a no kaka / izoa-za ramaliq  
も 父 無 し 兄弟 有 其の 老人
- <sup>3</sup> ?a vavajan / alapin ti vaļuiaiu to vuvu /  
其 女 所取 は ヴァルリアウとして 孫
- <sup>4</sup> no vai? i vavoa / si?im toa na?oja?oja  
時 行 へ 島 所獲 を 悪い所
- <sup>5</sup> noa qaleqaji / no sma vavoa itaita qadau /  
の 他の人々 時 行 島 只一 日
- <sup>6</sup> la?oa no pacara ?ivaqo apa / calajiajavan  
併 時 將 採葉 には 最多物
- <sup>7</sup> ?a vaqo noaza marvuvu / no qoemalup /  
は 粟 其の 祖母等の 時 狩
- <sup>8</sup> si?im toa tsiva toa qoelu na alaj noa  
所獲 を 崖 を 獸踏 の 山猫 の
- <sup>9</sup> qaleqaji / la?oa no masi'im / sa?a ore  
他の人々 併 時 日暮 而 將
- <sup>10</sup> sma omaq apa ti vaļuiaiu / ?a [iaiu ?a  
赴 家 には が ヴァルリアウ 其多 は
- <sup>11</sup> ina[ap / aitsua ti vaļuiaiu avan apa no  
所捕物 此の は ヴァルリアウ 其者 だ は
- <sup>12</sup> ?a?iloanan noa paiwan / no timulu toa  
手本 の バイワン 時 教 に
- <sup>13</sup> ala? /  
子

ヴァルリアウといふ人があつた。  
母も無く、父も無く、兄弟も無かつた。  
[或る]老女があつて、ヴァルリアウを孫  
として引取つて[養つた]。島へ行く時  
は、人々が[特に土地の]悪い處を捜して  
當がつた。彼が島へ行くのは只一日  
であつたが、併し粟の收穫の時は、其の  
祖母達(祖母と孫)の粟が一番多かつた。  
狩する時は、人々が崖や山猫の通る路  
などを選んで當がつた。併し日暮に  
なつてヴァルリアウが歸らうとする  
時は、ヴァルリアウは獲物を澤山[持つ  
て歸つた]。此のヴァルリアウはバイ  
ワンがその子を教へる時に、手本とす  
る人である。

7. 内 社  
(cala?avus)

- 1. pulalulalujan ati  
ブラルヤルヤン と  
cukucuku  
チュクチュク

- 1. ブラルヤルヤンと  
チュクチュク

- 4. <si-ki:m 彼の爲に獲す, 用具主, 子供, k-im-i:m 主體主。
- 6. pa-cara 將に…せんとする, cara 大概, 大概。
- <ki-vaqo 粟を採る, vaqo 粟。
- cala-[ia-]jav-an <liau 多い, cala- 最も, -an 其の物。
- 12. <ka-kiloan-an 眞似すべき人, 物, 手本, ki-loan 自分で眞似する。

採録期: 昭和七年七月高雄州潮州郡内社にて調査。  
口授者: a[utsagal ?a [ovaniau (顔目), 60歳, 男, tsereguts  
?a azajoan, 60歳, 男。  
説明者: omada ?a alodo 18歳, 女。  
補助者: 警部補, 山本寅喜。

- <sup>1</sup> izoa i makazajazaja aza ti cukucuku /  
居に マカザヤザヤ あの は チュクチュク
- <sup>2</sup> pitsikil cai kolilululu poalak cai pulalu-  
結婚 と コルルルル 生子 な ブラル
- <sup>3</sup> lalujan / i maka[au]auz ti moaka:kai /  
ラルヤン 在 マカラウラウズ は モアカーカイ
- <sup>4</sup> pitsikil cai pulalulalujan poalak cai  
結婚 と ブラルラルヤン 生子 な
- <sup>5</sup> cukucuku /  
チュクチュク
- <sup>9</sup> vaik ti pulalulalujan ?a ?isuju cai  
行 は ブラルラルヤン 共 訪女 な
- <sup>10</sup> cukucuku / sipa?aci[ul] vaik a tsimiki[  
チュクチュク 第三日 行 共 歸
- <sup>11</sup> sma makazajazaja / "sau vupavan / ?iva-  
社 マカザヤザヤ 行け ヲガヅェンよ 問
- <sup>12</sup> da?i to ?ima?uda?uda ?a si[isi] "awa  
へ ことな 取幾許 は 結婚品 何故
- <sup>13</sup> izua-za pucaomaomal aza [isian to ma-  
在共處 其の 相違 其の 結婚品として
- <sup>14</sup> mazapilan / taidai za taidai apa / pusili-  
頭目 一百 共は 一百 だ 加
- <sup>15</sup> vavau to tapu[ok(u)] / "anima-ja vuvu i  
上 な 十 何といふ 伯母さんよ
- <sup>16</sup> vupavan / "awa izua-za pucaomaomal aza  
ウガヅェン 何故 在共處 其の 相違 共
- <sup>17</sup> [isian to mamazapilan / taidai za taidai  
結婚品として 頭目 一百 共は 一百
- <sup>18</sup> apa / pusilivavau to tapu[ok(u)] aja sa?  
た 加上 な 十 といふ

9. ?i-suju 青年が女の處へ遊に行くこと、<ki-suju. 本社  
の語は q と k を省略するを常とす、cukucuku (人  
名)、makazaja-zaja (地名)、po-alak (子を生む) 等構  
に k を用ゐることあれども、此は近隣の社の影響に  
して例外なり。

10. si-pa?a-ci[u]-l 第三日、<si-pa-ka-ci[u]-l<ci[u] 三。

11. sa-u 行け、s-m-a 行く、主體主。  
?i-vada?i<ki-vadaq-i 其人に問へ、客體主、人。

12. ?ima?uda?uda<ki-ma-kuda-kuda <makudakuda 何  
程、ki 取る。  
si-[isi] 一般結婚品、[isi-an 現貨結婚品、13行。

マカザヤザヤ社にチュクチュク[と  
いふ女]が居た。コルルルルと結婚し  
てブラルラルヤン[といふ男の子]を生  
んだ。又マカラウラウズ社にモアカ  
ーカイ[といふ女]が居た。ブラルラル  
ヤン(前のと別人)と結婚してチュクチ  
ュク(前のと別人[といふ女の子]を生  
んだ。

ブラルラルヤンはチュクチュクの  
處へイスヂュ(若い男が若い女を訪問  
して交際すること)しに行つた。三日  
間滞在してマカザヤザヤへ歸つて行  
つた。[而して父母に話すと、父母は賛  
成して、結婚を申込むことになつた。  
そこで父母は媒人のウガヅェンに向  
つて、]ウガヅェンよ、結婚金は幾許要る  
か、行つて、問へ[といふ]。[ウガヅェンが  
行つて話すと先方は]頭目として結婚

awa<aqo ?a, akoaqo 何故。  
14. za<azoa 共は。  
pu-si-li-vavau <li-vavau 上る、登る、vavau 上。  
15. ta-pu[ok(u)]<ta-pu[oq] 一十、本社には q も k もな  
けれども他社の q を誤用して時々 k を用ゐる。262頁、  
註7. (-u) 又 (-o) は物語の時など語末に附して語調  
を調へるもの。257頁、8行、257頁、14行等。バイワン  
に屬すと思はる、Rukai 語に於て普通語尾に母音を  
有するは此種の發音の變換せるものならん。  
i 固有人名詞の冠詞 ti の代りに人に呼かける時に用ゐ  
る、…よ。

- <sup>1</sup> amaja /  
只
- <sup>8</sup> "icin ?a ?æmalup(o) nuteau la ?a[ian] /  
我等 共 狩 明日 友達よ
- <sup>9</sup> ?a ?i vulagau ca sipapitsikil / are  
共 探 頭飾の花 我等の 結婚用 さあ
- <sup>10</sup> ?alupi / ?ivulagalagavo ?a makatsivtsi-  
狩しよう 頭飾の花を探れ は 若者等
- <sup>11</sup> vup / vitsi?o ?a ramalimalip / caso cacaino  
肉を切れ は 老人等 方 ひとつと何様
- <sup>12</sup> anan ?a lava[ian] / "caso cakaki?i anan" /  
尙 は 頭飾の草名 方 ひとつと小 尙
- <sup>13</sup> "are saoma?i apa" / "cuma?u anan ?a  
さあ 行家 よ 行家 一寸 共
- <sup>14</sup> ?aivo / tsi?i(u) apa ?a makatsivtsivup  
夕食せよ 歸來 了 は 若者等
- <sup>15</sup> ?a ramalimalip / sa sman vulagalagau ?a  
は 老人等 而 作 頭飾 は
- <sup>16</sup> makatsivtsivup / sman vucuvucul ?a  
若者等 作 肉 は
- <sup>17</sup> ramalimalip / "are apa ?a papitsikili ?a  
老人等 さあ だ 共 結婚 共
- <sup>18</sup> sma maka[au]auz / sa vai? a tama?alan  
社 マカラウラウズ 而 行 は 全社の者
- <sup>19</sup> calu sasu?uzan / mato matatiztiz ?a  
まで 休憩所 様 吃違 は
- <sup>20</sup> sini?oan / "tsasavo la cukucuku / uzaj-apa  
合圖の銃聲 出外 チュクチュクよ 居るよ

8. la 人名詞に附して親しみて表はす語。  
?ali-an<qa[i]-an 友。  
9. si-pa-pi-tsikil 互に結婚する時に用ゐる物、用具主。  
10. ?i-vulaga-lagav-o 命令、主體主、vulagau 頭飾の花、  
9行、?i<ki 探る、-o 命令、主體主。  
11. vitsi?o<vitsik-o 命令、主體主、v-in-tsi?  
13. saoma?i<sa-omaq-i 家へ行かう、現實未來、位置主。

に相違があるものか[定つてゐる]。百  
圓は百圓だが、其上十圓だ[といふ。媒  
人が歸つて来ると、兩親は]ウガヅェン  
伯母さん[先方は]何といつたか[といふ。  
ウガヅェンは]先方は頭目として結婚  
に相違があるものか。百圓は百圓だ  
が、其上十圓だと、只さういつた[といふ]。

[話が定つたので兩親達は]我々は明  
日狩をしよう、友達よ、我々の結婚用の  
頭の飾にする花を取らう、さあ狩をし  
よう、若者等は頭の飾にする花を探れ、  
老人等は肉を切れ、ラヴェリアン(頭の  
飾にする花)は何様なのがよいだらう。  
「小さい方がよい」。[さあ家へ歸らう]。  
「一寸家へ歸つて夕食して来い」。[など  
いつて準備に忙がしい。其内に]若者  
も老人も歸つて来て、若者等は頭の飾  
を作り、老人等は肉を作つた。[さあ、結  
婚式にマカラウラウズへ行かう]とい  
つて、全社の者が[マカラウラウズ社の

s-m-a 行く、omaq 家、屋内、比。Mal. rumah。  
cuma?u<coa-omaq 家の處(?)、u- 命令、主體主。  
14. ?aiv-o<kaiv-o 命令、主體主、kaiv-in 夕飯。  
20. sini?oan<s-in-i-koan …の爲に打つた銃合圖の銃、s-  
in-i- 用具主、過去、koan 銃。  
uzai apa 居るよ、有るよ、258頁、1行。



- <sup>1</sup> ?a simakazajazaja/ "uzaj-apa nia ?apo/  
が マカザヤ人 有 よ 我等の 檳榔
- <sup>2</sup> imon ?a nama?osav-apa/ imon ?a na-  
汝等 は 既満 了 汝等 は
- <sup>3</sup> mava[i] apa/ nu si? a i ja[an apa]/ "oi  
既所當風 了 汝等の故 在 道 了 さうだ
- <sup>4</sup> apa nama?osav-apa-min/ namava[i] apa-  
よ 既満 了 我等は 既所當風 了
- <sup>5</sup> min/ nia si? a i ja[an apa]/ sipa?aci[ul/  
我等は 我等の故 在 路 了 第三日
- <sup>6</sup> "are apa mavu[vu]l apa la ca kakiqian/  
さあ に 心配する よ 我等の子供等
- <sup>7</sup> la ca ramalimaliy/ 我等の 老人等

近くに在る)休憩所まで行つた。すると[合圖の]銃がボンボンと吃逆の様に[續け様に]鳴つた。社の人々は[チュクチュクよ、一寸外へ出て見よ。マカザヤヤの人々は早其處へ来た[といふ。而してマカザヤヤの人々に向つて]お前等は路を歩んで来たので、喉が渴いたらう。風にも吹かれたらう。

さあ、檳榔子を上げよう[といふと、マカザヤヤの人々は]はい、我々は路を歩んで来たので、喉も渴くし、風にも吹かれた[といふた。]而して結婚も滞なく済んだ。三日間経つた。[マカザヤヤの人々は]さあ、もう歸らう。我々の子供等も、我々の老人等も、心配してゐるだらう[といつて歸つて行つた]。

ブラルラルヤンはマカラウラウズに居て[チュクチュクと同棲すること]一年になつたが、子が生れなかつた。[マカザヤヤの親達は心配して、媒人のグガヴァンに向つて]、グガヴァンよ、

- <sup>17</sup> ta tsavil apa ti pulalulalujan i maka[au-  
一年 了 は ブラルラルヤン 於 マカラウ
- <sup>18</sup> [auz/ ?ausa i ?a poalak/ "sau vugavan/  
ラウズ ところが 不 共 生子 行け グガヴァン
- <sup>19</sup> "ido a[apan amin ta va?o i sa[ap/ ajau  
來れ 所持來 我等は な 粟 在 倉 所言
- <sup>20</sup> ti pulalulalujan/ "awa maqiciz sun vuvu  
は ブラルラルヤン 何故 來 汝は 伯母よ
- <sup>21</sup> i vugavan/ "sigi[it a?in canamun/  
よ グガヴァン 懐 我は 汝等を

3. na-ma-va[i] 風に吹かれた、主體主、ma-va[i] 風に當る、va[i] 風。  
18. ?au sa <qau sa ところが、而して、i ?a<ini ?a …しない。

- <sup>1</sup> "anima-ja ti pulalulalujan/ "mari?uc  
何 といふ は ブラルラルヤン 恐
- <sup>2</sup> a?in ?a pacanima/ no ?u patsunan ?a  
我は 共 首何 時 我の 所見 は
- <sup>3</sup> namar?i?avitsigi/ "sau vurivuri/ ?a?ivo:  
既互腫 行け グリグリよ 呼べ
- <sup>4</sup> ti pulalulalujan/ "awa maqiciz sun  
は ブラルラルヤン 何故 來 汝は
- <sup>5</sup> vuvu i vurivuri/ "ido' aja tia ca ina  
伯母さんよ グリグリ 來い さいよ 等は 我等の 母
- <sup>6</sup> "a[apan amin ta va?o ?a sma sa[ap/"  
所持來 我等は な 粟 共 赴 倉
- <sup>7</sup> "awa si?alalava canoa?in/ "oi are anima-  
何故 待つ譯 我を はい さあ 何
- <sup>8</sup> ja/ na?uja tsu i ?a mun ?a poalak(o)/  
といふ 恐 此は 不 共 汝等は 共 生子
- <sup>9</sup> ?icuvadaio sa?amaja/ "i ?a/ mano anima  
離縁せよ 只 否 共 まあ 何
- <sup>10</sup> nu si aja/ ero a?in ?a po?aoi aitsu  
汝等の譯 さういふ 豈 我は 共 承諾 此
- <sup>11</sup> vadai/ "anima-ja tia ?ama tia ?ina ca-  
離縁 何 といふ 等は 父 等は 母
- <sup>12</sup> nusun/ "ini ?a anima-ja/ sa ?oema?oap  
汝に 不 共 何 といふ 而 泣
- <sup>13</sup> tia cukucuku ati pulalulalujan/  
等は チュクチュク と ブラルラルヤン

[マカラウラウズへ]行け、而してブラルラルヤンに[倉に在る粟を持つて來い。]といへ[といふた。]そこでグガヴァンがマカラウラウズへ行くと]ブラルラルヤンは、[グガヴァン伯母さん、お前は何しに來たか]。グガヴァンは、[私はお前等が懐しい[と丈いつて歸つて行つた。するとブラルラルヤンの父母は]「ブラルラルヤンは何といつたか」と問うた。[グガヴァンは]「私が行つて見たら、二人は大變睦じかつたので、私は氣の毒で何もいふことが出来なかつた[と答へた]。父母は[他の女のグリグリに向つて]「グリグリよ、ブラルラルヤンを呼びに行け」といつた。[グリグリが行くとブラルラルヤンは]「グリグリ伯母さん、お前は何故來たのか。[グリグリは]「母さん達が[お前に倉の粟を持つて來い]といつてゐる。[何故そんなに私を待つてゐるのだらう[といふと、グリグリは]はい、さあ、何といはうか、それはお前等に子が出來ないのがいけな

3. <qaqivo-o 命令、客體主、q-cem-aqevo 主體主。  
7. <si-ka-la-lalva 待つてゐる譯、?im-alava 待つ。

10. ero 如何して…なものか、豈。  
<po-kaoi 宜しいといふ、kaoi <龜濁語、可以 (kho-i)。

いから、別れてしまへといふのだ。「否  
だ、何でもまあお前等はそんな事をいふ  
のか、私は如何して離縁など承知する  
ものか」といつた。[併し彼は一旦父母  
の處へ行つて、再びチュクチュクの處  
へ歸つて來た。するとチュクチュク  
は「父さん母さん達は何といつたか」と  
いつてブラルラルヤンに尋ねたが、彼  
は只「いや、何ともいはなかつた」と答へ  
た。而してチュクチュクとブラルラ  
ルヤンは泣いてゐた。

12. [imigo ʔa sikanavanaval / to mavu[vul]-  
聞風評 が カナグナグナル人 ことを 心配  
13. vul tia cukucuku / "are ʔisujui ʔa sma  
等が チュクチュク さあ 所訪問 共 赴  
14. maka[au]auz" aja / saʔa izua-nan ti  
マカラウラウズ といふ すると 居 尙 は  
15. pulalulujan / "uzaj-apa ʔa sikanavana-  
ブラルラルヤン 居る よ が カナグナグナ  
16. val ʔa more ʔisuju canusun / laʔoa ero  
ル人 共 將 訪問 汝を 併 豈有  
17. ʔa siʔa su[am] uta / imazamaza-nan aʔiu /  
は 理由 嫌 又 居此處 尙 我は  
18. ʔo ʔa markakakaka icin ʔa pu[aʔic] /  
そこで 其 兄弟 我等は 共 常に  
19. tsasavo la cukucuku" aja ti pulalulalu-  
出よ チュクチュクよ といふ は ブラルラル  
20. jan / "ero aʔin ʔa poʔaoi" / "anai ʔa sun  
ヤン 豈 我は 共 承諾 何故不 共 汝は  
21. ʔa poʔaoi / ina vaiʔ aʔin ʔa sma maka-  
共 承諾 それなら 行 我は 共 赴 マカ  
22. zajazaja" / sa vaiʔ apa ti cukucuku ʔa  
ザザヤ 而 行 了 は チュクチュク 共

カナグナグナル社の人がチュクチ  
ュク等の心配してゐることを風評に  
聞いたので、「さあ、マカラウラウズに[チ  
ュクチュクを]訪問に行かう」といつて、  
[そこへ來た]。ところがブラルラルヤ  
ンは尙其處に居た。[而して]チュクチ  
ュクに向つて、「カナグナグナルの人が  
お前を訪問しに其處に來てゐる、併し、  
何で又其を嫌ふ譯があるものか。私  
は尙此處に居るが、我々は常に兄妹だ  
[から構はない]。チュクチュクよ、[お前

19. tsasav-o 命令、主體主、tsasau 外。  
20. anai ʔa<aqo ini ʔa 何故…しない、263頁、6行。

21. ina <ini ʔa (?) …しない、轉じて…しないならばの義  
となる(?)、263頁、7行。

1. sma tsasau / "uzai apa nia ʔapo ʔinarasi-  
赴 外 有 よ 我等の 檳榔 井の  
2. pan / tiʔi[o] apa imon / ʔa namaʔosav-  
酒 飲め よ 汝等 共 既滿  
3. apa imon / ʔa namava[li] apa / nu siʔa i  
了 汝等 共 既所當風 了 汝等の 故 在  
4. ja[an] apa / nu siʔa i sasuzan apa" / "oi  
路 了 汝等の 故 在 休憩所 了 はい  
5. nia gaogavi / sa nia ʔapoi / sa nia tiʔi[li] /  
我等の 所取 而 我等の 所寄 而 我等の 所飲  
6. namaʔosav-apa-min namava[li] apa-min ʔa  
既滿 了 我等は 既所當風 了 我等は 共  
7. paʔo[eʔo]id" / sipaʔaci[ul] "are apa" / sa  
本當に 第三日 さあ だ 而  
8. sma kanavanaval apa calu sasuzan /  
赴 カナグナグナル 了 迄 休憩所  
9. "sau vuvu i vugavan / tsiʔi[o] / sa ʔivadaʔi  
行け 伯父さんよ ヲガグン 戻れ 而 問へ  
10. to ʔimaʔudaʔuda ʔa si[isi]" / "awa izoa-za  
ことを 取幾許 は 結納品 何故 在 其處 共の  
11. pucaomaomal aza [isian to mamaʔapilan /  
相違 其の 結納品として 頭目  
12. taidai za taidai apa / pusilivavau to  
一百 共は 一百 だ 加上 な  
13. tapo[ok(u)] / "anima-ja" / "awa izua-za  
十 何 といふ 何故 有 其處 共の  
14. pucaomaomal aza [isian to mamaʔapilan /  
相違 其の 結納品として 頭目  
15. taidai za taidai apa / pusilivavau to  
一百 共は 一百 だ 加上 な  
16. tapo[ok(u)] / aja saʔamaja" / "are anima-ja  
十 といふ 只 さあ 何 といふ  
17. ʔalupi / sa ca ʔivulagavi" / sipaʔapusal ʔa  
野しよう 而 我等の 所取 頭飾花 第二日 共  
18. ʔoemaluʔalup / "ʔivulagavo ʔa makatsiv-  
野 取頭飾花 は 若者等  
19. tsivup / vitsiʔo a ramalimalip / caso caca-  
切肉 は 老人等は 方 もつと  
20. ino anan ʔa lava[ian] / caso ca kakiʔi an-  
何様 尙 は 頭飾の草 方 もつと 尙小  
21. an / tsizu aza / are sa omaʔi / masi[im]  
尙 止めよ 共 さあ 行 家 暮

は)外に出て[會へ]といつた。[チュクチュ  
ク]私は何で承知が出来るものか[と  
いふと、ブラルラルヤンは「何故お前は  
承知しないのか、それなら私はもうマ  
カザヤザヤへ行くよ」といつたので、チ  
ュクチュクは外へ行つた。[而してカ  
ナグナグナルの人に向つて]「我々の  
檳榔や井の酒を上げるから、お前等は  
飲め。お前等は道を歩いて來て、休憩  
所に居たので、さぞ喉が渴いたらう、風  
に吹かれたらう」といつた。「はい、我々  
は貰はう、食はう、而して飲まう。我々  
は本當に喉が渴いた、而して風に吹か  
れた」といつた。三日経つと[彼等は]き  
あ歸らう」といつて出發して、休憩所ま  
で來た。そこで[媒人のウガグンに]  
[ウガグン伯母さん、此から引返して  
行け、而して結納は幾許要るか問うて  
來い]といつた。[ウガグンが引返し  
て行つて問ふと]頭目の結納として何  
で相違があるものか、百圓は百圓だが、

1. <k-in-a-rasi-an 井に入れて出した物、酒、k-im-ar-  
asiq 同上する。  
5. ʔapo-i 客體主、實、ʔm-apo 主體主、ʔapo 檳榔子、1行。

<tiki-i 客體主、酒、t-im-iki 主體主。  
17. <si-paka-pusa-l ~ma-pusa-l 二度目、dusa 二、比。  
Atay. min-pusa-l 二度。

- <sup>1</sup> ?a ?adau / su[avai ?a ca ?inivulagau / ?a  
は 日 所解 は我等の 所採了花 共
- <sup>2</sup> ca ?ina[ap(o) / sau ?aivo anan" / tsimi?il  
我等の 所取物 行け 夕食せよ 一寸 戻
- <sup>3</sup> apa ?a makatsivtsivug ?a ramalimalig /  
了 は 若者等 は 老人等
- <sup>4</sup> sano vulagalagavo ?a makatsivtsivug /  
作れ 作頭飾花 は 若者等
- <sup>5</sup> sano vuculo ?a ramalimalig / icin ?a vai?  
作れ 切肉 は 老人等 我等は 共 行
- <sup>6</sup> ?a nuteau ?a sma maka[au]auz ?a pitsi-  
共 明日 共 赴 マカラウラウズ 共 結婚式
- <sup>7</sup> kil / are ?a tamakalan" /  
さあ は 全社の者

其上十圓だ[と答へた。歸つて來ると]  
[何といつたか]といつて問うた。グガ  
グエンは[頭目の結納として何で相違  
があるものか、百圓は百圓だが、其上十  
圓だ、と只さう云つた[と答へた]。「さあ、  
それでは狩に行かう、而して我々は頭  
の飾にする花を採らう」といつて、二日  
間狩をした。[人々は銘々]若者等は頭  
の飾にする花を採れ、老人等は肉を切  
れ。ラヴェリアン(頭の飾にする花)は  
どんなのがよいだらう。小さい方がよ  
い。もう止めよ、さあ内へ歸らう、日が  
暮れた、我等の採つた頭の飾の花をは  
どかう。狩の獲物を出さう、一寸行つ  
て夕食を食つて來い」といふ。若者と  
老人は戻つて來た。「若者は頭の飾の  
花を作れ。老人は肉を作れ、我等は明  
日マカラウラウズへ結婚に行く、さあ  
全社の者共[など]といつて夫々準備に  
忙しい。

<sup>21</sup> uzaj-apa a sikanavnaval i sasuvuzan  
居 た はカナヴェナヴェル人に 休憩所

1. <k-in-i-vulagau 採つた頭飾の花、ki 採る。註4。  
2. in-alap(o) 取つた物、客體主。比。256頁。註15。  
4. vulaga-lagav-o 頭飾の花を作れ、主體主、?i-vulagav-o  
同上を採れ、主體主。261頁。18行。?i-vulagav-i 同上を

[翌日]カナヴェナヴェルの人々は休憩

探らう。現實未來、客體主。261頁。17行。  
7. ta-ma-kalan<ta ma-qalan 一社全體の者、ma-qalan  
番社の者<qalan 番社。264頁。13行。ta<ita 一、普通  
は tama-?alan 256頁。註9.15。

- <sup>1</sup> apa / mato matiztiz ?a sini?oap / namaja  
了 様 吃逆 は 合圖の銃聲 同
- <sup>2</sup> i maka[au]auz ?a uta / sa pa?ciz i  
處 マカラウラウズ 共 赤 而 來 處
- <sup>3</sup> ?atsasavan / "tsasavo la cukucuku" / "ero  
庭 出よ チュクチュクよ 登
- <sup>4</sup> a?in ?a po?aoi" / ?oemaon sa?amaja ti  
我は 共 承諾 泣 只 は
- <sup>5</sup> cukucuku / namaja ti pulalululujan / "tsa-  
チュクチュク 同 は プラルラルヤン 出
- <sup>6</sup> savo sa?amaja / ana?i ?a sun ?a po?aoi /  
よ とにかく 何故不 共 泣は 共 承諾
- <sup>7</sup> ina vai? a?in ?a sma makazajazaja" / sa  
共なら 行 我は 共 赴 マカザヤザヤ すると
- <sup>8</sup> tsasav-apa ti cukucuku / sipa?aci[ul] /  
出外 了 は チュクチュク 三日間

所まで來た。[合圖の]銃聲は吃逆の様  
に[續け様に]鳴つてゐた。マカラウラ  
ウズの處でも亦同じく[銃を]鳴した。  
[カナヴェナヴェルの人]は庭の處へ來  
た。[ブラルラルヤンは][チュクチュク  
よ外に出でよ]といふ。[チュクチュクは]  
[私はどうしても承知が出来ない]とい  
つて泣くと、ブラルラルヤンも亦同じ  
様に泣いた。[ブラルラルヤンは]兎に  
角出よ、何故お前は出ないのか、共なら  
私はマカザヤザヤへ歸るぞ]といふ。  
するとチュクチュクは外に出て、[カナ  
ヴェナヴェルの人と一緒に]居て三日  
間經つた。

- <sup>15</sup> sa vai? ti pulalululujan ?a sma maka-  
而 行 は プラルラルヤン 共 赴 マカ
- <sup>16</sup> zajazaja / sipa?asimu[ok matsai ti pulalu-  
ザヤザヤ 經十日 死 は プラル
- <sup>17</sup> lulujan / sipa?ivada?(o) to pasainoin ?a  
ラルヤン 所問 を 可爲何處方は
- <sup>18</sup> tsimvil / "pasazau a?in ta pautiz na  
葬 所納 我は に 果 の
- <sup>19</sup> ?ajunagan ?a pasa kanavanaval" /  
土地 其方 東南
- <sup>21</sup> matsai apa ma?ilang ti pulalululujan /  
死 了 所知 は プラルラルヤン
- <sup>22</sup> "are ?ivapavaji ?a sma kanavanaval" aja  
さあ 所遊 共 赴 カナヴェナヴェルといふ

[共から]ブラルラルヤンはマカザヤ  
ザヤへ歸つたが、十日目に彼は死んだ。  
何處へ葬つたらよいかと[占者をして]  
問はせたところが[ブラルラルヤンは  
占者に]乗移つて[私を]領地の東南の端  
に埋めよ]といつた。

ブラルラルヤンの死んだ事が知れ  
たので、チュクチュクは、「さあ、カナヴェナ

16. <si-paka-si-mu[ok mu[ok<pu]oq 十。  
17. si-pa-?ivada?(o) 葬る事の爲に問ふ、用具主。  
19. ka-nava-naval 東に向つて右手、南方、又東南方、<ka-

naval 右、IN wanan。比。maka-zaja-zaja 山手、東  
方に在る物、番社。256頁。1行。IN daya. maka-[au-  
[au]下手、西方に在る物、番社。256頁。3行。IN laud。

- 1 ti cukucuku / calu zua ta tsinivilan cai  
は チュクチュク 迄 其處の 既葬處 な
- 2 pulalulalujan / "cao[ai a'in / 'itsupa]  
ブラルラルヤン 所即 我は 拜
- 3 anan a'in" aja / sa 'isan(o) kadiadi / sa  
一寸 我はといふすると成 蝶 而
- 4 vai? a min[ajap(o) tia cukucuku ati  
行 共 飛 等は チュクチュク と
- 5 pulalulalujan / sa mano vai? apa 'ivada?(o)  
ブラルラルヤン 而ところが 了 問
- 6 ta 'adau / "imuda ana'i amin 'a poa-  
に 太陽 如何 何故不 我等は 共 生
- 7 lak(o)" / pavai(o) to cara mau ita / nia  
子 與 な づつ 房 一 我等の
- 8 sia[apan apa 'a 'adau / sa poalak(o) cai  
造成の原因 だ は 太陽 而 生子 な
- 9 kolilululu / sma 'atsawan aza ti kolilu-  
コルルル 赴 人間界 其のは コルル
- 10 lulu / vai? a sma makazajazaja / sa  
ルル 行 共 赴 マカザヤヤ 而
- 11 pinalipali 'a sinipapipuluan ta anima-  
所使散亂 は 喪の飾物 な 何し
- 12 niman apa / "tima tsu / masinu tsu no  
彼し 了 誰 此は 自何處 此は の
- 13 'alan / ca jamo'au sa'amaja" / "alav  
番社 我等の 所殺 只 勝手
- 14 nimun / la vuvu i cukucuku / la vuvu i  
汝等の 祖母さんよ チュクチュク 祖父さんよ
- 15 kolilululu / timon aja saasajasasan 'a  
コルルルル 汝等こそ共 先 共
- 16 jimamo? canoa'in / ala? a'in nia ina i  
殺 我を 子 我は 等の 母 共
- 17 cukucuku / nia ama i pulalulalujan" / sa  
チュクチュク 等 父 共 ブラルラルヤン 而
- 18 izoa-pa sa'amaja /  
居其處了 到頭

1. ts-in-ivil-an 葬つた處, ts-im-vil 葬る. 263頁, 18行.  
2. cao[ai-i 命令, 客體主, c-im-ao[ai 置く, 下す, 主體主.  
<ki-tsupa[ 自分で跪く, 拜む, ts-im-uga[ 跪く.  
8. si-a[ap-an 作る原因, 用具主, m-a[ap 作る.  
9. <ka-tsau-an<tsau 人.  
11. p-in-ali-pali 亂暴に散らかす.

グァルへ遊に行かう]といつて[出掛け  
た]。ブラルラルヤンを葬つた所まで  
来ると、チュクチュクは、「私を[乗物から]  
下せ、私は一寸拜もう]といつた。[而し  
て拜んでゐると]チュクチュクとブラ  
ルラルヤンは二人共蝶になつて飛ん  
でいつた。而して二人は太陽の處へ  
行つて、「如何して我々は子が出来ない  
のか」と問うた。すると太陽は[頭飾を]  
一房づつ與へた。共が我々の(一人稱  
を用ゐる)子を生む基礎となつて、二人  
はコルルルルといふ子を生んだ。そ  
のコルルルルは下界へ下つて、マカザ  
ヤヤへ行つた。而して[丁度其處に  
在つた]葬の飾物を、何もかもめちやめ  
ちやに毀してしまつた。[人々は]此は  
誰か、何處の社から來たのか、我々は殺  
してしまつてやらう]といつた。する  
と、コルルルルは]お前等の勝手にせよ、  
私の祖母はチュクチュク、祖父はコル  
ルルルといふのだ。お前等は先づ私

s-in-i-pa-pi-pulu-an 喪の爲に用ゐるである物, 用具主,  
apulu 喪.  
13. jamo'au 現實未來, 客體主, j-im-amo? 殺す者, 主體  
主, 汝等. 16行.  
<qalav 知らぬ, 如何でもよい, 勝手だ.

を殺せ、私の母はチュクチュク、父はブ  
ラルラルヤンといふ者の子だぞ]とい  
つた。而してそのまま其處に居るこ  
とになつた。

2. papai atoa cugru

ガガイ鳥とチュグルイ鳥

- 7 "are 'ivasai la papai / sivalu ti cug-  
さあ 採芋 ガガイよ 所負 はチュグ
- 8 rui" / "uza ina / mapi? a'in" / "o a[apav-  
ルイ上げよう 母よ 苦しい 我は 我的 所取
- 9 apa i cai navanaval" / "uza ina / mapi?  
だ で 處 ナグナグァル 上げよう 母よ 苦しい
- 10 a'in" / "o a[apav-apa i silvilvic" /  
我は 我的 所取 だ で シルグルグチ
- 11 "uza ina / mapi? a'in" / "galu anan / .ore  
上げよう 母よ 苦しい 我は 待て 尙 將
- 12 'ivasa-nan a'in / 'u patutuav-apa nusa-  
採芋 一寸 我は 我的 所使飲乳 だ 後程
- 13 oni / nu 'a jima'oja'ot a'in" / "uza ina  
時 共 取芋葉 我は 上げよう 母よ
- 14 saji[un ti cugru" / "galu anan / 'imsa-  
遅い は チュグルイ 待て 尙 炊
- 15 nan a'in" / "oi la'oa mapi? a'in" / "galu  
一寸 我は はい 併 苦しい 私 は 待て
- 16 anan / 'u vutsi[av-anan 'a ca 'insa / 'a  
尙 我的 所下 一寸 は 我等の 飯 共
- 17 pasa'i[uts'its" / "pai uza-pa ina / pa'ani  
截木上 さあ 上げよう 母よ 所使食
- 18 ti cugru" / vulo'an ta pitsu / si 'i[onon  
は チュグルイ 所投 な 芋皮 爲 取實
- 19 ni papai / sa patomoi / "pai vulo'i to ita  
の ガガイ 而 肩越に與 さあ 所投 な 一
- 20 'a 'u kaka" / pitsu sa'amaja sivulo? / sa  
は 我的 弟 皮 只 所投 而
- 21 lului to si'i[onon ni papai / ma'a 'an apa  
所拾 な 爲取實 の ガガイ 後 食 了

2. ガガイ鳥とチュグルイ鳥

[母が]ガガイよ、さあ芋を掘りに行か  
う。チュグルイ(弟)を負へ]といつた。  
ガガイはチュグルイを負うて母と島  
へ行つた。ガガイは]母さん[子供を]上  
げよう。私はきつい]といつた。母は]  
[ナグナグァルまで行つたら、そこで  
私が取つてやらう]といつた。そこへ  
着いたが母が取らないのでガガイは]  
[母さん[子供を]上げよう、私はきつい]と  
いつた。母は]シルグルグチまで行つ  
たら、私が取つてやらう]といつた。そ  
こへ着いたが母は取らない。それで]  
[母さん上げよう、私はきつい]といふと、  
母は]もう少し待て、私は一寸芋を採る  
から、芋の葉を取つたら、後で私が乳を

7. <ki-vasa-i 現實未來, 客體主, 芋, ki-採, vasa 芋,  
sivalu-u 命令, 客體主, s-im-val 負ふ, 主體主.  
8. a[ap-au 取らう, 現實未來, 客體主, 註12.  
12. pa-tutu-au 乳を飲ませよう, 現在未來, 客體主, pa-tutu  
飲ませる <tuku 乳, -au 現實未來, 客體主.

18. <vuloq-an 人に投げてやる, 位置主, 人, v-in-uloq 主  
體主, 註19, 20.  
19. <vuloq-i 人に投げてやれ, 命令, 位置主, 弟, 註18.  
20. <si-vuloq 投げる爲の物, 用具主, 芋の皮, 註18.

- <sup>1</sup> litiko ti ?ina/ "uza ina/ mapi? apa ?ain"/  
下す は 母 上げよう 母よ 苦しい 了 我は
- <sup>2</sup> "galu anan/ jimaut anan a?in/ to ?u  
待 向 用意 一寸 我は を 我の
- <sup>3</sup> ?inatsu ?a sma oma?"/ "pai tutu apa  
荷物 其 赴 家 さあ 使飲乳 よ
- <sup>4</sup> ?ina/ matsula-pata ti cugrui"/ "galu an-  
母よ 飢 賣には チュグルイ 待て 向
- <sup>5</sup> an/ mirava-nan a?in/ cumazamazao/ ?u  
荷作 一寸 我は 居此處よ 我の
- <sup>6</sup> tsi?i[av-apa/ ?u pa|aotav-anan totsua tsi-  
所歸來 ぞ 我の 向へ送る所 一寸 此の
- <sup>7</sup> vatsiva"/ "ain-apa i ?ina" aja ti napai/  
屋より 居何處ぞよ 母 といふは ガガイ
- <sup>8</sup> no patsun ta ?otsivaovao/ "uzaj-apa ti  
時 見 を 登 居よは
- <sup>9</sup> ?ina ma|ap(o) canoicin"/ no jimalun ?otsi-  
母 伴 我等を 時 到 登
- <sup>10</sup> vaovao/ "are ?icao|ao cugrui/ isan(o)  
さあ 下りよ チュグルイ 成
- <sup>11</sup> anima icin ?ajian ?isan(o) ?aja?ajami" pi-  
何に 我等は 友よ 成らう 小島に
- <sup>12</sup> ni?dce? ta siala/ to si?ipuiko:/ putsu?i?in  
半切 を 帯 を 爲尾材料 所半切
- <sup>13</sup> ?a vajar/ to si?ipupa|al/ "are livavavi  
は 方布 を 爲翼材料 さあ 上らう
- <sup>14</sup> ta ?asiu/ sa ca patsuni ti ama"/  
に 木 而 我等の 所見 は 父

飲ませてやらう、[といった。ガガイは]  
[母さん上げよう、チュグルイが重い]。  
[母は]も少し待て、私は一寸飯を炊くか  
ら。[子供は]はい、併し私は苦しい。[母  
は]も少し待て、私は一寸飯を[竈から]下  
して木の上に載せるから。[子供は]さ  
あ上げよう、母さんチュグルイに食べ  
させなさい]といふ。[すると母は]芋の  
皮を投げた。ガガイは其の皮に附い  
てゐる芋の實を削り取つて屑越しに  
弟に與へた。[ガガイは又]さあ、弟に一  
つ投げて下さい]といった。すると母  
は皮ばかり投げたので、ガガイは其を  
拾つて、皮に附いてゐる芋の實を取つ  
て弟に與へた。母は[木の上で芋を]食  
べてしまつて下りて來た。[ガガイは]  
[母さん、さあ上げよう、私はきつくなつ  
た]。[母は]もう少し待て、私は一寸家へ  
持つて歸る荷物の用意をするから]と  
いふ。子供は[母さん、乳を飲ませなさ  
い。チュグルイは本當にひもじがつ  
てゐる。[母は]も少し待て、一寸私は荷

7. <a ino apa 何處にあるのだ。267頁、15行。

11. <ki-san qaja-qajam-i 一語として活用す、島に成ら  
う。現實未來、客體主。?i-san 自分で成る、?aja-?ajam

小島。

12. <si-ki-pu-iko: 自分で尾にする材料、iko: 尾。

13. <si-ki-pu-pa|al 同上翼にする材料、pa|al 翼。

作をする。[此の荷物を]崖の向うへ運  
んだら、私は歸つて來るから。[暫く]此  
處に居れ[といつて行つてしまつた]。  
ガガイは[母さん、何處に居るのだ]とい  
つた。すると[向に]光が見えたので、母  
が自分を連れに來たのだらう[と思つ  
た。すると側へ來たのは螢であつた。  
[さあ下りよ、チュグルイよ、我々は何に  
成らう、我々は小鳥にならう]といつて、  
負つてゐる帯を半分に裂いて尾を作  
つた。[而して弟を包んでゐる]四角な  
布を半分に切つて羽を作つた。[それ  
から]さあ、木に上らう、而して我々はお  
父さんを見よう]といった]。

- <sup>15</sup> "ain-apa ca ala? cukucuku"/ "uzaj-apa  
居何處 ぞ 我等の子は チュクチュクよ 居よ
- <sup>16</sup> ivi|il/ ?ima?ci? nusaoni apata/ la?oa ?a-  
後に 自分來 後程 實に 併 不
- <sup>17</sup> lav to ?i animanima sipsipan i ja|an"/  
知 ことを自分 何 爲 で 道
- <sup>18</sup> "u vai?av-anan/ sa ?itsatsivup"/ "ain-  
我の 所行 一寸 而 自分迎 居何處
- <sup>19</sup> apa mar?a ?o ala?/ awai a?in ?a tsatsi-  
ぞ 等 我の子 何故不我は 其 出
- <sup>20</sup> vtsivup"/ "uza tsu amin ?ama/ la?oa  
會 居 此處 我等は 父よ 併
- <sup>21</sup> [inanav-amin ni ?ina/ ?isan ?aja?ajam"/  
強ひる所 我等は の 母 成 小島
- <sup>22</sup> "ia mano maja"/ "galu ti cukucuku"/  
ああ 擇は 如其 待て チュクチュクよ

[父は子供等を迎へに出掛けたが途  
中で母に出會つたので][チュクチュク  
よ、我々の子は何處に居るのか]と問う  
た。母は[後から來る、やがて來る筈だ  
が、途中で何か爲てゐるのかも知れな  
い]といふ。父は[一寸迎に行つてやら  
う]といつて尙進んで行つた。[私の子  
供達は何處に居るのか、何故私は出會

19. <aqo ?a ini 何故…しない。260頁、註30。

- <sup>1</sup> sisoe<sup>2</sup>as ta valval / sa vusa<sup>2</sup>itsi ti cukucu-  
所伐 な 山棕欄 而 所打 は チュクチュ
- <sup>2</sup> ku / "ki: ki: ki: / pu<sup>2</sup>pu<sup>2</sup>aj-apa<sup>2</sup> a su  
ク キー キー キー 囁る ゴ は 汝の
- <sup>3</sup> ?alutsuv / are<sup>2</sup>ajian / ?in[ajapi ta vadai /  
月桃の箱 さあ 友よ 所飛 爲 別
- <sup>4</sup> imaza / tsivupi apa i ?avu[ujan] /  
此處 所出會 ゴ で 大武山

はないかしらん』といつてゐると、鳥になつた子供等は父さん、我々は此處に居る、併し我々は母さんにいぢめられて、此様に小鳥になつた。[父は]まあ、さういふ事か』といつて引返して母の處に来た。而して[チュクチュク待て]といつて、山棕欄を伐つてチュクチュクを打つた。[するとチュクチュクは鼠になつて]『キーキーキー』と啼きながら、[私はお前の月桃の箱(貴重品を入れた)を囁つてやるぞ。友よ、さらば、私は此處で別れて飛んで行かう、而して大武山の頂で會はう』といつた。

8. カビヤン社  
(kaviapan)

1. ?ozap kati tipapa<sup>2</sup>ui  
蝦 と 蝦蟇

- <sup>18</sup> izoa aja ta ?ozap kati tipapa<sup>2</sup>ui / "pai  
居 といふ 等が 蝦 と 蝦蟇 さあ
- <sup>19</sup> karivui" aja ti tipapa<sup>2</sup>ui / "oi pomaja"  
喧嘩しよう といふ が 蝦蟇 宜し 爲知其
- <sup>20</sup> aja ti ?ozap / saka "kilo: sma kovol"  
といふ は 蝦 すると 来い 赴 茅原
- <sup>21</sup> aja ti tipapa<sup>2</sup>ui / mantiz ti ?ozap / saka  
といふ が 蝦蟇 来 は 蝦 すると

1. <si-sueqas ...の爲に代る、用具主、妻、s-im-aeqas 主體主。  
3. <kin[ajap-i 飛んで行かう、現實未來、位置主、此處、min[ajap 飛ぶ、主體主。

1. 蝦と蝦蟇

蝦と蝦蟇が居たさうだ。[或時]蝦蟇が、[さあ喧嘩をしよう]といつた。蝦は、[宜しい、やらう]といつた。すると蝦蟇は、[茅原へ来い]といつた。蝦が来ると、

採録期：昭和七年七月、高雄州潮州郡カビヤン社にて調査。  
口授者兼説明者：kivan<sup>2</sup> a tsoqok 28歳、男。  
17. <?ozap Mal. hudang.  
18. ta<ti-a 人名詞の冠詞、複數、主格。  
19. karivu-i 現實未來、客體主、marivu 主體主。

- <sup>1</sup> limama ta kovol ti tipapa<sup>2</sup>ui / saka  
焼 な 茅原 は 蝦蟇 それで
- <sup>2</sup> matsai<sup>2</sup> a ?ozap pinulat / ita-<sup>2</sup>pa<sup>2</sup> a tiza  
死 は 蝦 皆 一了は 残
- <sup>3</sup> malama<sup>2</sup> a ?ozap / saka [imutsij<sup>2</sup> a  
所焼 共 蝦 すると 怒 が
- <sup>4</sup> ?ozap / sa vinli<sup>2</sup> ta pana / saka "kilo  
蝦 而 堰止 な 川 そこで 来い
- <sup>5</sup> apa" aja ti ?ozap / saka mantiz ti  
よ といふ が 蝦 すると 来 は
- <sup>6</sup> tipapa<sup>2</sup>ui i pana / saka smovili<sup>2</sup> apa<sup>2</sup> a  
蝦蟇 へ 川 そこで 除堰 了 が
- <sup>7</sup> ?ozap ta pana / sa ?alu<sup>2</sup>dan<sup>2</sup> a tipapa<sup>2</sup>ui  
蝦 な 川 而 所流 は 蝦蟇
- <sup>8</sup> na zalom pinulat / ita-<sup>2</sup>pa<sup>2</sup> a tiza /  
の 水 皆 一了は 残

2. moakakai  
モアカカイ

- <sup>11</sup> izoa aja ta martsikil ti tokotoko kati  
有 さうだ 一 夫婦 テョコテョコ と
- <sup>12</sup> pulalulalujan / sa poalak tai moakakai to  
ブラルラルヤン 而 生子 な モアカカイ な
- <sup>13</sup> poa<sup>2</sup>poa<sup>2</sup> aravats / saka piligo<sup>2</sup> a lapilapi  
美いの 共 而 戀 は 周囲の人
- <sup>14</sup> aja / saka putsikil tai kolilululu aja /  
さうだ 而 嫁 に コルルルル といふ
- <sup>16</sup> mano poalis aza kotu aja / saka masa-  
ところが 有齒 其の 女陰はさうだ 而 同衾
- <sup>17</sup> [ud / mano katsin na kotu / sa patsai  
ところが 所咬 の 女陰 而 死
- <sup>18</sup> ti kolilululu / saka malia-<sup>2</sup>pa sa "pai:  
は コルルル すると 夜明 了 而 さあ
- <sup>19</sup> gatsalo / kinamao apa" / aja ti tokotoko /  
起よ 朝食せよ れ といふ は テョコテョコ
- <sup>20</sup> mano namatsaj-apa / saka "ako matsai /  
ところが 既死 了 そこで 何故 死
- <sup>21</sup> so kinuda" / aja kivada<sup>2</sup> a matlalalak /  
汝の 所知何 といふ 問 が 兩視

7. <qalu<sup>2</sup>-an 水に流れる物、用具主、ma-qalu<sup>2</sup> 水に流れる、主體主、pa-<sup>2</sup>alu<sup>2</sup> 物を流す、270頁、10行。Mal. hañut<\*hañud.  
16. po-alis 齒を有つてゐる、alis 齒。

2. モアカカイ

テョコテョコ(女)とブラルラルヤン(男)の夫婦が有つたさうだ。大變な美人のモアカカイを生んだ。蕃社の男達は心を憐ましたさうだがコルルルルといふ者に嫁したさうだ。

ところが[モアカカイ]の女陰には齒が有つたさうだ。而して同衾したところが、女陰に咬まれてコルルルルは死んだ。すると夜明になつて[母の]テョコテョコがさあ起きて朝飯を食べよ』といつた。[が返事がないので]見る

19. gatsal-o 命令、主體主、mi-gatsal 起きる、主體主、kinama-o 命令、主體主、k-im-inama 朝飯を食ふ、主體主、kinama-in 朝飯。  
21. k-in-uda 如何した、過去、客體主、si-kuda 其物を以て如何する、用具主、子、270頁、8行。k-im-uda 主體主。

- <sup>1</sup> saka ini ka ʔivo ti moakakai / sa ʔaʔivo in  
すると不共言はモアカカイ 面所呼
- <sup>2</sup> ʔa sikataʔalan ni kolilululu / saka maʔtiz  
は 蕃丁 の コルルルル そこで 来
- <sup>3</sup> ʔa ma[ap /  
共 取
- <sup>7</sup> saka "masiaʔ itin" aja ti tokotoko  
すると 耻しい 我等はといふは テョコテョコ
- <sup>8</sup> kati pulalulujan / saka "sikuda-ʔa ʔa  
と プラルラルヤン 面 成如何 だは
- <sup>9</sup> alak / ta lapianao / aja sa pilapian /  
子 我等の 所入箱 といふ 面 入箱
- <sup>10</sup> saka paʔalud ta zalum pasa pana /  
面 渡す に 水 持行 川
- <sup>12</sup> saka izoa sitalivavau / ti kolilululu  
すると 有 天上の人 は コルルルル
- <sup>13</sup> kato sikataʔalan tipanapana / sa ʔim-  
と 蕃丁 川漁 面 見
- <sup>14</sup> umak ʔa ta lapian i ta[ad ta vatsal /  
附 了 な 箱 で 中 の 酒
- <sup>15</sup> sa a[apin saka ʔaloin ʔa sma omaʔ /  
面 所取 面 所携 共 赴 家
- <sup>16</sup> saka maʔtiz i omaʔ / "ina: ama: / ʔim-  
面 来 へ 家 母よ 父よ 見
- <sup>17</sup> umak ʔa ta lapian / aki anima i ta[ad /  
附 了 な 箱 だらう 何 在 中
- <sup>18</sup> sadijup aravats / ku pai smotsaʔev /  
重 共 我のさあ 間蓋
- <sup>19</sup> sa patsuni / "mano: ti moakakai avan  
面 所見 まあ モアカカイ 其人
- <sup>20</sup> tsu / makilap aza: poalis ʔa kotu / sini-  
此 所知 あの 有齒 は 女陰 所
- <sup>21</sup> virits na matalalak ʔa siajaja: /  
捨 の 親 共 さういふ話

1. <qaqivo-in 客體主, 蕃丁, q-im-aqivo 主體主。  
9. lapian-ao 現實未來, 客體主, 子, pi-lapian 箱に入れる。  
主體主, lapian 箱, 14行。  
10. <pa-qalud 水に渡す主體主, 269頁, 註7。  
15. <qalo-in 客體主, q-cem-alo 二人で携ぐ, 主體主。

と[男は]死んでしまつてゐた。そこで  
兩親が、何故死んだのか、汝が如何した  
のか]と[モアカカイに]問うたが、モアカ  
カイは何も言はなかつた。そこでコ  
ルルルルの蕃丁を呼んだ。すると、蕃  
丁が来て[死體を]引取つた。

するとテョコテョコとプラルラル  
ヤンとは、[我々は耻しい]といふ。而し  
て[[此の]子は何になるものか。我々は  
箱に入れよう]といつて箱に入れた。  
而して川へ行つて水に流した。

すると天上の人にコルルルルとい  
ふ者があつて、蕃丁を連れて川で漁し  
てゐた。ところが淵の中に箱がある  
のを見つけたので、取つて家へ擔いで  
行つた。家へ歸ると、母さん、父さん、箱  
を見附けた。中に在るのは何だらう、  
大變重い、私が蓋を取らう]といつて、開  
いて見た。すると、おや、此がモアカカ  
イか知らん、あの女陰に齒が有るので、  
親に捨てられたといふ話だつたが。

18. ku pa-i 私かさあ…しよう, pa- は他動詞の接頭辭, 此  
に -i (現實未來, 客體主の接尾辭) を附したるものな  
らん, 多くの場合只 pa-i のみを用ゐる。  
21. si-aja-aja 其人について人が彼此いつてゐる, 用具主,  
女, aja さういふ, さうする。

- <sup>1</sup> saka "sau ʔoemalup" ajain ti kolilululu /  
そこで 行け 狩 所言は コルルルル
- <sup>2</sup> saka taʔoed ti moakakai / saka ʔoetsapin  
面 眠 は モアカカイ すると 所鉄切
- <sup>3</sup> aza: alis na kotu / saka maʔtiz ti kolilu-  
其の 齒はの 女陰 すると 歸來 は コルル
- <sup>4</sup> lilu ʔa naʔoemalup / saka masa[ud / saka  
ルル 共 既狩者 面 同食 ところが
- <sup>5</sup> ini ka-ʔa matsai ti kolilululu / sa mavug-  
不 共了 死 は コルルルル 面 孕
- <sup>6</sup> [ai sa poalak ʔa /  
面 生子 了
- <sup>8</sup> padan na alis tata[avin dajami[ja-  
名 の 齒 タタラヴン ダダムラ
- <sup>9</sup> min / ʔoetsiv na kadunapan / spat ʔa  
ムン 同等 の 土地 四 は
- <sup>10</sup> alis na kotu ʔa ʔata / izoa i paiwan ʔa  
齒 の 女陰 共 玉 在 に パイワン は
- <sup>11</sup> ita / izoa i piliti ʔa dusa / izoa i kavi-  
一 在 に プンティ は 二 在 に カビ
- <sup>12</sup> ʔapan ʔa ita / amin /  
ヤン は 一 此丈

其の時[母は]コルルルルに、[狩に行け]  
といつた、而してモアカカイの眠つて  
ゐる間に、[母が]その女陰の齒を鉄切つ  
た。狩に行つたコルルルルは、歸つて  
来て同食した。ところがコルルルル  
は死ななかつた。而して[モアカカイ  
は]孕んで子を生んだ。

齒の名はタタラヴンダダムラムン  
といつて土地と同等の價値のもので  
ある。女陰の齒は凡て四つ有つて、蚌  
蛭玉である。一つは下パイワン社に、  
二つはブンティ社に、一つはカビヤン  
社に在る。終。

3. pali

3. パリ

- <sup>16</sup> izoa sitsoajan ʔa tsautsau sipiliti la-  
有 昔 が 人 プンティ社人
- <sup>17</sup> dakodakots namipali / no patsun ta  
ダゴダゴツ家 既成パリ 時 見 な
- <sup>18</sup> [a[apau / ta ʔatsap / ta koka / ta tsautsau /  
蟻 な 豚 な 雞 な 人
- <sup>19</sup> matsai sakamaja pinulat aja / marikuʔ  
死 只そのまま 皆 といふ 恐
- <sup>20</sup> ʔa sikataʔalan / sa kimim ta omaʔ /  
は 蕃丁 面 獲 な 家
- <sup>21</sup> ʔimumak ʔa i sadip ta tapul / saka  
見附 了 に 山脚 な 大岩 面

昔ブンティ社にダゴダゴツ家の人  
で、パリになつた(目から光の出る)人が  
有つた。蟻でも、豚でも、雞でも、人でも、  
[彼が]見ると皆死んでしまつたさうだ。  
蕃丁は恐れて[彼を收容する]家を捜し  
た。山脚に大な岩を見附けたので、蕃

2. <qoetsap-in 客體主, 齒, q-cem-itsap 鉄切る, 主體主。  
10. <qata 玉, 蚌蛭玉, 比, Bun, qasa, Atay, qaxa 珠の  
貝。

15. pali 目又は身體の局部より光を發する者, 見る者は皆  
死すといふ, na-mi-pali パリになつた人, 17行。

- <sup>1</sup> sman oma<sup>2</sup> / sa smatz apa pasazoa<sup>2</sup> a  
作 家 而 送出 了 遺其處 が
- <sup>2</sup> sikata<sup>2</sup>alan / saka pavaivai apa sakamaja  
蕃丁 而 常與 了 只
- <sup>3</sup> sinimanimapa / pati sitinatsiq<sup>2</sup> a<sup>2</sup> inal  
何の社の人も 至 大林庄人 其 村庄
- <sup>4</sup> a pairap / saka masotan aravats a<sup>2</sup>  
其 本島人 ところが 費用倒れ 其 は
- <sup>5</sup> sinimanimapa / saka [imutsiq<sup>2</sup> a<sup>2</sup> pai-  
何の社の人も それで 不平 は 本
- <sup>6</sup> rap / sa "ari<sup>2</sup> oemtsii" aja malavar tia  
島人 而 さあ 所殺 といふ 相談 等は
- <sup>7</sup> pairap /  
本島人
- <sup>8</sup> vaik a sma-zoa i ta oma<sup>2</sup> ni pali / sa  
行 共 赴 其處 へ 處 家 の バリ 而
- <sup>9</sup> dimalun apa / "ki<sup>2</sup>ilao / mantiz amin a<sup>2</sup>  
到着 了 自分隠れよ 來 我等は 共
- <sup>10</sup> pavai ta [ami<sup>2</sup>] / sa kimbuq timado a<sup>2</sup>  
典 な 食物 すると 伏 彼は 共
- <sup>11</sup> pali / sa<sup>2</sup> oetsin na pairap azoa timado  
バリ すると 所斬 の 本島人 其の 彼
- <sup>12</sup> pali / mano mitsitsika<sup>2</sup> ti pali / pava[ut  
バリは ところが 風暴 は バリ 復讐
- <sup>13</sup> a patsun / saka matsaj-apa sakamaja  
其 見 それで 死 了 只
- <sup>14</sup> pairap / mapulu apa a<sup>2</sup> tiza a<sup>2</sup> matsai /  
本島人は 少 了 は 發 其 死
- <sup>15</sup> saka matsai ti pali / sa ki<sup>2</sup>o[an / sa  
そこで 死 は バリ 而 取首 而
- <sup>17</sup> tsavuin ta sitsa<sup>2</sup>o[evan / sa kimatsu sma  
所包 で 方布 而 持行 へ赴
- <sup>18</sup> oma<sup>2</sup> / sa mantiz i oma<sup>2</sup> / saka smotsavo /  
家 而 歸 へ 家 而 解包
- <sup>19</sup> torovo a<sup>2</sup> dimizao a<sup>2</sup>onoan vavajavan /  
大勢 は 見物 子供等 女等
- <sup>20</sup> mano patsun ta matsa / kimatsaj-apa a<sup>2</sup>  
ところが 見 な 目 自死 了 は
- <sup>21</sup> mapulat / sa "nakuja" aja azoa tiza a<sup>2</sup>  
皆 而 悪い といふ 其の 發者は 共

2. pavai-vai いつも與へる、<pavai.  
3. si-tinatsiq <臺灣語、大林庄 (toa-na-tsng). si- 其處の者。  
4. ma-so-tan <臺灣語、趁 (than) = 金儲、ma-so- 取り去られる。  
9. <ki-qila-o 自分で隠れよ、命令、主體主、ki-qila 隠れる。

丁は家を作つて其處へ送つた。而して大林庄の本島人に至るまで、何の庄の人も[皆食物を]與へてゐた。ところが何の庄も費用倒れになるので、其處の本島人等は怒つて、[さあ、殺してしまはう]といつて相談した。

[人々は]バリの家に行つた。[其處へ]着くと、[我々は食物を持って來た。[一寸隠れてくれ]といつた。するとバリは手を顔に當て、うつ伏した。其時本島人は其のバリを斬つた。ところがバリは怒つて暴れ出して、仕返しに睨みつけた。それで本島人は死んでしまつて、残つたのは少しであつた。

バリが死んだので、首を取つて、方布(肩に掛け夜は蒲團にする風呂敷状の布)で包んで、家へ持つて來た。家へ歸つて包を解くと、子供や女達が大勢見物に來た。ところが[バリの]目を見ると、皆自然に死んでしまつた。生残つ

10. k-im-buq 目に手を當て、俯向く。  
16. ki<sup>2</sup>-olo-an 其體から首を取る。位置主、olo < qo<sup>2</sup>o首、ki- 取る。  
17. tsavu-in 客體主、首、s-m-o-tsavu 包を解く、18行、ts-im-avo 包む、主體主、si-tsa<sup>2</sup>o[ev-an 被ふ物、用具主、方布、ts-im-a<sup>2</sup>o[ev 被ふ。

- <sup>1</sup> matsai / sa smatz pasa pana i ta[ad ta  
死 而 運 方へ 川 に 中 の
- <sup>2</sup> vatsal / saka palisi apa pa[au[aut / no  
淵 而 不吉 了 常 時
- <sup>3</sup> sma-zoa / kisa<sup>2</sup>to apa sakamaja aja /  
行 其處 自病 了 只 といふ
- <sup>4</sup> amin /  
此而已

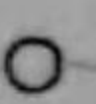
た人々は「此はいけない」といつて、川へ持つて行つて淵の中に入れた。それから其處は常に不吉で、其處へ行くと皆病氣になるさうだ。終。

9. 下バイワン社  
(kapaiwanan)

1. spadain kata  
バダイン人と  
skapaiwanan  
下バイワン人

1. バダインの人と  
下バイワンの人

- <sup>10</sup> spadain kata skapaiwanan a<sup>2</sup> namala-  
バダインの人と 下バイワンの人 共 隣
- <sup>11</sup> lakidi a<sup>2</sup> qinalan / nu maqaqoetsi / nu  
合 共 蕃社 時 互に戦 若
- <sup>12</sup> maqadadau / tamakaja a<sup>2</sup> skapaiwanan /  
表 勝 が 下バイワン人
- <sup>13</sup> nu qoetzimzimit nu maqaqoetsi tamakaja  
若 夜 時 互に戦 勝
- <sup>14</sup> a spadain / aza sika tamakaja pomatsa  
が バダイン人 其の 理由 勝 有目
- <sup>15</sup> pi tso[pa] a<sup>2</sup> spadain / avan-u si va[  
在 膝 は バダイン人 其は 故 能
- <sup>16</sup> dimavats / nu qoetzimzimit a<sup>2</sup> kiqoetsi /  
歩 時 夜 其 攻
- <sup>17</sup> aza sika tamakaja a<sup>2</sup> skapaiwanan / nu  
其 理由 勝 が 下バイワン人 時
- <sup>18</sup> maqadadau / pomatsa pi mudijan a<sup>2</sup>  
畫 有目 在 顔 は
- <sup>19</sup> skapaiwanan /  
下バイワン人



採録期：昭和七年七月高雄州屏東郡下バイワン社にて調査。  
口授者兼説明者：dipup a<sup>2</sup> tsapo[al 16歳、男。  
8. s-padain, s-ka-paiwan-an 9行、s<si- 其社に屬する者。  
kata<ka-toa, aza<azoa 14行。  
10. na-ma-la-la-kidi 互に隣合せになつてゐる、la-kidi 隣<kidi 小。  
ma-qa-qoetsi 互に戦す、戦ふ、ki-qoetsi 自分で行つて

殺す、攻る 16行、q-oem-itsi 新設す。  
12. ma-qa-da-dau 眞書、ma-qa-dau 太陽が照る、表、qadau 太陽。  
ta-ma-kaja ta- より多く、ma-kaja 可能、堪へる。  
14. po-matsa 目を有してゐる、matsa 目。  
15. pi tso[pa] 膝に〔附着〕してゐる、pi mudijan 顔に同上 18行。



2. dusa ?a qadau  
二 其 太陽

- 2 ka sitsoajan / aitso a kaliv|ivan i ti-  
其 昔 此 其 天は 在
- 3 ko / saka dusa ?a qadau / majiv|iv  
下 而 二 其 太陽 困
- 4 itin aja / masinsij sakamaja / ini ka  
我等は さうだ 働 只 不 其
- 5 tin ?a taqoed / "aki ta kodai tso"  
我等は 其 眠 だらう 我等の 所可如何 此は
- 7 maiso ti tokanivon ta vaqo / ma-  
搦 が トカニゲン家の人 な 粟
- 8 tsotsok ta qasi|o ?a kaliv|ivan / maki|o:  
所當 に 杵 は 天 落
- 9 ?a ita ?a qadau / sa livavau ?a kaliv|i-  
は 一 其 太陽 而 上る は 天
- 10 van / avan apa sika izoa qoëzimzimit /  
其 だ 譯 有 夜
- 11 taqoed apa itin /  
眠 了 我等が

3. dïqoqo  
アイココ

- 14 izoa aza sitsoajan ti şadıqoqo ?a  
有 あの 昔 が 此は者アイココ 其
- 15 skapaiwanan / more rivoin na sqa|o / ki  
下バイソン社の人 將 所攻 の スカロ 探
- 16 dariņupu / sa dariņupuin ?a di|apa| izoa  
ダリグダ(木名) 而 所産 は 岩 在其處
- 17 i dinukapan / mañtiz ?a sqa|o / no  
に ディヌカパン 來 が スカロ 時
- 18 kido|at tazoa dinariņupu / sko|aso sa  
自路 其の 所産物を 滑 而
- 19 patsai / matsidil apa ?a tiza ta matsai /  
死 一人 了 は 獲 の 死人
- 20 "sao vaiko" / aja ti şadıqoqo tazoa sqa-  
去れ 歸れ といふが アイココ 其の スカ

2. si-tsoaj-an 久しい以前の時, si- 以前, tsoai 久しい,  
-an 時。  
i-tiko 下に在る, 低い。  
5. koda-i 如何にすべき事, 物, 現實未來, 客體主, 此, k-  
im-oda 主體主, 如何にする。  
7. ta<to-a ...な...に。

2. 二つの太陽

昔は、此の天が低くて、太陽が二つ有つたので、我々は困つたさうだ。我々は働いてばかりゐて眠らなかつた。[我々は]此は如何したものだらう[といつてゐた]。

[或時]トカニゲン家の人が粟を搦いてゐると、杵が天に當つたので、一つの太陽が落ちた。而して天は[高く]上つた。それで夜が出来て、我々は眠る様になつた。

3. デイココ

あの昔、下バイソン社の人でデイココといふ者が居た。[或時]スカロ(臺東のバイソン族)が攻めて来ようとした時に、彼はダリグダといふ木(皮の間に粘液のある木)を探つて、[その汁を]デイヌカパン(踏んだ所といふ義)といふ所の岩に塗つておいた。スカロが来て、

ma-tsotsok つい打當たる, 主體主, 天, ts-im-oktsok 打當てる, 主體主。

15. rivo-in 客體主, ma-rivo 互に争闘する。  
16. dariņupu-in ダリグダを産る物, 客體主, 岩, d-in-arigupu ダリグダを産つた物, 岩, 18行。

- 1 [o / "lakoa no mañtiz sun izoa i qinalan /  
ロに 併 時 歸 汝は 在其處に 蕃社  
2 tisun ?a matsai" /  
汝 は 死

その塗つた岩の處を踏むと、皆滑つて死んでしまつた。[其の内]只一人生残つた者が居た。デイココは其者に向つて[命は助けてやるから歸つて行け。併し蕃社に歸つた時はお前は死ぬぞ]といつた。

- 2 izoa ti şadıqoqo apa kido|at a pizoa i  
居 が アイココ 了 自路 其 其處 在  
3 dinukapan / aza tail ?a ko|a i padain /  
アイヌカパン 其の 片方 其 足 在 バダイ

デイココは[大男であつたので、片足は]デイヌカパンの處を踏み、片足は[谷を跨いで向の]バダイの處に在つた。[といふ]。(デイヌカパンは踏んだ痕といふ意にて、現在彼の足跡ありといふ)。

- 11 izoa-za ti moakai ?a spadain timinoti-  
居 あの モアカイ 其 バダイの人 織機  
12 non / tivota aza ko|its i todilip / "aki  
出 其の 男陰は に 壁の處 だらう  
13 anima tso" aja mikidots / vilatın ta  
何 此は と思 驚 所打 で  
14 vaida / mapi|doq aza ko|its ni dïqoqo /  
箠 所切斷 其の 男陰は の アイココ  
15 vilvilin nimado aza ko|its / namadoi apa  
所引 彼の 其の 男陰は 刺之所刺 了  
16 namalavapas apa toa kina|adoq / simodoi  
泥坊草之所附 了 爲 長さ 取去刺  
17 simolavapas ti dïqoqo / tano-ita i takaz /  
取去泥坊草 は アイココ 一杯 に 箠

[デイココは又大きな陽物を持つてゐた]。或時バダイ社のモアカイが機を織つてゐると、壁の處から陽物が現はれた。(デイココが下バイソン社から谷の向のバダイ社の女に戯れたのである)。「此は何であらう」と驚いて、箠の木で打つと[その先が]切れた。デイココはその陽物を[急に]引込めたが、それが長い爲に[途中]で刺に刺されたり、泥坊草に附かれたりした。デイ

7. pi-za 其處に...してゐる, 踏んでゐる。  
12. t-im-ino-tinon 機を織つてゐる, <t-im-inon。  
14. vilat-in 客體主, v-in-ilat 打つ, 主體主。  
15. ma-pidoq 故意でなく切斷せられる, p-in-i-pidoq 有意に同上, 主體主。

16. na-ma-doi 刺がささつた, s-im-o-doi 刺を取去る, doi 刺, IN. dursi。  
17. na-ma-lavapas 泥坊草が附着した, s-im-o-lavapas 同上を取去る, lavapas 泥坊草, k-in-a-|adoq 長くあること, 長さ, |adoq 長い。

ココが刺や泥坊草を取つたら、策に一杯あつた。

4. kimisa ta vaqo  
炊 な 粟

- 5 izoa-za skapaiwanan ?a la-kada[ada]a-  
居 あの 下バイワン社人 共 カダラダラヴェン
- 6 van / ini ka sma vavoa masipsiq ta  
家 不 共 赴 島地 働 で
- 7 qoma / taro tomaq sakamaja ki kotso  
島 丈 居家 只 取 虱
- 8 sakamaja /  
只
- 9 kimisa itaita ?a va:t na vaqo / no  
炊 一宛 は 粒 の 粟 時
- 10 kisain azoa ita va:t ?a vaqo / mapiloq  
所炊 其の 一粒は 共 粟 充滿
- 11 ?a pariok / no kisain ?a ita mazokan /  
は 鍋 時 所炊 は 一 房
- 12 mapiloq ?a omaq / ini ka makaja tomaq  
充滿 は 家 不 共 能 居家
- 13 ?a tsautsau /  
は 人
- 14 "aitso ini ka palia" / aja ti kada[ada]a-  
此は 非 共 良 といふ はカダラダラヴェン
- 15 van / "na?oaq ?a ta ?ao[an aitso / ka ini  
家 好 共我等の 所止 此は 而 非
- 16 ka na?oaq / a pakaqatsa ta zalom" / aja  
其 好 は 爲多 を 水 といふ
- 17 pavava[ja kimisa to ita va:t na vaqo /  
試 炊 な 一 粒 の 粟
- 18 ini apa ka mi[iaiu / avan apa sika paka-  
不 了 共 成多 共 だ 理由 爲
- 19 qatsa ta zalom / sa paka[iaiu ?a kimisa  
多 を 水 而 爲多 共 炊
- 20 ta vaqo /  
な 粟

4. 粟を炊く

[昔]下バイワン社にカダラダラヴェン家の人が居た。島に行つて耕作の仕事をしな。家に居て只虱を取つてばかりゐた。

[その頃は]粟を一粒づつ炊いたもので、一粒の粟を炊くと、鍋に一杯になつた。一房の粟を炊くと、家に一杯になつて、人々が家に居ることが出来なくなつた。

カダラダラヴェン家の人々は、此はいけない、止めた方がよい。水を澤山入れたら好くはなからうかといつて、試みに粟を一粒炊いて見た。ところが一向ふえなかつた。それから水も澤山入れ、粟も澤山入れて、炊くやうになつた。

5. la 親しみを表はす接頭辭。  
7. <to-omaa 家の處、家の中。  
10. ma-piloq 充滿する。Mal. pënuh.  
11. pariok 比。Tag. palayok.  
15. ?ao[an-<?ao[an 原意、置く、轉じて、止める意となる。  
用具主。?-im-ao[an 主體主。

16. paka-qatsa 大きくする。澤山にする。mi-i-qatsa 大きくなる。278頁。1行。qatsa 大きい。量が多い。比。註19。  
19. paka-iaiu 多くする。mi-iaiu 多くなる。18行。[iaiu 多い。数が多い。比。註16。

5. トマバラバライ山と

大武山

5. tomapa[apa]ai kata  
トマバラバライ山 と

kavu[ujan  
大武山

- 3 ka sitsoajan azoa itomapa[apa]ai kata  
其 昔 あの トマバラバライ山 と
- 4 ikavu[ujan si[apai tovavau / "ini ka  
大武山 非 共 高處 非 共
- 5 palia aitso" aja tiamado / "ari satikoi" /  
良 此は といふ 彼等は さいあ 成低
- 6 aja ikavu[ujan toa itomapa[apa]ai / "ui  
といふ 大武山は に トマバラバライ山 宜
- 7 ari ari ka taisapas ?a sma tiko" / aja  
さいあ さいあ 其 先ぜよ 共 成 低 といふ
- 8 itomapa[apa]ai toa ikavu[ujan / "ini tisu  
トマバラバライ山は に 大武山 否 汝
- 9 aja taisapas ?a sma tiko" aja ikavu[uj-  
こそ 共 先だ 共 成 低 といふ 大武山
- 10 ?an / ki[apida toa kai na ikavu[ujan /  
は 開 を 詞 の 大武山
- 11 sma tiko ?a itomapa[apa]ai / ?ao sma  
成 低 は トマバラバライ山 そこで 成
- 12 vavav a ikavu[ujan / avan apa sika  
高 が 大武山 共 だ 故
- 13 vavav na ikavu[ujan /  
高 の 大武山

昔トマバラバライ山(下バイワン社

の後の山)と大武山とは(兩方共)大變高かつた。彼等は「此はいけない」といつた。[そこで]大武山はトマバラバライ山に、「さいあ、低くなれ」といつた。[すると]トマバラバライ山は大武山に「宜しい、さいあ、さいあ、お前が先に低くなれ」といつた。大武山は、「いや、お前こそ先に低くなれ」といつた。トマバラバライ山は、大武山のいふ事を聞いて、低くなつた。[ところが]大武山は低くならなかつた。それで大武山は高くなつた。大武山の高いのは其の譯である。

6. qatsa ?a zalom  
大 其 水

6. 洪 水

- 15 ka sitsoajan izoa-za tarovar i paira? /  
其 昔 居 あの タロヴェルに 平地
- 16 avan azoa kaka[ipatan noa zalom / mano  
共物 其の 入處は の 水 ところが
- 20 malupu? azoa apal ni tarovar / mativok  
塞がる 其の 口は の タロヴェル 雷

昔平地の方にタロヴェルといふ怪物が居つて、川の水は皆其[の口の中]へ流れ込んでゐた。ところが[或時]タロ

3. i-tomapa[apa]ai i- 其の山に居る者。此處は擬人的にいふ。(2) i-kavu[ujan 大武山。4行。  
5. sa-tiko-i 下に行け、低くなれ。命令、主體主。s-m-a tiko 主體主。9行。  
7. ta-i-sapas-o 命令、主體主。i-sapas 前に在る者、先の者。ta...より尙。ta-i-sapas. 9行。

18. tarovar 怪物の名。口が大きくて河の水は皆其の口に流れ込むものと考へらる。  
19. ka-ka[ipat-an [流れ込んで]なくなる處。ma-ijapat 物に隠れて見えなくなる。

- <sup>1</sup> ?a zalom / miqatsa azoa zalom / azoa  
が 水 成大 其の 水は あの
- <sup>2</sup> kiqikiqian ?a gadi ma|imo toa zalom /  
小 其 山 所彼 で 水
- <sup>3</sup> toa kinaqatsa / amin apa itomapa|apa|ai  
為 多き 此而已 了 トマバラバライ山
- <sup>4</sup> kata ipa|asida? kata ikavu|u?an / ini ka  
と 霧頭山 と 大武山 不 共
- <sup>5</sup> nama|imo ta zalom /  
所終了 で 水
- <sup>7</sup> azoa tsautsau ?a skapaiwanan sma-zoa  
あの 人々 其 下バイワン社人 赴 其處
- <sup>8</sup> itomapa|apa|i / izoa nika no sapui / izoa  
トマバラバライ山 其處 無 も 火 居其處
- <sup>9</sup> za takits / skaolan no tsautsau / pasa-  
あの 小鹿 所使用 の 人々 遣
- <sup>10</sup> zoa ki sapoi toa pa|asida? / azoa takits  
彼處 取 火 から 霧頭山 其の 小鹿
- <sup>11</sup> ?a sma-zoa ipa|asida? ?a lima?oi / uta  
其 赴 其處 霧頭山 其 泳 又
- <sup>12</sup> pasamaza ma?tiz itomapa|apa|ai / ki-  
持來此處 歸 トマバラバライ山
- <sup>13</sup> misa-pa azoa tomapa|apa|ai /  
炊 了 其の トマバラバライ山は
- <sup>14</sup> ka tsoatsoaj-apa masoluput azoa apa|  
其 久久 了 開放 其の 口は
- <sup>15</sup> ni tarovar / masotivok apa / mikiqi apa  
の タロヴェル 無溜 了 成少 了
- <sup>17</sup> ?a zalom / izoa-za qato|al masiki|ai toa  
は 水 居其處 あの 蚯蚓は 引掛 に
- <sup>18</sup> kasiu / ?umakin noa mamaza?ilan / pa-  
木 所見附 の 頭目
- <sup>19</sup> qozipin toa [ami noa mamaza?ilan /  
所使食 を 食物 の 頭目
- <sup>20</sup> azoa qato|al no tiqatsa? / masan qipu /  
其の 蚯蚓 時 放尿 成る 土
- <sup>21</sup> avan apa sika izoa nu saqipu / saka  
其 だ 故 有 の 土 而

15. ma-so-luput 塞いでいたものが取れて開く, ma-luput 塞がる, 277頁, 20行, ma-so-tivok 水が流れて溜がなくなる, 16行, ma-tivok 溜る, 277頁, 20行, 17. ma-si-ki|ai 偶然引掛かる, k-im-i|ai 引掛ける。

ヴェルの口が塞がったので、水が溜つて洪水になった。水の多い爲に、小さな山は皆水に被はれてしまった。水に被はれなかつたのは、只トマバラバライ山と、霧頭山と、大武山とだけであつた。

下バイワン社の人々はトマバラバライ山に逃れたが、其處には火が無かつた。〔丁度〕小鹿が其處に居たので、人々は其を使つて霧頭山へ火を取りに遣つた。その小鹿は霧頭山へ泳いで行つて〔火を〕持つてトマバラバライ山へ歸つて來た。それでトマバラバライ山では〔飯を〕炊くことが出來た。

其後タロヴェルの口が開いた爲に、溜りが無くなつて、水が退いた。其跡に蚯蚓が木に掛つてゐたのを頭目が見附けて、食物を與へた。その蚯蚓が糞を放ると、其が土に成つた。〔現在〕土の有るのは其の譯である。又此の土地が頭目の物であるといふ譯は、彼等

18. pa-qozip-in 餌を與へて飼ふ, 客體主, na-pa-qozip 過去, 主體主, 279頁, 2行, 21. sa-qipu 土といふ物, qipu 土, 20行。

- <sup>1</sup> aitsu ?a kadunapan azoa sika no mama-  
此 其 土地は 其は 故 の物 頭
- <sup>2</sup> zapilan / aja toa tiamado ?a napaqozip ta  
目 といふから 彼等が 其 既使食 に
- <sup>3</sup> gato|al /  
蚯蚓

が蚯蚓に食物を與へたからである。

7. saojivan  
サオリヴァン

- <sup>6</sup> izoa-za sitsoajan ?a ti saojivan ?a  
有 あの 昔 其 が サオリヴァン 其
- <sup>7</sup> mamaza?ilan / pakasipsig ta skataqalan  
頭目 使働 に 蕃丁
- <sup>8</sup> ta qoma / "izoa vava" aja vintsa /  
で 島 有 酒 といふ 敷
- <sup>9</sup> mavan a sika si?sig ta qoma nimado /  
其 は 故 働 で 島 彼の
- <sup>10</sup> "kilo: tiki|o:" aja / ka sotsaqævan ?a  
來い 飲め といふ 而 所取置 は
- <sup>11</sup> di|on / mano nika no vava / ?a papats i  
壺 ところが 無 の 酒 が 蜂 居
- <sup>12</sup> ta|ad / mavi|ad ?a sikataqalan / izoa  
中 透 は 蕃丁 有
- <sup>13</sup> qat?ilai ?a kini|ai i palig / ka mavi|ad  
石 其 所掛 に 入口 而 透
- <sup>14</sup> tsogtsog / madodo ?a sikataqalan /  
コツコツ 怒 は 蕃丁

## 7. サオリヴァン

昔サオリヴァンといふ頭目が有つて、蕃丁に島で仕事をさせてゐた。〔酒が有るぞ〕といつて欺いたので、蕃丁は彼の島で働いた。〔或時彼は〕飲みに來いといつた。〔蕃丁が彼の處に行くと勝手に飲めといふので〕壺の蓋を取つた。すると酒は無くて、中に蜂が〔一杯〕居た。蕃丁が逃出すと入口に石が吊下げてあつて、逃る時に〔頭に〕コツコツ當つた。それで蕃丁は怒つた。

- <sup>16</sup> "kilo: kisudui" aja ?a sikataqalan tai  
來い 訪女 といふが 蕃丁 に
- <sup>17</sup> saojivan / "?a sma padain" aja pasuka-  
サオリヴァン 其 赴 バダイインといふ 爲
- <sup>18</sup> pa|o / pita|adin timado ta taliv / sa  
所入 彼は に 箱 而
- <sup>19</sup> qaloi sa vaikan / ?a kimi|o: pasazoai ta  
所擲 而 所行 其 落す 持行其處 の
- <sup>20</sup> talitiu / matsai timado / mikasiu timado /  
瀧 死 彼は 成木 彼は
- <sup>21</sup> vina?al ta kalipa / ka maipoq ?a kasiu /  
開花 を 白貝 而 割 は 木

〔或時〕蕃丁が〔來い、バダイイン社へ行つて女と遊ぼう〕といつてサオリヴァンを欺いた。〔サオリヴァンが出掛けると〕蕃丁は彼を箱に入れた。而して擔いで行つて、瀧壺に投込んだので、彼は死んでしまつた。彼は木に成つて、白

7. pa-ka-sipsig 働かせる, si-ka-sipsig 働く理由, 9行, ma-sipsig 働く, 276頁, 6行, 10. so-tsaqæv-an 位置主, 壺, s-im-o-tsaqæv 蓋を取去る, 主體主, tsaqæv 蓋, 13. k-in-i|ai 掛けて有る物, 客體主, 石 k-im-i|ai 掛ける。

18. pi-ta|ad-in 中に入れる, 客體主, ta|ad 中, 12行, 19. qalo-i 客體主, q-æm-alo 二人で擔ぐ, 主體主, vaik-an 其處を去つて他へ行く, 位置主, vaik 行く, pasa-zoa-i 物を其處へ持行く, 客體主。

- <sup>1</sup> ma[ap] ʔa katsa[isian ta kalipa / mavan a  
取 は ツァリシアン を 白貝 其だ は  
い貝(頭飾にする長方形に作った貝)の
- <sup>2</sup> sika izoa na kalipa tutsu /  
故 有 の 白貝 今日  
花が咲いた。その木が倒れたので、蕃  
人は白い貝を取った。今日白い貝の  
あるのはさういふ譯である。

10. トクブン社  
(tokuvul)

1. tai[ kati piri  
マイルとピリ

- <sup>9</sup> izoa ka taisapas ta[apul i vutsul / saka  
居 其 以前 タガブルに ヴツル 而  
<sup>10</sup> kiman toa tsautsau sakamaja pa[au]aut /  
食 を 人間 貝 常  
<sup>11</sup> saka "aku tin a ori ma'oa[ / ori ta  
而 何故 我等は 其 將 全滅 將 我等の  
<sup>12</sup> kodain / sa ta soa[apin ʔa ta[apul] / ʔau  
所可如何 而 我等の 所除去 は タガブル そこで  
<sup>13</sup> d[imaul tai tai[ kati piri / "kilu: / su[apaj-  
呼 な タイルとピリ 來れ 困苦  
<sup>14</sup> apa-min ori ma'oa[ amin / su ta[apul] /  
了 我等は 將 全滅 我等は 除去 タガブル  
<sup>15</sup> vaik a sma-zoa tiamadu ma[usa / kimatsu  
行 共 赴 其處 彼等は 二人 持  
<sup>16</sup> toa vaki[ / "no kimodakoda ʔadau  
な 矢 時 如何してある 太陽が  
<sup>17</sup> ma[pitiz ʔa kiman / "no ivavau tsinida-  
來 其 食 時 在上 日出  
<sup>18</sup> san ma[pitiz / kimalava tiamdu / ka  
來 持 彼等は すると  
<sup>19</sup> ma[pitiz ʔa ta[apul / pana'in sa papats-  
來 が タガブル 所射 而 所殺  
<sup>20</sup> ain / saka ma[iva aravats tiamadu ʔa  
故 喜 其 彼等は 共

1. タイルとピリ

- 昔ヴツル族にタガブルといふ者が  
居た。而して常に人間を食つてゐた。  
[人々は]我々は全滅してしまふではな  
いか。何とかしてタガブルを亡ぼし  
てしまはう[といつて相談した]。而し  
て[サモハイ社から]マイルとピリ[とい  
ふ勇者]を呼ぶことにした。「来てくれ、  
我々は困つてゐる、我々は全滅しよう  
としてゐる、タガブルを亡ぼしてくれ」  
[といつた]。彼等二人は弓矢を携へて、  
其處へ行つた。[而して]太陽がどんな  
になる時(何時頃)食ひに来るか[と問う

採録期: 昭和七年七月高嶺州、屏東郡トクブン社にて調査。  
口授者: morino ʔa patsiki[ 女頭目、40歳、pari ʔa taoli[  
50歳、男。  
説明者: darumas ʔa [avar 22歳、男。  
補助者: 巡查部長、土肥嘉三郎。  
9. ta-i-sapas 以前、昔、i-sapas 前、ta-...より、尙。  
12. so-a[ap-in 寄體主、m-a[ap 取る、s-im-u- 除く、su  
ta[apul タガブルを取除け、殺せ、14行、本社の語は

子音の後にも寄體主の接尾辭は -in>-in を用ゐ  
る。  
ʔau<qau そこで、それで、するとなどの意、本社の語は  
q> を用ゐる。  
17. ts-in-idas-an 出た太陽、ts-im-idas 日が出る。  
19. <panaq-in 寄體主、p-in-ana< 射る。Mal. panah 弓。  
<pa-patsai-in 寄體主、matsai 死ぬ、IN. matai.

- <sup>1</sup> vutsul / "ola timun apa kikazilzilu toa  
ヴツル あれかし汝等は のだ 取蕃租 から  
<sup>2</sup> imaza pinulat / ʔau vaik tiamadu tsim-  
此處 皆 そこで行 彼等は 歸  
<sup>3</sup> iki[ ʔa sma tuvasavasai / ʔau ti lauto  
其 赴 サモハイ社 そこでは ラウト  
<sup>4</sup> apa kisan ʔempe'po toa kazilu i vutsul /  
了 成 集める者 を 蕃租 於 ヴツル  
<sup>5</sup> nu patsatsiki[ tiamadu a pasa vutsul /  
時 往復 彼等が 共 過 ヴツル  
<sup>6</sup> kitsulo / ʔa smazoa toa ʔinalan apa tiamadu  
自居 共 赴其處 へ 蕃社 了 彼等は  
<sup>7</sup> ma[usa / mana pa[aijan noa na'ala[an /  
二人 其は 大將 の 凡の蕃社

た)。「太陽が出て頂上に在る時に來る」  
[と答へた]。彼等はタガブルの來るの  
を待つてゐて、之を射殺した。それで  
ヴツルの人々は大變喜んで、汝等は將  
來此處の皆の者から蕃租を取るやう  
にしたい[といつた]。そこで彼等はサ  
モハイ社へ歸つた。[それから後マカ  
ザヤザヤ社の]ラウトがヴツルの蕃租  
を集める人になつた。彼等二人がヴ  
ツルを通つて往復する時は、[何處の]蕃  
社へ行つても[皆豚を]屠つて[饗應した]。  
彼等二人が凡の蕃社の總大將になつ  
たのはさういふ譯だ。

2. mapulu katoa ʔa ʔa  
孤兒と鳥

- <sup>16</sup> izoa markaka ʔa ma[usa / nika no  
居 兄弟 共 二人 無 も  
<sup>17</sup> kina / nika no kama / mapulu tiamadu /  
母 無 も 父 孤兒 彼等は  
<sup>18</sup> vaik a sma vavoa / izoa ʔa sa vu[  
行 共 へ 鳥 居 がといふ者 ヴル  
<sup>19</sup> vu[un / vaik a sma-zoa markaka / "pai  
ヴルン 行 共 赴 其處 兄弟は さあ  
<sup>20</sup> ko to[oa mon toa sikasi[sijan / vaik  
我の 所教 汝等は な 仕事の方法 行  
<sup>21</sup> a sma oma / ka malia-pa / "sao kitatu-  
共 赴 家 すると 夜明 了 行け 取

2. 孤兒と鳥

二人の兄弟が居た。彼等は母も無  
く、父も無い孤兒であつた。鳥へ行つ  
たらヴルヴルンといふ老人が居た。  
兄弟が其處へ行くと[老人は]「さあ私が  
お前等に色々仕事を教へてやらう」と  
いつて[一緒にその]家へ行つた。夜が

4. <q-æm-ipo-qæpo いつも集める者、ʔim-ipo 集める。  
5. pa-tsa-tsiki[ ~ts-im-ki[ 歸る、戻る。  
6. ki-tsulo ~ts-im-ulo 居る、ki- 自分。  
20. to[o-ao 現實未來、寄體主、汝等、t-im-o[ 主體主。

si-ka-sigsig-an 仕事の方法、用具主、s-im-igsig 働く。  
21. ki-ta-tuzup-an-o 命令、主體主、ki-ta-tuzup-an 木の棒  
を採る。282頁、1行、na-ki-ta-tuzup-an 同上した。282  
頁、3行、ta-tuzup-an 木の棒、282頁、13行、ki- 採る。

- <sup>1</sup> zupano markaka/ vaik a kitatuzupan /  
棒 兄弟よ 行 共 取棒
- <sup>2</sup> i oma? a vovo ?a tsima[itsa]is/ ka  
居 家 は 老人 共 纏つてゐる すると
- <sup>3</sup> maqtiz ?a markaka ?a nakitatuzupan /  
来 は 兄弟 共 既取棒
- <sup>4</sup> "vovo/ mavatsvatsuk aña ?a[i]a[i] vovo:"/  
老人よ 開墾してゐる よ 他人々 老人よ
- <sup>5</sup> "ma[itsi]ñ / nu mavatsvatsuk aña kimo-  
黙れ 難 開墾してゐる 了 如何
- <sup>6</sup> da / ?a[av]-a[ña] / sao la ono ki:mo toa  
構はぬよ 行け 子供よ 捜せ な
- <sup>7</sup> tso'o[al] / vaik a masi kalao[ul] / limulu  
骨 行 共 持 負籠 拾
- <sup>8</sup> toa tso'o[al] / "kamsup aña vovo:" / "ini  
な 骨 十分 だれ 老人よ 不
- <sup>9</sup> anan ka kamsup / sao a[apo] anan" / "su  
尙 共 十分 行け 取れ 再 汝の
- <sup>10</sup> sikuda vovo: ?a su tsa[itsa]isin" / "ini ka  
所如何 老人よ は 汝の 纏つてゐる物 非 共
- <sup>11</sup> sikuda / sao kimo toa vaat noa lui" / ka  
所如何 行け 捜せ な 種 の 瓢 而
- <sup>12</sup> makatsa[is] aña ti şavu[uvu]u[up] / "ari aña  
纏後 了 は グルグルン さあ れ
- <sup>13</sup> la ono savavoai / katsu: ?a tatuzupan  
子供よ 可行島 持行け は 木の棒
- <sup>14</sup> katoa tso'o[al] katoa vaat noa lui" / ka  
と 骨 と 種 の 瓢 而
- <sup>15</sup> zimkir i vavoa / "sao la ono / tsiktsik-  
到 に 島 行け 子供よ 所突刺
- <sup>16</sup> an tsa tatuzupan" / ka sinitsiktsik aña /  
此の 棒は すると 所突刺 了
- <sup>17</sup> şipa'adai ?a tsa[is] / pakipa[ipil] / sa vili-  
所縛附 は 緒 廻周圍 而 所
- <sup>18</sup> vilin ni şavu[uvu]u[up] / "kava[ka] ka nakin-  
引 の グルグルン 嬉しい 共 成
- <sup>19</sup> asinsigan aña" aja / ?ao kinasinsigan  
効 れ といふ すると 成効
- <sup>20</sup> aña / "sao ta[iman] tsa tso'o[al] katoa  
了 行け 所埋 此の 骨は と

2. ts-im-a[i]-tsa[is] 纏つてゐる, tsa[i]-tsa[is]-in 纏つてゐる物, 10行, ts-im-alis 纏る, tsa[is] 纏, 緒, IN tali.  
6. <qa[au] 自分(は)知らぬ, 如何でもよい, 構はぬ, la 257頁, 註8.  
11. ki:m-o 命令, 主體主, k-im-izm 捜す, vaat<\*viat 来, IN ber,as.  
13. sa-vavoa-ai 現實未來, 位置主, vavoa 島, s-m-a 赴く.  
15. tsiktsik-an 命令, 用具主, 棒, s-in-i-tsiktsik 突刺す

明けると[老人は]兄弟よ,棒にする木を採りに行け]といった。[二人は棒の木を取りに行つた。老人は家に居て緒を纏つてゐた。棒の木を採りに行つた兄弟は歸つて来て]お爺さん,餘所の人々はもう開墾を始めた]といった。老人は[さういふな。[餘所の人が]開墾を始めたとして共が如何した。構はな、子供等よ[今度は骨を捜しに行け]といった。[二人は]負籠を負うて,骨を拾ひに行つた。[歸つて来て]お爺さん,此で宜しいか。[老人は]まだ足りない,もう一度取りに行け]といふ。二人は[お爺さん,汝の纏つてゐる物は何にするのか]。老人は[何にするのでもない,汝等は瓢箪の種を捜しに行け]といふ。[二人は]出掛けた,その間に老人は緒を纏つてしまった。[二人が歸ると老人は]子供等よ,さあ島へ一緒に行かう,木の棒と骨と瓢箪の種とを持つて行け]

に用ゐた物, 棒, 16行, ts-im-iktsik 突刺す, 主體主.  
17. <si-pa-qa[ai] 用具主, pa-a[ai] 縛り附ける, pa-ki-pa[ipil] 周圍に廻らす, pa[ipil] 周圍.  
18. na-k-in-a-sinsig-an 成した仕事(が)成就した, k-in-a-sinsig-an 成した仕事, 成効, 19行, 比, 281頁, 2行.  
20. ta[im]-an 埋める材料にせよ, 命令, 用具主, 骨等, t-im-a[im] 埋める, 主體主.

- <sup>1</sup> vaat na lui / azoa tso'o[al] ta[iman] paka-  
種 の 瓢 其の 骨は 所埋 入
- <sup>2</sup> tiko no opo / azoa lui pakavavau no  
下 の 石垣 其の 瓢は 置上 の
- <sup>3</sup> opo / ?ao vaik tiamadu a sma oma? /  
石垣 そこで 行 彼等は 共 赴 家
- <sup>11</sup> "sao lilavo ?a ta ?oma / nu kikimoda-  
行け 見廻れ は 我等の 島 若 自成如
- <sup>12</sup> koda-ña / vaik a limilao tiamadu / ka  
何 了 行 共 見廻 彼等は 其
- <sup>13</sup> maqtiz i oma? / "kimodakoda-ña la  
来 へ 家 成如何 了
- <sup>14</sup> ono" / "patagil ?a mintsikas vovo: / ma-  
子供よ 始 共 粟芽 老人よ 熟
- <sup>15</sup> kisa-ña ?a va'o no ?a[i]a[i] / "kodain / no  
了 は 粟 の 他人 所如何 難
- <sup>16</sup> makisa-ña kimoda" / vaik tiamadu ?a  
熟 了 如何 行 彼等は 共
- <sup>17</sup> sma vavoa / "katsu: toa va[apa] toa  
赴 島 持行け な 白 と
- <sup>18</sup> ?asi[o] / ka zimkir i vavoa / "sao pa-  
件 時 到 に 島 行け
- <sup>19</sup> tsunu la ono / nu d[imuga]d[upa]l aña  
見よ 子供よ 若 呻つてゐる者 了
- <sup>20</sup> a[apo]:" / azoa tso'o[al] masan no ?atsap /  
件来れ 其の 骨は 成 にも 張
- <sup>21</sup> azoa lui masan no va'o / tsimulu tiam-  
其の 瓢は 成 にも 粟 屑 彼等
- <sup>22</sup> do / san ?avai i vavoa / "sao a[apo] ?a  
は 作 餅 で 島 行け 持来れは

11. lilav-o 命令, 客體主, 島, l-im-ilao 主體主, 12行.  
18. <qasi[o] Tag, halo, Mal, alu.

といふ。島に着くと[老人が]その木の棒を持つて行つて地に突立てよ]といふ。地に突立てた。老人は緒をその棒に縛りつけて[島の]周圍に引廻して引張つた。[うまくいけば好いがなあ]といったが,うまく出来上つた。[老人は]行つて骨と瓢箪の種とを埋めよ。その骨は石垣の下に,その種は石垣の上に埋めよ]といふ。[兄弟は]其通りにした而して]彼等は家へ歸つた。  
[暫くして後老人は]我等の島が如何なつてゐるか,行つて見廻つて来い]といった。二人は見廻りに行つて歸つて来た。老人は[子供等よ如何であつたか]。[二人は]お爺さん,種から芽が出て土がひびわれてゐた。餘所の人の粟は熟してゐた。[老人は]熟したとして如何だ,構ふことはない]といった。三人は島へ行つた。[その時老人は]白と骨とを持つて行け]といった。島に着くと[老人は]子供等よ,行つて見よ。若し呻つてゐる者が有つたら連れて来

- <sup>1</sup> pinulat ʔa vapal noa lui ʔa pasa tapao /  
皆 は 果實 の 瓢 共 道 小屋
- <sup>2</sup> sa no sutsivilin ʔa ʔatsap ʔa pinulat /  
而 時 所掘出 は 豚 共 皆
- <sup>3</sup> "ari vaiki apa la ono ʔa sma omaʔ /  
さあ 行かう よ 子供よ 共 赴 家
- <sup>4</sup> tukuʔu: tsa lui / sa azoa ʔatsap oaguin  
掛頭 此の瓢は 而 共の 豚は 所道行
- <sup>5</sup> ʔa pasa omaʔ / ka zimkir i omaʔ / "sao  
共 道 家 すると 到 に 家 行け
- <sup>6</sup> katsu: la ono / sa no kuʔa sa no ʔavuvun  
持て 子供よ 而 も 脚 而 も 心臓
- <sup>7</sup> ʔa kivaʔa / ka patsun ʔa ʔaʔiʔaʔi / "i:  
共 遊 すると 見 が 人々 やい
- <sup>8</sup> povovo toa ʔaʔa" aja ʔaʔiʔaʔi / ʔao vaik a  
為祖父 な 鳥 といふ 人々 そこで 行 共
- <sup>9</sup> pasumaʔau toa vovo / "i: povovo toa  
皆 に 老人 やい 為祖父 な
- <sup>10</sup> ʔaʔa / aja ʔaʔiʔaʔi / vovo: / "no aja ʔaʔiʔaʔi /  
鳥 といふ 人々は 老人よ ても 人々は
- <sup>11</sup> ori kimoda / ʔao vaik a kivaʔa / "i:  
將 如何 そこで 行 共 遊 やい
- <sup>12</sup> povovo toa ʔaʔa / aja ʔaʔiʔaʔi / vaik a  
為祖父 な 鳥 といふ 人々が 行 共
- <sup>13</sup> tomaʔ / "i: povovo toa ʔaʔa / aja ʔaʔiʔaʔi /  
家 やい 為祖父 な 鳥 といふ 人々は
- <sup>14</sup> aja uta / "oi ori vaik akin / nu maja" /  
といふ 又 宜 將 行 我は 若 如其
- <sup>15</sup> sa "ʔaʔa" aja timaʔu ʔa vaik / ka vaik  
而 カーカー といふ 彼は 共 行 すると 行
- <sup>16</sup> apa ʔapusi nimaʔu / "ola nika-ʔa no  
了 所囁 彼の あれかし 無 了 も
- <sup>17</sup> [ami no ʔatsap] / ʔao nika-ʔa no anima-  
穀物 も 豚 そこで 無 了 も 何
- <sup>18</sup> nimaʔa / a matsula-ʔa tiamado ʔa tsim-  
物 共 飢 了 彼等は 共 元 に
- <sup>19</sup> ikir / saka izoa-ʔa ʔoemaʔaon / "kavaʔa  
かへる 而 居 了 泣つ 婦
- <sup>20</sup> ka izoa-nan ti vovo / ini ka tin a kipaoʔa-  
共 居 尙 が 老人 不 共 我等 共 自困
- <sup>21</sup> oʔa toa ta kanin" aja tiamado ʔa kinim-  
苦 為 我等の 食物 といふ 彼等は 共 考

1. tapao 小屋, 植春方面にては仕家の意。  
2. su-tsvil-in 埋めた物を取り出す, 客體主, ts-im-ivil 埋め  
る, su- 取る。  
3. vaik-i 現實未來, 位置主。

い]といった。[行つて見ると]先の骨は  
豚になり,先の種は粟になつてゐた。  
彼等は畠で豚を屠つて餅を作つた。  
老人は,行つて,生つてゐる瓢箪を皆小  
屋へ持つて来い]といった。[骨を埋め  
て出来た豚を皆掘出した時に(老人は),  
「子供等よ,さあ家へ歸らう,その瓢箪は  
頭に掛けて運べ,その豚は尻を叩いて  
家へ追うて行かう。家へ着いた。[す  
ると]老人は「子供等よ,豚の脚も心臓も  
持つて,餘所へ遊びに行け]といふ。[二  
人は遊びに行つた]すると人々が見て,  
「やい,お前等は鳥をお爺さんにしてゐ  
る(此の老人,實は鳥の化身である)とい  
つて笑つた。二人は歸つて老人に「お  
爺さん,人々は,やい鳥をお爺さんにし  
てゐるといつてゐる]といった。[老人  
は「人がさういつたとて何だ,構ふもの  
か]といふ。又遊びに行くと,人々が又,  
「やい,鳥をお爺さんにしてゐる]といふ,  
[二人は]家へ歸つて「人が,やい鳥をお爺

8. po-vovo 祖父にする, vovo 祖父, わぢいさん。  
16. ola ...したい, ...であれかし。此處は異の詞にて...にな  
つてしまへる意。

- <sup>1</sup> nim / ka vaik apa ti ʔavuʔuvuʔuʔ /  
其 行 了 は グルグルン
- <sup>2</sup> amin /  
此而已

さんにしてゐるといつてゐる]といつ  
て又訴へた。[老人は「宜しい,其なら私  
はもう歸らう]といつて「カー,カー」と鳴  
いて[向うへ]行つた。而して「穀物も豚  
も無くなつてしまへ]といつて口笛を  
吹きながら去つてしまつた。[此様に  
して]何もかも無くなつてしまつたの  
で,彼等二人は又元の通り餓しくなつ  
て泣いてゐた。二人は「お爺さんがも  
つとゐてくれたら嬉しいのに,我々は  
食物の爲に困ることはないのに]と思  
ふた。しかしグルグルンは行つてし  
まつた。終り。

3. sapuluʔan kati moakai  
サブルガン と モアカイ

- <sup>16</sup> izoa ti sapuluʔan kati moakai / ti  
有 が サブルガン と モアカイ は
- <sup>17</sup> moakai ʔa ʔoaʔoaʔ aravats mato: ʔadau /  
モアカイ 共 美 甚 如 太陽
- <sup>18</sup> mano masoʔid / nika no boʔaʔ no koti /  
ところが 同衾 無 の 孔 の 女陰
- <sup>19</sup> mano [imutsiʔ ti sapuluʔan / no kiman  
そこで 怒 は サブルガン 時 食
- <sup>20</sup> toa kinsa / no timikiʔ toa vava / ini ka  
を 飯 時 飲 を 酒 不 共
- <sup>21</sup> pukaʔoi kiʔiʔiʔil / [imutsiʔ sakamaja /  
許 共同 怒 只

3. サブルガンとモアカイ

サブルガンとモアカイの夫婦が有  
つた。モアカイは美人で,太陽の様に  
輝いてゐた。ところが同衾すると,局  
部に孔が無かつた。それでサブルガ  
ンは怒つて,飯を食ふ時も,酒を飲む時  
も,一緒にすることを許さない。只怒  
つてばかり居た。

21. pu-kaʔoi 宜しいといふ, 許可する, kaʔoi < 臺灣語, 可以  
(kho-i).

ki-ʔiʔiʔil 原意, 自分で倒脚に加はる。[-im-ʔiʔil 同む。

1. ʔao more vaik a ʔoemalup ti sapu[ʔu]pan /  
すると 將 行 其 狩 は サブルガン
2. tao[ain a ʔu]tsu pitumaʔ / "kilo: kina  
所置忘 は 煙管 置家 来れ 母よ
3. kilan ʔa ko ʔu]tsu / a[apin ni moakai sa  
所持来 は 我の 煙管 所取 の モアカイ面
4. pavajan / "ini patšiki / kilan ajao ti  
所興 否 歸れ 所持来 といへは
5. kina / a[apin noa kina / sa pavajan tai  
母 所取 の 母 面 所興 に
6. sapulu]pan / "anima no vavajanan ʔa  
サブलगン 何 の 女 其
7. namaitazoa ʔa koti sakamaja nika no  
既知彼 は 女陰 只 無 の
8. boap / "dalipan sun ʔa [imutsmutsi]p /  
孔 尤だ 汝は 其 怒つてゐる
9. ʔai pavavao ʔa taʔalaʔalan / azoa tala  
さあ 所使造酒 ぞ 全社は あの 最
10. sapoaʔan ʔa patiki]an ʔa / no mapu]av-  
良物 其 所使飲 ぞ 時 醉
11. ʔa / pai patsuno ʔa /  
了 さあ 所見 ぞ
12. ʔivu toa taʔalaʔalan ʔa pavava / ka  
話 に 全社 其 使造酒 すると
13. makisa-]pa ʔa vava / patsunin ʔa tala  
熟 了 が 酒 所見 は 最
14. sapoaʔan ʔa vava / sa "tiki]i ka ti  
良物 其 酒 そこで 飲もう 其
15. moakai / aja sa tiki]in na ma]usa / ka  
モアカイよ といふ 面 所飲 の 二人 すると
16. mapu]av-]apa ti moakai / siʔoerip ʔa sma  
醉 了 が モアカイ 臥 其 赴
17. soror / izoa ʔa]iʔa]i ʔa maisuisu i tasau /  
寢床 居 他人 其 搦いてゐる で 外庭

2. tao]a-in 客體主, 煙管, t-im-ao]a 置く, 主體主.  
ʔu]tsu < 薩摩語, 煙吹 (hun-ts'oe).  
ki]o 来れ, 主體主, ki]an 物を持って来れ, 用具主,  
煙管, 4行.  
4. aja-o さういへ, 命令, 客體主, 母, aja さういふ, 主體主.

[或日]サブलगンが狩に行かうとし  
た時,家に煙管を置忘れた。「お母さん,  
私の煙管を持って来て下さい」といつた。  
モアカイが取つて興へると、「否だ,彼方  
へ歸れ,お母さんに持つて来て下さい  
といへ」といつた。[ここで]母が煙管を  
持つて行つて,サブलगンに興へた。  
[サブलगンは]何だ,あんな女,只局部ば  
かりで孔が無い」といつた。母は「汝の  
怒るのは尤もだ」といつた。サブलग  
ンは「社の者等に酒を造らせなさい。  
而してその一番上等なのを彼女に飲  
ませなさい。彼女が酔つた時に,見て  
見なさい」といつた。

母は社の者等に命じて酒を造らせ  
た。酒が出来上ると,一番上等なのを  
探出して「モアカイよ,さあ飲もう」とい  
つて二人で飲んだ。モアカイは酔う  
て寢床へ行つて臥た。[その時]他の女  
達が外庭で[粟を]搦いてゐるので,母は

9. pa-vava-o 命令, 客體主, pa-vava 酒を作らせる, 15行,  
vava 酒。  
10. pa-tiki]an 飲ませる材料にせよ, 命令, 用具主, 良酒,  
tiki]i 現實未來, 客體主, 酒, 17行, tiki]in 一般現在,  
客體主, 酒, 18行, t-im-iki] 飲む, 主體主。

1. "ko ʔoelivau la oti / mana no maravu ti  
我の 所閉 女女よ 其は から 被障 が
2. su d]ava / sutsaʔovin no kina / "dalipan  
汝の 女女 所障 の 母 なるほど
3. aja ʔa ko alak / mano namaitutsu / ʔa  
さういふが 我の子 まあ 既如此 其
4. nika no boap / azoa boap mato tsa]i]pa  
無 の 孔 其の 孔は 如 耳
5. no [igib / ma]ap ta siʔono ʔa kina / sa  
の 針 持来 を 小刀 は 母 面
6. tsuisin ʔa sman boap / ka mapapau]i]pa /  
所切開 其 作 孔 すると 覆
7. "a]apu toa zalum / sa su pavanau /  
持来れ た 水 面 汝の 所洗體
8. ma]ap toa zalum ti moakai / sa pavanau /  
持来 を 水 は モアカイ面 洗體
9. ka mavanaw-]apa / sa mali ʔa sakamaja /  
すると 洗體 了 而 興 了 只
10. "ako namaitutsu ʔa / sa niakin izoa-]pa  
何故 既如此 了 而 我の物 有 了
11. boap / patsun ʔa kina / "makoda sun  
孔 見 は 母 如何 汝
12. moakai / ako sun ʔa namaitazoa / "pai  
モアカイよ 何故 汝は 其 既如其 さあ
13. patsunu ʔa niakin / "ka navavajan na-  
所見 は 我の物 其 既女 既
14. maitutsu ʔa mapulat / ini ka amin sun  
如此 其 皆 非 其 丈 汝
15. ʔa namaitazoa / mana sika limutsmutsi]p  
其 既如其 其 故 常怒
16. ni sapu]pan tanosun / "ia kina mano  
の サブルガン 汝を さうか 母よ まあ
17. kimoda /  
如何

1. < oeliv-au 現實未來, 客體主, ʔoem-iliv 主體主,  
oti 年少の女女, d]ava 同輩の女女, 2行.  
ma-ravu 障がかゝる, < ravu 障。  
2. su-tsaʔov-in 被を取去る, 客體主, 衣, ts-im-aʔov 被ふ,  
客體主, 酒, 18行, t-im-iki] 飲む, 主體主。

「友よ,私は戸を閉めるよ,汝の友(モアカ  
イ)に障が掛るといけないから」といつ  
て[戸を閉めた,而してモアカイの]衣を  
捲つた。「なるほど我子の言ふ通りだ。  
何で此様に孔がないのかしらん」とい  
つた。その孔といふのは針の耳程で  
あつた。母は小刀を持つて来て一寸  
切開して孔を作つた。モアカイは酔  
が醒めると,母は「水を持つて来て,汝の  
體を洗へ」といつた。モアカイは水を  
もつて来て,體を洗つた。洗つて見る  
と[局部が]變つてゐる。「何故こんなに  
なつたのかしらん,私の物に孔が出来  
てゐる」といつた。母は之を見て「モア  
カイよ,汝は如何したのか。汝は何故,  
そんなにしてゐるのか」といふと,モア  
カイは「さあ,私の物を見て下さい」とい  
つた。[母は][凡て]女といふものは皆か  
うしたものだ。汝だけがそんなので  
はない。サブलगンが汝を怒るのは  
其の爲だ。[モアカイは]お母さん,さう

5. siʔono < si-qono 切る具, 小刀, 剃刀, ʔoem-ono 切る,  
6. tsuis-in 客體主, ts-im-uis 一寸線なひいて傷付る。  
7. < pavanau-u 命令, 客體主, 體, mavanau 體を洗ふ, 主  
體主, 9行, pavanau 同上, saの後, 8行。

- <sup>3</sup> ka maṭipitiz apa ti sapuṭuṇ / vaik  
 すると 丁度歸 了 が サブルガン 行
- <sup>4</sup> ʔa kina ʔa kitsivūṇ / ʔa mapidiṭidiṭi /  
 は 母 共 自出迎 共 嬉笑
- <sup>5</sup> minto<sup>o</sup> ti sapuṭuṇ timavikil tai mo-  
 走 は サブルガン 抱 な モ
- <sup>6</sup> akai / sa naivoṭoṇ / sa napoalak / saka  
 アカイ 而 既交 而 既生子 而
- <sup>7</sup> izoa-ṇa tiamadu maṭivaṭiva mapulat /  
 居其處了 彼等は 喜 皆
- <sup>8</sup> amin /  
 此而已

4. moakai  
 モアカイ

- <sup>11</sup> izoa ti moakai kati moatoko / ʔa mar-  
 居 が モアカイ と モアトコ 共 従姉
- <sup>12</sup> sikatsikil / putsikil ti makululu tai  
 妹同士 結婚 は マクルル と
- <sup>13</sup> moakai / poalak tai sapuṭuṇ / putsikil  
 モアカイ 生子 な サブルガン 結婚
- <sup>14</sup> ti sapuṭuṇ tai moatoko / poalak tai  
 は サブルガン と モアトコ 生子 な
- <sup>15</sup> moakai / lakoa ʔa koti sakamaja nika  
 モアカイ 併 共 女陰 共 無
- <sup>16</sup> no kinatsavatsavan / lakoa matsaʔo ʔa  
 の 體 併 能 共
- <sup>17</sup> ʔivo / ʔozi poalak ti moatoko toa vavajan /  
 話 さうだ 生子 は モアトコ な 女
- <sup>18</sup> ari ta lilavau / ola kiṣuḍu ti sapuṭuṇ /  
 さあ我等の所見舞 したい 許嫁 は サブルガン
- <sup>19</sup> vaik a limilau / ʔa ino ʔa no alak ʔa  
 行 共 見舞 共 在何處 は 汝等の子といふ
- <sup>20</sup> maṭiz / ʔilain / ʔnika / ini ka tsautsau  
 來 所隠 無 非 共 人

4. ki-tisivuṇ-an 自分で行く出會ふ、位置主、mi-tsi-  
 vuṇ 出會ふ。
6. na-ivoṭoṇ ~m-ivoṭoṇ 破瓦。
16. k-in-a-tsavatsav-an 人の形を成してゐる物、tsau-tsau  
 人。

ですか、まあ如何したのかと思つてゐ  
 た)といつた。

[その時]サブलगンが[狩から]歸つて  
 來たので、母は喜んで笑ひながら迎に  
 行つた。サブलगンは[その話を聞い  
 て]走つて來てモアカイを抱いた。而  
 して交を遂げ、子供を生んで、彼等は樂  
 しく暮した。終。

4. モアカイ

モアカイとモアトコと二人の女が  
 居た。二人は従姉妹同士であつた。  
 マクルルといふ男はモアカイと結婚  
 して、サブलगンを生んだ。[他の]サブ  
 लगンといふ男はモアトコと結婚し  
 て、モアカイを生んだ。[モアカイは]只  
 女陰ばかりで體は無い、併し話するこ  
 とは出來た。[サブलगンの親は]モア  
 トコが女[の子]を生んださうな、さあ我  
 々見舞に行かう、而して[自分の子]サブ

18. lilav-au 現實未來、客體主、l-im-ilau 現在、主體主、19  
 行、na-l-im-ilau 過去、主體主、289頁、1行。
20. <qila-in 一般現在、客體主、ʔilao<ʔila-ao 現實未來、客  
 體主、289頁、11行、ʔin-ila 過去、客體主、290頁、6行、  
 ʔcem-ila 隠す、主體主。

- <sup>1</sup> ʔa nia alak / vaik a tsmikiṭ ʔa nali-  
 は 我等の子 行 共 歸 は 見舞
- <sup>2</sup> milau /  
 人

ルガンの許嫁にしよう)といつて、見舞  
 に行つた。[而して]汝等の子は何處に  
 ゐるのか、といつて[はひつて]來た。[親  
 達は子を隠して]居ない、我々の子は人  
 ではない、といつたので、見舞に來た人  
 は歸つて行つた。

- <sup>7</sup> limto apa ti sapuṭuṇ / vaik a ʔcemalup  
 成人了 は サブルガン 行 共 狩
- <sup>8</sup> toa ori siṣuḍu / ʔori maṭiz amin ʔa  
 な 將爲 訪問品 將爲 歸來 我等が は
- <sup>9</sup> paokiz / saka ʔa maṭiz ori ta kudain /  
 結婚 而 歸來 將 我等の 所如何
- <sup>10</sup> sa talak ʔa namaitutsu / ta sisiaʔ apa /  
 而 我等の子 共 既如此 我等の 耻 だ
- <sup>11</sup> pai ta ʔilao / siaṭap toa lapian / sa  
 さあ 我等の 所可隠 所持來 な 箱 而
- <sup>12</sup> pasazoain / satizin ʔa pasa tsimtsimiṭ i  
 所入 所持行 共 方 草原 に
- <sup>13</sup> toa liv / sa vaivain ʔa itoṇ apa /  
 處 岩蔭 而 所掛 は 方布了

サブलगンは成長した。[而して]女  
 を訪問する時の手土産を捕る爲に、或  
 時、山へ狩しに行つた。[サブलगンの  
 親達は]結婚は、サブलगン等が、狩から  
 歸つてからにしよう)といつた。[モア  
 カイの親達は]サブलगンが歸つて來  
 たら、我々は如何しよう、我々の子は此  
 様なのだのに、我々は耻しい、さあ隠さ  
 う)と云つて、箱を持つて來て、その中に  
 入れた。而して、岩蔭の叢の處へ持つ  
 て行つて、方布(四角な布)を掛けて置い  
 た。

- <sup>19</sup> ḍurnakin ni sapuṭuṇ ʔa kinazoan /  
 所見附 の サブルガン は 置了處
- <sup>20</sup> ʔako namaitutsu aitsu ʔa imaza / ʔa jiau  
 何故 既如此 此は 共 在此處 共 多
- <sup>21</sup> itoṇ apa / ʔao nika no tsautsau / patsuni  
 方布 だ 而 無 の 人 所見

サブलगンは、その置いてある處[を]  
 通つて、不圖其)を見つけた。[此處に此  
 様な物があるのは、如何した譯だらう。

8. ori si-kiṣuḍu si-kiṣuḍu 女訪問に用ゐる品、用具主、禮  
 物、ori 未來。
10. <si-siaq 耻の原因、子、ma-siaʔ 耻しい、290頁、4行。
11. <qila-ao 共を隠さう、現實未來、客體主、ʔin-ila 一般  
 過去、客體主、290頁、6行、ʔcem-ila 主體主。

- si-aṭap...の爲に...を持來る、用具主、子。
12. pa-sa-zoa-in 其に入れる、客體主、子、  
 satiz-in 客體主、s-im-atiz 主體主。
13. <vaivai-in 客體主、v-in-aivai 衣を竿に掛るなど。
19. <k-in-azoa-an 置いてある處、k-im-azoa 共處へ置く。



- <sup>1</sup> nimado ʔa sma ta[ad] toa liv/ mano izoa  
彼の 其 赴 中 の 岩蔭 ところが有
- <sup>2</sup> laŋian/ sutsaʔovin ni sapu[ujan] / mano  
箱 所除彼 の サブルガン ところが
- <sup>3</sup> izoa i ta[ad] ʔa tsinavo/ "maja akin ʔa  
有 に 中 が 包物 物 我は 其
- <sup>4</sup> simotsavo/ masiaʔ akin/ "tima sun/  
解包 耻 我は 誰 汝は
- <sup>5</sup> "tiakin ʔa alak akin ni moatoko/ "ako  
我は 其子 我は の モアトコ 何故
- <sup>6</sup> sun ʔa imaza/ "inila-ŋa-kin ni nia  
汝は 其 在此處 所隠 了我は の 我等の
- <sup>7</sup> kina/ "masiaʔ toa ʔa[i]ʔa[i]ʔ aja tia kina/  
母 耻しい に 他人 といふ等は 母
- <sup>8</sup> a[apin] ni sapu[ujan] / sa sikaoin/  
所取 の サブルガン 而 所入網袋

- <sup>12</sup> "anima ʔa[ian] / sa su kinavits ʔa  
何 友よ 而 汝の 掛肩物 其
- <sup>13</sup> sadi[up] / "laka[ao] / vaik timado ʔa  
重い 頭飾花 行 彼は 其
- <sup>14</sup> isapas ima[ats] / sa vaik a sma tumaʔ/  
先に 瞞 而 行 其 赴 内
- <sup>15</sup> simokavits / sa a[apin] ʔa pasa soror/  
脚背 而 所持行 共 方 寝床
- <sup>16</sup> saka taʔoed / "tiki[lu: toa vava / kanu toa  
而 眠 飲め な 酒 食へ な
- <sup>17</sup> kinsa/ no aja ʔa kina / "saʔto akin"  
飯 時 さいよが 母 病 我は
- <sup>18</sup> aja sakamaja timado / ta po[loʔ] kato [ima  
といふ 只 彼は 一十 と 五
- <sup>19</sup> ini ka kiman toa kinsa /  
不 共 食 な 飯

- <sup>21</sup> "sapu[ujan] uzai ʔa vavui/ aja ʔa[i]ʔa[i]  
サブルガンよ 居 が 山脈 といふ人々は
- <sup>22</sup> "sao ʔa[apu] / vaik ti sapu[ujan] ʔa ʔoem-  
行け 取れ 行 は サブルガン 共 狩

3. ts-in-avo 中に包んである物, s-im-o-tsavo 包を解く,  
4行. s-im-o- 取除く, 解く. ts-im-avo 包む.  
8. sikao-in 客體主, モアカイ, sikao 背負ふ網袋.

方布が澤山あつて、人は居ないといつて、彼は岩蔭の中へはひつてみた。すると箱があつた。サブルガンは蓋をとつた。すると、中に包んだ物が有つて、私の被をとるな、私は耻しいといふ。「お前は誰か」と問ふと、「私はモアトコの子だ」といふ。「何故、お前は此處に居るのか」と問ふと、「我々の母が私を隠したのだ。『他人に對して耻しい』と母がいつてゐる」といふ。サブルガンは之を取つて、網袋に入れて歸つて來た。

[途中で會つた人が]友よ、お前が肩に掛けた重いものは何かといふ。サブルガンは頭飾の花だ[と答へた]。而して自身先に行つて、喊聲をあげながら家へ歸つた。[それから網袋を]下して、寝床へ持つ行つて、眠つてしまった。母が「酒を飲め、飯を食へ」といふと、彼は只、「私は病氣だ」といふ。[此様にして彼は]十五日間、飯を食はなかつた。

[人々が]サブルガンよ、山脈が出た、取りに行け[といつたので]、サブルガンは

12. k-in-avits 肩に掛けてあるもの, s-im-o-kavits 同上を取らず, 15行. k-im-avits 主體主.

- <sup>1</sup> alup / parimasud ʔa kina toa ʔaʔeripan  
整頓 は 母 な 寢處
- <sup>2</sup> nimado / mano izoa nukianima / "mano  
彼の ところが有 何か まあ
- <sup>3</sup> mawan ʔa saʔtoan noa ko alak" aja / sa  
其物 は 病氣の元 の 我の子 といふ 而
- <sup>4</sup> viritsan ʔa pasa tikotikoan / mantiz ti  
所捨 は 方 下の處 歸 は
- <sup>5</sup> sapu[ujan] "a ino ʔa ko" aja / "anima  
サブルガン 其 在何處 は 我物 といふ 何
- <sup>6</sup> su siajaja / su pa[lipid] / su laligian /  
汝の 所知其 汝の 笛 汝の 鳴琴
- <sup>7</sup> "ini ka mawan ʔa ko siaja / "mawan ka  
非 共 其物 は 我の 所知此 其物 共
- <sup>8</sup> so maja ʔa ko sinivirits / "su sivrirts ʔa  
汝の 大概 共 我の 所捨物 汝の 所捨物 共
- <sup>9</sup> pasa ino kina / "ko sivrirts ʔa pasa  
方 何處 母よ 我の 所捨物 共 方
- <sup>10</sup> tikotikoan / ʔao vaik ti sapu[ujan] sma-  
下の處 そこで行 は サブルガン 赴
- <sup>11</sup> zoa / mano izoa ti moakai / ʔa naʔoem[ad]  
其處 ところが 居 が モアカイ 其 坐つてゐる
- <sup>12</sup> i tikotikoan / a[apin] ni sapu[ujan] ʔa  
に 下の處 所伴來 の サブルガン 共
- <sup>13</sup> timavikil / ʔa pasa ka[uvu]vung / "ko  
抱 共 方 石の垣 我の
- <sup>14</sup> saŋu[tau] aja ʔa kina / mano [imoni /  
所接吻 といふ は 母 ところが 地震
- <sup>15</sup> ma[ap] ʔa kina toa ʔata / sa pavajan tai  
取 は 母 な 玉 而 所與 に
- <sup>16</sup> moakai / sa nakisaŋu / sa napavai toa  
モアカイ 而 自分接吻 而 既與 な
- <sup>17</sup> animanimapa sinipitsikil ʔaima[du] / sa  
種々の物 結婚用 彼に 而
- <sup>18</sup> pavajan toa ma[alalak] ni moakai / "ai:  
所與 に 親等 の モアカイ おや
- <sup>19</sup> mano iza ino aŋa ʔa ta alak / aja  
まあ 居 何處 だ は 我等の子 といふ
- <sup>20</sup> tiamadu ʔa ma[usa] / sa navaik a sma-  
彼等は 共 二人 而 既行 共 赴

狩に出掛けた。母は彼の寢床を片附け様として、みると、何か或物があつた。「攄こそ、此が我子の病氣の原因だ」といつて、家の下の方[の塵捨場]に捨てた。サブルガンは歸つて來て、「私の物は何處に在るか」といつて[方々を]搜した。母は「お前は、何をそんなに搜すのか、お前の笛か、鳴琴か。[私の搜すのは、其様な物ではない]。母は、「私の捨てた、あれだらう」といふ。「お前の捨てた物つて、母よ、何處へ」。母は、「私の捨てた物は、下[の塵捨場]に」といつた。そこで、サブルガンが其處へ行つてみると、モアカイは[立派な人に成つて]、下の處に坐つてゐた。サブルガンは抱いて、庭前の石垣の處へ連れて來た。母は、「私が接吻しよう」といふ。俄かに地震があつた。母は玉を取出して、モアカイに與へて、接吻した。而して、結婚用の色々の品物を、彼に與へた。又モアカイの親達

2. nu-ki-anima 何か知らぬ或物, anima 何. ki-だらう。  
3. <saŋto-an 病氣の原因, 用具主, saʔto 病氣 -an 用具理由。  
4. virits-an 位置主, si-virits 用具主, 8行. s-in-i-virits 過去, 用具主, 8行. v-in-irits 捨てる, 主體主, tiko-tiko-an 下の處 <tiko 下。  
6. <si-aja-aja 色々其様にしてゐる理由, si-aja 此様にす

る理由, 7行. 用具主。  
14. saŋu[au] 現實未來, 客體主, モアカイ, na-ki-saŋu[au] 自分で接吻した, 主體主, 16行。  
[im-oni <oni 地震, 比. Bis. linug.  
15. pavaj-an 用具主, 玉, na-pavai 主體主, 16行。  
17. s-in-i-pi-tsikil 結婚用にした物, si-pi-tsikil 同上にする物, pi-tsikil 結婚

- <sup>1</sup> zoa limilao tai moakai / poalak apa ti  
其處 見舞 た モアカイ 生子 了 は
- <sup>2</sup> moakai kati sapu[upan / saka maliva-  
モアカイ と サブルガン 故 喜 了
- <sup>3</sup> tiamadu / amin-apa /  
彼等は 此丈 だ

5. moi i va[iva]ju  
白石在 ヴァリヴァリウ

- <sup>8</sup> izoa ti sapu[upan i talivavau / ?ao  
居 が サブルガン に 天上界 すると
- <sup>9</sup> vaik ?a kina kama sma vavo / i oma?  
行 は 母 父 赴 島 在家
- <sup>10</sup> timadu / ?ao ma[ap toa tokotoko / sa  
彼は すると 持 を 球 而
- <sup>11</sup> tokotokotoko katoa sa[asa]ad / mano ma-  
轉々ころがす と 友人仲間 ところが 紛
- <sup>12</sup> o[ao / "ai la ?a[ian / ?a kipasa inu ?a  
夫 おやれえ 友等よ 其 自分行 何處 は
- <sup>13</sup> ko tokotoko / ?a mao[ao / kimi:m tima-  
我の 球 其 紛失 獲 彼
- <sup>14</sup> du / mano mako[oa ?a maka-zoa itoa  
は ところが 轉 其 から 其處 處
- <sup>15</sup> boaboap ?a sma tiko / vaik timadu ?a  
穴 其 赴 下 行 彼は 其
- <sup>16</sup> kitavilil maka-zoa pinakazoan noa toko-  
自分從後 から 其處 通つた處 の 球
- <sup>17</sup> toko nima[du / ?a sma talitiko / ?ao  
彼の 其 赴 下界 そこで
- <sup>18</sup> kivada? timadu toa ta?ala?alan / "pasa  
間 彼は に 社人 通る
- <sup>19</sup> ino ?a ko tokotoko / ini ka-mon ?a  
何處 は 我の 球 不 其 汝等は 其
- <sup>20</sup> patsun ?a mapulat / ini ka-min ?a  
見 其 皆 不 其 我等は 其
- <sup>21</sup> kimilap / pai sao / kivada?o ti vuvu i  
知 さあ 行け 所問 は 老女 在

7. moi 水晶の如き白き石なりといふ。  
8. <[a-li-vavau ta-<[oa- 處, li-vavau 上る, vavau 上。  
11. sa[a-sa]ad<sa[ai] 同伴者, 仲間。  
12. ki-pa-sa 自分で行く, ki 自分, s-m-a 赴く, ki- に續く時は pa-sa。

にも與へた。モアカイの二人の親は、  
「まあ、我々の子は何處に居たのだらう」  
といつて、モアカイの處へ見舞に行つた。  
モアカイとサブルガンとは子供が出来たので、彼等は喜んだ。終。

5. ヴァリヴァリウに在る白い石

サブルガンといふ者が天上に居た。  
母と父とは島へ行つて、彼は家に居た。  
〔而して友達仲間と、圓い球を轉がして遊んで〕ゐた。すると〔いつの間にか〕その球が見えなくなった。〔おや友よ、私の球は何處へ行つたのか知らん、見えなくなった〕といつて、彼は捜した。すると、球は穴の處から、下の方へ轉げて行つたのだつた。彼は、球の通つた後をつけて行くと、下界へ行つてしまつた。〔其處に蕃社があつたので〕彼は社の人に向つて、〔私の球は何處へ行つたか、お前等は誰も見なかつたか〕といつて問うた。〔人々は〕我々は知らない、ま

16. ki-ta-vilil ki 自分, ta ...より尙, vilil 後方。  
<p-in-a-ka-zoa-an 其處から通つた處, maka-zoa 其處から, i-zoa 其處に在る。  
21. <ki-vadaq-o 命令, 客體主, 老女, ki-vada? 自分で問ふ, 問ひかける。主體主, 18行。

- <sup>1</sup> d[ad]igirau / vaik a kivada? / "ini ka-  
ダドッグラウ 行 其 間 不 其
- <sup>2</sup> kin a kimilap" aja timadu / mano patsu-  
我は 其 知 といふ 彼は ところが 所見
- <sup>3</sup> ni ni sapu[upan izoa i taitiko i soror /  
附 の サブルガン 在 於 下 の 處 の 竊床
- <sup>4</sup> a[apin ni supu[upan "uzai-maza vuvu: /  
所取 の サブルガン 在 此處 老女よ
- <sup>5</sup> sa ko tokotoko / "ini apa ka-kin ?a  
其 我の 球 不 だ 其 我は 其
- <sup>6</sup> tsimugud ?a patsun / "ori imaza-  
能 其 見 附 欲 在 此處 よ
- <sup>7</sup> kin i tanusun vuvu: /  
我は に 汝の處 老女よ

あ行つて、ダド。グラウのお婆さんに聞け〕といつた。〔彼が〕行つて問ふと、お婆さんは、〔私は知らない〕といつた。ところが、サブルガンは〔ふと、其が〕竊床の下に在るのを見つけた。彼は其を取つて、お婆さん、私の球は、そら此處にあつた〕といふと、〔老女は〕私は見つけることが出来なかつたのだ〕といつた。〔サブルガンは〕お婆さん、私はお前の處に居たい〕といつて、其處に滞在することになつた。

〔暫くたつて、或時サブルガンは〕お婆さん、人々は川へ魚を捕りに行かうといふ、私は何を持って行かう〕といふと老女は、汝は鍋つかみを持って行け〕といふ。彼は鍋つかみを持って行つた。すると、他の人々は何も捕れなかつたのに、彼は魚を擔〔ぐ程捕つた。

〔又或時彼は〕お婆さん、人々は狩に行かうといふ、私は何を持って行かう〕といふと、老女は、狩には、此の私の箆を持

- <sup>12</sup> "ori tipana ?a[ia]i vuvu: / ori masi  
將 川邊 人々は 老女よ 將 持行
- <sup>13</sup> anima-kin / "katsu: sa sapul ?a tipa-  
何 我は 所持行 其 鍋網 其 川邊
- <sup>14</sup> na / mano ini ka ma[ap ?a ?a[ia]i / ?ao  
ところが 不 其 取 は 他人 すると
- <sup>15</sup> vinatsa? timado toa tsi[au /  
擔 彼は を 魚
- <sup>19</sup> "ori vuvu: ori ?oemalup ?a[ia]i / ori  
將 老女よ 將 狩 人々は 將
- <sup>20</sup> masi anima-kin / "katsu: aitsu ?a ku  
持行 何 我は 所持行 此 其 我の
- <sup>21</sup> vu[ajan ?a ?oemalup / vaik timado / mano  
箆 其 狩 行 彼は ところが

5. sa それ, そら, など其物, 其事に特に注意を與へる意あり, katsu-u sa sapul それ〔此の〕鍋つかみを持って行け。13行, katsu-u sa ku vu[ajan それ〔此の〕私の箆を持って行け。294頁, 9行, maja sa kitivil そら, 共同するな。294頁, 10行, nu mitad sa ku in-

apoan sa ta[ajo apa それ〔此の〕私の嘴んだ横櫓が乾いたら, すぐ中にはひれ。295頁, 9行。  
12. ti-pana pana 川。  
15. <v-in-atsaq 一人で兩荷を擔ぐ。

- <sup>1</sup> "maja kitivivil / ti ta ?a?i / pa?isi  
物 共同 我等の 友よ 不吉
- <sup>2</sup> namasi vu?ajan / ?oemalup tiam?o / mano  
持つてゐる 箆を 狩 彼等は ところが
- <sup>3</sup> ma?ap ti sapu?u?an ?a simo?iau / ?ao ini  
取 は サブルガン 其 多 すると 不
- <sup>4</sup> ka ma?ap ?a ?a?i?a?i /  
其 取 は 人々
- <sup>5</sup> "vuvu: / ori ma?inatsap ?a ?a?i?a?i / ori  
老女よ 狩 出草 は 人々 狩
- <sup>6</sup> masi anima-kin / "katsu: sa ku vu?a-  
持行 何 我は 持行け 其 我の 箆
- <sup>7</sup> jan / "maja sa kitivil / namasi vu?ajan  
物 其 共同 持つてゐる 箆を
- <sup>8</sup> sun / ajain noa ?a?i?a?i / mano ?oemtsi  
汝は 所言 の 人々 ところが 殺
- <sup>9</sup> tima?o ?a simo?iau / ini ka ?oemtsi ?a?i-  
彼は 其 多 不 其 殺 人
- <sup>10</sup> ?a?i / ?imutsig ?a mapulat / "ta kodau /  
々は 怒 は 皆 我等の 所如何
- <sup>11</sup> ti ta ?a?i / ako ini ka namakaja toa  
我等の 友よ 何故 不 其 勝了 爲
- <sup>12</sup> kimodakoda-?a / pai ta ?itsiau / ?ao  
如何 ね さあ 我等の 所殺 すると
- <sup>13</sup> kiva?a ti supu?u?an / ki?apida toa ma-  
遊 は サブルガン 間 を 相
- <sup>14</sup> zipzipzip / mano ro: ?oetsiin tima?o / vaik  
談 ところが 大抵 所殺 彼は 行
- <sup>15</sup> a ?oma? / pasma?au toa vuvu / "uzao ro:  
其 内 告 に 老女 だらう 大抵
- <sup>16</sup> ?oetsiin akin noa ta?ala?alan / ori vaik  
所殺 我は の 社人 欲 行
- <sup>17</sup> akin / vuvu: / ?a sma talivavao / "ini  
我は 老女よ 其 赴 天上 否
- <sup>18</sup> sapu?u?an / ka imazao apa / no aja  
サブルガンよ 其 居此處 よ ても 如其
- <sup>19</sup> ?a?i?a?i / ori kimoda: / "ini vuvu: / ori  
人々は 狩 爲如何 否 老女よ 欲

13. <koda-au 彼を如何してやらう、現實未來、客體主、k-  
im-oda 主體主。  
15. <?oetsi-au 彼を殺してやらう、現實未來、客體主、?oetsi-

つて行け[といふ]。彼は[箆を持つて]行  
つた。[すると人々は]我々の友よ[サブ  
ルガンと]一緒にするな。[彼は女の用  
ゐる]箆を持つてゐる、不吉だ]といった。  
[彼等は狩した]。ところがサブルガン  
は澤山捕つたのに、他の人々は何も捕  
らなかつた。

[其後又或時、彼は]お婆さん、人々は首  
狩に行かうといふ、私は何を持つて行  
かう[といふと、老女は]私の箆を持つて  
行け]といふ。[彼は箆を持つて行つた。  
すると]人々は、[一緒にするな、汝は]不吉  
な箆を持つてゐる[といった]。ところ  
が、彼は澤山殺したのに、人々は一人も  
殺さなかつた。[それで]皆が怒つて、[我  
々の友よ、我々如何してやらう、何故か、  
如何して勝てないのだらう、さあ、我々  
は、彼を殺してやらう]といった。サブ  
ルガンは[丁度]遊びに行つてゐて、その  
相談を漏聞いた。彼は殺される恐が  
あるので、内に歸つて老女に告げた。  
[私は社の人に殺されさうだ、お婆さん、

in 一般客體主、19行、?oem-tsi 主體主、11行。  
17. ro: 大抵、殆んど、大部分、比、ro: kai-kai 饒舌、kai 居、  
21. i-maza-o 命令、主體主、i-maza 此處に居る。

- <sup>1</sup> vaik akin ?a sma ?alivavao /  
行 我は 其 赴 天上
- <sup>2</sup> tima?im tima?o toa taliu / mikoda?  
我 彼は を 小砥 成太
- <sup>3</sup> ?a zimokir i ?alivavao / ma?ap toa  
其 到 に 天上 取 を
- <sup>4</sup> toko?oko / "aitsu vuvu: / nu mitad sa ku  
球 此 老女 時 乾 其 我の
- <sup>5</sup> inapoan / sa ta?ado apa toa soror / vaik  
所嚼物 前 入中 よ の 糶床 行
- <sup>6</sup> ti sapu?u?an ?a sma vavao / ?a tsimiki?  
は サブルガン 其 赴 上 其 歸
- <sup>7</sup> ?a sma ?alivavao / ka zimokir i ?ali-  
其 赴 天上 そこで 到 に 天
- <sup>8</sup> vavao / ?akadakin nima?o ?a vintsi?uk /  
上 所踏 彼の 其 折
- <sup>9</sup> mano matsaj-apa mapulat ?a ta?ala?alan  
ところが 死 了 皆 は 全社人
- <sup>10</sup> i va?iva?iu / amin apa ti ?adigirau no  
在 ヲリヲヲリウ 其丈 了 は ダドッグラウ 時
- <sup>11</sup> valut /  
生殘
- <sup>12</sup> ka i ?alivavav-apa ti sapu?u?an /  
すると 在 天上 了 は サブルガン
- <sup>13</sup> mano "pasa ino sun / kimaja matsaj-aja-  
ところが 方 何處 汝は 或 死 と思
- <sup>14</sup> min / mano izoa sun / "kitavi?il akin  
我等は ところが 居 汝は 自分從後 我は
- <sup>15</sup> ?a sma ?alitiko / ?ao izoa-?a-kin i tai  
其 赴 下界 すると 居 了 我は に 處
- <sup>16</sup> vuvu i ?adigirau / ?ao ori ?oetsiin akin /  
老女 の ダドッグラウ すると 狩 所殺 我は

10. in-apo-an 糶床を嚼んだ屑、m-apo 同上嚼む、apo 糶  
椰子。

私は天上に歸りたいといふ。[老女は]  
[いや、サブルガンよ、此處に居れ。人々  
がさういつても、其が何だ、如何するも  
のか]といふ。[するとサブルガンは]い  
や、お婆さん、私は天上に歸りたい]とい  
つた。

彼は小さな[携帯用の]砥石を地に立  
てた。すると、其が大きくなって、天に  
届く様になつた。彼は球を取つて[老  
女に]お婆さん、そら、この楨椰子を嚼ん  
で、吐き出した屑が乾いた時には、糶床  
の下に、はひつて隠れなさい、といつて、  
上へ登つて、天上に歸つた。彼が天に  
着くと、彼は[その柱を]踏折つた。する  
と、ヅアリヅアリウ(其蕃社の名)の全社  
の人は皆死んでしまつた。只ダド。  
グラウの老女だけが生殘つた。

サブルガンは天に歸りついた。す  
ると[親達は]お前は何處へ行つてゐた  
のか、我々は、若しや死んだのではない  
かと思つてゐた。まあ、お前は生きて  
ゐたのか[といつて喜んだ]。するとサ

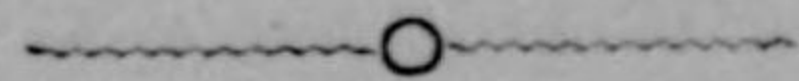
ta?ad-o 命令、主體主、ta?ad 物の中、

3. パイワン本文

- <sup>1</sup> mana ku sivaik ?a sma maza i tailva-  
 其 我的歸る理由 其 赴 此處 在 天上
- <sup>2</sup> vao"/ aja timaḡo / ?a pasumaḡao toa mata-  
 といふ 彼は 其 告 に 親
- <sup>3</sup> lalak / ?oemaḡoḡ aḡa ?a kina kama / saka  
 達 泣 了 は 母 父 而
- <sup>4</sup> "ka namatsai sun / ka na ini ka-min  
 其 死了 汝は 其 了 不 其我等は
- <sup>5</sup> ?a kimilaḡ" / aja tiamḡo /  
 其 知 といふ、彼等は
- <sup>6</sup> azoa i vaḡivaḡiu ?a moi / mana na-  
 あれ 在 ヲリヲリウ 其 白石 其物 以前の
- <sup>7</sup> taliu ni sapuḡuḡan / amin /  
 砥石 の サブルガン 此文

ブルガンは親達に、「私は[珠の]後を追う  
 て下界に下つて、ダド。グラウの老女  
 の處に居た。私は殺されようとした  
 ので、天上へ歸つて來たのだ」といつた。  
 母も父も、「若しお前が死んでゐたら、我  
 々はそんな事を知らなかつたやうし  
 といつて、泣いて喜んだ。

今日 ヲリヲリウ(口社に近き處)  
 の地に在る、あの白い石は、サブルガン  
 の其時の砥石である。終。



1. si-vaik 歸る理由、用具主。  
 8. na-taliu 昔用ゐた小さな砥石、taliu 携帯用の小さな

砥石、na- 過去、na ini …しなかつた、原意…しない  
 者であつた、4行。

IV

プ ユ マ 語

語 法 概 説  
 及 び 本 文

## ブユマ語語法概説

### I. 分 布

ブユマ語は臺東の平野に住する卑南社、外七社、即ち所謂卑南八社蕃(人口約五千三百)の用ゐる言語にして、多少の方言的差異なきに非ず。中にも卑南社の語は他に比して、其の差異殊に甚しきものあり。本調査は譯者の關係上、卑南社のものを主とし、他の七社につきては知本社の傳説只一を挙げたり。以下記述する所は主として卑南社の言語による。

### II. 音 韻

#### 1. 母音, [i], [ɪ], [e], [a], [o], [ɔ], [u], [ɯ]

[i], [ɪ], [e] は同類音にして屢々相轉換す, [o], [ɔ], [u] も亦同じ。

[a] の後に在りては [u] は弱き [ɯ] となる, 記載には [o] 又は [u] を用ひたり。

#### 2. 子音, 兩唇音, [p], [b], [m], [w], 齒音, [t], [d], [n], [s], [l], [r], 反轉音, [tʰ], [dʰ], [lʰ],

硬口蓋音, [j], 軟口蓋音, [k], [g], [ŋ], 聲門音, [ʔ]

[p], [t], [k] は語末に在りては屢々密閉音の如く聞ゆることあり。

[l] は齒槽突起の後部に舌面を廣く附着し, 舌先に力を入れずして發音す。

反轉音 [tʰ], [dʰ] は夫々バイツン語の [ts], [d] (又は [z]) に相應す。

知本社方言の或る子音は卑南社のものと異り一種の特色を有す。

[h], 聲門部の有聲摩擦音, 卑南社の [ʔ], バイツンの [q] に相應す。

[x], 軟口蓋の無聲摩擦音, 卑南社及びバイツンの [g] に相應す。

[ð], 齒間の有聲摩擦音, 英語の [th] に似たれども舌先を少し齒間に現はして發音す。卑南社の [d], バイツンの [j] に相應す。

[z], [z] の反轉音にして, 卑南社の [d], バイツンの [d] (又は [z]) に相應す。

例,	知本	卑南	バイツン
雨	hodal	ʔodal	qojal
鳥	hajam	ʔajam	qaja-qajam
牛	xop	gop	gop
足	ðapal	dapal	japal
針	ðaom	daom	jaom
西	zaja	ɬaja	zaja (東)

3. 揚音は普通語末の音節に高低揚音を有す。

### III. 形 態

#### 1. 接頭辭

a- 過去, a-daman 昨日, a-<sup>2</sup>asoa 何時(過去)。

an- 未來, an-daman 明日, an-<sup>2</sup>asoa 何時(未來)。

i- 場所, i-soa 何處に, 何處で, i-roma<sup>2</sup> 家に, 家で。i は又獨立語と見ることを得。  
比. IN. i.

ka- 反復 未來, ka-[a-]iai 酔ふだらう ~ma-[iai] 酔ふ, ka-a-<sup>2</sup>odal 雨が降るだらう  
<odal 雨。

kar- 協同, kar-basak 二人で擔ぐ, kar-tupud 二人協同して殺す。

ki- …してもらふ, ki-boras 貸してもらふ, ki-kolij 皮をむいでもらふ。

ki-a- 取る(未來), ki-a-kau 薪を取らう, ki-a-korao 魚を捕らう。

kor- 自分で, 自然に, そのまま, kor-tapla<sup>2</sup> 倒れる ~t-im-apla<sup>2</sup> 倒す, kor-pawai 自分で  
先に行く ~pawai-an 前, kor-na<sup>2</sup>o 見える, (見ようとしなくて) ~m-na<sup>2</sup>o 見る,  
kor-pa<sup>2</sup>ik じつと乗って居れ。

?m-<im- 他動, ?m-kan 食ふ[者], ?m-alak 取る[者], ?m-abut 消す[者], 比. ma-

?m-反復 他動進行, ?m-na-na<sup>2</sup>o 見てる[者], m-a-<sup>2</sup>alak 取つてる[者]。

ma- 自動, ma-du<sup>2</sup>o<sup>2</sup> 煮える, ma-<sup>2</sup>but 消える, 比. ?m-

ma-ka- (1) 其の方に在る[物], maka-<sup>2</sup>ami 或物の北の方に在る[物], maka-<sup>2</sup>as 或物の  
上に在る[物]。(2) …からの物, maka-indan 口から出る[物], maka-bililoan 谷川から  
捕れる[物], 手長蝦。(3) …に屬する[物](?) maka-pitu 七十, maka-wa<sup>2</sup>o 八十。

ma[la]- …より尙, ma[la]-maidag 年長, ma[la]-anak 年少。

mari- 相互, mari-wa<sup>2</sup>i 兄弟同士, mari-katagiin 互に夫婦。

ma-反復 (1) 自動進行, ma-<sup>2</sup>a-<sup>2</sup>odal 雨が降つてゐる, ma-[a-]oni 啼いてゐる。(2)  
相互, ma-ta-tupud 殺し合ふ, 戦ふ, ma-<sup>2</sup>da-<sup>2</sup>dikol 互に助け合ふ。

mi- 動詞化, mi-kipiq 衣を着る, mi-bo 果が生る, mi-liop 豚を連れて来る。比. pi-  
mi-a- mi-a-<sup>2</sup>doa 二人, mi-a-ti<sup>2</sup>o 三人。比. mi- 反復。

mi-反復 (1) mi-sa-sa 一人, mi-<sup>2</sup>da-<sup>2</sup>doa 二人, mi-ta-ti<sup>2</sup>o 三人。(2) mi-na-na<sup>2</sup>ai 死にかけ  
てゐる[者] <mina<sup>2</sup>ai 死ぬ。

mo- (1) 自動, mo-asolud 獨樂など廻る, mo-<sup>2</sup>alib 戸が締る。(2) 他動, mo-<sup>2</sup>ai 大便

する, mo-oma 鳥をする。

mo-反復 (1) 進行, mo-pa-pala 待つてゐる, mo-ra-roma<sup>2</sup> 家に歸りつゝある。(2) 未  
來, mo-ba-buluk 歸つて行かうとする, mo-[a-]abat 涉らうとする。(3) 常習,  
mo-a-oma いつも鳥をする[者], 農夫。

na-ma- (na-mo-, na-<sup>2</sup>m-, na-…-im-, na-pa-) 主體主, 一般過去, na-ma-[iboa] 始まつた[事],  
na-mo-oma 鳥をした[者], na-<sup>2</sup>m-kan 食つた[者], na-<sup>2</sup>t-im-akao 盗んだ[者], na-pa-<sup>2</sup>kan  
飼つてゐた[者], 食はせてゐた[者]。

ni- 客體主, 一般過去 ni-<sup>2</sup>kan 食つた[物]。

o- 主體主命令, o-roma<sup>2</sup> 家へ歸れ ~mo-roma<sup>2</sup> 歸る, o-sabak 中へはひれ ~mo-sabak  
中へはひる。

pa- (1) 使役, pa-soso 乳を飲ませる, pa-<sup>2</sup>nao 見せる。(2) 他動, pa-[om] 乾かす, pa-  
bo[as] 貸す, pa-bali 風にあてる。

paka- 使役, paka-soga[ ] 喜ばせる, paka-kala[ ] 通らせる。

pa[la]- 多く…する, 食る, pa[la]-abai 餅を多く食ふ, pa[la]-oninan 晝をむさぼる, 朝寝。

pa-反復 (1) 進行, pa-ba-bukas 走つてゐる。(2) 用具, pa-da-dawak 魚を毒する爲の  
物, 魚簾。

pi- mi- の命令, pi-kipiq 衣を着よ。

po- 他動, po-bini 種を蒔く, po-pa[ad] 名を付ける。

tino-反復 <t-in-o-? tino-wala-walak 人形 <walak 子供, tino-sa-soda-soda[ ] 舟の模型。

#### 2. 挿入辭

-a- (1) 未來, mi-a-kipiq 衣を着ようとする[者], mi-a-<sup>2</sup>dij 寝ようとする[者]。(2) 進行,  
m-a-oka 行きつゝある <m-oka 行く, ka-a-<sup>2</sup>o いつも居る。(3) 用具 ki-a-ka[un] 仕  
事の材料, 用品 <kika[un] 仕事する, ri-a-<sup>2</sup>nop 洗顔用品 ~ma-ri-<sup>2</sup>nop。

此の -a- は本來, 反復の轉化したるものならん, ki-a-budik=ki-ba-budik 砂を採  
らうとする[者] <budik 砂。

-in- 客體主, 一般過去, d-in-awai 作つた物 ~d-im-awai 作る[者], b-in-rai 與へた物。  
<brai 與へる[者]。

-im- (-m-) 他動, s-im-oso 乳を飲む <soso 乳房, k-im-oag 銃を打つ <koag 銃, t-im-a<sup>2</sup>i  
縫ふ。

-in- (-n-) <im- (唇音の次に來る場合), 他動, b-in-usu<sup>2</sup> 衣を洗ふ, p-in-ana<sup>2</sup> 射る。

#### 3. 接尾辭及び接頭辭と接尾辭との結合。

- a 主體主, 未來, <sup>?</sup>m-kan-a 食はう, m-na<sup>o</sup>-a 見よう。
- ai (1) 位置主, 現實未來, sa[um-ai 今裁えるようとする[處], tiki[-ai 一部分, 今飲まうとする[處]。(2) 同上, 過去, 此の -ai 本來は未來なれども, …する處にしたの意にて, 又過去にも用ゐる, -la (…した) を用ゐることあるを見れば, -la の略されたものなるべし, sa[um-ai < sa[um-ai la 裁える處にした, 其處へ裁えた, na<sup>o</sup>-ai < na<sup>o</sup>-ai la 見る處(物)にした, 其物は見た。
- an (1) 處, ami-an 北の處, ka-tupa[au-an 腰掛 ~ ma-tupa[au 腰を掛ける。(2) 時, ka-lahok-an 晝食時 ~ ma-lahok 晝食。(3) 用具, djal-an 照す具, 松明 ~ d-im-ial 松明で照す, <sup>?</sup>alib-an 閉す具, 戸 ~ <sup>?</sup>m-alib 閉す。(4) 物, diki[-an 粘る物, 糯米 ~ d-olikit 粘る, siusiu-an シウシウいふ物, 籬, idap-an 鋭利な物 < idap 刃。(5) 用具主, 命令, braj-an 與へよ[其物], sa[um-an 裁えるよ[其物, 又は其人の爲に]。
- an-ai (1) 用具主, 現實未來, salum-an-ai 今裁えるようとしてゐる[其物], braj-an-ai 今與へようとしてゐる[其物]。(2) 同上過去, -la を略したもの (?), sa[um-an-ai 裁えた[其物], -ai の條参照。
- an-i 用具主, 命令, po-sipsiq-an-i 鈴を付けてやれ[彼の爲に] < sipsiq 鈴。
- ao (1) 客體主, 現實未來, <sup>?</sup>kan-ao 食はう[其物], takaw-ao 盗まう[其物]。(2) 同上過去, 此場合は -la を附することあり, <sup>?</sup>kan-ao la 食つた[其物]。 -ai の條参照。
- i 位置主, 命令, brai-i 與へよ[其人に], sulap-i 掃け[其の處]。
- o 客體主, 命令, <sup>?</sup>kan-o 食へ[其物], tupok-o 打て[其物]。

## 4. 反 覆

## a. 單純なる反覆

- (1) 複數, kau-kau-i 多くの木, ko[a-ko]ao 多くの魚。
- (2) 進行, pa-pa<sup>?</sup>kan 飼つてゐる[者], < pa<sup>?</sup>kan 飼ふ, kilupa-lupao 聞いてゐる[者], < kilupao 聞く。
- (3) 主體主, 一般未來, ka-koal[i]n 病氣になるだらう, a-oka 行くだらう, 行かう, ba-brai 與へるだらう。
- (4) 用具主, 一般未來, ka-ku[ut 切る具, 小刀 ~ k-im-u[ut, da-d[i]os 體を洗ふ具, 石鹼, 手拭等 ~ d-im-i[os, sa-sulap 掃く具, 帚 ~ s-im-ulap。

b. 反覆 -ai 位置主, 現實未來, 相互の義, na<sup>o</sup>-na<sup>o</sup>-ai 互に見よう ~ m-na<sup>o</sup>。

## c. 反覆 -an

- (1) 位置主, 一般未來, sa-sulap-an 掃くべき處, sa-sa[um-an 裁えるべき處, 高。

- (2) 用具主, 一般未來, ka-kipiq-an 衣にする爲の物, 布, ta-tiki[-an 飲む爲の物, 飲料 ~ t-im-ikil 飲む, ta-tinun-an 織る具, 機 ~ t-im-inun 織る。

## d. 反覆 -i

- (1) 位置主, 一般未來, sa-sa[um-i 裁えるべき處, 高, na-na<sup>?</sup>-i 見るべき處, 物。
- (2) 客體主, 一般未來, ta-tupa[-i 殺すべき物, a-<sup>?</sup>kan-i 食ふべき物。

## e. 反覆 -im-

- (1) 進行, d-im-a-dukil 餅を搗いてゐる[者] ~ d-im-ukil。
- (2) 常習, t-im-a-takao いつも盗みする[者], 泥坊, t-im-a[la]-lao 占者, 巫 < t-im-a[lao 占する。

## IV. 品 詞

## 1. 冠 詞

	1. 一般冠詞	2. 定冠詞	3. 人的冠詞	4. 人的冠詞複數
主格	a	na	i	na
屬格	da	ka-na	kan	ka-na
其他	da, dan	ka-na	kan	ka-na

a 比. Tag. a-ng.

i 比. Pampanga i.

kan, kana < \*kan-na (?), 比. Ilok. kan-i-ac 我に, 我を, si-ac 我は。

na (複數) 比. Tag. si-na.

## 2. 代名詞

## a. 人代名詞

	一人稱	二人稱	三人稱	疑問人代名詞
單數	主格 {ko-i-ko, i-ko, } {-ko}	{jo-jo, i-jo, } {jo, jo}	{i-d[i]-o na tao, } {i-d[i]-o a}	i-manai
	屬格 {nan-ko, ko, } {ki, -li}	nan-o, n-o	{nan-to, -to, -tao, } {kan-d[i] kana tao}	an-manai
	其他 -kan-ko	-kan-o	kan-d[i] kana tao	kan-manai
複數	主格 {i-mi-mi, i-mi, } {i-am, -mi}	{mo-i-mo, } {i-mo, -mo}	{na-d[i]-o na tao, } {na-d[i]-o a}	
	屬格 {nan-iam, } {n-iam-}	{nan-mo, } {mo-}	{nan-to, -to, -tao, } {ka-na-d[i]-o ka-na tao, } {ka-na-d[i]-o na tao, } {na-d[i]-o ka-na tao}	
	其他 -kan-iam	-kan-mo	{ka-na-d[i]-o ka-na tao, } {ka-na-d[i]-o na tao, } {na-d[i]-o kana tao}	

含複  
對話者  
數  
主格 i-ta, -ta  
屬格 nan-ta-  
其他 -kan-ta

ko-i-ko 我, <\*i-ko...i-ko <i-ko. i は人的冠詞。

ki- 我の, 此の語は第二類動詞の前に用ゐらる。未來を表はすといふ。

尙考ふべし。本來、自己の義にはあらざるか, 比. Paiw. ki- (?i) 自己。

li- 我の, 此の語は父母等親族名詞に限り用ゐらる。大南社、下三社にも此の語あり、大南社よりの借用語か。

i-am 我等は <\*i-a-mi.

jo-jo <i-o...i-o <i-o. i は人的冠詞, o は汝, ~nan-o 汝の, kan-o 汝を, 汝に, 比. Tag.

iyo <i-o 汝の, sa iyo 汝に. 此の o はアタル其他の so 又は so に相應す, 本來 \*ho より轉化したるものならん。

三人稱は主として指示代名詞より成る。

an-manai 誰の, <\*nan-manai (?)

b. 指示代名詞

	此	其	あれ	あれ(遠方)
主 格	i-qi-ni, i-qi	i-qi-o-ni, i-qi-o	i-qi-o	i-tto
屬 格	kan-qi-ni	kan-qi-o	kan-qi-o	ka-tto
其 他	kan-qi-ni	kan-qi-o	kan-qi-o	katto
	此の	其の	あの	あの(遠方)
主 格	{i-qi-ni na, i-qi-na-	i-qi-o na	i-qi-o na-	i-tto na-
屬 格	{kan-qi-ni ka-na, kan-qi ka-na-	kan-qi-o ka-na-	kan-qi-o ka-na-	ka-tto ka-na-
其 他	{kan-qi-ni kana, kan-qi kana-	kan-qi-o ka-na-	kan-qi-o ka-na-	ka-tto ka-na-
	此處	其處	彼處	彼處(遠方)
	ka-qi-ni	ka-qi-o	ka-qi-o	ka-tto

c. 疑問代名詞

何 a-manai, a- 一般冠詞, ~i-manai 誰。

何處 i-soa 何處に在る。

何れ na i-soa 何處に在る物。

何時 a-a-soa (過去), an-a-soa (未來)。

3. 數詞, (單語集參照)。

1-10の數詞は大體インドネシアンの語形を有す。單語集及び總說數詞の條參照。十の po[o] は一、二、三の如く數を數へる時の語にして, moktip は一つ、二つと物を數へる時の語、即十個の意なり。又十一の moktip mi-sama qa sa-sa-j-a (十個一餘す一を一個)は十個に一個を餘す意なり。

4. 形容詞

1. m- を用ゐざるもの, inaba 良い, koatis 悪い。

2. m- を用ゐるもの, ma-kitip 小さい, mi-ra'at 青い。

5. 動 詞

A. 分類, 第一類、第二類、總說動詞の條參照。

B. 時相, アタル時相の條參照。

	第一類	第二類		
	主 體 主	客 體 主	位 置 主	用 具 主
現實現在	?kan 食ふ	?kan-o	?kan-i	?kan-an
進行現在	ma-?kan	(?)	(?)	(?)
一般現在	m-?kan	?kan-an	?kan-an	?kan-an (?)
現實過去	m-?kan la	?kan-ao la	?kan-ai la	?kan-an la
一般過去	na-m-?kan	ni-?kan	ni-?kan-an	(?)
現實未來	m-?kan-a	?kan-ao	?kan-ai	?kan-an-ai
一般未來	(?)	a-?kan-an	a-?kan-an	a-?kan

C. 命 令

第一類 主體主, ?kan, 例, ?kan qa walo (今食ふ者ぞ一を一菓子)= [汝は]菓子を食へ。

第二類 客體主, ?kan-o, 例, ?kan-o idini na walo a (今食ふ物ぞ一此れ一は一菓子一其)= 此の菓子は食へ。

同 上 位置主, ?kan-i, 例, ?kan-i idini na walo a 今食ふ處ぞ一此れ一は一菓子一其)= 此の菓子は幾らか食へ。多くの菓子の中より一部分を食へば後に大部分残るにより、菓子の全部を場所と見做して位置主の形を取るなり、アタル其他にも此の種の用法あり。

同 上 用具主, ?kan-an, 例, ?kan-an qa walo no sma (今食ふ理由ぞ一を一砂糖 [=菓子]一汝の一舌は)= 汝の舌の爲に砂糖を食へ。子供など舌が



痛いといふ時に、砂糖でも舐めよといふ場合に用ゐらる。砂糖を食ふ理由は汝の舌なりといふ意なり。

## D. 否 定

- a. 一般否定 ađi, 例, ađi ko ʔm-kan (非—私は—食ふ者)=私は食はない。  
 b. 禁止, ađi, 例, ađi ʔa-ʔiki| jo ɔa rao (非—飲むべき者—汝は—を—酒)=汝は酒を飲むな, ađi pa-ba-bukas (非—走るべき者)=走るな, <pa-bukas 走る者。  
 c. 有に對する無は unian なり。

## 6. 副 詞

- a. 純粹の副詞 sarau 非常に, 甚だ, ɔia 一寸尙等。  
 b. 名詞其他を變形して副詞的動詞を形成することあり, 原形 [ikod] 後, paka-[ikod]-an na ʔm-naʔo (後で…する處—冠詞—見る)=[其物は]後で見。原形 ɔoa 二, to kia-ɔoa-jai ʔim-oak (彼等の一二人で…する時—解體)=彼等二人で[豚など]解體する[其の時]。

## 1. 接續詞

- ao …と…と, 例, i kinabu[ao ao i panawai キナブラオ(人名)とバナワイ(人名)と, i ɔjensai ao i timama tao デンサイと彼の父と。ao は句の接續詞として, 而して, それで, それから, などの意に用ゐらる, 比. Paiw. qao, (ʔao).  
 an 若し…ならば, 若し…しても, …でも, 例, an ađi ma-odal i 若し雨が降らなければ, an ma-odal la i 若し雨が降つても, an onian an arimiŋ 晝でも夜でも。

## 8. 結 辭

- (1) a 一般的冠詞の a に同じ, 例, ʔnai a bijas (水—結辭—熱い)=熱い水湯, a[ad a basikau (垣—結辭—竹)=竹の垣。  
 (2) na 定冠詞の na に同じ, 例, iɔini na ʔao (此—結辭—人)=此の人, ʔnai na bi-jas (水—結辭—熱い)=其の熱い水, 其の湯, 比. Tag. na.  
 (3) ʔi, 例, iɔini ʔi nanko romaʔ (此—結詞—私の—家)=此は私の家, kaɔini ʔi ulaja a saʔtib (此處—結辭—有—が—本)=此處には本が有る, an ađi maodal ʔi ɔaɔoa ko (若し—不—降雨—結辭—將行—私は)=若し雨が降らなければ私は行かう。

## 9. 助 辭

- (1) …la …した, …して, …したのだ, …だよ。

- (2) …mao …だね, …しようね。  
 (3) …a …だ, …といふものだ。  
 (4) kma < k-im-a …ださうだ。

1. 卑 南 社 (pujuma)

1. miaḏoa a mariwadi 二人 共 兄弟

- 4 asoa ḏia ḡi/ kaḏo a miaḏoa a mariwadi
いつか昔は有が二人共兄弟
5 kima ḡi/ an karaoraob ḡi/ mokoā dar
さうだが時晩は行幾度も
6 ḡimakwa ḏa to ḡaspan ḏa paḡpian/ ḡao
盗を彼の甘蔗の阿眉而
7 an aro aoka ḡi/ "koiḡ koiḡ koiḡ" kima/
時將行はコイコイコイといふ
8 ḡao mokoā la dar kima/ ḡao maroa la
而行了幾度もさうだ而或時だ
9 kima ḡi/ na paḡpian ḡi "amanai na
さうだがその阿眉は何だらう其の
10 ḡmaḡaḡak kana ḡaspan" amawao kima/
度々取者其の甘蔗をと思さうだ
11 ḡao to ḡaboai nanto pakakalapan ḡmaḡak
而彼等の所時灰彼等の通路は取
12 ḡi/ ḡao to naḡoi ḏa simaḡoaḡoan ḡi/
すると而彼等の所見に翌朝と
13 kaḏo to dapaḡ kana ḡinaboan ḡi/ a ḡao
有彼等の足跡其の甘蔗灰處にするとだ人
14 kima/
さうだ
16 ḡao an karaoraob ḡi/ koiḡ koiḡ koiḡ ḡiḡo
而時夜はコイコイコイホキッ

1. 二人の兄弟

昔二人の兄弟が有つたさうだ。夜になると、いつも阿眉の甘蔗を盗みに行った。而して行く時には、いつもコイク、コイク、コイクといつて、(山猫の鳴聲をして)行つたさうだ。すると或る時、阿眉等は「いつも甘蔗を取る者は何者だらう」と思つたさうだ。而して彼等は「盗人が取りに来る通路に灰を蒔いておいて、而して翌朝になつて彼等が調べて見ると、灰を蒔いた處に足跡があつたので、其は人である[ことが判つたさうだ]。

而して[次の]夜になると、又コイク、コ

採録期：昭和五年八月、及び同七年八月臺東にて調査。
口授者兼説明者：ḏensai 28歳、男、總督府農林専門學校出身(本文1-3)、baḡiwakis ḡi kataḡupan 20歳、男、臺南師範學校生徒(本文4-7)。

ḡao 而して、そこで、するとなど。比。Paiw. qau, ḡau.
7. aro a-oka 行かうとする、aro と次に来る語の第一音節の反覆によりて未來を表はす、aro ba-bi-ai 典へようとする、aro pa-pakan 飼はうとする。

- 1 kima kima/ ḡao to okajao naḡoi ḡi/
といふさうだ 而彼等の所行 所見すると
2 kaḏo ḡmaḡaḡak kana ḡaspan/ ḡao to
有 取つてゐる者 其の 甘蔗を 而 彼等の
3 ḏimoḡau ḡi/ amaō na maranak kima/
所捕 と 全く その 弟 さうだ
4 ḡao to ḡikotau kana paḡpian/ ḡao to
而 彼等の 所入牢 其の 阿眉の 而 彼等の
5 pakanai ḏa olid ḏa ḡaḡi ḏa onan ḏa
所使食 を 蟲 を 大便 を 蛇 を
6 maḡnai ḏia kima/
色々の 物 さうだ
7 ḡao ibaḡ tau ḡi mirisris ḏa ḡali ḏa
而 兄 彼の は 糶 を 緒 を
8 biḡakas/ ḡao simaḡa ḏa toaḡ/ ḡao mokoā
長い の 而 作 を 紙鳶 而 行
9 i makaḡami kana ḡnai/ ḡao to toapanai
へ 北方 其の 河の 而 彼の 所揚
10 na toaḡ/ ḡao to ḡiḡoḡanai ḏa barasa/ ḡao
その 紙鳶は 而 彼の 所縛付 に 石 而
11 to paktiḡai ḏa sioto/ ḡao to paḡipaḡipaj-
彼の 所結付 を 小刀 而 彼の 所爲目標
12 anai kananto wadi/ ḡao paḡipa i makaḡas
彼の 弟は 而 當る に 其上
13 ḡi/ korkitḡ nanto wadi/ ḡao to potaniao
と 所取付 彼の 弟の 而 彼の 所落
14 na sioto ḡi/ to paḡipajai a babajan a
其の 小刀は と 其の 所的中 は 女 共
15 paḡipi ḡi/ mopariḡoak to tial kima/
孕 ので 成半分 彼の 腹は さうだ

イク、コイクと鳴いて[甘蔗を]ホキッと折る音がしたさうだ。そこで彼等が行つて見ると、甘蔗を取つてゐる人が居た。捕へたところが、其は(兄弟の内)の弟の方であつたさうだ。そこで阿眉は其を牢に入れた。而して虫や大便や蛇や色々のを食はせたさうだ。彼の兄は[逃げて歸つてから、弟を救出す爲に]長い緒を糶つて[糸を作つた。而して又大きな]紙鳶を作つた。それから[卑南溪の北へ行つて、紙鳶を揚げた。而して(緒は)石に縛り付けて、此に小刀を結び付けておいた。兄は弟を目標にして(紙鳶を飛ばした)が、紙鳶が丁度弟の上に来た時、弟は紙鳶に取り付いた。而して小刀を下に落すと、小刀は[下に居た]孕んだ女に中つて、腹が

1. oka-j-ao <okoa-j-ao 客體主、m-okoā 行く、-j- 音便挿入、308頁、註7。
3. ḏimoḡau 客體主、弟、ḏ-im-imoḡ 生捕る。
4. likot-au 客體主、弟、ḡ-im-ikot 主體主。
5. pa-kan-ai 位置主、弟、p-in-a-kan-an 食はす所となつた者、位置主、弟、310頁、3行。pa-kan 食はせる。olid IN. uneri, ḡaḡi Paiw. tsaqei, IN. tahi.
8. ḡali Paiw. tsaḡis, IN. tali.
10. i 其の場所、IN. i. makaḡami 或物の北、ḡami 北、Tag. amih-an 東北風、註13. toap-an-ai 揚げる爲の物、用具主、紙鳶、<toaḡ 紙鳶、9行、-an-ai 用具主。

- 1. ?ao iba? tao ?i/ to podariao nanto wadi  
而 兄 彼の は 彼の 所下 彼の 弟は
- 2. i maka?ami kana ?nai i/ sa?ao bi?i?kir  
に 北方 其の 河の すと 其 影
- 3. to tial/ pinakanan ?a manai ?iia ?a  
彼の 腹は 所使食 な 色々の 物 な
- 4. ka?oarisirisi/ ?ao to kidipao mokoia i  
汚い物 而 彼の 所作 行 へ
- 5. bari?bi?/ ?ao to pa?ulialiaao kima ?i/  
泉 而 彼の 所使吐 さうだ が
- 6. mopa?aran a manai ?iia a ka?oarisirisi  
出来 が 色々の 物 其 汚い物
- 7. kima/  
さうだ
- 8. ?ao na?o na mariwadi ?i mokoia kan  
而 其等 その 兄弟 は 行 へ
- 9. timo?o tau/ ?ao "niam a ?ipoau na  
祖母 彼等の 而 我等の 其 所全滅 その
- 10. pa?pian kima mi ?i/ niam a kodakodajao  
阿眉は と思 我等はが 我等の 其 所如何
- 11. ?mo" kima kan timo?o tau ?i/ timo?o  
祖母さんといふ 其の 祖母に 彼等の と 祖母
- 12. tau ?i "ta poajai kana gimigigij kana  
彼等の は 我等の 所置 其の 大地震を 其の
- 13. arumipanan" kima i timo?o tau/ na?ona  
常間を といふ は 祖母 彼等の 其等の
- 14. mariwadi ?i/ "an kima?o ?mo ?i/ ka-  
兄弟 は 若 爲知其 祖母よば
- 15. ?ao?id mi ?a no roma?/ ?ao po?sigsigani  
不分別 我等はな 汝の 家 それで 付鈴よ
- 16. i tiptij pa?ios/ nano roma? naniam  
に 庇 周圍 汝の 家 我等の
- 17. kalala?aman/ an modari na arumigan-  
目標は 時 下る 其の 常間が
- 18. an"/

- 1. po-dari-ao 地上に下した, 客體主, 弟, mo-dari 下る, 17行, dari 地.
- 4. kidij-ao 客體主, 弟.
- 5. pa-?ulia-lia-ao 客體主, 弟, ?i-im-ulia 吐く, pa- 使役の接頭辭.
- 6. mo-pataran 主體主, 汚物.
- 9. ?ipo-ao 客體主, 阿眉, mi-tipo 全滅, 自動, 主體主, 311頁, 20行.
- 10. koda-koda-j-ao 客體主, k-im-oda 如何する.
- 12. poa-j-ai 古語なりといふ, poka-j-ai 現在語, 置いてやろう, 現實未來, 位置主, 阿眉.

半分に裂けたさうだ。  
兄はその弟を溪の北の方に下したが、彼の腹は大變膨れてゐた。それは、色々の汚い物を食はされたからだ。それで兄は、弟を泉の處へ連れていつた。[水を飲ませて吐かせたさうだが、色々の汚い物が出て來たさうだ。

そこでその兄弟は、祖母の處へいつて、祖母に[かうかうだ]我々は阿眉を皆殺にしようと思ふが、我々は如何したらよからうか、祖母さん]といつた。祖母は[我々は[地上を]常間にして、大地震を起してやらう]といつた。兄弟は[祖母さん、若し其様にすれば、我々はお前の家の見分がつかなくなる、だから、周圍の庇に鈴を付けておいてくれ、すれば、常間が下つても、お前の家は我々の目標に成る]といつた。

- g-im-ig-gij 地震が連續して起る, na-g-im-ig-gij 過去, 311頁, 16行.
- 13. arumig-an-an 永い夜の時, arumig 暗い, arumig-an 夜, 暗い時, 311頁, 17行.  
i 人名詞の冠詞, 主格.
- 14. ka?ao?id 判らない, mao?id 同上, 312頁, 17行.  
po-sigsig-an-i 命令, 用具主, 我, sigsig 鈴, po- 動詞化, pa-s-a?-iysig < pa-sigsig 鈴音, 311頁, 15行.
- 17. ka-la-la?am-an 知る爲の物, 用具主, ma-la?am 知る, わかる, 311頁, 6行.

- 1. ?ao simoga? i [ao? i timo?o tau ?i/  
而 拜 向 東方 は 祖母 彼等の すると
- 2. modari na arumipanan ?i/ inijan la ?a  
下る その 常間が ので 無了の
- 3. kauri ?a marom/ ?ao na?o na mariwadi  
薪の 枯 而 其等 その 兄弟
- 4. ?i/ to paraka?apao na kauri/ ?ao na litik  
は 彼等の 所燃 その 薪は 而 その 冷いの
- 5. ?i a ba?ao/ na a?i litik ?i a marom  
は 其生 その 非 冷 は 其 枯
- 6. kima/ ?ao na pa?pian ?i mala?am ?a  
さうだ 而 その 阿眉 は 知 命
- 7. kiakauri/ ?ao na?o na mariwadi ?i  
探薪 而 其等の その 兄弟 は
- 8. "moa mala?am ?a paraka? ?a to ka-  
祖母よ 知 向 手探 な 彼等の
- 9. baba?awan/ na pa?pian" kima/  
生活方法 その 阿眉は といふ
- 11. "ta poajai la kana gimigigij" kima i  
我等の 所置 だ 其の 大地震を といふ は
- 12. timo?o tau/ ?ao simoga? i [ao? ?i/  
祖母 彼等の 而 拜 向 東方 と
- 13. modari na gimigigij/ ?ao na?o na mari-  
下る その 大地震が 而 其等の その 兄
- 14. wadi ?i/ an mokoia kima?oia ?i/ to  
弟 は 時 行 探薪 は 彼等の
- 15. kiliga?wai na pasa?iysig/ ?ao mala?am  
所聞 その 鈴音は それで 知
- 16. ?a to roma? kan timo?o tau/ ?ao nagimig-  
を 彼の 家 其の 祖母の 彼の 而 大地
- 17. gig ?i mararil la an oninan an arumig/  
實は 續 了も 晝も 夜
- 18. ?ao na tatokod ?i bi?as la ?an to pina?isa-  
而 その 柱 は 成熟 了 爲 其の 塵
- 19. ?isan/ ?ao mabigbij ?i paraba?it la na  
燃 而 燃 て 成大事 了その
- 20. pa?pian/ ?ao mi?ipo na pa?pian/ ?ao  
阿眉は 而 全滅 その 阿眉は 而

そこで祖母が東の方に向つて呪文を唱へて拜むと、常間が下つたので、枯れた薪が無くなつてしまつた(見えなくなる)。そこで兄弟は、薪を手で撫でて見た。すると冷たいのは生、冷たいのは枯れたの[だと分つた]さうだ。それで阿眉等はまだ薪を探ること[が出来るといふこと]を知つた。そこで兄弟は[祖母さん、阿眉等はまだ手探りで彼等の生活が出来ると]いつた。すると祖母は[それなら]我々は、あの大地震を起してやらう]といつた、而して東方を拜むと大地震が下つた(起つた)。彼等兄弟は、薪をとりに行く時は、鈴の音を聞いた。それで、祖母の家を見分けることが出来た。大地震は晝も夜も續いた(阿眉等の家の)柱は擦合つた爲、熱くなつた。而して燃えて火事になつたので、阿眉等は全滅した。只祖母の家は燃えないで、一軒だけ殘

- 1. s-im-oga? 拜む, 比, Paiw, ts-im-oga? 跪く, [ao? 東方, 海手の方, Mal, laut 海.
- 4. pa-raka?ap-ao 客體主, 薪, paraka? 撫でる, 手で探る, 8行.
- 7. ki-a-kauri < ki-kauri, ki- 探る, kauri 薪, 水, -a- 未來, 14行, Paiw, ki kasiu 薪を探る.
- 8. ka-ba-ba?au-an < ba?ao 生きる, 5行.

- 14. < k-im-aoi-a k-im-aoi 薪を探る < kauri 薪, -a 未來.
- 15. kiliga?ai 位置主, kiliga?o 聞く, 312頁, 19行, 知本社 kigi? 聞く.
- 18. ta-tokod 支へる具, 柱, 第一音節を反覆して用具を表はす, t-im-okod 支へる, p-in-a-?isa?is-an 摩擦した物, pa-?isa?is 摩擦する.
- 19. para-ba?it ~ma-ba?it 燃える, 焼ける, 312頁, 2行.

<sup>1</sup> nanto roma? kan timo'o tau ?i/ aqi つたさうだ。  
彼の 家は 其の 祖母の 彼等の は 不  
<sup>2</sup> maba?it/ mosama sasaja kima/  
燃 残 一つ さうだ

2. pobiao  
祭の名

- <sup>5</sup> a pa[ajapan kana takoban na mari- 其 建ててゐる時 あの 少年舎を その 見
- <sup>6</sup> wadi ?i/ "aqi pakakalan" kima kana 弟が すると 勿 通行 といふ 其の
- <sup>7</sup> tao/ "an makalan na tao ?i/ tatipid 他人に 若 通 その 人 ば 所殺
- <sup>8</sup> mi" kima ?i/ i timama tau ?i/ "aoka 我等の といふ すると は 父 彼等の すれば 將行
- <sup>9</sup> ko dia mna'oa da to takoban da ko 我は一寸 見 を 彼等の少年舎 の 我的
- <sup>10</sup> walalak" kima/ ?ao mokoia ?i/ maqiki 子供等 といふ 而 行 と 怒
- <sup>11</sup> naqo na mariwadi/ ?ao to tipidai ?i/ 其等の その 兄弟は 而 彼等の 所殺 すると
- <sup>12</sup> amao i timama tau/ 其者は 父 彼等の
- <sup>13</sup> maroa kima ?i/ maqipo na maranak/ 後に 如其 と 成跛 その 弟は
- <sup>14</sup> ?ao an to koadakodakodajao ?i/ aqi moai 而 難 彼の 所如何 併 不 成
- <sup>15</sup> inaba/ malak da rokod da basikao/ 良 取 を 竿 の 竹
- <sup>16</sup> ?ao to risokanai na basikao i dadari/ 而 彼の 所刺 その 竹は 於 地
- <sup>17</sup> maqaya a takio ?i/ maojid maripai/ ?ao 止 が 鳥鴛 併 不能 話 而
- <sup>18</sup> maqaya na sirot ?i/ ari?i daqo mararoni/ 止 その 百舌 併 速 余り 啼
- <sup>19</sup> ?ao maojid ta kilipao/ [iko]lakodan na 而 不能 我等 聞 最後に その
- <sup>20</sup> tikour maqaya ?i/ "tikour tikour tikour/ トッコイル鳥 止 て トッコイル トッコイル トッコイル

5. pa-[a]-[an] ma[an] 建てる,作る, Paiw. ma[an] 作る.  
takoban 少年の寄宿舎, 少年は父母の家に寝るを許されず。  
6. pa-ka-kalan 通行, 往復, ma-kalan 通る, 7行。  
7. ta-tigi 殺すべき者, 用具主, tipidai 位置主, 父, 11行, t-im-tigi 殺す。  
8. a-oka ko 私に行くのだ, oka<okoa 行く, a- は o の 反覆にて未来を表はす, 308頁, 註7。

2. ボビアオ祭

[或る]兄弟が少年舎を建てゐる時  
[[此處を]通るな, 若し通る者があつたら  
我々は殺すぞ]と他の人々にいつた。  
ところが[兄弟の]父は「私は一寸, 子供等  
の少年舎を見に行かう」といつた。而  
して共處へ行くと, 兄弟は[父とは知ら  
ず]怒つて, 殺してしまつた。すると, 其  
は全く彼等の父であつた。

其から後になつて, 弟は跛になつた。  
如何にしても, 良くならない。[或時]彼  
は竹の竿を持つて来た。而して, 彼が  
竹を土地に刺すと, 鳥鴛が止まつたが,  
話が出来なかつた。すると, 百舌が来  
て止つたが, 余り早く啼いた。それで  
我々は, 聞取ることが出来なかつた。  
最後にトッコイル鳥(茶色の大きな鳥)

9. mna'o-a 見ようとする, -a 未来, 主體主。  
14. ko-a-da-koda-koda-j-ao ~ k-im-oda-koda 如何する, koda-koda-j-ao 如何しよう。  
16. risok-an-ai 刺す爲の物, 用具主, 竹, r-im-isok 刺す, 挿す。  
17. ma-ri-pai 話す, pai 調言語。  
19. [iko]a-ko[an] 最後の時, [iko] 後, 後方, -an 時, IN. likod.

- <sup>1</sup> pana? ora pobiao" kima mararoni ?i/ 射 小鹿な ボビアオをせよ といふ 略 ので
- <sup>2</sup> malaqam la/ naqo na mariwadi/ mokoia 所知 了 其等の その 兄弟は 行
- <sup>3</sup> i [a]in/ ?ao miora ?i/ to kirapao/ ?ao に 狩 而 捕小鹿 と 彼等の 所境 而
- <sup>4</sup> pobiao ?i/ pajas moki[ajaj] to kokod ボビアオ祭すると 直に 伸 彼の 脚は
- <sup>5</sup> kana maranak/ ?ao amao namariboa 其の 弟の 而 實に 既始
- <sup>6</sup> la/ nanta kakoajanan malaliji i roma?/ 了 我等の 習慣 祭する で 家
- <sup>7</sup> ?ao amao na pobiao ta la dari danta 而 實に その ボビアオ祭 我等の 了 續 我等の
- <sup>8</sup> roma? kima/ 家で さうだ

が止つて, トッコイル, トッコイル, トッコイル, 小鹿を射てボビアオの祭をせよ]といつて啼いたので, 兄弟は判つた。  
[それから二人は]狩に行つた。而して  
小鹿を捕つて来て焼いた。而してボ  
ビアオ祭をすると, 弟の脚は忽ち伸び  
た。我々が特に家を作つて, その家で  
祭をする習慣は, 其から始つたのだ。  
而してボビアオ祭を, 我々の家で, 續け  
てするやうになつたのださうだ。

3. amiri mirigan  
アミリミリガン

- <sup>13</sup> asoa dia ?i/ kaqo a tao a miqtas da いつか 昔 は 有 が 人 其有陽物 を
- <sup>14</sup> sa[au] bijakas kima/ mokoia dimiroa i 非常 長物 さうだ 行 水浴 へ
- <sup>15</sup> ?nai ?i/ kaqo a babajan/ idona tao ?i 川 と 居 が 女 其の 人 は
- <sup>16</sup> kaqo kadidauwil kima/ ?ao to pakasa- 居 遠方 さうだ 而 彼の 所
- <sup>17</sup> basabakao kana ?nai to ?tas/ ?ao to 使浴 其の 水を 彼の 陽物は 而 彼の
- <sup>18</sup> pa?ala?alapai naqona babajan kima/ an 所使這 其の 女の處に さうだ 時
- <sup>19</sup> moqadajani ?i/ to [ipidao/ ?ao to sapaja:nai 歩いてゐる は 彼の 所巻 而 彼の 所掛
- <sup>20</sup> i iab to ?tas kima/ に 肩 彼の 陽物は さうだ

3. アミリミリガン

昔或時, 非常な長さの男根を持つて  
ゐる[アミリミリガンといふ]人が居た  
さうだ。彼が川へ水浴に行くと女が  
居た。その女は遠方に居たさうだ。  
彼はその男根を水の中を潜らせた。  
而してその女の處へ這はせさせた。  
歩く時は, 彼はその陽物を巻いて, 肩に  
掛けて歩いたさうだ。

3. [a]in 草の義, mi-ora 小鹿を捕る, ora 小鹿, 1行。  
4. mo-ki[ajaj] 伸びる, k-im-i[ajaj] 伸びて。  
14. d-im-iroa-a -a 未来, Bis. paligos 浴る, Mal. men-dirus-kan 濯洒。

16. ka-di-dauwil dauwil 遠い, pa-ka-saba-sabak-ao すつと向うへ潜らせる, 客體主, 陽物, pa-ka-sabak 中を通す, sabak 中。  
18. pa?ala?alapai すつと向うへ這はせる, 位置主, 女。  
19. [ipid-ao] 客體主, 陽物, sapaj-an-ai 其を以て掛ける, 用具主, 陽物。

- <sup>1</sup> maroa la ʔi/ maʔaɔok a ʔao/ ʔao to  
後 了すると 集 は人 面 集
- <sup>2</sup> laligawao na daʔan/ ʔao to daolao i  
所為刺 その 道は 面 彼等の 所呼出 は
- <sup>3</sup> amiʔimiʔiʔan/ ʔao to saʔiamidaʔao kima  
アミリミリガン 面 彼等の 所集 さうだ
- <sup>4</sup> ʔi/ mokoro to ʔas/ ʔao to pariʔipai ɔa  
すると 引摺 彼の 陽物な 面 其の 所刺 の
- <sup>5</sup> ligao kima/ ʔao i amiʔimiʔiʔan la ʔi  
刺 さうだ 面 はアミリミリガン 共は
- <sup>6</sup> mokoia la i romaʔ ʔi/ to ialigawai la  
行 了へ 家 面 彼の 所去刺 了
- <sup>7</sup> nanto ʔas/ ʔao na ligao ʔi to abakao la  
彼の 陽物は 面 其の 刺 は彼の 所入 了
- <sup>8</sup> i atibod/ ʔao to aʔabao kima/  
に 壺 面 彼の 所蓋 さうだ
- <sup>10</sup> ʔao to daolao na ʔao pinia/ [ʔaʔikiʔ ta  
面 彼の 所呼出 その他人は 皆 將飲 我等
- <sup>11</sup> ɔa ʔrao kaniam to kajao/ ʔao maʔaɔok  
な 酒 我々の内て 彼の 所言 面 集
- <sup>12</sup> na ʔao kantao i/ to ʔoalao na atibod ʔi/  
その人々 彼の内にて 彼の 所聞 その 壺は すると
- <sup>13</sup> maʔakʔak a tidol a girgir a walo/ ʔao  
多出 や 熊蜂 や 蜂 や 蜜蜂 面
- <sup>14</sup> to kakaraʔao naʔona ʔao kima/ ʔi  
彼等の 所刺 其等の 人々は さうだ 等
- <sup>15</sup> mariboa la na tidol na girgir na walo  
箱 了あの 熊蜂 あの 蜂 あの 蜜蜂
- <sup>16</sup> kima/  
さうだ

4. pujuma  
卑南社人

- 2. la-ligau-ao 刺だらけにする, 客體主, 道, ia-ligau-ai 刺  
を取去る, 位置主, 陽物, 6行, ligao 刺, 7行,  
daol-ao 客體主, 其人, d-im-aol, 呼出す, 主體主,
- 4. pa-rip-rip-ai 方々を刺す, 位置主, 陽物, r-im-ip-rip,
- 7. abak-ao 客體主, 刺, 比, sabak 中,
- 8. aʔab-ao 客體主, 壺,
- 10. ʔa-ʔikiʔ 一般未來, 主體主, ʔ-im-ikiʔ 飲む,

その後或時人々が集つて道に刺を  
蒔いた。而して彼等はアミリミリガ  
ンを呼出して(急に)彼を嚇したさうだ。  
すると、彼は(逃げようとして)男根を引  
摺つた。ところが刺が一杯刺さつた  
さうだ。そこでアミリミリガンは家  
へ歸つて、彼の男根から刺を抜いた。  
而してその刺は壺に入れて、蓋をした  
さうだ。

そこで彼は人々を皆呼集めて「私の  
家で、我々は酒を飲もう」といつた。而  
して、人々が彼の家に集ると、彼がその  
壺を開けたので、熊蜂や蜂や蜜蜂が深  
山出て來た。而して、其の爲に、其の人  
々は刺されたさうだ。而して其から、  
熊蜂や蜂や蜜蜂やが、段々殖えたさう  
だ。

4. 卑南社の人

- 11. kan-iam 我々(の處)で, kan-tao 彼(の處)に, 12行,  
ka-j-ao 客體主, k-im-a さういふ, さうする, 主體主,  
-i は挿入,
- 14. ka-karaʔ-ao 澤山集つて飲む, 客體主, k-im-araʔ 飲む,  
主體主, 反覆は多數を示す, Paiw, k-im-ats, Atay,  
k-im-ats, <\*karats (?)

- <sup>1</sup> asoa ɔia i kinuʔajan na paʔpian  
いつか 昔 於 先 その 阿眉は
- <sup>2</sup> mopanʔa kaɔikan ta/ maroa la kima ʔi/  
出來 此の 我等より 或時 ださうだ が
- <sup>3</sup> to risukanai to surukuɔan ʔi/ marika  
彼等の 所突刺 彼等の 杖は すると 段々
- <sup>4</sup> maʔina iɔona basikau ʔi/ mopanʔa ta  
成大 其の 竹は て 出來 我等
- <sup>5</sup> la na pujuma kima/  
了その 卑南人 さうだ
- <sup>6</sup> amo na maroa la kima ʔi/ moka i  
如其 其 或時 ださうだ が 行 に
- <sup>7</sup> ʔaʔin kima ʔi miʔawa ɔa biau/ ʔao  
狩 さうだすると 取 な 鹿 面
- <sup>8</sup> maripanani la ʔi/ to ʔaʔakau na mor-  
互分配 了が 彼等の 所取 その 心
- <sup>9</sup> dodo kana paʔpian/ ʔao ta ʔaʔakau na  
臟は その 阿眉の 面 我等の 所取 その
- <sup>10</sup> konboan kima ʔi/ maripai na paʔpian  
肺臟は さうだ が いふ, その 阿眉は
- <sup>11</sup> ʔi/ "makitiʔ iɔina mordodo/ ʔao aɔi  
には 小 此の 心臓は それで不
- <sup>12</sup> mi kaʔaʔaoa maripanani/ ʔao ta paɔa-  
我等は 能 互分配 それで 我等の 所
- <sup>13</sup> ɔoʔonau" kima/ ʔao ta paɔaɔoʔonau la/  
交換 といふ, そこで 我等の 所交換 了
- <sup>14</sup> ʔao karadaduru la ʔi/ maɔaɔajar ɔa an  
面 互煮 了て 相談 なか
- <sup>15</sup> gaʔumai an ta taluboanai kana ʔnai iɔini  
今 か 我等の 所入 その 水に 此は
- <sup>16</sup> ʔi/ "ta naʔonaʔoai/ ʔao namuʔudun nan-  
面 我等の 所熱視 面 既沈 彼の
- <sup>17</sup> tau ʔi/ to a pitipajau iɔina ʔalop" kima  
物 は 彼の 可所取 此の 土地は といふ
- <sup>18</sup> to pinaɔaɔajar/ ʔao to karataluboanai  
彼等の 所相談了 そこで 彼等の 互所入

昔我等の此の土地には、阿眉が先に  
出來た。或時、彼等は(竹の)杖を(土地に)  
突刺したが、その竹は段々大きくなつ  
て、我等卑南人が出來たさうだ。  
ところが或時だつたさうだ。狩に  
行つたさうだが、鹿を捕つた。そこで、  
彼等が互に分配したが、阿眉はその心  
臓を取つた。而して、我々はその肺臟  
を取つたさうだが、阿眉は「此の心臓は  
小さいから、我々は互に分けることが  
出來ない。我々交換しよう」といつた。  
そこで我々は交換した。而して、互に  
其を煮てから、「我々は、今此を、その水に  
入れたらどうであらうか、我々はお互  
によく見よう。その物の沈んだ方の  
人が、此の土地を手に入れることにし  
よう」と、彼等の相談はさういふ事であ

- 3. risuk-an-ai 持つていつて突刺す, 用具主, 杖, r-im-isuk  
主體主,  
surukuɔ-an つく具, 杖, s-im-urukuɔ 杖つく, Paiw,  
tukuz-an,
- 8. mari-panani 互に分配する, mari- 互に,  
ʔaʔak-au 客體主, 心臓, ʔm-aʔak 主體主,
- 12. pa-ɔa-ɔoʔon-au 互に交換しよう, 客體主, 其物, 同上  
する, 13行, pa-ɔoʔon 交換する,
- 14. kara-da-duru 互に煮る, d-im-uru 煮る,  
ma-ɔa-ɔajar 互に相談する, p-in-a-ɔa-ɔajar 相談し

- た結果, 18行,
- 15. talubo-an-ai 持つていつて水に入れる, 用具主, kara-  
talubo-an-ai 互に同上する, 18. t-im-alubo 水に入  
れる,
- 16. naʔo-naʔo-ai 熱視する, 位置主, 其物, ʔm-naʔo 見る,  
na-mu-ʔudun 沈んだ物, mu-ʔudun 沈む物, 316頁, 1  
行,
- 17. to a pitipa-j-au 彼の手に入れるべき物だ, 客體主, 土  
地, a 未來 (?)  
ʔalop 狩獵區域, 領地, ʔm-alop 狩する,

- <sup>1</sup> ?i/ mujudun na mordodo/ ?ao timabau  
と 沈 其の 心臓は 而 浮
- <sup>2</sup> na konboan kima/ ?ao djama: ta pitipajau  
其の 肺臓は さうだ そこで 其故 我等の 所取
- <sup>3</sup> la idjina ?alop kima/  
了 此の 土地は さうだ

つた。そこで、彼等が互に入れると、心臓が沈んで、肺臓は浮いたさうだ。我等が此の土地を手に入れたのは、其の譯ださうだ。

5. biau 鹿

- <sup>7</sup> ka?oa asoa dja ?a saruma?nan ?i/ mai-  
有 いつか昔が 一家族 而 生
- <sup>8</sup> bojaboajan dja misasa kima/ i moa?ar  
娘 な 一人 さうだ モアタル
- <sup>9</sup> to pa?ad kando na ?au kima/ maroa la  
彼の 名は あの 其の 人の さうだ 或時 了
- <sup>10</sup> kima ?i/ pobini? dja kriu/ ?ao marka  
さうだ が 時 を 学 すると 段々
- <sup>11</sup> dadawanan idjo ?i/ to okaokajau/ m?kan  
大 其は 而 彼の 所度々行 食
- <sup>12</sup> [a a biau kima/ ?ao to paokajau pa?ai]au  
了 が 鹿 さうだ そこで 彼の 所使行 爲使番
- <sup>13</sup> dar idji moa?ar kima ?i/ an moka la  
時々 此の モアタルは さうだ が 時 行 了
- <sup>14</sup> paka?ikodan a ?mna?o idji timama tau  
後の時 其 見 其の 父は 彼の
- <sup>15</sup> ?i/ ka?oka?o a ni?kanan dja biau kima/  
と 常有 が 所食跡 の 鹿 さうだ
- <sup>17</sup> ?ao maroa la kima ?i/ dja alopi idji  
すると 或時 だ さうだ が 間 眠 此の
- <sup>18</sup> moa?ar ?i/ to okajau kan timama tau/  
モアタルがに 彼の 所行 其の 父の 彼の
- <sup>19</sup> ?mna?oa ina kriu ?i/ ka?u i ta?o?an ?i/  
將見 其の 亭 て 居 に 島小屋 と
- <sup>20</sup> magu[a]gu[ ] dja siriip/ ?ao mudaludalup  
鹿 に リンリンすると 段々近寄

5. 鹿

昔或る家族が有つて、娘を一人持つてゐたさうだ。娘の名はモアタルといつたさうだ。或時だつたさうだが[父は]芋麻を蒔いた。ところが、段々其が大きくなつたので、彼は度々[島]に行つた。[その芋麻は]鹿に食はれた[こと]が有つたさうだ。そこで彼は[娘の]モアタルを島に遣つて番をさせた。後で父が行つて見ると、行く度に[やはり]鹿の食つた跡があつたさうだ。すると、或時だつたさうだが、モアタルが眠つてゐる間に、父が芋麻を見に行つて、島の小屋に居ると、リンリンといふ音に驚かされた。すると、其物は

7. sa-ruma?-n-an ruma?家, Mal. rumah, sa 一つ, -n-an <an-an 家に屬する物(?)。  
8. boja-boja-an bojai 美しい, 317頁, 11行, Paiw. bu[ ]-bu[ ]ai 美人。  
mi-sa-sa sa 一つ, mi- と反復は人を數へる時に用ゐる。  
9. ga?ad IN parjan.  
10. po-bini? bini? 種, po- 動詞化。  
11. oka-oka-j-au 客體主, 学, oka-j-au, 18行, 反復は復數。

-j- は挿入, m-oka 行く, 13行。  
12. pa-oka-j-au 客體主, m-oka 行く, pa- 使役, pa-ai]-au 客體主, ?m-ai] 譯する, pa- 使役。  
14. pa-ka-[ikod]-an 後の時…する, [ikod] 後, -an 時。  
15. ka?o-ka?o 度毎に有る, ka?o 有る, ni-?kan-an 食つた痕跡, 位置主, 過去, m-?kan 食ふ。  
20. mu-dalu-dalup dalup 近い。

- <sup>1</sup> kana ta?o?an/ tibus murudik kana ta-  
其の 島小屋に 達 着 其の
- <sup>2</sup> tukud/ ?ao misa?is/ ?ao mijaba?at ?i/ to  
柱に 而 控 而 横臥 ので彼の
- <sup>3</sup> pana?ao ?i/ pajas mina?ai ka?o kima/  
所射 すると 直に 死了 其處 さうだ
- <sup>4</sup> idjona biau la ?i/ to ?oakai/ ?ao to  
其の 鹿 其は 彼の 所解體 而 彼の
- <sup>5</sup> so?aj la ?i/ to ?ri?aanai ?i taratarajan  
角 其は 彼の 所置 に 雨滴落
- <sup>6</sup> kima/ ?ao moka la ?mna?o a to walak  
さうだ そこで 行 了 見 は 彼の 子
- <sup>7</sup> na bojaboajan ?i/ sa?au sa?o kimian-  
その 女 と 非常に 多 悲
- <sup>8</sup> apir/ ao "a moto?aja?ajam mo ?ama"/ to  
而 だ 老鹿 ね 父よ 彼の
- <sup>9</sup> kajau i timama tau ?i/ "ai wa" kima/  
所言 は 父 彼の すると さうだ よ といふ
- <sup>10</sup> ?ao mosabak i ta?o?an idjona walak/ ?ao  
すると 入 に 島小屋 其の 子は 而
- <sup>11</sup> "sa?ao bojai ?ama/ ?ao paro patiki?i-  
非常に 美 父よ 而 尙少 爲眞直
- <sup>12</sup> ki?iro dja" to kajau ?i/ to patiki?irau  
よ 一寸 彼の 所言 すると 彼の 所爲眞直
- <sup>13</sup> kima ?i/ pabukas idjona bojaboajan/  
さうだ すると 走 其の 娘は
- <sup>14</sup> ?ao kortapup ?i/ to pao?ibatai to tial  
而 突刺 と 其の 所突抜 彼の 腹は
- <sup>15</sup> kima/ ?ao "ala imanai kima ku ?i/ amo  
さうだ すると だらう 誰 と思 我は が 本當
- <sup>16</sup> no kijara?ok ako" kima la i timama tau  
汝の 情人 だつたのか といふ 了 は 父 彼の
- <sup>17</sup> paka?ikudjan maspil/  
成後時 悲
- <sup>19</sup> ?ao pajas la moka mari?aja dja to ?au  
そこで 直に 了 行 可話 に 彼の 人
- <sup>20</sup> i roma?/ ?au to a?oau la moroma? kima/  
在 家 而 彼等の 所運了 歸家 さうだ

段々小屋に近寄つて来て、たうとう柱の處まで来た。而して、體を柱で擦つて横になつたので、彼が射ると、直に其場で死んださうだ。その鹿は、彼が解體して、その角は雨滴落の處へ置いたさうだ。そこで、娘が行つて見ると、非常に悲しんだ。而して父に「父さん、年とつた鹿(角の枝の)もう此以上殖えない鹿)だね」といふと、「父は」さうだ」といつた。すると、その子は島小屋の中へはひつた。而して「父さん、大變美しい[角だ]、もう少し眞直に起して下さい」といふので、父が眞直に起したさうだ。すると、その娘は走つて行つて、突刺きつたので、角が娘の腹に突抜けたさうだ。その時父は「私は誰かと思つたら、全くお前の情人であつたのか」といつて、後で悲しんだ。

そこで、彼は直に家に居る人々に知らせた。それで、人々が[来て]運んで家

3. pana?ao 客體主, Paiw. panaq. m-in-a?ai 死んだ, 又現在にも用ゐる, IN matai.  
4. la ?i …の方は, …としてはなどの意, 314頁, 5行。  
?oak-ai 位置主, 鹿。  
5. ?rita-an-ai 持つていつて置く, 用具主。  
7. k-im-i-ag-apir 心で色々考へる, 心配する, 悲しむ, apir 心, 319頁, 12行。

8. moto-?aja-?ajam 角の枝の此以上殖えない鹿, 比。 Ibanag ayam 動物。  
11. pa-tiki?i-ki?ir-o 命令, 客體主, pa-tiki?ir-au 客體主, 12行, <pa-tiki?ir 眞直にする。  
14. pa-o?ibat-ai 位置主, 鹿。  
20. a?o-au 客體主, 鹿, ?m-a?o 運ぶ, 主體主。

- <sup>1</sup> ʔao ʔimaʔibil la ʔi/ to paʔaʔabapau  
而 埋 了 時は 彼の 所入同棺  
<sup>2</sup> ʔimbi kima/ kimakandʔo ta la paʔaʔabap  
埋 さうだ 如其 我等了 入同棺  
<sup>3</sup> ʔimbi ʔa ʔau kima/  
埋 な 人 さうだ

へ歸つたさうだ。而して埋める時は、  
[娘と鹿とを]同じ棺に入れて埋めたさ  
うだ。其様な譯で、我々は[同時に死ん  
だ人]と一緒に埋めるのださうだ。

6. takio  
タキオ

- <sup>7</sup> kaʔo la a ʔau a maʔiʔis kima/ an  
有 了 が 人 其 惡黨 さうだ 時  
<sup>8</sup> stoʔ stoʔ/ an kima a ʔau na dimadokir  
ボン ボンいふ 時 如其 が 人々 その 春いてゐる者  
<sup>9</sup> ʔa ʔabai ʔi/ "o" kima i sanin/ ʔao  
な 餅 は オー といふで 一方 そこで  
<sup>10</sup> maʔigiʔ a ʔau moka ʔi/ kima i sanin/ ʔao  
集 が 人々 行 と 如其 で 他方  
<sup>11</sup> ʔao to ʔakawau to ʔabai ʔa ʔau/ ʔao to  
而 彼の 所盜 彼等の 餅は の 人々 而 彼の  
<sup>12</sup> poaranai/ ʔao to kisasajai la iʔo kima/  
所逃去 而 彼の 所奪有 了 其は さうだ  
  
<sup>15</sup> ʔao maroa la kima ʔi/ to raonau ʔa  
すると 或時 だ さうだ が 彼等の 所番 の  
<sup>16</sup> ʔau ʔi/ amau iʔi takio kima/ ʔao to  
人々すると 全く 此は タキオ さうだ そこで 彼の  
<sup>17</sup> riʔajau to wawadian la ʔi/ saʔau la iʔiʔa  
所話 彼の 親戚は 了すると 非常 了 耻  
<sup>18</sup> to wawadian/  
彼の 親戚は  
  
<sup>20</sup> ʔao to wadi la ʔi kuʔalui ʔi/ to pilapau  
すると 彼の 弟 其は クラルイは 彼の 所作

## 6. タキオ

或る悪人が居たさうだ。[或時]人々  
がボンボン音をさせて餅を搗いてゐ  
ると、一方の方で[大きな聲で]オーとい  
つた。人々は[何かと思つて、其の方へ]  
集つて行くと、[彼は]他の方でオーとい  
つた。而して[その間に]、その人々の餅  
を盗んで逃げた。而してその餅を、自  
分一人の物にしたさうだ。

すると、或時だつたさうだが、人が[餅  
を]番してゐたので、その[盗人]はタキオ  
といふ者だ[といふことが分つた]さう  
だ。そこで彼が、その親戚に知らせる  
と、その親戚は非常に恥ぢた。

[或時]彼の弟であつたクラルイは、そ

1. ʔ-im-a-ʔibil 二人を埋める、ʔ-im-bil 埋める、3行。  
Paiw, ts-im-ivil.  
pa-ʔa-ʔabap-au 二人を棺に入れる、客體主、古語なりと  
いふ、pa-ʔa-ʔabap 主體主、2行。

12. poar-an-ai …を持つて逃る、用具主、餅、p-in-oar 逃  
る、319頁、3行。  
ki-sa-sa-ʔai 自分一人の物にする、位置主、餅、mi-sa-sa  
具一人、sa 一つ。  
15. raon-au 客體主、r-im-aop.  
20. pi-lag-au 客體主、lag 同伴者、pi-動詞化。

- <sup>1</sup> iʔi baʔ tau/ moka i ʔaʔin kaʔi sanasan/  
此の 兄 彼の 行 に 時 あの 火焼島へ  
<sup>2</sup> muʔudik ʔi pajas karaʔrapaʔ ʔi/ iʔi  
着 て 直に 互に待伏 と 此の  
<sup>3</sup> kuʔalui ʔi/ pajas pinoar mabuʔias/ ʔao  
クラルイは 直に 逃 戻 而  
<sup>4</sup> simukaʔ kana amkaʔ kmakawaʔ ʔi/ to  
通 其の 橋を 歩 と 彼の  
<sup>5</sup> barsajau ʔi/ pajas muʔudin to ʔudus  
所切斷 すると 直に 沈 其の 端は  
<sup>6</sup> kana amkaʔ kima/  
其の 橋の さうだ  
<sup>7</sup> iʔi takio la ʔi/ ʔa pia marapaʔ ʔi/  
此の タキオ 其は から 終 待伏 而  
<sup>8</sup> mobaburuk la ʔi/ unian iʔi kuʔalui/ ʔao  
將歸 了すると 無 此のクラルイはそこで  
<sup>9</sup> pajapajas moburuk ʔi/ moka la kana  
其儘直に 歸 而 行 了 其の  
<sup>10</sup> amkaʔ ʔi/ kmakaʔawaʔ ʔi/ muʔudin to  
橋に 而 歩 と 沈 其の  
<sup>11</sup> ʔudus/ ʔao mabuʔias ʔi/ aʔi ʔinaba to  
端は そこで 戻 が 非 良 と 彼の  
<sup>12</sup> aʔir/ ʔao mabuʔias la/ maburuk ʔi  
心持は そこで 戻 了 歸 と  
<sup>13</sup> kimaʔo muʔudin/ ʔao masal ʔia mabuʔi-  
如前 沈 而 一度 尙 戻  
<sup>14</sup> as/ pariʔiʔun kimaʔo ʔi/ maʔaʔa la/  
三度 如前 して 止 了  
  
<sup>16</sup> ʔao kaʔdokaʔo ʔi/ to ʔopaʔaranau ʔa  
而 居其處 と 其の 所現 の  
<sup>17</sup> korau/ "an ʔaʔi ʔi ti paʔikau jo paʔabat  
魚 若 非は 我の 所使乗 汝は 使渡  
<sup>18</sup> kana ini/ an maʔaʔir jo mabuʔias ʔa no  
其の 海を 若 欲 汝は 戻 に 汝の  
<sup>19</sup> dari"/ to kajau ʔi/ "kala" kima/ ʔao  
地 彼の 所言 すると 如其 といふ 而  
<sup>20</sup> mariʔai la na korau/ "an gaʔumai ʔi/  
いふ 了 その 魚は 時 今 に

の兄[のタキオ]を連れて、火焼島へ狩に  
行つた。[島へ]着くと直に、二人して[獸  
を]待伏したが、クラルイは[兄を残して  
一人]引返した。而して[或る]橋を通り  
過ぎると、彼はその橋を切斷した。す  
ると、その橋の端は、直に沈んださうだ。  
[兄の]タキオは待伏を終つて歸らう  
とすると、[弟の]クラルイが居ない、それ  
で、まっしぐらに歸つて、その橋の處へ  
行つた。而して上を通ると、その端の  
方が沈んだ。[一旦]後戻りしたが氣持  
が悪い。そこで、引返して橋の方へ歸  
ると、やはり沈んだ。も一度後へ引返  
して、三度して見たが、やはり前の通り  
であつたので、[渡るのを]止めた。

彼が其處にじつとして[途方に暮れ  
て]ゐると、魚が[一匹]現れて来て、「お前は  
お前の土地に歸りたいなら、私がお前  
を負うて海を渡してやらう」といつた  
ので、彼は「さうしてくれ」といつた。す

2. ka-ra-ʔrapaʔ 二人互に待伏する、ma-rapaʔ 7行。  
4. s-im-ukaʔ Ami r-im-akat 歩く。  
8. mo-ba-buruk 未帰、mo-buruk 歸る、9行。  
9. paja-pajas pajas 直に、5行。  
13. ma-sa-l sa 一つ。  
14. pari-ʔiʔu-n ʔiʔu 三、

16. ʔo-paʔaran-au 體を現はす、客體主、mo-paʔaran 現は  
れる。  
17. ti-paʔik-au 客體主、汝、ti-我の、ʔiʔik 乗せる、ki-  
paʔik 自分で乗る、320頁、4行、kori-paʔik 背に乗  
れ、320頁、1行、kori-じつと、322頁、3行。  
18. maʔ-aʔir <aʔir 心、12行。

- <sup>1</sup> koripađik / ʔao ti lidipanai jo timalaso /  
乗れ 而 我の 所潜水 汝は 泳
- <sup>2</sup> ʔao an unian no dar ɖa ʔapađan ʔi / guŋiɽu  
そこで若 無 汝の 其度の 呼吸 ば 所抓
- <sup>3</sup> dar ko wasaŋ / to kajau ʔi / "ai wa"  
其度 我の 腰は 彼の 所言 するとはいふ
- <sup>4</sup> kima / ʔao pajas kipađik ʔi / pajas masi-  
といふ そこで直に 自乗 と 直に 出
- <sup>5</sup> kasik ina korau ʔi / ɖa to kinaunianan  
發 其の 魚は 而 に 其の 無時
- <sup>6</sup> ɖa ʔapađan ʔi / to guŋiɽu dar to wasaŋ /  
の 呼吸 なると 彼の 所抓 其度 彼の 腰は
- <sup>7</sup> paritiɽun kimađo ʔi / muɽudik i liɽidan  
三回 如其 すると 着 に 岸
- <sup>8</sup> kima ʔi / to buluanai i budibudik kima /  
さうだ 彼の 所投 へ 砂原 さうだ
- <sup>9</sup> ʔao maripiɽus ina korau / ʔao maripai  
すると 振向 其の 魚は 而 いふ
- <sup>10</sup> la / "an pia mo maɽani ɖa dawa ʔi /  
了 時 終 汝等は 收穫 を 粟 は
- <sup>11</sup> aramo dar pakani ko" kima / ʔao kima  
来い 其度 所使食 我は といふ 而 如其
- <sup>12</sup> kando la / moka pakapakan kana ʔami-  
其から 了 行 常使食 その 年
- <sup>13</sup> ʔami ɖia na gamogamot kima /  
年に 向 その ガモガモット組は さうだ

ると魚は「今直にしよう、私に乗れ、お前  
の爲に私は泳いで潜つてやろう。若  
しお前の呼吸が出来ない時は、その度  
に、私の腰をつめれ」といふと、彼は「はい」  
といった。そこで、その魚は彼を負ふ  
や否や、直に出發した。すると、彼は呼  
吸が無くなると、その度に魚の腰をつ  
めつた。三回其様にすると、岸に着い  
たさうだ。而して、魚は彼を砂原に投  
出したさうだ。その時、その魚は振向  
いて、「お前等は粟の收穫を終つた時に  
は、其度に[海岸に]来て、私に供物をせよ」  
といった。其以來、ガモガモット組(タ  
キオの屬した組)の者は、其の通りにし  
て、今でも年々[海岸へ行つて魚に]供物  
を供へるさうだ。

7. sakino  
サキノ

- <sup>19</sup> kađo a ʃau a kasabakan ʔi / ɖoa i  
有 が 人 共 射馬干社 而 來に
- <sup>20</sup> pujuma kima ʔi / miliog ɖa poaruma?  
卑南社 さうだ が 持豚 に 結納

- 1. [lidip-an-ai (汝)の爲に潜つて上げよう、用具主、汝、  
[-im-idip. Paiw. [-im-idip 入る、目の入など。
- 2. gu[ɽi-u 命令、客體主、腰、gu[ɽi-au 客體主、6行。  
Paiw. g-im-utsi].
- 5. k-in-a-unian-an 無くなつた時、unian 無、2行。
- 8. bulu-an-ai 其物を投げる、用具主、b-in-ulu、主體主。

7. サキノ

或る射馬干社の人が卑南社に來た  
さうだ。彼は結納品として豚を持つ

- budi-budik <budik 砂、反覆は多數の意。
- 11. pa-kan-i 供へよ、食はせよ、位置主、我、paka-pakan 主  
體主、12行、反覆は連續の意。
- 20. mi-liog <liog 豚。  
poa-ruma? 家に入れる意(?)、ruma? 家。

- <sup>1</sup> kima / ʔao marajas moka muniwana  
さうだ 而 常 行 告
- <sup>2</sup> moka la ɖa maripiɽa paŋipajai ʔi / to  
行 了 へ 女友 爲目標 其等の
- <sup>3</sup> paoajai to ʔai kandi sakino /  
所承諾 彼の 話は 其の サキノの
- <sup>7</sup> ʔao to ʃafoakai la ʔi / "kalupi ɖia i  
すると 彼等の 所着解體 了 が 腰れ 一寸で
- <sup>8</sup> paŋaran" / to kajau i sakino / ʔao to  
外 彼等の 所言 は サキノ そこで 其等の
- <sup>9</sup> kiađoajai ʃimoak maripiɽa ɖa paŋunuŋu-  
二人所爲 解體 女友 に 最中
- <sup>10</sup> nuk ʔi / "kimakuda mo la" kima i  
すると 爲如何 汝等は だ といふ は
- <sup>11</sup> sakino ʔi / "kimiaɽami mi ɖia ʃimoak"  
サキノ と 將始 我等は 一寸 解體
- <sup>12</sup> to kajau / ɖa gaɽumaɽumai ʔi / "kim-  
彼等の 所言 に 暫後 而 爲
- <sup>13</sup> akuda mo la" kima ʔi / "ađi mi ɖia  
如何 汝等は だ といふ と 不 我等は 尙
- <sup>14</sup> pinia" to kajau ʔi papadaŋ la / ʔađo  
終 彼等の 所言 併 支度 了 其時
- <sup>15</sup> masal maripai i sakino ʔi / moburuk la /  
一回 言 が サキノ と 歸去 了
- <sup>16</sup> to poaranai na paŋaka kana maripiɽa  
彼等の 所持逃 其の 内は 其の 女友の
- <sup>17</sup> ʔi / "p:" kima / ʔao masal kiomal ʔi /  
すると ンー といふ 而 一回 問 と
- <sup>18</sup> "p:" kima / ʔao to ʔasalau ʔi / paʔris "p:"  
ンー といふ 而 彼の 所試 と ばかり ンー
- <sup>19</sup> kima / ʔao marbuŋil la i sakino / ʔao  
といふ そこで 起上 了 は サキノ 而
- <sup>20</sup> moka i sabak ʔi / unian la na maripiɽa /  
行 へ 内 が 無 了 其の 女友は

て[妻を捜し]に來たさうだ。[彼は]女友  
を目標に方々廻つて、いつも[結納品の  
豚を殺すが、妻になり手はないかと]言  
つて歩いた。[或二人の女友達の處へ  
行くと]彼等はサキノ(男の名)の話を承  
諾した。

女友達は、豚を解體しようとした時、  
サキノに、「お前は一寸、外へ出て眠つて  
るよ」といった。[男は外へ出た]、そこ  
で、二人が解體してゐると、その最中に、  
サキノは「お前等は今、如何な事をして  
ゐるのか」といふと、二人は「我々は今、解  
體を始めようとしてゐる」といった。  
暫くして「お前等如何してゐるか」とい  
ふと、「未だ濟まない」といったが、「もう逃  
仕度をしてゐた。サキノがも一度い  
つた時は、二人はもう、肉を持って逃げ  
た後で[只]ンー」といふ[聲があつた]。も  
う一度問ふと、又「ンー」といった。彼が  
問試みると、いつも「ンー」とばかりいつ

- 2. patipa-j-ai 位置主、女。
- 3. paoa-j-ai 位置主、語、(?)
- 7. [a-foak-ai 未来、位置主、豚、[-im-oak. 9行。  
<ka-alupi 命令、主體主、alupi 腰る。
- 9. kia-ɖoa-j-ai 二人がかりで…する、位置主、mia-ɖoa 二  
人 322頁、9行、ɖoa 二。

- pa-ŋunu-ŋunu <ŋunu 中央。
- 10. k-im-a-kuda 如何してゐるか、kuda 如何。
- 11. k-im-i-a-ɽami 未来、k-im-i-ɽami 始める。
- 14. <p-in-ia < pia 320頁、10行。
- 16. poar-an-ai 持つて逃げる、用具主、内、p-in-oar 逃げる。



- <sup>1</sup> ?ao kiomal da "kimakuda mo la"  
そこで 問 其を 爲如何 汝等は 了
- <sup>2</sup> kima ?i/ "p." kima timubag/ ?ao to  
といふ と ンー といふ 返事 それで彼の
- <sup>3</sup> na?ozai ?i/ a ta?umug a korpakasabak  
所見 と が 南京虫 其 じつと成下
- <sup>4</sup> da luap/ ido na timubatubag ?i/ sa?au  
の 英座 其 あ の 常答者は それで 非常
- <sup>5</sup> la ma?iki/ idi sakino/ ?ao to dirmisau/  
了 怒 此の サキノは 而 彼の 所詰問
- <sup>9</sup> ?ao to na?ozai to dinapalan kana mia-  
而 彼の 所見 彼等の 足跡は 其の 二人
- <sup>10</sup> doa ?i/ a pinoar/ ?ao to tatarosau ?i/  
の すると 共 逃 そこで彼の 所追掛 而
- <sup>11</sup> ?impa i maka?ami da ?nai/ ?ao mu?a?abat  
向 へ 北方 の 川 而 將涉
- <sup>12</sup> moki ?amian kana ?nai ?i/ ma?ina na  
行 北處 其の 川の すると 深 その
- <sup>13</sup> ?nai/ ?ao a?i paka?a?abat mabu?ias/ ?au  
川は 而 不 能涉 展 而
- <sup>14</sup> masal mu?abat ?i/ kima?o: ma?ina/ ?ao  
再 涉 と 如其 深 而
- <sup>15</sup> pariti?un kima?o mu?aba?abat/ ?ao to  
三回 如其 將涉 而 彼の
- <sup>16</sup> karia?pat ?i/ to pakiti?au la kana mari-  
四回目 は 彼等の 所使減 了 其の 女
- <sup>17</sup> pi?a na ?nai ?i/ ma?oa la mu?abat/ ?ao  
友の その 水は ので 能 了 涉 そこで
- <sup>18</sup> moki ?amian la ?i/ to ri?ajau kana  
行 北處 了 すると 彼等の 所言 其の
- <sup>19</sup> mia?oa da/ "niam duruau dia i?ina  
二人の 其を 我等の 所煮 一寸 此の

3. na?o:ai 位置主, 其物, mna?o 見る。  
kor-paka-sabak じつと下に成つてゐる, kor- じつと,  
319頁, 註17, sabak 物の中, 下。
4. t-im-uba-tubag t-im-ubag 返事する, 2行。
5. dirmis-au 客體主, 南京虫。
9. d-in-apal-an 足で踏んだ跡, dapal 足。
10. ta-taros-au 客體主, 女。
11. maka?ami 或物の北の方, ?ami-an 北の處, 12行, ?ami  
北。
- mu-?a-?abat 未來, mu-?aba-?abat 同上, 15行, paka-

た。そこで、サキノは起上つて、家の中  
へ行つて見ると、女友は居なかつた。  
そこで「お前等は如何してゐるのか」と  
問ふと、「ンー」といつて返事した。それ  
でよく見ると、南京虫がじつと英座の  
下にある。いつも返事する者は其で  
あつたので、サキノは非常に怒つて、其  
を踏躑つて殺してしまつた。

彼が二人の足跡をよく見ると、逃げ  
たのだ(といふ事が分つたので)、彼は川  
(卑南溪)の北の方へ向つて、追掛けてい  
つた。その川を涉つて、北へ行かうと  
したが、川が深く、涉ることが出来な  
いので、引かへした。〔又他の處から涉  
らうとしたが〕やはり深い。而して、三  
回涉らうとしたが、やはり同じだ。彼  
が四回目に〔涉らうと〕した時、女友達は  
〔魔術によつて〕水を減じたので、涉るこ  
とが出来た。〔彼が〕川の北に行くと、二

- [a-?abat 涉ることが出来る, 13行, mu-?abat 涉る,  
14行。
15. pa-ri-ti?u-n 三回…する, <ti?u 三, pa-ri-?pat 四回…  
する, <?pat 四, 註15。
16. ka-ri-a-?pat 第四回目, ka-ri-ta-ti?u-n 第三回目, 比  
註15。
- pa-kiti?u-au 少くする, 客體主, ma-kiti?u 小さい。
19. duru-au 未來, 客體主, 油, da-duru-au 煮てゐる, 323  
頁, 3行, da-duru-an 煮る具, 鍋, 323頁, 7行, d-im-  
uru 煮る。

- <sup>1</sup> imar/ ?ao niam [iki?ai/ ?ao inabaja niam  
油は 而 我等の 所飲 而 成良 我等の
- <sup>2</sup> da?ik/ an no pia?au imi" to kajau ?i/  
體は 時 汝の 爲妻 我等 彼等の 所言 すると
- <sup>3</sup> pakorinap idi sakino/ ?ao to daduruau  
承諾 其の サキノは 而 彼等の 所煮
- <sup>4</sup> la na imar ?i/ ko?ajido kana apui/  
了 その 油は すると 暇 で 火
- <sup>5</sup> mu?apa?a/ ?ao to na?oi ?i/ ton: ton: idi  
待 而 彼等の 所見 すると くる くる 其の
- <sup>6</sup> sakino/ ?ao "paoaga?um" kima na mari-  
サキノは そこで 今可行 といふ その 女
- <sup>7</sup> pi?a/ ?ao to ?i?asau na daduruan na  
友は 而 彼等の 所持上 その 大鍋は その
- <sup>8</sup> miabak kana imar kana bi?as/ ?ao to  
人物 其の 油を 其の 熱物を 而 其の
- <sup>9</sup> tapiasai kima i tapo?o ?i/ "ak ak ti  
所注 如其 處 頭 すると カーカー 我の
- <sup>10</sup> a?kan mo kadomodomo mo poaja?ajau"  
所食 汝等の 玉蜀黍 汝等の 懸数は
- <sup>11</sup> kima/ ma?apis moto katatapa ?i/ "sama-  
といふ 油 成 鳥 すると 所獲
- <sup>12</sup> an mi la kana makata?o?o?an" / kima  
我等は そ 其の 近小屋處を といふ
- <sup>13</sup> na mia?oa ?i/ kima kan?o la/ namaka-  
その 二人は それで 如其 其を 了 有近
- <sup>14</sup> ta?o?o?an ?i/ a?i to ?kani da katatapa/  
小屋處 は 不 彼の 所食 の 鳥
- <sup>15</sup> ta sinasa?im kima/  
我等の 所作物は さうだ

人は「我々は一寸、此の油を煮よう、而し  
て飲まう、さうすれば、お前が我々を妻  
にした時、我々の體が良くなるから」と  
いつたので、サキノは承諾した。彼等  
が油を煮てゐると、〔サキノは〕火に暖ま  
りながら、待つてゐた。彼等が見ると、  
サキノはこくりこくり居眠りを始め  
た。女友は「今こそ良い時」といつて、熱  
い油の入つてゐる大鍋を持上げて、彼  
の頭に浴せかけた。すると、サキノは  
「カーカーカー、私はお前等の玉蜀黍や、  
お前等の蕒を食つてやるぞ」といつ  
て、鳴きながら鳥になつた。そこで二  
人は、「鳥小屋に近い所の分は、我々に獲  
しておけ」といつた。我々の作物が鳥  
小屋に近い所だけ、鳥に食はれないの  
は、さういふ事からさうだ。

## 2. 知 本 社 (ka?atipol)

1. [iki-ai 未來, 位置主, 油, 其の油から一部分を飲む場  
合は位置主, t-im-iki? 飲む, 主體主,  
inaba-j-a 未來, 主體主, inaba 良い。
9. tapias-ai 位置主, 頭。
10. a-?kan 食ふ材料, 用具主, ?kan-i 客體主, 作物, m-?kan  
食ふ, 主體主。
11. sama-an [我等]の爲に發せ, 命令, 用具主, 我等。
12. maka-ta?o?o?an 小屋に近い處, na-maka-taro?

- a?o?an 小屋に近くなつてゐる處, 13行, ta?o?an 小  
屋。
15. s-in-a-sa?im 殺してゐる物, s-im-a?im 殺る。
- 採録期: 昭和六年八月臺東にて調査。  
口授者兼説明者: ant?ian 30歳, 男, 臺南師範學校出身, 大  
麻里公學校訓導。

1. 饑 饉

- <sup>2</sup> kazo a masaroma'an zi/ mialak la  
有 が 互に夫婦者 而 生子 な
- <sup>3</sup> zagoza/ ma[ahan zi 'aminij zi/ mahofj  
二人 起 ので 飢饉 それで 潤
- <sup>4</sup> na z anum/ piniapia 'i'ian zia inian la  
其の 水は 全 何處 少も 無了
- <sup>5</sup> la 'a'awan la [au zi/ mokoakoa musi-  
の 飲料 の 人々で 幾度も行 水
- <sup>6</sup> livana i kaziu a i sa[okisok/ zi ma[ahan  
汲 へ 彼方 へ サロキソク すると 起
- <sup>7</sup> nazona saroma'an zi korilap la [au/  
其の 夫婦は 而 共 と 他人
- <sup>8</sup> moko a musilivana i kaziu a i sa[okisok/  
行 水汲 へ 彼方 へ サロキソク
- <sup>9</sup> i'izona vavajan mo ma[ipi zi/ moahofj  
其の 女 正に 孕 ので 引掛
- <sup>10</sup> kana da[alan i kaziu a i sa[okisok/  
其の 道で へ 彼方 へ サロキソク
- <sup>13</sup> mupapa[ala nazona to lalak mo inian-  
待居 其の 彼等の 子供 正に 無
- <sup>14</sup> i: la/ maja'h la vatokon/ zi moko a  
了 獲 を 竹筒 而 行
- <sup>15</sup> mitorosa kanazona to mahizahizapan/  
追後 其の 彼等の 兩親
- <sup>16</sup> moko a la mo kazoi i savak/ moahofj/  
行 了正に 其處 へ 中 引掛
- <sup>17</sup> zi/ to kitativunao nizona maheinai/ zi  
而 彼の 所迎 其の 男の 而
- <sup>18</sup> "inian la da[alan kani a" to koajau/  
無 の 道 此處は だ 彼の 所言
- <sup>19</sup> maripai nazona mariwazi/ "mo to mi  
話 其の 兄弟は 正に 彼等の 兄弟は

2. kazo < kaazo = 卑南 kažo.  
ma-sa-roma'an < roma' 家, ma- 互に.  
zi = 卑南 子.  
mi-alak < alak 子.  
la = 卑南 だ.  
3. za-zoa < zoa = 卑南 doa.  
4. zanom Paiw. zalum. IN. danum.  
p-in-ia-pia 皆…してしまふ, mo-pia 皆.

1. 饑 饉

[昔或處に]夫婦の者が有つて、子を二人持つてゐた。[或時]飢饉が起つて、水が全部涸れたので、人々の飲料水はどこにも無くなつてしまつた。それで[人々は]サロキソク(地の底にある處で狭い穴を通つて行くのだといふ)といふ處へ、幾度も幾度も水汲に行つた。夫婦の者も、他の人々と共に、サロキソクへ水汲に行つた。此の妻は、丁度孕んでゐたので、サロキソクへ行く途中で引掛つてしまつた。

彼等の子供は待つてゐたが[親達は]到頭[歸つて來]なかつた。それで、水汲に用ゐる竹の筒を捜し出して、親達の後を追うて行つた。行つたところが、[母は穴の]中の處に引掛つてゐて[一人の男が彼等を迎へた。而して彼は「此處は道が無い」といつた。[すると]兄弟

5. 'a'aw-an 飲むべき物, 用具主, 一般未來, 'm-au 飲む.  
10. da-da[alan Paiw. yajan, IN. dalan.  
15. mahiza-hizapan ~ mahizap 老人, 卑南 maidap.  
17. ki-ta-[ivun]-ao 自分で會に行く, 客體主, 子供, ki- 自分. Paiw. mi-tsvun.  
maheinai Ami va'inai 夫.  
18. k-o-a-j-au 客體主, ~ k-im-a さう言ふ, 325頁, 2行.  
<ka 其. 卑南 ka-j-au.

- <sup>1</sup> ovirokai nina ma li a sawarian la zi/  
所殘置 其の 父の 我の 其 以前 了のて
- <sup>2</sup> zagoza mi mitorosa" kima/ timo:vap na  
二人 我等は 追後 といふ 返事 その
- <sup>3</sup> to taina/ "ala mo mao na lalak na-  
彼の 母は だらう 正に 同 其の 子は 我等の
- <sup>4</sup> ta inovirokan/ nahoi na to ina[da la  
所殘置 所見 其の 彼等の 持來物 を
- <sup>5</sup> "mazoajan"/ to nahoi mo mao nintao  
何か 彼等の 所見 正に 同 彼の
- <sup>6</sup> dinawai ni taina tau/ "ia zi mao na ta  
所作物 の 母 彼の ああでは 同 その 其の
- <sup>7</sup> inovirokan na lalak"/ kima ina vavajan  
殘置者 其の 子は さういふ 其の 女は
- <sup>8</sup> zi/ to ripajao pazoa i dalup kantao/ zi  
て 彼の 所語 使來 へ 皆 彼の 而
- <sup>9</sup> to virajai la zazimij/ zi mao na  
彼の 所典 を 鶴 而 同 ああ
- <sup>10</sup> daromas/ zi mao na onan a mahezap/  
土蛛 而 同 ああの 蛇 其 長老
- <sup>11</sup> zi mao na hatopa la siak/ zi mao na  
而 同 ああの 種 の 南瓜 而 同 その
- <sup>12</sup> rina'h/ "no mi[ik mo i roma'h mo/  
小蟹 時 到着 正に へ 内 汝等は
- <sup>13</sup> pabikbiko na zazimij/ i soro zi mao i  
所使羽撃 その 鶴は に 倉 而 同に
- <sup>14</sup> udian mo ori katatimoi a mo dawa/ zi  
水壺 正に 成 一杯 は 汝等の 粟 而
- <sup>15</sup> ori katatimoi a mo z anum/ zi poajan  
成 一杯に は 汝等の 水 而 所入
- <sup>16</sup> na rina'h i udian/ ina onan a mahezap  
其の 蟹は に 水壺 其の 蛇は 其 長老
- <sup>17</sup> mo poajan i tarawiri i solasolai/ ina  
正に 所入 へ 左 於 入口 其の
- <sup>18</sup> daromas mo poajan i tarawalan i solaso-  
蛛 正に 所入 に 右 於 入口
- <sup>19</sup> lai/ [a[ali zi zu[liu na virau/ kazu i  
脚踵 而 所轉 其の 鬼茅は 其處 に

は、以前、私の親が我々を残しておいて[出て行つた]ので、我々二人は後を追うて來たのだ」といつた。彼等の母は其を聞いて、其は、きつと我々の残しておいた子であらう、彼等の持つて來た物は何か調べて見よう」といつた。[而して調べて見ると]彼等の見た物は、母が自分で作つた其物であつた。すると母は「あゝ、其子は私の残しておいた子だ」といつて、その男に自分の近くへ來させる様に話した。而して彼の母は、鶴と、それからああ、土蛛(體黒く齒赤く毛あり)と、それからああ、百歩蛇と、それからああ、南瓜の種と、それからああ、小蟹とを與へた。[而して]お前等は家へ着いた時には、その鶴に羽ばたきをさせよ。さうすれば、倉には、お前等の粟が一杯になるし、それから水壺には、お前等の水が一杯になる。それから、そ

1. ovirok-ai 位置主, 我等, in-ovirok-an 殘して置いた者, 子, 4行.  
4. nahoi- 命令, 位置主, nahoi-ai 現實現在, 位置主, 5行. m-nahoi 主體主, 見る. 卑南 m-na'oi. in-a[da 持つて來た物, m-a[da, 持つて來る.  
6. in-awai 作つた物, in-awai 作る.  
8. ripai-ao 客體主, 男, ma-ripai 主體主, 324頁, 19行. pa-zoa 其處へ來させる, ka-zoa 其處.  
9. virai-ai 位置主, 子, v-in-irai 主體主.  
13. pa-bikbik-o 使役命令, 客體主, ma-bikbik 羽ばたきする.  
15. poa-j-an 入れる材料にせよ, 命令, 用具主, 蟹等.  
17. tara-wiri < wiri 左. 比. Pampanga ka-ili. tara- 比. Tag. taga- 方, 方面.  
18. tara-walan < walan 右, Pampanga wanan. tara- 比. 註17.  
19. [a-[ali 鬼茅を除く爲に踏み, 用具主, 鬼茅. [ali 脚, 脚. Paiw. tsajis, IN tali. zu[li-u 命令, 客體主.

- <sup>1</sup> paʔaran zi / saʔiman inian a hatopa / no  
庭 は 所載 此の 其 種は 時
- <sup>2</sup> mivoaʔh na siak mo / izona ʔipipiʔan  
結實 其の 南瓜が 正に 其の 扁平な
- <sup>3</sup> mo aʔako / zi ʔikavo mo / ori kaazo a  
正に 所取 而 所割 汝等の だらう 有 が
- <sup>4</sup> viras / izona tatilatilawan mo amanana  
米粟 その 長いの 正に 勿
- <sup>5</sup> aʔakauʔ /  
所取
- <sup>11</sup> mokoa la aʔaʔaman minahoa mo / ina  
行 に 翌日 見 正に 其の
- <sup>12</sup> siak mo moaʔoazok i paʔok i homaʔo  
南瓜 正に 集 に 中央 の 島
- <sup>13</sup> ma / ina ʔipipiʔan mo to aʔakau posa  
其の 扁平な 正に 彼等の 所取 入内
- <sup>14</sup> vak / inazona tatilatilawan mo to viʔinau  
其の 長いの 正に 彼等の 所殘
- <sup>15</sup> i homaʔoma / to tikavau na ʔipipiʔan  
に 島 彼等の 所割 其の 扁平な
- <sup>16</sup> mo / matimoi la biras / aʔaʔaman la zi  
正に 一杯 で 米粟 翌日 了 而
- <sup>17</sup> mokoa masal a minaho mo / inazona  
行 再 其 見 正に その
- <sup>18</sup> tatilatilawan mo moti vavavui la / moti  
長いの 正に 成 山脈 了 成
- <sup>19</sup> haʔhora la / moti vavirik la / zi moʔipon  
小鹿 了 成 豚 了 而 成群
- <sup>20</sup> moromaʔh pinia / zi to aʔkanan la  
行家 皆 而 彼等の 食物 了

1. saʔim-an 裁ふる材料にぞよ、命令、用具主。i-saʔim 裁  
了た物。327頁。1行。s-im-alim 主體主。Paiw. t-im-  
aʔim.
3. aʔak-o 命令、客體主。aʔak-au 現實現在、客體主。5行。  
m-aʔak 主體主。  
tikav-o 命令、客體主。tikav-au 現實現在、客體主。15行。  
13. po-savak savak 内。po- 使役。

の蟹は水甕に入れよ。而して、その百  
歩蛇は入口の左に、その土蜘蛛は入口の  
右に入れよ。それから、繩を縛うて、そ  
の鬼茅の上を轉がせよ。其處の處に  
は、此の南瓜の種を栽えよ。それから、  
その南瓜の實が出来た時は、その扁な  
のはお前等が取つて割れ。さうすれ  
ば穀物があるであらう。その長いの  
は取るな」といった。〔彼等は歸つて南  
瓜を栽えた〕。

その翌日、彼等が〔島へ〕行つて見ると、  
その南瓜は島の真中に集つてゐた。  
その扁なのは、彼等が取つて家に入れ、  
長いのは、彼等が島に残しておいた。  
彼等がその扁なのを割つて見ると、穀  
物が一杯あつた。その翌日になつて、  
彼等が再び島へ行つて見ると、その長  
いのは山脈になつたり、小鹿になつた  
り、豚になつたりしてゐた。而して〔其  
等は〕群をなして皆家へやつて来た。

14. viʔin-au 客體主。v-in-iʔin 主體主。  
18. va-vavui 山脈、複數。ha-hora 小鹿、複數。19行。va-  
viʔik 豚、複數。19行。  
20. mo-romaʔh <romaʔh 家。Mal rumah.  
aʔkan-an <ʔkaʔkan-an (?) 食物、客體主。miʔkan  
主體主。

- <sup>1</sup> isaʔim la zinkalanan / zi masilu la  
穀物は の 全社 而 怒 了
- <sup>2</sup> mapiapia na ʔao / zi mavavavav la  
皆 その 人は 而 困 了
- <sup>3</sup> nazona mariwadi / zi to ʔalupau poʔinan /  
其の 兄弟は 而 彼等の 所逐出 道山
- <sup>4</sup> nazona ʔazi moai kihalup mo mau la na  
其の 不 肯 自出 正に 其物 だ その
- <sup>5</sup> virik / inazona moʔalup mo mau la na  
豚 其の 所出 正に 其物 だ その
- <sup>6</sup> vavui / mau la na hora /  
山脈 其物 だ その 小鹿

而して、全社の穀物を食ひ荒したから、  
人々は皆怒り出した。そこで、その兄  
弟は困つたので、彼等を山の方へ追ひ  
遣つた。逐出しても承諾しなかつた  
ものは、あの豚が其だ。而して逐出さ  
れたものは、あの山脈や小鹿が其だ。

1. z-in-kal-an-an 其の社に屬する人々。zikal 蕃社。  
3. ʔalup-au 客體主。ki-ʔalup 追出されて自分で出る。  
4行。mo-ʔalup 追出されて出る。5行。Paiw. qalup

ʔao 原意、追出す義。  
po-zinan 山へやる、zinan 山、po- 使役。

V

ルカイ語

語法概説  
及び本文

## A. ルカイ語語法概説

### I. 分 布

ルカイ (dukai) 語は臺東廳の大南社、高雄州屏東郡のルカイ族及び下三社蕃(マ  
ガ社、トナ社、マシタウラン社)、(人口總計約一千四百)の用ゐる言語なり。大南社は  
普通ツァリシヤンと稱へらると難も、此等と言語を異にする、北部バイワソも亦  
普通ツァリセンと稱へらるゝを以て混同を免れず。大南社は又、自らルカイと  
も稱ふるにより、ルカイの名稱を以て之を總括することゝせり。下三社の内マ  
シタウラン社の語は、他の二社の語と相當著しき差異ありて、尙十分の調査を要  
するも、大體に於てルカイに屬するものと見るを得べし。以下記述する所は主  
として大南社の言語による。

### II. 音 韻

#### 1. 母音, [i], [ɨ], [e], [a], [o], [ɔ], [u], [ɯ]

[o], [ɔ], [u] は同類音なり, [a] の後に於て [u] は弱き [ɯ] となる, 記載には [u], [o],  
を用ゐたり。

[i], [ɨ], [e] は同類音なり, [a] の後に於て [i] は弱き [ɨ] となる, 記載には [i], [e] を  
用ゐたり。

本來子音に終る語は、多くの場合に於て語末に弱き母音を附す。此の特徴  
はツォウ、カナブ、サアロアに似たり。

#### 2. 子音, 兩唇音, [p], [b], [m], [w], 唇齒音 [v], 齒音 [t], [d], [n], [s], [l], [r], [ʃ], [θ],

同上複音 [ts], 反轉音 [t], [d], [l], 軟口蓋音 [k], [g], [ŋ], 聲門音 [ʔ], [h], [ɦ].

[p], 他のルカイ語の [p] は、大南社にては普通 [ʔ] となる, <sup>h</sup>a<sup>ʔ</sup>oi 火 < <sup>h</sup>apoi.

[b], 時として省略さるゝことあり, ani-<sup>ʔ</sup>a|ai<sup>ʔ</sup>ai 花咲く < ani-ba|aibai, rail 矢 < rabili.

[t], 時として省略さるゝことあり, akitsi 小鹿 < <sup>h</sup>takitsi.

[n], 語末に於て屢々 [ʔ] となる, kava<sup>ʔ</sup>a 蔴竹 < <sup>h</sup>kavajan, bulawa<sup>ʔ</sup> 眞鍮 < <sup>h</sup>bulawan.

[s], 時として省略さるゝことあり boo: 弓, 比. IN. bésur; iha (タマラカウ社,  
ia-ia), 一, 比. 卑南社 isa. マシタウランにも此の轉化あり, 淺井氏概説參照。

[l], インドネシヤンの [n:] に相應す, la-laki 子, 比. IN. anak.

[r], 時として顫動弱く, 摩擦音の如く聞ゆることあり。

[ð], [i] に終る二重母音の次に, [a] の来る場合に ða となる, 此の場合, 他の方言にては々の如く發音さるゝことあり。

[θ], 舌先を前歯の外に出し, 舌を引く時, 前歯と舌との間に生ずる摩擦音にして, 時として [t] 又は [s] の如く聞ゆ。此の音は IN. [s] に相應する音なり。パイソンの於て IN. [s] を [t] に轉化するは此の徑路によるものなるべし。

	大南社	Paiwan	Indonesian
乳	θoθo	toto	susu
叔	biraθi	vaat<vi <sup>h</sup> at	bēr <sub>as</sub>

下三社のマダ社, トナ社にも此の種の音あり, 淺井氏概説參照。

[ts], インドネシアンの [t] に相應す, matsa 目, 比. IN. mata.

[t], 卑南社に多き音なり。卑南社の [t] は大南社に於て普通 [ts] となれども稀には [t] を有することあり, 蓋し卑南社の影響によるものなるべし。

[d], 普通卑南社の [d] に相應す。

[g], インドネシアンの [r] に相應す, ʔagai 叔, 比. IN. parai.

[h], パイソンの [q] に相應す, habo 灰, hovai 籐, 比. Paiw. qavo, qoi.

[ʔ], IN. [p] の轉化したるもの, ʔito 七, so<sup>ʔ</sup>ati 四, 比. IN. pitu, hépat (?).

3. 揚音, 揚音は普通語末より第二音節に高低揚音を有す。

### III. 形 態

1. 接頭辭及び接頭辭と挿入辭, 接尾辭との結合。

ʔa- < \*pa- 使役, 他動, ʔa-kani 食はせる, ʔa-oa 持つて行く, 入れる < m-oa 行く。

a- … -a<sup>ʔ</sup> < \*ka- … -an 客體主, 一般未來, a-kani-a<sup>ʔ</sup> 食ふべき物, 食物 a-tsabo-a<sup>ʔ</sup> 包むべき物。

ai- 主體主現實未來, ai-tsabo 包まうとする[者], ai-odali 降らうとする[雨]。

ani- ani-boali 附近へ近づく ani-θa[ipolo] 身邊。

ani-a- 挿入辭 -a- の部に出す。

ano- ano-ara-a 柄など脱れる, ano-ka[imi] 裳が明ける。

ano-a- 挿入辭 -a- の部に出す。

ʔa-si- < \*pa-si- 身に着けさせる, ʔa-si-ka[ipialai] 衣を着せる, ʔa-si-tsabo 弁当を携帯させる, 比. si-.

in-o- … -a<sup>ʔ</sup> < \*k-in-o- … -an (?) 客體主, 一般過去, in-o-rabok-a<sup>ʔ</sup> 石灰を入れてあるもの

<rabok 石灰, in-o-raiθ-a<sup>ʔ</sup> 館を入れてあるもの <raiθ 館 比. θ-.

ka- 物語には, ma- の代りに多く ka- を用ゐる, ka-botsoko 満腹 = ma-botsoko.

ka- … -a<sup>ʔ</sup> < \*ka- … -an 眞の物, ka-ka:ŋ-a<sup>ʔ</sup> 眞の魚, 鮎, ka-go:ŋ-a<sup>ʔ</sup> 眞の牛, 黄牛, ka-θa-a<sup>ʔ</sup> 眞の一つ, 其ばかり <θa 一つ, IN. sa.

ka-la- … -a<sup>ʔ</sup> < \*ka-la- … -an, … の多い季節, ka-la-bitsiŋ-a<sup>ʔ</sup> 粟の熟する季節 <bitsiŋi 粟。

ki- (1) 自分, ki-waiawaŋ 自分で遊ぶ, ki-ilaila 自分で問ふ, 比. Paiw. ki, (ʔi). (2) 受動, (1) より轉じて受動の義となる, ki-biraθi 自分の體丈になる, 丸裸になる, [強ひられて] 裸になる, 裸にされる <biraθi 叔, 實, 比. IN. bēras. ki-o-a[la] 捕ふる所となる, ~m-a[la] 取る, (3) 採る, ki-aŋato 薪を採る, 比. Paiw. ki, (ʔi).

ki-a- 挿入辭 -a- の部に出す。

ko- 過去, ko-ðaa 昨日, ko-iga 何時(過去), 比. [o-.

la- 複數, la-omas 人々, la-tama 父等。

[o- 未來, [o-ðaa 明日, [o-iga 何時(未來), 比. ko-.

ma-, (m-) 第一類動詞, ma-banao 浴びる, m-a[la] 取る。本語に於ては m 型を用ゐること極めて少く, 普通 oa- を用ゐる。

ma- 相互, ma-kadalami 互に愛する, ma-saropo 互に夫婦となる。

maka- (1) … に屬するもの, … からのもの, maka-ʔai[ŋ] 本島人から來た物, (2) 蛇の名, maka-bi[iŋ] 百步蛇(比. Paiw. vu[ŋ] 長者), maka-daidai 龜殼蛇, <daidai 土。ma-ka- … -l 度數, maka-ia-l 一度目[の日]になる, 一日間, ma-ka-to[o-l 三度目[の日]になる, 三日間。

mo- (1) 自動, mo-da:ni 家に入る, mo-tsaki 大便する, (2) 取去る, 除く, mo-tsaub 蓋を取去る, mo-tsabo 包を解く, 比. Paiw. si-m-o-.

mo-a- 挿入辭 -a- の部に出す。

mo-ti- 反覆 變成する, moti-ta-toliki 鼠になる, moti-[a-]iniŋi 石に化する。

na- 過去 na-kaoriwa 話した[者], na-da:ni 以前の家。

na- 人を呼ぶ時の詞, na-maa 父よ, na-moaka:kai モアカーカイよ。

na-ta- … -ani na-ta-oa-ani 以前行つたことのある處, ~m-oa 行く。

o- < mo- (?) 第一類動詞, o-a[la] 取る, o-alo<sup>ʔ</sup> 狩する。

ʔo- < po- 使役, 他動 ʔo-da:ni 家に入れる, 比. mo-.

o-a- 主體主, 一般現在 他の蕃語に於ける m 型は本語に於ては普通 o-a- となる。o- は mo- の轉化, -a- は主體主現在を強調するものならん, 比. 挿入辭 -a-.

上出の *o-*、及び此の *oa-* 型は、屏東郡のルカイ族なるタマラカウ社、及び下三社中のマガ社、トナ社にもありて、他の蕃語に類例なき接頭辭なり。此等の接頭辭によりても、此等諸語が同一族の語たるを證することを得べし。例、*oa-opolo* 飲む、*oa-odali* 雨が降る、比、タマラカウ社、*oa-opolo* 飲む、*oa-laka-laka-lakai* 笑つてゐる、マガ社、*oa-nagipi* 釣する、トナ社、*u-nugipi* 釣する。

*oa-* 反覆 (1) 進行現在、*oa-oda-odali* 雨が降つてゐる、*oa-ko[o-ko]o* 塌つてゐる、(2) 人 (複數)、*oa-takisi-kisi* 生徒 < 臺灣語、讀冊 (*thak-chheh*)、*oa-tsik-tsikil* 一族の人。

*sa-* 用具、材料等 *sa-sa[im]* 栽る材料、苗。

*sa-...-a?* < \**sa-...-an* 用具 *sa-tsabo-a?* 包む具。

*sa-* 反覆 *...-a?* < \**sa-* 反覆 *...-an* 常用具 *sa-tsabo-tsabo-a?* 常に包む具、風呂敷、*sa-ili-ilib-a?* 常に閉す爲の物戸。

*si-* 身に着ける、所有する、*si-karipiala:lai* 衣を着る、*si-tao?op* 犬を有する。

*si-a-* 挿入辭 *-a-* の部に出す。

*so-* 人、*so-taromaki* 大南社の人、比、*Paiw. si-*。

*ta-* 人的冠詞 (?) *t-ama* < *ta-ama* 父、*t-ina* 母 < *ta-ina*、*ta-dosa* 二人。

*ta-...-a?* (*-ani*) < \**ta-...-an* (1) 處、*ta-gop-a?* 牛小屋 < *gop* 牛、*ta-oa-ani* 行く處、(2) 時、*ta-tsili-a?* 寒いだ時、*ta-dawats-a?* 出發した時。

*tali-* 方角、*tali-wanal* 右方、北、*tali-wiri* 左方、南。

*ta[a-* 經過、*ta[a-tsaili* 一ケ年間、*ta[a-damal]* 一ケ月間。

*ta-* 反覆 *...-a?* < \**ta-* 反覆 *...-an* 常用の處、*ta-aga-aga-a?* 常に炊く處、炊事場、*ta-daj-i-dajik-a?* 常に埋める處、墓地。

*to-* 作る、する、*to-abai* 餅を作る、*to-a?oi* 火を起す、*to-lalaki* 子を生む。

*to-a-* 挿入辭 *-a-* の部に出す。

## 2. 挿入辭及び挿入辭と接尾辭との結合。

*a-* 主體主、現在 *a* は本來冠詞にして、原意は…する其者を表はすものならん。*o-a-kani* 食ふ其者、*ki-a?atas* < \**ki-a-patas* 自分、入粟してゐる其者、*ki-a-kaθa:rai* 自分で愛してゐる其者、*mo-a-buniŋ* 溜つてゐる其物(水)、*mo-a-ilib* 戸を開く其者、*si-a-katatoŋ* 蕾をもつてゐる其物(木)、*si-a-lailima* ライリマ[といふ名]をもつてゐる其人、*to-a-lalak* 子を生んだ其者、*ani-a-θalipolo* [或る物が]周圍を圍んでゐる其處(?)、*ani-a-bawa-bawa* 共に酒を飲んでゐる其時(?)、*ano-a-kilaθ-a* [釘などに]掛けたものが自然に外れる其物、*ano-a-ilib-a* 自然に開く其戸。

*-in-...-a?* < \**-in-...-an* 客體主、一般過去、*b-in-aaθ-a?* 與へた物 < *baai* 與へる、*k-in-oaŋ-a?* 銃で打つた物 < *koagi* 銃。

*o-* 主體主、一般現在 *o-a-* と同様に用ゐられ、其の區別明瞭ならず、*b-o-aa-i=o-a-baai* 與へる、*k-o-ani=o-a-kani* 食ふ等。但し命令には *o-* 型を用ゐる、*k-o-ani-a* 食へ、*ts-o-abo-aŋa* 包んで下さい等。思ふに本來 *o-* (一般の主體主現在) 及び *o-a-* (同上を強調したるもの) の二種の接頭辭ありて、*o-a-* はマガ社の、*oa-nagipi* 釣する、大南社の *oa-kani* 食ふ等となり、*o-* はトナ社の *u-nugipi* 釣する、大南社の *k-o-ani* 食ふ(挿入辭)等となりたるものにはあらざるが、尙ほ考ふべし。

## 3. 接尾辭及び接尾辭と接頭辭挿入辭との結合。

*a-* 主體主、命令 *k-o-ani-a* 食へ、*ilib-a* 戸を閉めよ。

*-a?* < \**-an* (1) 處、*ta-oa-oa-a?* 度々行つた處 ~ *m-oa* 行く、*ta-aga-aga-a?* いつも飯を炊く處、炊事場、< *aga* 飯。(2) 時 *wai-a?* 晝 < \**wari-an* 比、*Atay, wagi* (太陽)、*kala-bitsiŋ-a?* 粟の成熟する季節。(3) 物、*a-kani-a?* 食物、*ni-o-d[ol]i-a?* 栽ゑてある物、比、*-ani*。

*-ani* (1) 處 *ta-oa-ani* 行く處 ~ *m-oa* 行く。(2) 物 *waŋipiviŋ-ani* 墓ふ所の者。(3) 状態 *katarir-ani* 美しさ。

## 4. 反覆

### a. 單純なる反覆

(1) 複數 *oma-omas* 人々。

(2) 進行 *oda-odali* 雨が降つてゐる、*to:bi-tobi* 泣いてゐる。

(3) 未來 *dawa-dawats* 出發しようとする。

(4) 強度 *kaθoa a moa-moa-aŋa* 非一冠詞一行く者一助辭 = 決して行かない。

### b. 接頭辭挿入辭接尾辭を有する反覆。

(1) 複數 *ma-[oda-]odaŋ* 親達。

(2) 進行 *k-o-ani-kani* 食つてゐる、*oa-dapo-dapolo* 吠えてゐる。

(3) 常時 *ma-havoka-voka-ai* いつも嘘をいふ、*b-o-a-baaθ-a* いつも與へよ。

(4) 常用 *sa-tsabo-tsabo-a?* いつも包む具、風呂敷、*ta-bai-bai-baθ-a?* いつも干す具、物干竿、*ta-o-tsaki-tsaki-a?* いつも大便する處、便所。

(5) 強度 *mo-ađi-ađiŋ-ai* 甚旨い。

## IV. 品詞

### 1. 冠詞

	一般冠詞	定冠詞	定冠詞複數
主格	a, ka	ko	ko-la
屬格	sa	ki	ki-la
其他	sa	ki	ki-la

2. 代名詞

a. 人代名詞

	一人稱	二人稱	三人稱		疑問人代名詞	
			現實	一般		
單數	主格	{ko-nako, nao, nako, ako, i-li}	ko-so, naso	{ni, i-ni, ko-ani}	ko-aḍa	ania
	屬格	nako-a, li	so	ini-a, ini	i-ḍa-a	ki-ania
	其他	nako-a, i-li	mo-so-a	ini-a	i-ḍa-a	ki-ania
複數	主格	ko-nai, nai	ko-nomi, nomi	{la-ni, ni, ko-l-ini}	ko-l-iḍa	
	屬格	nai	nomi	l-ini-a, l-ini	l-iḍa-a	
	其他	nai-a, i-nai	nomi-a	l-ini-a	l-iḍa-a	
含複對話者	主格	ko-ta, ita				
	屬格	ta				
	其他	mi-ta-a				

b. 指示代名詞

	此	共	ア ヌ	
			現實	一般
主格	kai	ko-ani	ko-ani	ko-aḍa
屬格	i-kai	i-ni-a	ina-koani	i-ḍa-a
其他	i-kai	inia	ina-koani	i-ḍa-a
	此處	共處	彼 處	
			現實	一般
	i-kai 目前, t-ini 此の地,	ka-oai	ka-oai	ko-aḍa

c. 疑問代名詞

何	何處	何時(過去)	何時(未來)
manima	ino	ko-iga	[o-iga

3. 數詞

bapatu (九)を除く他は大體普通インドネシアンの語形を有す。

ia-ia, 又 iha, (タラマカウ社, ia-ia) (一)は isa の轉化なり, 比. 卑南社 isa, 尙ほ音韻 [s] の條參照。

po[ok' (十). 本來の [q] は普通省略さるゝ例なれども, 此の語に [k] を有するは例外なり, 比. Paiw. pu[oq.

4. 形容詞

- a. m 型を用ゐるもの ma-ka[ā 多い, ma-ḍau 大きい。
- b. m 型を用ゐざるもの bikilai 小さい, idikai 短い。

5. 動詞

A. 分類, 第一類, 第二類, 總説動詞の條參照。

B. 時相 アタル 時相の條參照。

	第一類		第二類	
	主體主	客體主	位置主	用具主
現實現在	kani (食)	?	?	?
進行現在	k-o-ani-kani (*)	?	?	?
一般現在	oa-kani, k-o-ani	valipiviḍ-ani (慕)	ta-oa-ani (行)	sa-sa[imi (載)
		(*)		
現實過去	oa-kani-ḡa (*)	?	?	?
一般過去	na-kaoriwa (話)	b-in-aad-a (與)	na-ta-oa-ani (行)	?
現實未來	ai-kani (食)	?	?	?
一般未來	kani-kani (*)	a-kani-a? (食物)	ta-aga-aga-a? (炊事場)	sa-tsabo-tsabo-a? (包具, 風呂敷)

材料不備の爲め, 未詳の部少からず, 尙研究を要す。

C. 命令 主體主に於ては -a 又は -aḡa を付す。第二類の分は未詳なり。

k-o-ani-a 食へ, m-a[ā-aḡa 取れよ。

D. 否定

- a. 現實否定 kai kani 今食ふ人でない, 食はない, kai baai 與へない。
- β. 一般否定 kaḍoa ako oa-habokai 非一私一虚言者, = 私は嘘をいはない。
- γ. 禁止 kai kani-kani. [汝は]食ふべき人でないぞ, 食ふな。
- δ. 有に對する無, kaḍoa.

6. 副詞

- a. 純粹の副詞 aramor 甚, duil 只, …ばかり, ana 尙, radaro 直に。
- b. 名詞其他の品詞を變化して副詞的動詞を形成することあり, ai-ri'igḡ nai k-o-ani 皆するだらう一我等は一食=我等は皆残らず食はう, ma-radaro ta moa 直にする一我等お互は一行=我等お互は直に行く。



## 7. 接續詞

si (1)名詞を連結するもの。…と…と, moaka:kai si tsoimai モアカーカイ(人名)と熊。

(2)句を連結するもの,而して,それから,などの意。下の la ia si 参照。

io …の時,…するならば。

sa …の時。

la ia si, …した一如其一面 = 其の様にして,而して,それから,そこでなどの意。

## 8. 結 辭

ka 一般冠詞 ka と同形にして,其はの意,國語の…は,…なればのばに當る。

ko tanoanobaki ka taliala:lai, 冠詞 - タノアノバク - 結辭 - 頭目家の者, = タノアノバクは[其は]頭目家の者だ。

ikai ka kadalami so ka…, 有一冠詞 - 好む物 - 汝の - 結辭… = 汝の欲しい物が有れば…, 此の場合は接續詞に似たれども, 原意は前と同じく, 即其は, の意なり, 比. Atay. ga.

## 9. 助 辭

-pa (1)…した, to alalak pa 子を生んだ, tsik-tsikili pa 家族の者になった。

(2)…だよ, …せよ, ia pa ki motokotoko モトコトコの(所有)物だよ, ?a?atsaδ-a pa 殺せよ, kaδoa pa …ではないよ。

la- (1)…した, la makadalami 互に愛してゐた。

(2)…だよ, la si-ki?iq 着物を着るのだよ。

1. 大 南 社  
(taromaki)1. moaka:kai  
モアカーカイ

- <sup>4</sup> iakai pa amia ka sia tanoanobaki si  
居 了 如此者 其といふ者 タノアノバク 而
- <sup>5</sup> sia lailima ka lamasa[opo / la tolalaki  
といふ者 ライリマ 其 夫婦の者 了 生
- <sup>6</sup> sa sia moaka:kai / si taki tolalaka? / sini  
な といふ者 モアカーカイ 而 から 生時 其の
- <sup>7</sup> [idi]idi ka misa oabalilaulaulau kaθari-  
赤坊 其 如 虹が立 美
- <sup>8</sup> rani ini / si ko tanoanobaki ka taliala:lai /  
しき 彼の 而 は タノアノバク 其 頭目の身分
- <sup>9</sup> ko lailima ka kaokaol / ko moaka:kai ka  
は ライリマ 其 蕃丁の身分 は モアカーカイ 其
- <sup>10</sup> kiakaθaarai aramor ki tina ini tama ini /  
彼等の所愛 其 の 母 彼の 父 彼の
- <sup>11</sup> si la kai ki ?odaidaidai / iakai boalilau-  
而 了 非 彼等の 土地に 下す者 居 虹を
- <sup>12</sup> laulau taikaikaia? / si la kanikani sa  
立 居處は 而 了 常食 を
- <sup>13</sup> moaδiaδiqai dui / si la matidaladalami  
旨い物 許り 而 了 幸福
- <sup>14</sup> aramor / koaδa apaapadi lini ka aniaθa-  
其 其の 品 彼等のは 周圍
- <sup>15</sup> [ipolo / anioδo]ia? sa bulbul sa ?apoδal sa  
處 栽處 を 芭蕉 を 鳳梨 を
- <sup>16</sup> buj[ai sa manimania / si la misa tini-  
花 を 色々な物 而 了 如 引

## 1. モアカーカイ

或時 タノアノバク(夫)と ライリマ(妻)  
といふ夫婦の者が居て, モアカーカイ  
といふ[娘]を生んだ。その赤坊は生れ  
た時から, その美しきは虹が立つてゐ  
る様であつた。[夫の] タノアノバクは  
頭目の身分であつたが, [妻の] ライリマ  
は普通の蕃丁の家の生れであつた。  
父も母も モアカーカイを, 土地にも下  
さない位, 非常に可愛がつてゐた。 モ  
アカーカイはその居る處には虹を立  
たせて, いつも旨い物ばかり食べてゐ  
た。而して非常に幸福であつた。彼  
等の島には, その周圍に, 芭蕉や鳳梨や

採録期: 昭和五年七月遼東にて調査。

口授者兼説明者: taipak 25歳, 男, 遼東農業補習学校出身。

1. i-a-kai-pa 居た其の者 <ikai 居る, 有る, -a- 其人を  
さす, 第三者の話す時に用ゐる, …したさうだと譯す,  
-pa 過去。

ka 結辭, 關係代名詞の如き用を爲す, 其は即の意, 又冠  
詞, 主格を表はす, …はと譯す。

tanoanobaki 本社と同族の語は普通語末の子音の後に  
弱き母音を附して發音す。

5. la-ma-sa[on] 互に配偶になつてゐる者等, sa[on] 配  
偶, la- 複數。

to-lalaki 子を生む <lalaki 子, to-lalak-a? <to-lalak-  
an 生んだ時, 6行。

7. [idi]idi = 新芽。

oa-balilaulau-lau 虹が立つてゐる, b-o-alilaulau-lau  
虹を立ててゐる, 11行, balilaulau 虹が立つ, 346頁,  
1行。

ka-θarir-ani ~ma-θariri 美しい。

8. ko 定冠詞, 主格。

10. ki-a-kaθaarai ki- 自分の, 彼の, 彼等の, 11行 -a- 註  
1. maθaarai 愛する。

11. si 而して, それで, すると, など。

<po-daidai-dai ~mo-da-daidai 地面へ下りる, 344頁,  
17行, mo-daidai-a 下りよ, 344頁, 18行, ?o-daidai  
下ろす, 348頁, 19行, 主體主, daidai 地, 本社語は  
普通 p を聲門破音に轉す, p>。

12. <ta-ika-ikai-an 常に居る處, ikai 居る, -an 處。

13. ma-ti-dala-dalami ~ma-ka-dalami 互に愛する, 340頁,  
6行, ma-dalami 好む, ka-dalami 好む, 340頁, 19行。

14. ani-a-θa[ipolo] 周圍の處, θa[ipolo] 周圍, ani-odo[i-a?  
栽處である處, 15行。

16. <t-in-ilusa-lusaj-an 伸した物, oa-tilusai 糸など引張  
り伸す。

- <sup>1</sup> lusalusada<sup>2</sup> ko moaka:kai kaa[au] /  
伸す は モアカーカイ 大き
- <sup>4</sup> si la mokaba[oba]oani na / si la ki  
而了 成十二三歳頃 了 而了 自分
- <sup>5</sup> moala<sup>2</sup>ala<sup>2</sup>alagi na sa taliala:lai sa sia  
遊に行 了へ 顔目の家 へ
- <sup>6</sup> kolulululu / si la makadalami aramor / si  
コルルルル 而了 互愛 其 而
- <sup>7</sup> ko tina ini ka toalalaki na sa ababai sa  
は 母 彼の 共 生 了な 女 女
- <sup>8</sup> sia motokotoko / sa babatikatikala<sup>2</sup> sa ma-  
といふ者 モトコトコ な 疵だらけの人 な
- <sup>9</sup> tialisi aramor / si mia na itsipiitsipi na  
醜者 其 而 丁度了 成年頃 了
- <sup>10</sup> ko moaka:kai /  
は モアカーカイ
- <sup>12</sup> si la a<sup>2</sup>i alo<sup>2</sup>o na ko tama ini si  
而了 欲 狩了は 父 彼の と
- <sup>13</sup> kolulululu / si la dawatsi oalo<sup>2</sup>o / si sa-  
コルルルル 而了 出 狩 而 時
- <sup>14</sup> dawadawats / ka kawariwa ki lailima /  
將出 共 話 に ライリマ
- <sup>15</sup> "kai <sup>2</sup>olatalata<sup>2</sup>ki ki moaka:kai si tsitsiila /  
物 出外 な モアカーカイ 而 よく見よ
- <sup>16</sup> kai a<sup>2</sup>oa[ial]i / nai alo<sup>2</sup>o ana adalo<sup>2</sup> / si  
勿 使不快 我等 行狩 これから一寸 而
- <sup>17</sup> tadawa:tsa<sup>2</sup> ki tama ini si kolulululu  
出發時 の 父 彼の と コルルルル
- <sup>18</sup> ka / ko tina ini ka hatoanao na karas ki  
共 は 母 彼の 共 不思議 了 嫌 な
- <sup>19</sup> moaka:kai / si la kadalami na ki moto-  
モアカーカイ 而了 愛 了な モト
- <sup>20</sup> kotoko / si koad<sup>2</sup>a karigialai ki moaka:kai  
コトコ 而 其の 衣類 の モアカーカイ
- <sup>21</sup> ka ama[<sup>2</sup>a ri<sup>2</sup>i<sup>2</sup>gi / boai ki motokotoko /  
は 取 替 興 に モトコトコ

8. &lt;ba-batika-tikal-an &lt;batikal 疵。

12. a<sup>2</sup>i- 又は ha<sup>2</sup>i-... したい, lo ha<sup>2</sup>i kan<sup>4</sup> so 汝が食ひた

い時. 345頁, 5行。

alo<sup>2</sup>o <qalopo, oa-alo<sup>2</sup>o 狩する. 13行. Paiw. q-cem-  
alup.

花や色々の物を裁縫であつた。モア  
カーカイは糸を引延ばす様に、段々大  
きく成長した。

而して、十二三歳に成つた頃、彼は頭  
目家のコルルルルといふ者の内へ遊  
びに行つた。それから二人は、互に大  
變相愛するやうになつた。その内、彼  
の母はモトコトコといふ女の子を生  
んだが、その子は[體中が]疵だらけで、大  
變醜い娘であつた。[一方]モアカーカ  
イは益々成長して、丁度年頃になつた。

或時、彼の父とコルルルルとは、狩に  
行かうと思つて、出掛けた。出發しよ  
うとする時、父は妻のライリマに、「モア  
カーカイは、よく氣を付けて外に出す  
な、又彼の氣に入らぬ様なことをいふ  
な、我々は此から一寸、狩に行つて來る  
から」といつた。父がコルルルルと出  
掛けていつた後に、母は不思議にも、モア  
カーカイが嫌ひになつて、モトコトコ  
が好きになつた。而してモアカーカ

15. <po-lata-lata<sup>2</sup>ki 外に出す, mo-lata<sup>2</sup>ki 庭に出る. 345  
頁, 7行. o-lata-atad-a<sup>2</sup> 入口. 346頁, 12行. lata<sup>2</sup>ki 外  
庭. 346頁, 6行。17. <ta-dawats-an ~oa-dawats 出發. 343頁, 1行. -an  
時. ta- 彼等の

- <sup>1</sup> si la <sup>2</sup>asikarigialai na sa <sup>2</sup>ta<sup>2</sup>ili sa <sup>2</sup>ta[apa] /  
而了 使者衣 了な 褌<sup>2</sup>を 褌敷  
に モアカーカイ 若 而は モア
- <sup>2</sup> ki moaka:kai / <sup>2</sup>amati<sup>2</sup>ali<sup>2</sup>i<sup>2</sup>ti / si ko moa-  
カーカイ 其 黙 そのまま その 命令 の
- <sup>3</sup> kaka<sup>2</sup>ka iatsil<sup>2</sup>ib <sup>2</sup>ala<sup>2</sup>iq id<sup>2</sup>a taiaiaa<sup>2</sup> ki  
カーカイ 其 黙 そのまま その 命令 の
- <sup>4</sup> tina ini / ka<sup>2</sup>aa<sup>2</sup> ka to<sup>2</sup>bi ini / si va<sup>2</sup>ipivi-  
母 彼の ばかり 其 泣 彼は 而 所處
- <sup>5</sup> pani ini ko la tama ini si ka<sup>2</sup>aa<sup>2</sup> /  
彼の は 等 父 彼の 而 其許り
- <sup>6</sup> "sama[<sup>2</sup>a nai ikai ko la tama li / nai kai ako  
良 たら 居 が 等 父 我の だらう 不我は
- <sup>7</sup> kii<sup>2</sup>ia<sup>2</sup> ikai" <sup>2</sup>amia si to<sup>2</sup>bii<sup>2</sup> si ka<sup>2</sup>aa<sup>2</sup> /  
所知此此人に 如此言 而 泣 而 許り
- <sup>8</sup> si ko tina ini ka / "asi to<sup>2</sup>to<sup>2</sup>bii<sup>2</sup> / ka  
而 は 母 彼の 共 何故 泣いてある 共
- <sup>9</sup> kinarasani na sa maro<sup>2</sup>au<sup>2</sup>au<sup>2</sup> / kaiwai  
嫌はれ者 よに 親達 此方の
- <sup>10</sup> karigialai ka kai manimani na ka ia na  
衣類 は 此の 色々の物 其 物だ
- <sup>11</sup> ki motokotoko ri<sup>2</sup>i<sup>2</sup>gi / ka<sup>2</sup>oa na ka  
の モトコトコ 皆 非 よ 其
- <sup>12</sup> manimani so ka na iaia na / ia na ri<sup>2</sup>i<sup>2</sup>gi  
物 汝の 共 も 一つ だ 物だ 皆
- <sup>13</sup> ki motokotoko" / la ia ko tina ini / si la  
の モトコトコ 了 如其は 母 彼の せめて了
- <sup>14</sup> itsil<sup>2</sup>ibi si ka<sup>2</sup>aa<sup>2</sup> ko moaka:kai /  
黙 而 ばかり は モアカーカイ
- <sup>16</sup> si la towa<sup>2</sup>litokai ko tina ini / si  
すると了 作團子餅 は 母 彼の 而
- <sup>17</sup> koad<sup>2</sup>a ia ki motokotoko ka inorai<sup>2</sup>o<sup>2</sup> sa  
其は 物の モトコトコ は 入船 を
- <sup>18</sup> botol / si koad<sup>2</sup>a ia ki moaka:kai ka  
肉 而 其は 物の モアカーカイ は
- <sup>19</sup> inorai<sup>2</sup>o<sup>2</sup> sa a<sup>2</sup>uu<sup>2</sup>u<sup>2</sup> / si sa kanikani na  
入船 を 油虫 而 とき 將食 了

イの衣類道具は皆取上げてモトコト  
コに與へた。而してモアカーカイに  
は、鍋つかみの片や、鍋敷などを衣とし  
て着せていぢめた。モアカーカイは  
只黙つて、母のいふ通りになつて、泣い  
てばかりゐた。而して、自分の父を慕  
つてばかりゐた。而して[父さん達が]  
居たら、自分は此様にされることはな  
いのに、といつて、只泣いてばかりゐた。  
すると、母は[何故泣いてゐるのか]、親達  
に嫌はれ者めが、此の衣類や、色々の物  
は皆モトコトコの物だよ、汝の物は一  
つも無いよ、皆モトコトコの物だよ]と、  
さういつたので、モアカーカイは只黙  
つてばかりゐた。

すると[或時]母は團子餅を作つた。  
モトコトコには、肉を船にして入れ  
たが、モアカーカイには、油虫を船に  
して入れた。モアカーカイは食はう

1. <pa-si-karigialai 着せる, si-karigiala-alai 着てある  
343頁, 2行. karigialai 衣類. 10行. 比. <sup>2</sup>asi-tsabo 餅  
當にさせる. 342頁, 17行. tsabo 包。2. <pa-mati<sup>2</sup>ali<sup>2</sup>i<sup>2</sup>ti <mati<sup>2</sup>ali<sup>2</sup>i<sup>2</sup>ti 備れな, ai-mati<sup>2</sup>ali<sup>2</sup>i<sup>2</sup>ti  
備になるべき者. 344頁, 3行. ai- 未來。3. i-a-tsil<sup>2</sup>ibi 黙つてゐたさうだ, itsil<sup>2</sup>ibi.  
<ta-ia-ia-an かうかうせよといふ事, ta-ki-ia-ia-a<sup>2</sup> 自  
分てかうかうした事. 346頁, 18行. ta-ki-ia-ani 同上。349頁, 3行. ki-ia-ia 自分でかうなる. 7行. <sup>2</sup>am-ia か  
ういふ. 7行. ia 如其. 342頁, 18行。4. va<sup>2</sup>ipivig-ani 客體主, ma-va<sup>2</sup>ipivig 主體主。9. k-in-aras-ani 嫌はれてゐる者, 客體主. karas 嫌ふ.  
340頁, 18行。

12. ia-ia ia 一, 卑南 isa.

17. <in-o-rai<sup>2</sup>o-an 船を入れた物, ani-o-rai<sup>2</sup>o-a<sup>2</sup> 同上. 342  
頁, 2行. rai<sup>2</sup>o 船, o-a-rai<sup>2</sup>o 船を入れる。

- <sup>1</sup> ka / ko moaka:kai ka oaŋikab si tsiili /  
其はモアカーカイ共割面見
- <sup>2</sup> si anioraiθa? sa aθuup / si "na inaa  
所入船な油虫面さん母よ
- <sup>3</sup> mabotsok ako / koaŋa ako kai kani /  
満腹我は共我は不食
- <sup>4</sup> amia si isaŋa / si ko tina ini ka /  
さういふ面止するとは母彼の共
- <sup>5</sup> "manima ka kani so si kabotsoko so /  
何は食汝の面満腹汝の
- <sup>6</sup> asi ki?i:zi?i?i ka / la?ako:to:ol koania" /  
何故自妄擇共孤兒め食へ
- <sup>7</sup> ko moaka:kai ka la itsiŋibi isaŋa si  
はモアカーカイ共了黙止面
- <sup>8</sup> kaθaa? / "samaŋa nai ikai ko la tama li /  
其丈良たら居が等父我の
- <sup>9</sup> nai kai ako kiiiaia ikai" / la ia si to:bi? /  
だらう不我は所知此此人に了知其面泣
- <sup>10</sup> si kaθaa? /  
面ばかり
- <sup>12</sup> si lo amiarariari ka ko tina ini ka /  
面時毎朝共は母彼の共
- <sup>13</sup> "moa moaomaoma / ŋoaŋau iŋa bulbul  
行島の仕事番せよあの芭蕉な
- <sup>14</sup> iŋa ?apodai iŋa buŋrai iŋa manimani-  
あの鳳梨なあの花なあの色々の
- <sup>15</sup> manipa / amailo kiko?a? sa omasi / koaŋa  
物を恐所盗の人共
- <sup>16</sup> ia ki agi" / la ia si ?asikariŋialai sa  
物の妹了知其面使着や
- <sup>17</sup> θaŋaŋal sa θa?ili / si ?asitsabo sa sanobo-  
鍋敷や鍋つかみ面爲辨當な薯の
- <sup>18</sup> lokoda / si ko moaka:kai ka la ia iŋa  
皮面はモアカーカイ共了知其共の
- <sup>19</sup> taiaiaa? ki tina ini si kaθaa? / aŋawa lo  
命令な母彼の面共斗りでも時
- <sup>20</sup> odaodali / aŋawa lo kasasibibir ka /  
雨降てるでも時風吹てる共

1. tsiili tsi-tsiil-a よく見よ, 340頁, 15行, -a 命令。  
2. aθuup 油虫, 物語, 歌などに用ゐる語, 普通は atatabaŋ-  
na 呼びかける詞, …さんよ。  
6. <ki-pi:pi:piŋi 自分でむやみに擇ぶ, ki-a-ŋiŋi 擇ぶ,  
Paiw, piŋeq 擇ぶ, Mal, pilih.  
k-o-ani-a 食へ, -a 命令。

と思つて割つて見ると、油虫を箱にし  
て入れてあつた。[それで、モアカーカ  
イは]母さん、私は腹が一杯だから、私は  
食べない]といつて、食ふのを止めた。  
すると母は、汝は何を食べて、腹が一杯  
になつたか、何故無闇に食好みするか、  
此の孤兒の奴め、食べる]といつた。モ  
アカーカイは、もう黙つてしまつて、じ  
つとしてゐた。[若し父さん達がゐた  
ら、自分は此様にされることはないの  
に]と、さういつて、只泣いてばかりゐた。  
其後毎朝、彼の母は、島へ行つて、あの  
芭蕉や、あの鳳梨や、あの花や、色々の物  
の番をせよ、妹の物が人に盗まれるか  
も知れないから]と、さういつた。而し  
て鍋敷や、鍋つかみの着物を着せ、薯の  
皮を辨當にさせて[島へやつた]。モア  
カーカイは母のいつた通り、そのまゝ  
素直にしてゐた。雨の降つてゐる時  
でも、風の吹いてゐる時でも、髪は亂れ、

13. mo-a-oma-oma <oma-oma 島, 343頁, 5行, Mal.  
uma.  
17. s-an-o-bolokoda? <\*s-in-o-bolokoi-an(?), bolokoi 甘  
薯の中實, s-in-o- 取除いた物, 比, Paiw, s-in-o- 同  
上, s-im-o- 取去る。  
20. ka-sasib-sibir ~ma-sasibir 風吹く, <sasibira 風。

- <sup>1</sup> oadawats moaomaoma tako tobito:bi? / ari-  
出行作島ながら泣
- <sup>2</sup> busai / kai sikariŋialaai / tako boalilau-  
亂髪不着衣ながら虹な
- <sup>3</sup> laulau / kababaŋoro ŋa ka matsa / ka  
立髪了は目は
- <sup>4</sup> kinaomasa? ka moaaiθili ŋa / tako tiira-  
體共傷だらけ了ながら泣
- <sup>5</sup> irairai / si la kila omaoma to a?oi / si  
血而了來島焚火面
- <sup>6</sup> tobito:bi? tako ŋada:ŋau iŋa aŋaapadi / si  
泣ながら所番共の島は面
- <sup>7</sup> la ia ikai θadaŋani /  
了知此常に
- <sup>8</sup> si la i:lau moaomaoma la ikai / si ara  
面了一度行島了居了ふと
- <sup>9</sup> "ŋaŋiŋaθi" ia babiabila / si ko moaka:kai  
ガサガサといふ島の端面はモアカーカイ
- <sup>10</sup> ka / "manimani kaiwai / asi lo a mani-  
共何此は何故黙だらう何
- <sup>11</sup> mani so ka / amaŋa nakoŋa koani / si la  
汝が共取れ我を食すればよ
- <sup>12</sup> karimoro ako / si la sara ?atsaθ-ako" / la  
忘我は面よ早く死我は了
- <sup>13</sup> ia si to:bi? / si la ara motaliwaiwai ka  
如其面泣すると了忽出來が
- <sup>14</sup> tsomai / a?ia ki moaka:kai / si la kila ki  
熊向つて來にモアカーカイ而了來に
- <sup>15</sup> moaka:kai diiθi / si kai asano kani / kai  
モアカーカイ近而不將食不
- <sup>16</sup> asano tomani / si ko moaka:kai ka  
將爲何面はモアカーカイ共
- <sup>17</sup> "maŋaa ŋa ili ?a?atsai koani / si nao sara  
取れよ我を殺食而我は早く
- <sup>18</sup> karimoro / si nako kai ki iaia: ikai na  
忘而我はいや自分知此さん
- <sup>19</sup> omo" / la ia si ko tsomai ka / "tomani  
伯父よ了知其面は熊共爲何
- <sup>20</sup> ta si kani sa lataliala:lai sa la:ŋani /  
我等面食を顔目家の者を孫

着物はなく、目は脹れ、體は傷だらけで、  
血に塗れてゐるといふ有様で、いつも  
泣きながら、虹を立てながら、島へ仕事  
に出掛けて行つた。而して、島に來て  
火を焚いて、泣きながら島の番をして  
ゐた。モアカーカイは、いつも、かうい  
ふ風に番をしてゐた。

すると或時、又島へ行つて、いつもの  
如く番してゐると、ふと島の縁でガサ  
ガサといふ音がした。モアカーカイ  
は「此は何か、汝が何であつても、私を取  
つて食へ、すれば私は早く死んで、何事  
も忘れることが出来る」といつて泣い  
た。すると忽ち、熊が現はれて、モアカ  
ーカイの方へ向つてやつて來た。モ  
アカーカイの近くへ來たが、食はうと  
もしない、如何しようともしない。そ  
こでモアカーカイは「私を取つて、殺し  
て食つてくれ、私は早く忘れたい、私は  
[母に]こんなされるのはいやだ、伯父

3. ma-babaŋoro 脹れる。  
4. <k-in-a-omas-an <omasi 人, 342頁, 15行, Paiw.  
k-in-a-tsawa-tsaw-an 體 <tsau-tsau 人。  
mo-a-a-θili ~ki-a-θili 傷を受ける。  
ti-ira-ira-irai <irai 血, ti- <to- 動詞構成。  
5. <apoi IN, apui.  
6. <aŋa-aŋadi 島。  
7. <θ-o-a-daŋani <θa 一つ(?) Paiw, ta, IN, sa, daŋani

路, Paiw, ŋaŋan, IN, dalan.  
12. <patsai ako ~?a?atsai <pa-patsai 殺す, 17行。  
?a?atsaθ-a <pa-patsai-a 殺せ, 344頁, 5行。  
17. maŋa-a -a 命令。  
na-o=na-ko 18行, 我[は], na-ko-a? <\*na-ko-an 我を,  
我に, 又, ili 我は, 我を, 我に, -li 我の。  
20. <la-agani <agani 孫, la- 親愛の意。

- <sup>1</sup> kaŋoa ako ka iaia inia / kai kaθaθiboro /  
非 我は 其 如 其 勿 心配  
<sup>2</sup> boro / nao oodo mosoa moa iqa dani li /  
我 負 汝を 行 其の 家へ 我の  
<sup>3</sup> ta oa / matidaladalam / kaŋoa so ka ai-  
我等 行かう 幸福 非 汝は 其 可  
<sup>4</sup> matiθaliθi / la ia si ko moaka:kai ka la  
苦者 了 如其 面は モアカーカイ 其 了  
<sup>5</sup> kai kiomau / "a'atsaθa pa ili / nao sara  
不 肯 殺せ 我を 我は 早  
<sup>6</sup> karimoro / na omo / "hasi 'a'a'iaiaiaa /  
忘 さん 伯父よ 何故 如其いふか  
<sup>7</sup> la ia si kai kiomau ko tsoimai / "hasi ia  
了 如其 面 不 肯 は 熊 何故 知  
<sup>8</sup> inia lagani / kai / ta motso:go si 'atsai /  
其 孫よ 勿 我等 罰が 中 面 死  
<sup>9</sup> niama nao oodo / ila ta oa iqa dani  
来い 我は 負 さあ 我等 行かう 其の 家へ  
<sup>10</sup> li / kai kaθaθiboro / si aiθipitsi mosoa kai  
我の 勿 心配 面 可痛 汝を 此の  
<sup>11</sup> obali li / si kilibuka / nao oodo mosoa /  
毛は 我の 面 敷物取れ 我は 負 汝を  
<sup>12</sup> la ia si oodo ki moaka:kai / si ko tsoimai  
了 如其 面 負 を モアカーカイ 面は 熊  
<sup>13</sup> ka "mimitsaanaa / aimogilulu so" / la  
其 一寸 敷目せよ 可能 汝は 了  
<sup>14</sup> ia si ano tatipaba<sup>2</sup> oodo ki moaka:kai / la  
如其 面 通 崖處を 負 を モアカーカイ 了  
<sup>15</sup> kila sa tipabi / si matiau kololo / si la  
来 へ 崖 面 氣味悪 恐しい 面 了  
<sup>16</sup> alualu / si la kila ka toabo<sup>3</sup> / 'o[ai]ai /  
来と 了 来 が 猿 作把持處  
<sup>17</sup> si la modadaidai a<sup>2</sup> / moa sa [inigi sa  
面 了 下りる 面 行 へ 石の處 の  
<sup>18</sup> taotaora / si "la: modaidaia na moaka:  
白石英 面 さあ 下りよ さん モアカー  
<sup>19</sup> kai / si la: mabanao / si la: siki'ipij / la  
カイ 面 さあ 洗體 面 さあ 着衣 了  
<sup>20</sup> ia ko tsoimai / si la laala iqa taotaora /  
如其は 熊 面 了 掛息 其の 石英に

1. ka-θaθi-boro-θiboro <ka-θaθiboro 10行. ma-θaθiboro  
心配する。  
6. <pa-pa-ia-ia-an そんなに しく言ふ, ia 其の 様。  
10. ai-θipitsi <θipitsi ちかちかつく, ai-mogilulu 目が  
くらむだらう 13行. ai- 未来。  
11. ki-libuk-a <libuku 敷物, ki- 取る, -a 命令, 主體主。

さん]。さういふと熊は「我々如何して、  
頭目家の者を食つたりするものか孫  
よ、私は其様なことをする者ではない、  
心配するな。私は汝を負つて、あの私  
の家へ行く、さあ我々行かう[あそこに  
居れば]幸福で、汝は困るやうな事はな  
い]。さういふと、モアカーカイは背か  
ないで、私を殺してくれ、私が早く忘れ  
るやうに、伯父さん」といふ。「熊は」何故  
其様なことをいふのか」と、さういつて  
背かない。「何故其様なことをいふの  
か、孫よ、さう言ふな、我々は罰が中つて  
死ぬよ、さあ来い、私が負つてやらう、さ  
あ我々、あの私の家へ行かう、心配する  
な、私の毛は汝は痛いだらうから、敷物  
を持つて来て敷け、私は汝を負つてや  
らう」と、さういつてモアカーカイを負  
つた。「少し行くと」熊は「一寸目をつぶ  
つてをれ、汝は目がくらむかも知れな  
いから]。さういつて、モアカーカイを

13. <mi-matsa-ana-a <mi-matsa 目を閉ぢる, ana 一寸,  
-a 命令, 主體主。  
14. <ta-tipab-an 崖の處, tipabi 崖, 15行。  
16. <po-[ai]ai <[ai]ai つかまへる物, 篋の梯子など, po-  
他動詞構成。  
19. <si-ki-pij <kipij 着物。

- <sup>1</sup> si la anomoiluba / si la tomaolai sa  
了 自然に 戸が開 面 了 話 に  
<sup>2</sup> karipialai ki moaka:kai / la moda:ni ko  
衣 の モアカーカイ 了 入家 は  
<sup>3</sup> moaka:kai / si la namanima ka θa: θa:  
モアカーカイ 面 了 何でも 其 ゴーザー  
<sup>4</sup> θa: / matidaladalami aramor / si ko tso-  
ザー 幸福 其 面は  
<sup>5</sup> mai ka "moaka:kai lo ha'ikani so / lo  
熊 其 モアカーカイよ 時 飲食 汝は 時  
<sup>6</sup> ikai ka kadalami so ka / namanima ka  
有 が 好物 汝の 其 何でも は  
<sup>7</sup> makara aramor kai namanima / si 'a[ai]pa  
多 其 此の 色々の物 面ままにせよ  
<sup>8</sup> iqa kadalami so ma:ja / si boabaaθa ina  
其の 好む 汝は取 面 常に 興へよ 其の  
<sup>9</sup> la kaokaoli ta / ina toabo<sup>4</sup> / sa akania<sup>2</sup>  
等 家来 我等の 其の 猿 を 食物  
<sup>10</sup> sa bitsipi<sup>5</sup> / la ia ko tsoimai /  
を 粟 了 如其が 熊

負つて崖の處を通りかゝつた。崖へ  
来ると、氣味が悪くて恐ろしい、そこで  
[熊が]オーイと呼ぶと、猿が出て来て、下  
りる手掛りを作つたので、[谷へ]下つて、  
白い石英の有る處へ行つた。すると  
熊は「モアカーカイよ、さあ下りよ、體を  
洗つて、着物を換へよ]。熊はさういつ  
て、其の石英に息を吹掛けると、戸が自  
然に開いた。そこで熊が「モアカーカ  
イの着物、出て来い」といふ[と着物が出  
て来た]。モアカーカイが家の中には  
いると、何でも彼でも澤山有つて、いつ  
も何不自由なく、實に幸福であつた。  
すると熊は「モアカーカイよ、汝が食ひ  
たいと思ふ物があれば、汝の好きな物  
がある。どんなものでも、大變澤山あ  
るから、汝の好きな通りに取れ。而し  
て、我々の家来共の、あの猿に、いつも食  
物や粟などを遣れ」といつた。

- <sup>20</sup> la sakilakila pa ki la tama ini iqa  
了 將歸來 了 の 等 父 彼の 其の  
<sup>21</sup> oaalo<sup>6</sup> / si la aniboal [a:]aoa / si la tsili  
狩から 面 了 近付 蕃社の端 面 了 見

彼の父達が、狩から歸つて来る時に  
なつた。父達は、蕃社のはづれまで近  
狩から 近付 蕃社の端 見

8. b-o-a-baaθ-a 常に興へよ <baai 興へる, -a 命令。  
20. <sa-kila-kila 歸つて来ようとする時, kila 来る, sa-  
dawa-dawats 出發しようとする時, 340頁, 13行。  
21. ani-boal 傍に来る, boal 縁。

- <sup>1</sup> iḡa da:ni lini / si kaso:ḡi pa / kai balilau-  
あの 家な 彼等の 成古 了 不 虹が
- <sup>2</sup> laulau pa / si "oatomana ini / si mia pa  
立 了 而 爲何 彼 而 様 了
- <sup>3</sup> inia koani da:ni ta / na kolulululu a  
其の 家の 家は 我等の さん コルルル だらう
- <sup>4</sup> moa inino ko moaka:kai / la ia si  
行つた 何處へ は モアカーカイ 了 如其 而
- <sup>5</sup> karidari kila / tsiili iḡa da:ni lini / si la  
急 來 見 其の 家な 彼等の 而了
- <sup>6</sup> kila lataḡi / si "moaka:kai niama inai /  
來 庭に 而 モアカーカイよ 來い 我等に
- <sup>7</sup> kiḡisiisip molataḡi / la ia si itsiḡibi kai  
自迎 出庭 了 如其 而 黙 不
- <sup>8</sup> tobaribari / si "a moa ino ko moaka:kai  
答 而の 行つた 何處 は モアカーカイ
- <sup>9</sup> na lailima / la ia si "kiawaiwaḡ moa ki  
さん ライリマよ 了 如其 而 自遊 行へ
- <sup>10</sup> laaḡi ini / la ia si ko tanoanobaki si  
友人等 彼の 了 如其 而 は タノアノバク と
- <sup>11</sup> kolulululu la karimor iḡa takidoḡoani  
コルルル 了 忘 其の 彼な
- <sup>12</sup> lini / si la kiḡai ḡoa sa olataḡaḡa iḡa  
彼等の 而了 掛 持行へ 入口 其の
- <sup>13</sup> kaḡai lini / si la dawats silaḡi ki moaka-  
網袋な 彼等の 而了 出發 搜 な モアカー
- <sup>14</sup> kai / ano tsatsikil si kaḡoa aḡ / si la  
カイ 通 社内 而 無 了 而了
- <sup>15</sup> ki:laila iḡa laaḡiaḡi ini / si "oadawatsi  
自問 其の 友人達に 彼の すると 出
- <sup>16</sup> maomaoma komiaiaaḡ / si la oapa: aḡ ka-  
島仕事 先日 而了 行 了
- <sup>17</sup> miḡip / si la kai kila pa / la ia si i:laila  
永久 而了 不 歸來よ 了 如其 而 問
- <sup>18</sup> iḡa takiaiaaḡ ki tina ini / si la ḡipali pa  
其の 所爲事な の 母 彼の 而了 知 了
- <sup>19</sup> ko tanoanobaki si kolulululu / si la sioḡi /  
は タノアノバク と コルルル 而了 戻
- <sup>20</sup> moaliḡuḡili iḡa karipalalini / si "lo kai  
片付 其の 衣道具な 彼等の 而 若 不
- <sup>21</sup> kila ko moaka:kai ka / kai ḡodaidaidai  
來 が モアカーカイ 其 勿 下地

1. masoḡi 古い。  
7. ki-ḡisiisip 自分で出迎する, ki- 自分。  
10. la-aḡi-aḡi 友人, la-aḡi-aḡi 同上, 15行. Paiw. qaḡi.la-  
複数。

く歸つて、自分達の家を見た。すると  
家は古くなつて、虹が立つてゐなかつ  
たので、父は「此は如何した事であらう、  
我々の家はあの様になつた。コルル  
ルよモアカーカイは何處かへ行つ  
たのかしらん」といつて急いで歸つて、  
自分達の家を見た。而して庭に行つて、  
「モアカーカイよ、私の方へ來い、一寸庭  
に出迎に出よ」といふと何等の返事も  
ない。そこで「妻に」ライリマよ、モアカ  
ーカイは何處へ行つたのか」といふと、  
「妻は」友達の内へ遊びに行つた」といつ  
た。そこでタノアノバクとコルルル  
ルは、背の網袋を入口の釘に掛けると、  
自分達の疲れも忘れて、モアカーカイ  
を捜しに出掛けた。社内を通つて捜  
したが居ない。そこで彼の友達に問  
ふと「友達は」先日島へ仕事に出たが、そ  
のまゝいつてしまつて、歸つて來ない  
のだ」といふ。そこで母のした事に就  
いて問うたので、二人はその譯が分つ

11. ta-kidoḡo-ani ~ki-a-doḡo 疲れる, ta- 彼等の。  
12. <pa-oa 持行く, 入れる, m-oa 行く。  
14. 16. aḡ 句調を整へ意味を強める爲の音。  
15. ki-i:laila <ki- 自分で, i:laila 問ふ, 17行。

- <sup>1</sup> ki bolabolai / la ia si dawatsi moa-  
な 獲物 了 如其 而 出掛
- <sup>2</sup> omaoma / si ha tatoaḡoaḡoḡaḡ ki moaka:kai /  
島仕事 と 有 焚火跡 の モアカーカイ
- <sup>3</sup> si "a moa inino ko moaka:kai / la ia  
而 だらう 行つた どこへ は モアカーカイ 了 如其
- <sup>4</sup> si ḡana a ḡoḡaḡa / a ḡowanal / a ḡowiri  
而 射 共 西方へ 共 北方へ 共 南方へ
- <sup>5</sup> si sioḡi koaḡa raili / la a ḡoḡaḡo si  
而 戻 其の 矢は 了 其 東方へ 而
- <sup>6</sup> luzulup koaḡa raili aḡia ki moaka:kai / la  
すつと 其の 矢は 行其處の モアカーカイ 了
- <sup>7</sup> silaḡi aḡia iḡa taaḡiaaḡ iḡa raili /  
搜 行其處 其の 方角の 其の 矢の
- <sup>14</sup> ko moaka:kai si tsoḡmai ka iakai mati-  
は モアカーカイ と 熊 共 居 幸
- <sup>15</sup> daladalami / si ko tsoḡmai ka oadawatsi  
福 而 は 熊 共 出掛
- <sup>16</sup> oaloḡo / si sa dawadawatsi ka / "ikaikaia  
狩に 而 時 將出掛 共 居此處
- <sup>17</sup> aḡ nao dawatsi ana oaloḡo / si aniailuba /  
れ 我は 出掛 一寸 狩に 而 閉戸よ
- <sup>18</sup> amailo kila ka baḡa / si tini:tinona ikai  
かもしれぬ 來 が 敵 而 刺槍せよ 居
- <sup>19</sup> da:ni / si lo silaḡi mosoa ko latama so  
家に 而 時 搜 汝な が 父等 汝の
- <sup>20</sup> ka / sana hakilaḡaaḡ ka raili ka akai ki  
共 若 所聞 は 矢 其 中る に

た。それから内へ歸つて、自分の衣類  
道具を片付けて後「妻に」若しモアカー  
カイが歸つて來なかつたら、此の獲物  
を地に下すな」といつた。而して、島へ  
行つて見ると、モアカーカイが火を焚  
いてゐた跡が有つた。すると「父は」モ  
アカーカイは何處へ行つたのだらう」  
といつて「弓を以て」西の方と、北の方と、  
南の方とを射た。すると、其の矢が戻  
つて來たので「今度は」東の方を射ると、  
其の矢がモアカーカイの方へすつと  
行つた。そこで、矢の向つて行つた方  
の處を捜した。

モアカーカイと熊とは、何不自由な  
く幸福に暮してゐた。すると或時、熊  
は狩に出掛けた。出掛ける時モアカ  
ーカイに「私は一寸、狩に出掛けるから、  
此處にじつとして居れ、而して戸を内  
からよく閉めて置け、敵が來るかも知  
れないから。而して内に居て、刺槍を

2. <\*ta-to-apo-anoi-an (?) 彼の火を焚いてゐた跡。  
to-aḡoi 火を作る, aḡoi <apoḡi 火, ta- 彼の。  
4. <pana Paiw. panaḡ.  
<po-ḡaḡa 山手(西方)へやる, Paiw. zaja. 山手, 東。  
<po-wanal 右方(北方)へやる, Paiw. naval 右。  
<po-wiri 左方(南方)へやる, Paiw. viri 左。

5. <po-ḡaḡo 下手(東方)へやる, Paiw. ḡauz 下手, 西。  
7. <ta-aḡia-an 向つて行つた處, <aḡia 其處へ行く, 6行。  
16. ikai-kai-a 此處にじつとしてなれ, -a 命令。  
18. tini:tinon-a 刺槍してなれ, tini:tinoni 同上してゐる。  
348頁, 13行. tinoni 刺槍する, 續る。  
20. <\*ka-kilaḡa-an (?) 客體主, ki-a-laḡa 聞く。

- <sup>1</sup> da:ni ka/ amai pa/ si kaoriwaa pa ki  
家 其 其物 だ 而 話せ よに
- <sup>2</sup> lakaokaoli ta/ ni 'o'aijai/ si lani moda-  
家來達に 我等の 彼等が 作把持處 而 彼等は 下
- <sup>3</sup> idai ko latama so/ si lo kila ka/ boada  
は 父等 汝の 而 時 來 其 與へ
- <sup>4</sup> pa ikai bawa ni opolo/ si 'odaidai pa  
よ 此 酒 彼等が 飲 而 下ろせ よ
- <sup>5</sup> ikai abai si botol/ si ma'aa pa ina sabiki  
此の 餅 と 肉を 而 取れ よあの 檳榔
- <sup>6</sup> ina 'ajapao lani a'o/ si kilalawalawaa ili/  
あの 菓葉を 彼等が 嚼 而 待て居れ 我を
- <sup>7</sup> aikila ako lo maaop/ la ia si dawatsi  
可來 我は 時 晚 了 如其 而 出掛
- <sup>8</sup> ko tsomai/  
は 熊
  
- <sup>13</sup> si la ikai ko moaka:kai tinitinoni/ si  
而了 居 は モアカーカイ 刺繍 すると
- <sup>14</sup> ara "tsoporo" ia a' idā da:ni/ si la  
突然 ヒューッ といふ了 其の 家に 而了
- <sup>15</sup> laala/ si la anomoiluba/ si molataqi si  
掛息 而了 自然に開戸 而 出外 と
- <sup>16</sup> a raili ki tama ini/ si la kiragai/ si la  
だ 矢 の 父 彼の 而了 喜 而了
- <sup>17</sup> kilalawalawa/ si ara aniboal idā tipabi  
待つてゐる と 突然 縁で 其の 崖の
- <sup>18</sup> nii:ni ko latama ini/ si la kaoriwa idā  
呼ぶ か 父等 彼の 而了 話 其の
- <sup>19</sup> toabo'o/ si la 'o'aijai/ si 'odaidai ki  
猿に 而了 作把持處 而 下ろす な
- <sup>20</sup> latama ini/ si la kiragai ko latama ini  
父等 彼の 而了 喜 は 父等 彼の
- <sup>21</sup> aramor/ "sika iakaikai ana naso na  
其 まあ 居たか 尙 汝は さん
- <sup>22</sup> moaka:kai/ aso ikai tini/ oatomatamani  
モアカーカイ 如何 居 此處 何してゐたか

6. <apo 檳榔を嚼む。  
22. oa-to-ma-to-mani ~ki-a-to-mana 自分で何をす。

してをれ、汝の父等が汝を捜しに来て、その矢が家に中る音が聞えたら、其がさうだ(父の矢だ)から、その時は我々の家來達に蔓を渡して梯を作る様に話せ、すると汝の父達が下りて来る。而して彼等が來たら、彼等の飲む爲に、此の酒を與へよ。而して此の處に掛けてある餅と肉を下ろせ。而して彼等の噛む爲に、あの檳榔とあの菓葉を取れ。而して私を待つてをれ、晩になったら、私は歸つて来るからと、さういつて、熊は出掛けて行つた。

モアカーカイが刺繍してると、突然、矢がビューッと飛んで来て家に當つた。そこで(彼は戸に)息を吹掛ける、戸は自然に開いた。外へ出て見ると、父の矢であつたので、彼は喜んで待つてゐると、突然崖の端の處から、父達が呼んでゐた。そこで猿に話して、蔓を渡させて、父達を下した。父達は大變喜んで「まあ、汝はまだ(生きて)居たか、モアカーカイよ、如何して汝は此處に

どうなる、349頁、5行。to-mani 何をす、mani 何、to- する、作る。

- <sup>1</sup> so/ manima ka kasamaqi mosoa ki  
汝は 何 は 迫害 汝を の
- <sup>2</sup> latina so/ la ia si la kaoriwa idā  
母等 汝の 了 如其 而了 話 其の
- <sup>3</sup> takiiiaani ini ki latina ini/ si 'oro ki  
かうかうした事を 彼の の 母等 彼の 而 訴 に
- <sup>4</sup> tama ini/ si la "aniiainia mosoa ko  
父 彼の すると 爲如其 汝に は
- <sup>5</sup> latina so/ kiatomana ini/ la ia ko  
母等 汝の どうした事 其は 了如其 は
- <sup>6</sup> moaka:kai la 'oda:ni ki latama ini/ si la  
モアカーカイ了 使入家を 父等 彼の 而了
- <sup>7</sup> ia idā a' takaoriwaa' ki tsomai/ si 'akani  
如其の 了 所話 の 熊 而 使食
- <sup>8</sup> 'aopolo ki latama ini/ "sika matiadalad-  
使飲 に 父等 彼の まあ 幸福
- <sup>9</sup> alami nomi" la ia ko tama ini/ si "kai  
汝等は 了如其 は 父 彼の 而 勿
- <sup>10</sup> 'a'atsa'atsai ki toyo li/ lo ia sano 'a'atsai  
殺 を 老爺 我の 若如其 時 殺
- <sup>11</sup> nomi ka 'a'atsada ili/ si la ia si la  
汝等が ば 殺せ 我を 而 了如其 而了
- <sup>12</sup> 'iipali pa ko latama ini/ si "ikaikai ana  
知 了 は 父等 彼の 而 居此處 尙
- <sup>13</sup> na moaka:kai/ nai oana liu'uil idā kari-  
さん モアカーカイ 我等 行一寸片附 あの 衣
- <sup>14</sup> pialai nai/ si nai kila pa/ 具類 我等の 而我等 歸來 よ
  
- <sup>19</sup> la ia si dawatsi moa idā lamatina/ si  
了 如其 而 出掛 行 あの 母等の處に 而
- <sup>20</sup> la moki'jai idā karipialai/ si kai baai sa  
了 取下 其の 衣具類を 而 不 與 を

居たか、何をしてゐたか、母達は如何して汝をいぢめたか」といつた。そこでモアカーカイは、自分が母達にかうかうせられたと、その事を話して、父に訴へた。すると父は(母達は如何して、汝に其様な事をしたのか、此は何といふ事だらう)といつた。そこでモアカーカイは、父達を内に入れて、熊が話しておいた通り、父達に食はせたり、飲ませたりした。[父は]まあ、汝等は何不自由ない幸福な者だといふと、[モアカーカイは父に]私のお爺さん(熊)を殺すな、若し其様にして、汝等が殺すやうなら、私を殺してくれ」といつた。そこで、父達は事情が分つた。それから[父達は]モアカーカイよ、汝はしばらく此處に居れ、我々は一寸行つて衣類などを片付けて、歸つて来るから」といつた。

父達はさういつて、母の處へ出掛けて行つた。而して[釘に掛けてある]衣

1. ~masamaqi 苦める。  
4. <\*pa-ni-ia-inia (?) 其の様な事をした、ia-inia 其の標。  
6. <po-da:ni 家に入れる、mo-da:ni 家に入る、345頁、2行。  
7. <ta-kaoriwa-an 彼の話す事、kaoriwa 話す、ta-彼の、<pa-kani 食はせる、pa-opolo 飲ませる、8行。  
10. <pa-patsz-patsai 反覆は意味を強める、決して殺すな

の意、'a'atsada <pa-patsai-a 殺せ、11行。'a'atsai <pa-patsai 殺す、10行。  
13. <oa-ana <oa 行く、ana 一寸。  
20. mo-ki'jai 掛てあるのははず、ki'jai 掛ける、346頁、12行。mo-ilub-a 戸を開けよ、350頁、17行。ano-mo-ilu-ba 戸が自然に開く、345頁、1行。<mo-ilub 開く、<ilub 開す、mo-tsaubu 蓋を開く、351頁、4行。ts-o-aubu 蓋する、351頁、3行。mo-比。Paiw. s-im-o-

- <sup>1</sup> na tikitikiai pa iða lamatina / si "ʔaka-  
も 少し 了 其の 母等に 而 沸湯
- <sup>2</sup> [aʔaa na lailima / nao tobaʔas ki bola-  
せよ よ ライリマ 我は 煮 を 肉
- <sup>3</sup> bolai" / la ia si sa ʔolaki pa / si la aʔa  
了 如其 而 時 熱 了 而 了 取
- <sup>4</sup> oaʔogo ko tanoanobaki / si la ʔaoa ʔoro-  
持上 が タノアノバ 而 了 持行 往
- <sup>5</sup> ʔoki iða lamatina / si "ki: ki: ki: ki:"  
其の 母等に 而 キー キー キー キー
- <sup>6</sup> motaraurauða / "airipipi nai koani sa  
入石垣 可憐 我等は 食 な
- <sup>7</sup> ʔagai nomi / sa bitsipi nomi / sa mani-  
来 汝等の な 粟 汝等の な 何
- <sup>8</sup> mani nomi" / la ia si motitatoliki /  
でも 汝等の 了 如其 而 成鼠
- <sup>12</sup> la dawatsi koadā lamatama moa ki  
了 出掛 其の 父等は 行 へ
- <sup>13</sup> moaka:kai / si la ikai pa matidaladalami /  
モアカーカイ 而 了 居 了 不自由なく
- <sup>14</sup> sa amaon ka sa akilakila pa ki tsomai  
時 將晩 其 時 將歸來 了 の 熊
- <sup>15</sup> iða oaaloʔo / si la kila ko tsomai "m:"  
其 狩から 而 了 歸 は 熊 ムー
- <sup>16</sup> la ia / si "grap" la ia ʔodaidai sa baboi /  
了 如其 而 フシン 了 如其 下す な 山脈
- <sup>17</sup> si "moiluba ili na moaka:kai" / la ia si  
而 開け 我によ モアカーカイ 了 如其 而
- <sup>18</sup> la modani ko tsomai / si la "sika oakila  
了 入家 は 熊 而 するとまあ 来たれ
- <sup>19</sup> nomi" la ia ko tsomai iða lamatama / si  
汝等は 了 如其 は 熊 其 父等に 而
- <sup>20</sup> la tsiktsikili pa matidaladalami /  
了 成一家族 了 幸福

1. pakaʔaʔa 湯を沸せ、a 命令。  
6. mo-taraurauða <taraurauða 庭の周囲の石垣。  
ai-ripipi=ai-ripi 昔…しよう、riʔipi 昔、ai- 未来。

類などをはづして、少しも母達に與へなかつた。而して[母に]ライリマよ、湯を沸せ、私は肉を煮るから」といつた。そこで湯が熱く沸いた時、タノアノバは[鍋を]持上げて、持つて行つて、母達に溶せかけた。すると、母達はキーキーキーと鳴いて、石垣の中へはひつてしまつたさうだ。[その時母達は]我々は、汝等の米も粟も、その外何でも、残らず食つてやるぞ」と、さういつて鼠になつた。

すると父達はモアカーカイの處へ行つて、そこで、不自由なく共に暮して居た。熊が狩から歸つて来る日の、夕方になつた。熊がムーといつて歸つて来た。而してドシンと音をさせて、山脈を下した。それから[モアカーカイよ、戸を開けてくれ]といつて、家の中へはひつて来た。[父達を見ると]熊は「まあ、汝等はやつて来たね」といつた。而して皆一家族になつて、満足に暮してゐた。

7. <pagai Paiw, padai, IN. parai.  
8. moti-ta-toliki <toliki 鼠, moti-…に成る、ta- は反覆。

- <sup>1</sup> la katsaimi ko tsomai / si la kaoriwa  
了 病 は 熊 而 了 話
- <sup>2</sup> ki moaka:kai / "lo ʔatsaʔ-ako ka ʔaoa  
に モアカーカイ 時 死 我が は 入れ
- <sup>3</sup> pa ili tsoabu ina roti / si ʔaoa pa sa  
よ 我を 蓋する 其の 櫃に 而 入れ よ な
- <sup>4</sup> ʔinorabokaʔ aniʔaripolo nako / la motsa-  
入石灰物 周圍に 我の 了 開
- <sup>5</sup> ubu lo anokaʔimi pa nomi / la: tsiili  
蓋 時 賢明 了 汝等の さあ 見よ
- <sup>6</sup> adiq" / la ia si ʔatsai ko tsomai /  
中な 了 如其 而 死 は 熊
- <sup>8</sup> si ko moaka:kai la motsaubu / si fia  
而 は モアカーカイ 了 開蓋 すると有
- <sup>9</sup> ʔinosiʔsiʔloaʔ ka ʔa: ʔa: ʔa: / si la a  
入頭飾物 其 ゴー ゴー ゴー 而 了 成
- <sup>10</sup> lamasajopo pa ko kolulululu si moaka-  
夫婦 了 は コルルルル と モアカー
- <sup>11</sup> kai / si matidaladalami pa / a taliala:lai  
カイ 而 幸福 了 成 頭目
- <sup>12</sup> pa / amia pa amia /  
了 如其 だ 如其

2. ʔadapasa  
人仔山

- <sup>17</sup> koadā sia ʔadapasa ka / nataoaoaʔ ki  
あの といふ處 人仔山、は 以前度々行處の
- <sup>18</sup> sotaromaki / kibopo sa ʔagai sa bitsipi /  
大南社人 交易 を 米 を 粟
- <sup>19</sup> kaoai ʔadapasa ka mabaropolo koadā  
その 人仔山 は 有穴 あの
- <sup>20</sup> daidai ʔaʔia soadiadiq / si la lolodo lo  
土地 方へゆく 地中の人 而 了 通過 時

1. ~ma-tsaimi 病氣になる。  
4. <p-in-o-rabok-an 石灰を入れた物(櫃の中)、ra-  
boki 石灰。  
5. ano-kaʔimi 喪が明ける、ma-ʔimi 死人の有つた時置  
櫃する、喪に服する。  
9. <p-in-o-siʔsiʔlo-an 多くの頭飾を入れた物、siʔlo 頭  
飾。

[すると或時]熊が病氣になつた、而してモアカーカイに、「私が死んだら、あの櫃の中に入れて蓋をしてくれ、而して私の周圍に、石灰を挿んだ[櫃]を入れ、くれ、汝等の喪が明けたら、蓋を開けて中を見よ」と、さういつて、熊は死んでしまつた。

而して[其の時になつて]モアカーカイが蓋を開けて見ると、頭飾を入れた物があつて、その中には頭飾が一杯有つた。そこでコルルルルとモアカーカイは共に夫婦になつて、何不自由なく、コルルルルは判頭仕舞に頭目に成つたと、さういふ話である。

2. 人仔山(ランガサン)

あの人仔山といふ處は、大南社の人々が以前度々、米や粟やを交易しに行つた處だ。その人仔山には、[昔]土地に穴があつて、其から地下の蕃社の方へ行

17. <na-ta-oa-aa-an <ta-oa-aa-an 彼等の度々行く處、  
m-aa 行く、na- 過去、ta- 彼等の。  
18. so-…に屬する者、比、Paiw. si-, si-paiwan パイワン人。  
20. so-adi-adiq 地の中の人、<adiq 中、~ʔo-adiq 中に  
入れる、352頁、15行、so- it18。

- <sup>1</sup> oa soađiađiŋ / kaiasaani ŋa ikai ŋa  
行 地中の人 今日 了 居 了
- <sup>2</sup> tsi:liŋ / ka matiau koikorođo ka [inigi /  
寒 其は 惟 恐ろしい は 石
- <sup>3</sup> si a balbalali ŋa / kaiwai balbali ka  
而 だ 竹藪 了 此の 竹 は
- <sup>4</sup> naia koadā tapađaani ini / si la si ilaka  
以前一本 其の 根本 其の 而了 右 枝
- <sup>5</sup> biluŋ matokaro<sup>oro</sup>otso / si ka hōvai ka  
上に 茂 而は 藤 其
- <sup>6</sup> ŋa: ŋa: ŋa: / si matiau korodo aramoro /  
ザーザーザー 而 惟 恐ろしい 大變
- <sup>7</sup> si a tato<sup>a</sup>isiisia<sup>2</sup> / si kađoa amoamoa ŋa  
而 だ 禁忌の處 而 不 行 だ
- <sup>8</sup> ko. sotaromaki / si kađoa oafokořokoso /  
は 大南人 而 不 指
- <sup>12</sup> koadā soaso ađiađiŋ ka sia tataoŋo / si  
其の 人々 地下の社 は 有 尾 而
- <sup>13</sup> lo aniboali ta raraua / lo oa ta ka /  
時 近づく 我等 社の端 時 行 我等 は
- <sup>14</sup> oakaukau ta / si la babalai <sup>2</sup>aoa looŋa<sup>2</sup>  
出聲 我等 了 皆隠 持行 白の處に
- <sup>15</sup> ŋoađiŋ / si la kai kaino lo oa ta / si lo  
入中 而 了 非 耻しい 時 行 我等 而時
- <sup>16</sup> modani ta ka / mađadaŋo ta moa oŋolo  
入家 我等 は 直に 我等 行 飲
- <sup>17</sup> salau iđa hatsilai lini / "sika raritisani  
水瓶 あの 水 彼等の まあ 視類
- <sup>18</sup> nai" la ia mitaa / lo motsaki ta tini ka /  
我々の 了 如其 我等に 時 放尿 我等 此處では
- <sup>19</sup> hatoanau ha sinubsuba / si lo ara ta  
不思議に 成 赤玉 而 時 取 我等

3. bal-bal-bali 竹藪, balbali 竹, 3行。  
4. na-ia ia 一つ, na- 過去。  
7. <ta-to<sup>a</sup>isi-isi-an <to<sup>a</sup>isi-a<sup>2</sup> 353頁, 13行。 <pa[isi-  
an 禁忌, Paiw. pa[isi. to- 爲す, ta- 彼等の。  
12. si-a ta-taoŋo 皆尾といふ物が有る物, taoŋo 尾, si 有  
る, si-ilaka 枝が有る, 4行, a …といふ物, 人, 處, si-a  
<sup>2</sup>adapaŋa 人仔山といふ名の有る山, 351頁, 17行, si-a  
talitaliki 穀物といふものを持つ 353頁, 6行, a-moa

ける様になつてゐた。而して地下の  
蕃社へ行く時は、其處を通つたものだ。  
今日では、氣味の悪い恐ろしい石が、そ  
の穴を塞いでしまつて、跡が竹藪にな  
つてゐる。この竹は、以前はその根が  
一本で、上に枝が茂つてゐて、鈴生の様  
になつてゐた。其の他、藤も一杯生え  
てゐて、何だか氣味が悪く、大變恐ろし  
いので、大南社の人は禁忌の處として、  
決して行きもしないし、又指すことも  
しない。

その地下の蕃社の人々には、皆尾が  
有つた。それで、我々が其處へ行く時  
は、蕃社の近くへ行くと、大聲を出して  
叫ぶのだ。すると、社の人々は皆、白の  
處へ行つて、白の中へ尾を隠して、我々  
が行つても、耻しくない様にした。我々  
々は、家にはひると、直に水瓶の處へ行  
つて、彼等の水を飲んだ。すると、彼等

行つたといふことだ、行つたものだ, 353頁, 9行。  
14. ba-balai 皆が隠す。  
<looŋ-an 白の處, <looŋi 白, Mal. lusong.  
15. ~maino 耻かしい。  
17. hatsilai 水, Paiw. qatsilai 石。  
18. mo-tsaki <tsaki 大便, Paiw. tsaqei. 本社の語は普通  
q>h なれども此處に k となるは例外なり。

<sup>1</sup> ŋiŋiŋi ka mabaropolo ŋa /  
糞 は 生孔 了

- <sup>6</sup> si kaiwai lakai ka sia talitaliki aram-  
而 此等 此の人々は 持 穀物 其
- <sup>7</sup> or / si la kai si taliki matiŋali<sup>2</sup>iti ko na  
而 了 不 持 穀物 憐 は 以前
- <sup>8</sup> sotaromaki / si sa kai ana kiomau a  
大南社人 而 時 不 尙 承諾 其
- <sup>9</sup> kiboro ko soaso ađiađiŋ ka / a moa  
交易 が 人々 地中社 は 其 行
- <sup>10</sup> koadā na taroarođaŋa kiwaiwaŋ / si lo  
其の 以前の 先祖 遊 而 時
- <sup>11</sup> dawadawatsi ŋa ka oabiraŋi tsi:li /  
將出發 了 は 爲裸 見
- <sup>12</sup> amailo iloko sa na tsobotsoboani ŋa  
かもしれぬ 持行 を ても 粒 了
- <sup>13</sup> ka to<sup>a</sup>isia<sup>2</sup> amia /  
其 禁忌 さうだ
- <sup>15</sup> si "lo ia ta ikai ka aikasiŋau ta / si  
而 時 如此 我等 有 其 食物盡 我等 而
- <sup>16</sup> <sup>2</sup>atsai tsi:kila" / la ia si lo oa kiwaiwaŋ  
死 全社 了 如其 而 時 行 遊
- <sup>17</sup> ka koadā la saoala:lai ka / koadā butsiŋi  
は 其の 等 男 は 其の 粟
- <sup>18</sup> ka <sup>2</sup>aoa iđa ia lini (tsiŋaki lini) / koadā  
は 入 其の 物に 彼等の 陰堂 彼等の 其の
- <sup>19</sup> lababai ka <sup>2</sup>aoa iđa ia lini (<sup>2</sup>ati lini) iđa  
女達 は 入 其の 物に 彼等の 陰部 彼等の 其の
- <sup>20</sup> <sup>2</sup>agai / si lo kibiraŋi ka / ađawa koadā  
米を 而 時 自裸 は ても 其の

10. <ta-roa-rođaŋ-an <rođaŋ 老人。  
11. oa-biraŋi 裸にする, 原意は衣なしの肉丈にする, ki-  
biraŋi 自分で裸になる, 20行。 <biraŋi 裸, 實, IN,  
bērasa.  
15. ai-kasiŋau ~masiŋau 貧乏, ai- 未来。  
17. sa-oala-alai sa<so…に屬する者 (?), 351頁, 註18, oalai

は我々に「まあ我々の親類よ」といつた。  
我々が此處で大便をすると、不思議に  
も其が、赤い小さな圓柱形の玉になつ  
た。而して我々が其を取つて吸ふと、  
中に孔が出来た。

此等の人々は、穀物を大變深山持つ  
てゐた。昔の大南社の人は、穀物を持  
たない憐れな者であつた。彼等がま  
だ、我々と交易を承諾しない時分には、  
我々の先祖達が遊びに行つて(歸らう  
として)出掛ける時、彼等は先祖達を裸  
にして見た。それは、若しや一粒でも  
持つて行くことがあれば、彼等の禁忌  
であつたからさうだ。

「すると、或時先祖達は『我々此様にし  
てゐては、我々の食物が盡きて困るし、  
仕舞には、全社の者が死ぬかも知れな  
い』と、さういつた。それで『其次に』遊び  
に行つた時、男達は粟を自分の局部に  
入れた、女達も赤米を局部に入れた。

男, Paiw. oqalai.  
18. <pa-oa 行かせる, 持つて行く, 入れる, m-oa 行く,  
ia …の物, 所有物, ia li 我の物。  
lini <la ini <ini 彼の, la- 複數, 註19。  
19. lababai <la-ababai, la- 複數。



- <sup>1</sup> gamai koadja ɲoɲoa? ɲudoɪ tsaɲiɲa dikili  
爪 其の 鼻 口 耳 尻
- <sup>2</sup> ka oasila?i / kaɲoa oasila?i iɲa ia lini / si  
は 獲 不 獲 其の物を彼等の 而
- <sup>3</sup> koadja ʔaoa iɲa ia lini ka / ʔaoai iɲa  
其 入れた 其の物を彼等のは 持行時 あの
- <sup>4</sup> tsigiani lini / si la ʔaosaʔoro ɲa / si  
家の横に 彼等の 而 了 使繁殖 了 而
- <sup>5</sup> matidaladalami ɲa /  
成富裕 了
- <sup>7</sup> si iɲaani ana ka / lo aga ka koadja  
而 昔 は 時 炊 は 其の
- <sup>8</sup> butsiɲi / koadja kaɲoɲoa ka / soaiti ɲa  
粟 一筋で 穂の 一筋 は 成一杯 了
- <sup>9</sup> ʔaloɲo / si koadja ʔagai ka koadja tsobo-  
鍋 而 其の 米 は 其の 粒
- <sup>10</sup> tsoboa ka soaiti ɲa ʔaloɲo / si lo ikai ka  
は 成一杯 了 鍋 而 若 有 は
- <sup>11</sup> butsiɲi si ʔagai ka / sa gamotsa ka /  
粟 と 米 は 時 握(両手) は
- <sup>12</sup> aikalalikitɪ taratsaili koani / si ko soaso  
可成丁度 一年間 食 而 は 人々
- <sup>13</sup> adɲaɲiɲi ka / sa si talitaliki ɲa ko so-  
地中 其 時 有 穀物 了 が
- <sup>14</sup> taromaki ka ʔiɲiɲali ɲa ka / a kiabɲoɲo-  
大南社人 其 知 了 は 成 互に交易
- <sup>15</sup> ɲo ɲa ki sotaromaki /  
了 と 大南社人
- <sup>16</sup> si iakai ka tinatina ka siaaba si kaboi  
而 有 が 母 其 負子 而 孕
- <sup>17</sup> iɲ / si la dawatsi kibɲoɲo mosoadɲaɲiɲi /  
而 了 出掛 交易 行地中人
- <sup>18</sup> si la kakaiɲaɲaɲai ɲa / si la kilakila  
而 了 將歸 了 而 了 丁度來
- <sup>19</sup> ɲa iɲa saolataʔataɲa? lo mosoadɲaɲiɲi ta /  
了 其の 入口に 時 行地下人に 我等
- <sup>20</sup> si la kidoɲo ɲa aramor si la daaɲ / si  
而 了 苦 了 其 而 了 呻 而

而して裸になつた時(人々は)爪でも、鼻でも、口でも、耳でも、尻でも、皆獲したが、局部だけは獲さなかつた。それで、その局部に入れた物は持つて歸つて、彼等の家の横に蒔いて、繁殖させたから、不自由することがなかつた。

昔は穀物を炊く時は、粟ならば穂の中の一筋で、鍋に一杯になつた。米ならば一粒で、鍋に一杯になつた。若し粟と米が両手で掬ふだけあれば、丁度一年間の食物になつた。地下の蕃社の人々は、大南社の人々が穀物を持つてゐることを知つたので、大南社の人と交易を許すやうになつた。

或時、妊娠して子を負つてゐる母が有つて、地下の人の處へ交易に出掛けた。歸らうとして外に出た。而して、我々が地下に通ふ穴の入口の處へ來かけた時に、大變苦しくなつて呻つた。

- 1. <ɲoɲoan
- 4. <pa-osaʔoro ~mosaʔoro 繁殖する。
- 7. iɲa-ani ana まだあの時、iɲa あの、ana 尙。
- 8. so-a-iti ɲa 一杯になつたさうだ、soiti 一杯、355頁、16行。
- 12. ai-kalalikitɪ ~malalikitɪ 蓋など丁度はまる、ai-未來。

- tara-tsaili <tsaili 年、Paiw. tsavil, IN. tauin. tara-…を經る、…の間。
- 16. si-a-aba 負つてゐる子の有る者。
- kaboi iɲ ~maboi 孕む、355頁、6行。iɲ 句調を整へる爲に用ゐる。
- 18. ka-kaiɲaɲaɲai ~kajani 歸つて來る。

- <sup>1</sup> ara ʔatoanau motiɲaɲinigi / si la ikai ɲa  
忽ち 不思議 成石 而 了 此 了
- <sup>2</sup> tsi:li?i iɲa takaboɲota / si la kai ɲa  
塞 其の 入口を 而 了 不 了
- <sup>3</sup> ʔikakoakoa mosoadɲaɲiɲi ko sotaromaki /  
爲如何 行地中人 は 大南人
- <sup>4</sup> si kaiasaani ɲa ka koadja ɲinigi ka taka-  
而 今日 了 は 其の 石 は
- <sup>5</sup> maimaia sa omasi siaaba / sa misa rolai /  
似 に 人 負子者 而 様 子供
- <sup>6</sup> si misa maboi kaaɲau / koadja tali adɲiɲa?  
而 様 孕 大さ 其の 側 中の處
- <sup>7</sup> misa baray sa omasi /  
様 腹 の 人の
- <sup>9</sup> aito:ma: sa taotsilitsili?i kaiwai ɲinigi  
可爲何 時 丁度塞 其の 石
- <sup>10</sup> ka / sia talitaliki ana ko na sotaromaki /  
其 有 穀物 尙 は 昔の 大南人
- <sup>11</sup> si iakai ka nalaʔatsiɲirau / si la kaɲasaki  
而 有 が 昔アツグラウ家人等 而 了 じつたがら
- <sup>12</sup> ɲa iɲa taliki lini sa kakaɲa aramor / si  
了 其の 穀物を 彼等のを 多 其 而
- <sup>13</sup> la ia ikai / ʔa ʔaoa oaaga alawalawa  
了 如 此 我等 持行 炊 試
- <sup>14</sup> ikai tsobotsoboana / olasi mikakoa? / la  
此の 粟穂一本 だらう 成如何 了
- <sup>15</sup> ia si aga / si ara ʔatoanau mosimaki  
如其 而 炊 而 突然 不思議に 殖
- <sup>16</sup> soiti da:ni / si koadja la omasi ka  
一杯 家 而 其の 等 人 は
- <sup>17</sup> oaʔatsai / koadja do:ma si koadja oadɲiɲi  
死 其の 他の者 而 其の 生存者
- <sup>18</sup> ka motiatatoaboɲo / si la amai ɲa kai  
は 成猿 而 了 其物 だ 此の
- <sup>19</sup> toaboɲo kaiasaa? / si koadja nada:ni lini  
猿は 今日 而 其の 以前の家 彼等の
- <sup>20</sup> ka naiakai ana / sa kaiasaani ɲa ka  
は 以前有 尙 而 今日 了 は
- <sup>21</sup> kaɲoa a ʔipalani ɲa /  
不 さうだ 判明 了

すると(女は)不思議にも、忽ち石になつて、入口を塞いでしまつた。それから大南社の人々は、地下の人々の處へ行くことが出来なくなつた。其の石は今日もあつて、丁度子を負つてゐる人に似てゐる。其の形は子供の様な處、大きく孕んでゐる様な處があり、その中の處の横側は人の腹の様だ。

その石が、穴を塞いだばかりの時は、如何もなかつた。當時の大南社の人々は、まだ穀物を澤山持つてゐた。ところが或時、アツグラウ家の人が、穀物が大變多いのに、[一粒づゝ炊くの]を]じれつたがつて、我々試みに、此の粟の穂を一本持つて行つて炊いたら、如何なるだらう!といつて、炊いた。すると、粟が不思議にも突然に殖えて、家一杯になつたので、その人々は皆死んでしまつた。而して、其他の生残つた者は猿に成つた。今日現在ゐる猿は其だ。彼等の以前の家は、其後も尙有つたさう

- 1. mo-ti-ɲa-ɲinigi <ɲinigi 石、mo-ti- 成る、moti-a-ta-toaboɲo 猿といふ物になつた、猿になつたさうだ、18行。
- 3. ʔikakoa-koa <pikakoa 如何する ~mikakoa 如何なる、14行。

- 9. ai-to:ma: 何を爲すであらう、何でもなかつた、ma: <mani 何、to- 爲す、ai- 未來。
- 11. ka-ɲasaki ~ma-ɲasaki 體がむづむづするなど。
- 12. ka-kaɲa ~ma-kaɲa 多い。
- 17. <oa-odɲi Atay. ma-olip.

- <sup>3</sup> iða tatsili'ia? iða [ini]ni / ?adapasa ka  
あの 寒時 あの 石の 人仔山 は
- <sup>4</sup> kaðoa hanoa'a? [a'a]a pa ka sotaromaki /  
不 通行 了 は 大南人
- <sup>5</sup> si iða diiθi ini ka kaðoa ta oaθubuθu-  
而 其の 附近 其の は 不 我等は 吹
- <sup>6</sup> butsu / kaðoa ta oasinasinai / si "sama]a  
笛 不 我等は 話 而 若
- <sup>7</sup> nai ikai ka moaa]a iða [ini]ni / nai  
だらう 有 が 取除人 其の 石を だらう
- <sup>8</sup> oaθan ana ta? / amia ko sotaramaki /  
行つてゐる 尙 我等は さういふは 大南人

3. [a'aka]oko  
ラアカロコ

- <sup>12</sup> iakai ka sia [a'aka]oko ka la taliala-  
有 が さいふもの ラアカロコ 其等 頭目
- <sup>13</sup> lai / si la si tao'op sa sia [apop] ka  
家の人 而 了 有 犬 なといふの ラボン 其
- <sup>14</sup> ?uli?uli / koadā tao'op la misa omasi  
白い 其の 犬は 了 様 人の
- <sup>15</sup> ka]igili kidimdim / si la kaθarai aramor  
上手 考 而 了 愛 甚
- <sup>16</sup> koadā oatsikitsikili / si koadā kanikani  
其の 家族の人が 而 其の 食物
- <sup>17</sup> lini ka oabaai oa'akani / kaiwai tao'op  
彼等の 其 興 使食 此の 犬
- <sup>18</sup> ka / sa nakaoriwa ta ka / a toa'a'a]a  
は 時 話した 我等は さういふ 共通する
- <sup>19</sup> rii]pi / si kaðoa nakaaθoa:]i /  
皆 而 無 誤つたこと
- <sup>21</sup> si koadā natsikili ki sotaromaki la  
而 其の 以前の社は の 大南社人 だつた

3. <ta-tsili'i-an 寒いた時, ta-o-tsili-tsili'i 丁度寒いだ  
ばかり, 355頁, 9行. tsili'i 寒む, 355頁, 2行.

14. &lt;puli-puli Paiw. ma-puliq, Mal. putih.

だが、今日ではもう分らなくなつてしまつたさうだ。

石が穴を塞いでから、大南社の人を決して人仔山を通らない。而してその附近では、我々は笛も吹かない、又話ひもしない。「若し誰か、その石を取除いてくれる人が有つたら、我々は其處へ行つてゐるのに」と、大南社の人はずういつてゐる。

## 3. ラアカロコ

[或時]ラアカロコといふ頭目の一家があつて、ラボンといふ白犬を飼つてゐた。その犬は人の様に、考へることがうまかつたので、一家中の人々は犬變可愛がつてゐた。而して彼等は自分の食べる物を與へて食はせた。此の犬は、我々が話をした時は、其を聞分けて、皆共通りにして、間違つたことはなかつたさうだ。

大南社人の以前の蕃社は大變悪い。

15. kidimdim Paiw. kinimaim.

16. oa-tsiki-tsikili 家族を成してゐる者, na-tsikili 以前の社, 21行. tsikili 蕃社, Paiw. ta-tsikil-an 一家族.

17. &lt;oa-pa-kani 食はせる, kani-kani 食物, 16行.

- <sup>1</sup> siko]isi aramor / si la makaoriwariwa /  
惡處 甚 而 了 相談
- <sup>2</sup> "ta ?atalu:la ?aoa kaoai tsikili" / la ia si  
我等 移す 持行 彼處 社 了 如其 而
- <sup>3</sup> la ?atalu:la makanaulu / si koadā la  
了 移 全部 而 其 等は
- <sup>4</sup> taliala:]ai la toθariri aramor iða da:]ni  
頭目家の人 了 遣立派 其 其の 家を
- <sup>5</sup> lini /  
彼等の
- <sup>6</sup> si koadā tao'op lini ko [apop] ka haso-  
而 其の 犬 彼等の は ラボン 其 殘
- <sup>7</sup> ro ikai iða natsikili to:]bitobi / si lo  
居 其の 以前の社に 泣いてゐる 而 時
- <sup>8</sup> oama]a koadā oatsikitsikili / la sio:]ii  
行捕 其の 家族の人は 了 戻
- <sup>9</sup> θoada]ani / a]awa lo a]a hakiri]p sa  
常に同 ても 時 捕 縛 で
- <sup>10</sup> maboto]o sa tsa:]isi ka a ma]a loahiti /  
太いの で 繩 其の 取 咬切
- <sup>11</sup> si dawatsi moa iða na]a:]ni lini θoada]o-  
而 出 行 あの 以前家 彼等の 吠え
- <sup>12</sup> po]o]oro / si lo oama]a ka oako]oko]o  
である 而 時 行捕 は 掘つてゐる
- <sup>13</sup> daidai / si misa ka oariwariwa / si la  
土を 而 様 其 話してゐる 而 了
- <sup>14</sup> kai θipal koadā laomas / si "akiakiaki]au  
不 分 其の 人等は 而 成狂
- <sup>15</sup> pa" / la ia si itsi]ibi pa ?a]ai]pi koadā  
了 了 如其 而 黙 了 放置 其の
- <sup>16</sup> oatsikitsikili / si ko [apop] ka la kai  
家族は 而 は ラボン 其 了 不
- <sup>17</sup> kanikani sa binaa]a? sa haga / a]awa lo  
一つも食 を 所與物 を 飯 ても 時
- <sup>18</sup> oa:]wa:]wapa] / si baai sa moa]ia]i]pai sa  
慰 而 興 を 旨い物 を
- <sup>19</sup> akania? ka / kaðoa kiaomau si to:]bii  
食物 其 不 肯 而 泣
- <sup>20</sup> θoada]ani / si mia pa tara d]amar hara  
一途に 而 丁度 了 經 月 忽
- <sup>21</sup> ?atsai / si la mokolo]o koadā oatsikitsikil  
死 而 了 恐 其の 家族は
- <sup>22</sup> moa θoal]iki si ?a]ai]pi pa / si a]awa sa  
行 埋 而 放置 了 而 ても 時

處であつた。それで皆が相談して、我々は蕃社を、彼方へ持つて行つて移さう」といつて、全部そこに移した。而して、其の頭目一家は、彼等の家を立派に作つた。

ところが、彼等の犬のラボンは、以前の社に残つて泣いてゐた。それで、家族の者が其を連れに行くと、「一旦は来るが、いつも同じく、元の處へ歸つて行つた。捕へて、太い繩で縛つておいても、咬切つて、以前の家へ出て行つて、吠えてゐた。又捕へに行くと、土を掘つて、なにか話をしてゐる様子だ。ところが、家族の人々は[その意味が]分らないので、「大方狂氣になつたのだらう」といつて、黙つてはうつておいた。するとラボンは、與へた飯を一つも食はない。なだめて旨い食物を與へても、背かないで、いつも同じく泣いてゐた。而して、丁度一ヶ月になると、急に死んでしまつた。家族達は、恐れて埋に行つて、はうつておいた。犬は死んでも、

1. siko]isi 工合が悪い、居にくい, ma]isi 悪い。  
4. to-θariri <θariri 美しい, 立派, to- 遣る, する。  
17. <b-in-aaθ-an 與へた物, 客體主, <baai 興へる。

20. tara d]amar 一月を經る, d]amar 月, Mal. damar 樹膠, tara tsaili 一年を經る, 358頁, 6行。

- <sup>1</sup> ?atsai na ka / oadaoꝑoꝑoꝑo 0oada[ani  
死 了 其 吠えてゐる 一途に
- <sup>2</sup> koadā ia ini ka habaki / si la koni si  
其の 物 彼の 其 魂 而 了 其 故 有
- <sup>3</sup> dā[onaꝑoꝑoꝑo kaoui dā[onaꝑoꝑoꝑo /  
ダロガゴドンの名 あの ダロガゴドンが
- <sup>4</sup> si la kai ana maka tara tsaili / koadā  
而 了 不 尙 後 經一年 其の
- <sup>5</sup> tatotsikila? ki na sotaromaki la kabuni  
作つた 蕃社 の 以前 大南社人 了 傳染
- <sup>6</sup> sa. goragoro / si hara katsaim koadā  
な 抱瘡 而 忽 病 其の
- <sup>7</sup> talialalai lini / si kai ana kaolai hara  
頭目は 彼等の 而 不 尙 久 急
- <sup>8</sup> ?atsai / si la tobi tsikila iḡa ka0aa ka  
死 而 了 泣 全社 其の 只一人 共
- <sup>9</sup> talialalai lini / si kiaka0aarai aramoro  
頭目 彼等の 而 彼等の 愛者 甚
- <sup>10</sup> koadā lakaokaol misa ta:ma lini / misa  
其の 蕃丁達の 如 父の 彼等の 如
- <sup>11</sup> tiina lini / si la matidaladalam aramoro /  
母の 彼等の 而 了 幸福 甚
- <sup>12</sup> si la koni to:bi tsikila / si koadā oato:bii  
而 了 其 故 泣 全社 而 其の 泣者
- <sup>13</sup> ka oa?atsai makanaori / si koadā kaḡoa  
は 死 全部 而 其の 不
- <sup>14</sup> oatobi ka oa?oḡi?i si ta:bikilai na / si  
泣 は 生 而 少 了 而
- <sup>15</sup> hai?ikakoa dḡoaḡik iḡa / misa dḡina?ola? oa-  
可如何 埋 其な 如 所 流 魚 藤
- <sup>16</sup> ?atsai ka ka:pi / si koadā oa?oḡi?i ka  
死 は 魚 而 其の 生存者 は
- <sup>17</sup> ?atalu:la na totsikili / si la koni tabikili  
移住 了 作社 而 了 其 故 少
- <sup>18</sup> na kai sotaromaki /  
了 此の 大南社人は

2. 14. <ko ni- アミ語の ko ni-ka- の借用語法ならん、  
ko は…は、の意にて大南社。アミ語共通の冠詞、ni-は  
アミ語過去の接頭辭にて、大南社にはなし、原意、…  
したのは(其れ)といふ意にて、其故と譯す。

其の魂はいつも同じく吠えてゐた。  
あのダロガゴドンの地をダロガゴド  
ンと呼ぶのは、その故である(吠える意  
味のダドゴドゴロが訛つて、その地名  
と成つたのだ)。  
すると、其後一年経たない内に、前の  
大南社人で作つた新蕃社に、抱瘡が傳  
染して來た。而して、彼等の頭目は忽  
ち病に罹つて、間もなく急に死んでし  
まつた。それで全社の者が頭目一人  
の爲に泣いた。蕃丁達は、親身の父母  
の様に、彼に可愛がられてゐたので、甚  
だ幸福であつた。全社の者が泣いた  
のは、其の爲であつた。而して、その泣  
いた者は、皆死んでしまつた。泣かな  
かつた者は生残つたが(その数は)少な  
かつた。[死んだ者は非常に多くて]、丁  
度魚が魚藤を流されて死んだ時の様  
で、其を如何して埋めたらよいか[埋め  
方に困つた]。生残つた者は移住して  
社を作つた。今日大南社の人の少い  
のは其の爲である。

16. ta:bikil-ai na -ai 其人を指しアミ語に多く用ゐらる、  
アミ語法化(?)、tabikili 少い、19行。  
17. <d-in-a?ol-an 魚藤を流した處、過去、位置主、魚、oa-  
dḡa?ol 魚藤を流して魚を取る、主體主。

2. タラマカウ社  
(ta[amakaui])

- 1. ta[asu]udu si takoapi|i  
蝦 と 蝦蟇
- <sup>4</sup> kotakota si masasaḡal walopo mudade-  
コタコタ と マササガル 狩 行ダテ
- <sup>5</sup> [i / la lo:ko ku taopuḡu lini / lo: katoasi  
ル 了 掘 が 大 彼等の ても 歸
- <sup>6</sup> ilo: ko taopuḡu lini la siu:|i / si lo:ko si  
作 は 大 彼等の 了 戻 而 掘 而
- <sup>7</sup> apotsi / "olasi anikaikai tuḡsikil alao  
蝦 だらう 此處 作蕃社 と
- <sup>8</sup> amia mita:ni? / la kirimu tuḡsikil dade-  
さういふ 我等に 了 急ぐ 作蕃社 ダテ
- <sup>9</sup> [i /  
ル
- <sup>11</sup> "iḡo:mani ita na la:la / ata: tḡu|uḡu ki  
可爲何 我等よ 友等 我等 突刺 に
- <sup>12</sup> [inigi? / la pasabitsu|aki ko agiagi / la  
石 了 半分刺 は 弟 了
- <sup>13</sup> palilipi ko takata:ka / si iḡo:mana ita na  
皆刺 は 兄 而 可爲何 我等よ
- <sup>14</sup> la:la / ata a pa:ka|obo| ki ta[asu]udu si  
友等 我等よ 使争闘 な 蝦 と
- <sup>15</sup> takoapi|i? / la pa:ka|obo| / "la boala" amia  
蝦蟇 了 使争闘 さあ 來い といふ
- <sup>16</sup> ko takoapi|i "mo:boran? / la poarama ko  
は 蝦蟇 行野原 了 點火 は
- <sup>17</sup> takoapi|i / la patsai ko ta[asu]udu si  
蝦蟇 了 死 は 蝦 而
- <sup>18</sup> kaḡi|i:i / la pi:la maka|obo| / "la boala  
成赤 了 再 互争闘 さあ 來い
- <sup>19</sup> moakai ka:dabani? / la kila ko takoapi|i /  
來此處 川 了 來 は 蝦蟇

1. 蝦と蝦蟇  
コタコタとマササガルがダテル[の  
地]へ狩に行つた。彼等の犬が[土を]掘  
つた。彼等の犬は連れて歸つても亦  
戻つて[土を]掘つて寝た。「若しや我々  
に、此處へ蕃社を作れといふのかも知  
れない[と思つて]、其で急いで[其處へ]ダ  
テル社を作つた。  
「友達よ、我々は如何しよう[用事がな  
い]、我々は[蕃刀を]石に突刺して見よう。  
さういつて、弟は半分突刺した。兄は  
全部突刺した。又[友達よ、我々は如何  
しよう[用事がない]、我々は蝦と蝦蟇と  
を喧嘩させよう!。さういつて喧嘩さ  
せた。蝦蟇がさあ來い、野原へ行かう]  
といつて[蝦を野原へ連れて行つて]、火  
を附けた。すると、蝦は赤くなつて死

採録期：昭和七年七月高峯州野原郡タラマカウ社にて調査。  
口授者：ideis, tsamaki, amar.  
説明者：kaḡudasan taogado 及び palipulipu kaḡaḡilao.  
補助者：逕査部長坂野泉平。  
5. taopuḡu 大南、tao?oḡ.  
7. tuḡsikil <tuḡsikil 蕃社、tu 作る、大南、to-tsikil.  
11. i-ḡo:mani <ai-ḡo manin <manimani 何、ḡo- 爲す、  
作る、ai- 未來、大南、ai-to:ma: 355頁、註9。

na- …さんよ。  
12. agi-agi Mal. adik 弟、IN. arni (?).  
14. pa:ka|obo| ~ma-ka|obo| 争闘する、18行、a- 未來。  
15. boala- 來い、boala 近づく、-a 命令。  
16. <moa-uburaḡ <uburaḡ 野原、moa 行く。  
18. ka-ḡi|i:i ~maḡi|i:i 赤くなる。  
19. <moa-ikai <ikai 此處、moa 來る。

1 la pa[iau to atsilai ko ta[asu]udu / la  
了 流 を 水 は 蝦 了  
2 moaloro ko takoapi[i] /  
流れる は 蝦

んでしまった。其後又蝦と蝦とが  
喧嘩した。[今度は蝦が]さあ来い、此處  
の川へ来い)といった。蝦が来ると、  
蝦は(蝦止めた)水を流したので、蝦は  
流れてしまった。

2. nai ba[ipi  
故人 バルグ

8 la tolalaki ko bu[ra to nai ba[ipi] / la  
了 生子 は ブーラ を 故人 バルグ 了  
9 moa ki aili:lipani / si "lo alup nomi mo  
行 に 神處 面若 野 汝等 行  
10 da[upari] / kania ko matsulu ko aga /  
ダルバリン池 食へ は 熱い は 飯  
11 ala kanikani ko ma[nap]i[tsi ko aga /  
物 食 は 冷い は 飯  
12 aga ki aili:ligani / ko nai ba[ipi toala-  
飯 の 神處 は 故人 バルグ 生子  
13 laki to su[ao to a]i[si] /  
を 蛇 を 鷺

2. 故人バルグ

ブーラは(女)の子を生んだ。[其は今  
は]故人になつたバルグだ。[此の]バル  
グは神の處)に行つて神と結婚した。  
[バルグは人に]お前達は狩して[奥山の]  
ダルバリンの池に行つた時は、熱い飯  
を食へ、決して冷い飯を食ふな。[冷い  
飯は]神の飯だ)といった。故人バルグ  
は蛇と鷺の子を生んだ。

3. pati  
女陰

18 ko na[doma toa pati pakai: ki po:no /  
は 昔の人 を 女陰 附 に 額  
19 lo siu[ai la mo ki lipau / la patalu:la poa  
時 月経 了 當 に 額 了 移 やる  
20 ki tikoto / lo kipoa kai tipali / "ma[isi]"  
へ 額後 時 交接 不 知 意

3. 女陰

昔は女陰を額に付けてゐた。月経  
の時、額に當るので、額後へ移した。交  
接の時に分らなかつた、[此はいけない]

2. mo-aloro 物が流れる。Paiw. ma-qaluj Mal. hañut.

7. na-i- na 以前、昔、過去を示す、i 人名詞の冠詞 (?)

9. alup Paiw. qalup.

10. matsulu Paiw. matsulu.

13. a]i[si Paiw. qal]is 意。

18. na-doma <doma 或者、或人、na- 以前、過去。

toa 本社は普通 to を用ゐる。Paiw. to-a を異例たるものならん。

pa-kai ~ikai 此處、pa- 他動。

19. p-oa 行かせる、やる、m-oa 行く。

1 la: ia / la patalu:la poa ki pak[i] / lo  
了 如其 了 移 やる へ 蹠 時  
2 pada[ani la mo ko obolo ko dai / "ma:  
行遣 了 當 は 草 は 土 意  
3 [isi] / la: ia la patalu:la poa ki patsulu /  
了 如其 了 移 やる へ 蹠  
4 la ki[akado ki obolo / "ma:[isi] / la: ia  
了 被刺 に 草 意 了 如其  
5 la patalu:la poa ki kono:lo / la to walisi /  
了 移 やる へ 股間 了 生 齒  
6 lo: sasa[ujan la patsai ko sa[uju ini / la  
時 結婚 了 死 は 夫 彼の 了  
7 paopolo ko bawa / la moa]a ko walisi  
使飲 は 酒 了 取去 は 齒  
8 ki pati / a la ikai ko omaomasi taka]a /  
の 女陰 了 有 が 人間 多

といつて、蹠へ移した。道を歩く時に、  
草や土が當つた、[此はいけない]といつ  
て蹠へ移した。[歩く時]草に刺され  
た、[此はいけない]といつて、股間へ移し  
た。すると齒が生えた。結婚すると  
夫が死んでしまった。それで酒を飲  
ませて、女陰から齒を取つた。其から  
人間が澤山になつたさうだ。

4. [ikulao si tsumai  
豹 と 熊

11 "itomatoma:ni ita na lala / ta mapapa-  
可爲何 我等はよ 兄弟 我等 互に  
12 tsapat[asi] la: ia / la "patsasa ili" la: ia  
畫 了 如其 すると 畫け 我を 了 如其  
13 ko [ikulao / "totarira ili" la: ia ko  
は 豹 上等にせよ 我を 了 如其 は  
14 [ikulao / la patsasi ko tsumai / smai ka  
豹 畫 は 熊 了 其  
15 patsasi ko tsumai / "patsasa pa ili" la:  
畫 は 熊 畫け よ 我を 了  
16 ia ko tsumai / la patsasi ko [ikulao a  
如其 は 熊 了 畫 は 豹 さうだ  
17 paitsub ki taba[apa:ni / "alalipia kokai"  
兩方する に 肩 宜いか 此  
18 la: ia ko [ikulao / "ono modipai" la: ia  
了 如其 は 豹 然 上等 了 如其  
19 ko tsumai / la kamoi ko kilao / la bo[os  
は 熊 了 含む は 墨 了 吹掛  
20 ki tsumai / ara ni ka itsu[itsilipi ko  
に 熊 忽 了 其 眞黒 は

4. 豹と熊

[兄弟よ、我々如何しよう[用事がない]、  
我々お互に體に畫かう]と[豹と熊とが  
話し合つた]。すると豹は[私に畫いて  
くれ、しかも上等にせよ]といつた。そ  
こで熊が畫いた。畫いて済むと、熊は  
[今度は私に畫け]といつた。すると、豹  
は肩の兩方に畫いて、[此様なので宜し  
いか]といつた。熊は[宜しい、上等だ]と  
いつた。豹は墨を口に含んで、熊に吹  
かけると、熊は眞黒なつた。熊は[怒

6. sa-sa[uj-an 度々夫を迎へる、sa[uju 夫、配偶、6行。

7. pa-opolo ~wa-opolo 飲む、pa- 使役。

11. ma-pa-patsa-patsasi 互に横棒を畫く、patsasi 畫く、  
14行、patsas-a 畫け、12行、patsas-a-pa 畫けよ、15頁、  
Atay. patas.

13. to-tarir-a 立派にせよ、大市 0ariri 立派な、美しい。

17. paitsub 兩方共…する、maitsub 兩方。

20. ni ka… …になつた、過去、アミ語の ni-ka…の慣用語  
法ならん、354頁、註2。  
itsu[i-tsilipi ~ma-itsu[i]ipi 黒い。

- <sup>1</sup> tsumai / "aso pia nakoan" la: ia / la  
熊 何故 爲如其 我な 了 如其 了
- <sup>2</sup> masasa[ada / "iduŋi[a / alopana:ko kisopi-  
互争闘 待て 我狩 分配
- <sup>3</sup> ra: ŋa" la: ia ko [ikulao / si la maodŋai /  
誤よ 了如其は 豹 而了 互仲好

つて]何故私を其様にするか]といつて、  
將に喧嘩にならうとした時に、豹が待  
て、私が狩した時は、獲物を分配するか  
ら]といつたので、二人は仲好になった。

5. tabili si la mali  
タブルと等女友

- <sup>7</sup> "omo: ka tabili omo: / saku manimani  
老人よ 其 タブル 老人よ 將交換 何
- <sup>8</sup> kai bi:ki ŋo" / "sakia la: baibai" / "nai  
此の 豚は 汝の 將交換 等 女 我等は
- <sup>9</sup> moa musoan / nai tsolo kai bi:ki ŋo" /  
行 汝に 我等は 屠 此の 豚を 汝の
- <sup>10</sup> "ono" /  
宜しい

## 5. タブルと女の友達等

[女の友達は タブル 老人に]お爺さん、  
タブルお爺さん、お前の此の豚は何と  
交換するのか]といふと、老人は]妻に  
なつてくれる人があれば、その女達と  
交換しよう]といつた。女達は欺いて]  
[我々はお前と結婚するから、お前の此  
の豚を屠らう]併しお前は奥へ行つて  
居れ、屠つてすんだら知らせる]といふ  
と、老人は]はい、宜しい]といつた。

- <sup>16</sup> la tsolo / la si[anil ko botolo / la mo  
了 屠 了 入器 は 肉 了 行
- <sup>17</sup> lataŋi / la katoasi ko la mali / la ŋoro  
外に 了 逃 は 等 女友 了 殘置
- <sup>18</sup> ko datso: / "lo: kaoriva musoan / 'o:  
は 風 若 話 汝に オ-
- <sup>19</sup> iaa" / la ta[oba[li ki ka:dabani / la  
といへ 了 涉 な 川 了
- <sup>20</sup> olataŋi ko tabili / la d[i:li ki la mali / la  
出外 は タブル 了 見 な 等 女友 了
- <sup>21</sup> iba[ia[li anani ŋa / la katoasi ko tabili  
涉 已 了 了 走 は タブル

[女達は老人を欺いて豚を]屠ると、肉  
を器に入れて、[こつそりと]外へ出て逃  
げた。[その時、一匹の]風を残しておい  
て、[風に向つて]若し[老人が我々の名を  
呼んで]お前に話しかけたら、オーとい  
へ]といつた。而して川を涉つて[向う

1. p-ia 其の様にする, ia 其の様に。  
2. ma-sa-sajada 互に追掛ける, sa[ada 追掛ける。  
<alop ana ako <alop 狩する, ana 一才, ako 我。  
3. ma-odŋai 互に好い, 仲が好い, modŋai 好い, 上等な。  
361頁, 18行。

19. ia-a <ia 其の様に, -a 命令, 主體主。  
ta[o-a-ba[li 涉つたさうだ, ta[o-ba[li 涉る, 363頁, 2行  
i-ba[i-a[li 自分で涉る (?), 21行。  
20. d[i:li 大南, tsi:li.

- <sup>1</sup> sa[ada / la ti[o:ro ko la mali ki ka:  
追 了 放尿 は 等 女友 に
- <sup>2</sup> dabani / "nao ta[oba[li" / lo: ia ko tabili /  
川 我は 涉 ても 如其は タブル
- <sup>3</sup> kai maka ta[oba[li / la tubi:bi: ŋa ko  
不 能 涉 了 泣いてゐる 了 は
- <sup>4</sup> tabili / la oa[aka[akai ko la mali si  
タブル 了 笑つてゐる は 等 女友 而
- <sup>5</sup> katoasi /  
逃

へ逃げた。タブルは奥で待つてゐた  
が、知らせがないので、女達の名を呼ぶ  
と、風がオーと答へた。返事が怪しい  
ので、来て見ると女達は居ない。タブ  
ルが外へ出て見ると、女達はもう川を  
涉つてゐた。タブルが走つて追掛て  
行くと、女達は川へ小便した。[すると、  
川の水が熱湯の様になつたので]タブ  
ルは涉らうと思つたが、涉ることが出  
來なかつた。タブルが其處で泣いて  
ゐると、女達は笑ひながら逃去つてし  
まつた。

1. ti-[o:ro <[oro 小便, ti- [小便な] 出す。  
4. oa-[aka-[akai ~moa-[akai 笑ふ。

## B. 下三社語語法概説

## I. 分 布

高雄州屏東郡下のマガ社[マガ tordukana, トナ turdukanu], トナ社[トナ, マガ ko-padava:nu]及びマンタウラン社[トナ puno:go]の三社を下三社蕃と稱す,[人口 801. 昭和五年調], 言語上より見れば, マガ社とトナ社は近似し, マンタウラン社は前二社より, 可なり大なる差異を示す。而して臺東廳下の大南社語と, 高雄州屏東郡のルカイ本族と共に, 下三社語はルカイ語に屬す。下三社語相互の音韻關係は下説の如し。

マガートナ	マンタウラン
s	ʔ
d	ð
b	v
v	[1. 消失 2. v
θ	s
g	x/h
p	p

マンタウラン方言の調査不定なりしたため語法には該方言の記述を省略せり。

略語: マンはマンタウラン方言。

註1. マンタウラン語の變化大なれば系統分類上マンタウラン語にはマガートナ語より可なり離れたる地位を與へざるべからず。

## II. 音 韻

1. 母音, マガ [i], [e], [ɛ], [æ], [a], [o], [u], [ɯ], [ə].  
トナ [i], [e], [a], [o], [u], [ɯ].  
マン [i], [e], [a], [o], [u], [ɯ].

- [i] 三方言共に基本母音第一號より稍廣く二重母音 ai の [i] は [e] に近し。  
[i] と [e] の變換することあり。
- [ɛ], [æ] マガ方言は終母音 [e] を [ɛ], [æ] に變ずることあり。kne > kne / knæ  
此處、

- [o] マガ, トナ oa の二重母音に於て, [o] は狭く [ɯ] 音に近づく。[o] と [u] の變換することあり。
- [u] 三方言共に中間音 [ɯ] を有す。
- 子音, マガ, 兩唇音 [p], [b], [w], [m]; 唇齒音 [v]; 齒音 [θ]; 齒齦音 [t], [d], [s], [ʃ], [n], [r], [ʒ], [l]; 齒齦硬口蓋音 [dʒ], [ʃ]; 硬口蓋音 [j]; 軟口蓋音 [k], [g], [x], [ŋ]; トナ方言は其外に聲門音 [h], 及び [ʔ] を有す。マンタウラン方言はマガ方言に比し, 兩唇音 [b], 齒音 [θ], 齒齦音 [d], 軟口蓋音 [g] を缺き, 齒音 [ð], 聲門音 [ʔ] 及び [h] を有す。
  - [s] 及び [ʃ] は同類音なり。
  - [dʒ], [ʃ] は反轉音なり。
  - [x] マガ方言に於て [k] 音は摩擦音化することあり。

例 eke kne > eke xne. マンタウラン方言に於て [x] は [h] と同類音なり。

- [l] マンタウラン方言に於ては摩擦強く [ʒ] の響を伴ふことあり。三方言共に [r], [l], [ʃ] の三者を區別す。
- [ʔ] トナ, マンタウランには聲門破裂音 [ʔ] 多し。母音を [ʔ] を以て二音化する形式はトナ, マンタウラン方言の特色にして, マガ方言に對比すべし。  
例, マガ magotsu, トナ magaʔaotsu, マン mahaʔaotso 怒る。

## 3. 下三社蕃音韻法則の例證。

- s >ʔ マガ sura, トナ so:raʔa > マン ʔu|aʔa 蛇。  
マガ isipi, トナ hasepe > マン ʔi:pi 肩。
- d >ð マガ dumaru, トナ dama|u > マン ðamaru 月。  
マガ lidamu, ridamu > マン iðamu 舌。
- b >v マガ tibu:pa, トナ tabulu:panu > マン tuvulu:pa 天。  
トナ btolu > マン votolo 肉。
- θ >ʃ マガ θuθu, トナ θoθo > マン ʃoʃo 乳。  
マガ θerobu, トナ θe|aũbo > マン ʃiraovo 踊。
- g >h マガ origo, トナ oa|igo > マン o|ihoʔo 知る。  
マガ magotsu, トナ magoʔaotsu > マン mahaʔaotso 怒る。
- vʔ >v マガ, トナ ikivi > マン ʔiko 尾。  
マガ vlo, トナ valo > マン >halo (h は“わたり”) 蜜蜂。
- vʔ >v マガ bva, トナ bavaʔ > マン vavaʔa 酒。  
マガ varo, トナ va|o > マン va|o 八。

4. 弱音化, マガ方言に於ては,揚音なき母音は弱音化する。トナ baka>マガ bka, トナ kaloka>マガ k(ə)loka.
5. 揚音, マガ,トナ方言は二音節語の終音節に,多音節語の最後より第二の音節に高低の揚音を置くこと多し。  
二音節,マガ dedá, avé, aó (但し kúku, mite), トナ punó, matsá.  
多音節,マガ mamódo, tsubákú, トナ hajima, kalóko, マンタウラン方言は,第一音節に強弱の揚音あり,而して終音に高低の揚音来る。  
vao<sup>2</sup>azu ●●● (大點は強き氣息,終音節の高きの比約三度)。
6. 揚音の位置變化に依り,意義の變化を來すことあり。

例,トナ {tatá:va 亡き父                    | bibí:ja 亡き母  
          | tatavá 生存せる父               | bibijá 生存せる母

## III. 形 態

1. 反覆, マガ, sulatu 字>su-sulatu 紙, sul-sulta 筆,書く場所, usu-sulate 學生。 okoko 呼ぶ>oko-koko 數回呼ぶ。 トナ buku<sup>2</sup>u 豚>bu-buku<sup>2</sup>u, 豚の總稱。 valaku 子>vala-valaku 小供達, ava-vala-valaku 少年時代。
2. 接頭辭, ma-, moa-/mu-, mui-, oa-, u-, ni-, pa-, po-, pi-, pka-, ka-, ko-, ki-/kia-, te-/tia-, a-, api-, ipi-, matsi-, matia-, maka-, ta-, sia-/se-, sa-, i-, lao-, i-/ai-, ana-, sika-, 等。  
例: 1. マガ ma-dovadovatsu 歩く(人)>odovatsu 歩く, トナ ma-[abitsi 切れる(形)。 2. マガ moa-kido 向へ行く<kido 向, トナ mu-da<sup>2</sup>anu 家へ入る<da<sup>2</sup>anu 家。 3. トナ oa-[abitsi 切る。 4. マガ u-sulatu 書く<sulatu 字。 5. マガ ni-kamdo 死者<mamodo 死す。 6. マガ pa[a 取らしむ>ama[a 取る。 7. マガ poburu 烟を出す<uburu 烟る。 8. マガ pi-dano 家を所有する人。 9. トナ pka-ava 互に愛す>mavava 愛す。 10. マガ kavava 愛する(形), トナ ka-[abitsi 切れる(形)。 11. マガ ki-ate 里芋を掘る<ate 里芋。 12. トナ kia-butసు 粟を抜く<butసు 粟。 13. マガ te-kanu 炊事す<kanu 食物, トナ tia-da<sup>2</sup>anu 造屋す<da<sup>2</sup>anu 家。 14. トナ api-davatsi 行くを欲す, api-kamodo 死に瀕す。 15. マガ ipi-kanu 食ふことを欲せず。 16. マガ matsi-tసు 互に見る<tసు 見る。 17. トナ ta-tšilaí 水に入る<atšilaí 水。 18. マガ s-ime 毛布を被る<ime 毛布, トナ sia-taopon 帽子を被る,<taopon 帽子。 19. トナ sa-kanu 食事の道具。 20. トナ i-babalatu 屋外に居る,<balatu 屋外。 21. トナ lao-kaluka 爪を取る<kaluka 爪。 22. トナ i-kanu 食せず, ai-kula 來らす<ukula 來る。 23. マガ sika-

qusa 第二<qusa 二。

3. 接尾辭, -a, -anu 等。

例, 1. マガ sulsult-a 書く場所<usulatu 書く, マガ te-kanu-kanu-a 炊事場,食事場<okanu 食す。 2. トナ lu<sup>2</sup>u-anu ルウの所持品<lu<sup>2</sup>u 人名, idan-anu 彼のもの。

## IV. 品 詞

1. 冠 詞

1. 人稱冠詞 ki 主格。

niki 屬格。

ki 對格,與格等。

マガ ovaqa ki tsakbu ツアクブは行く。

マガ kipi niki tsakbu ツアクブの着物。

2. 普通冠詞 na 視界内。

ku 視界外。

格に依る變化なし。

マガ latbi na vraku-da 彼の子は泣く(其子は見えず)。

マガ latbi ku vraku-da 彼の子は泣く(眼前に於て)。

マガ patemdo na tsumai na vrisna 熊は猪を殺す。

マガ danu na burbaru 娘の家。

2. 代名詞

1. 人稱代名詞

一人稱單數

一人稱複數(除對話者)

主格 マガ kuku, トナ ka:ku

マガ knamu, トナ kinamu

屬格 マガ, トナ -li, -ili<sup>1)</sup>

マガ, トナ -namu, -inamu

與格,對格 マガ nkowa, トナ nkowa, ikowa, マガ numa, トナ inamia

inakowa

一人稱複數(含對話者)

主格 マガ miti, トナ kita, mikita

屬格 マガ, トナ -ta

與格,對格 マガ mitia, トナ imitia

## 二人稱單數

主格 マガ musu トナ ko:su

屬格 マガ, トナ -su, -isu<sup>1)</sup>

與格, 對格 マガ sua, トナ imusua

## 三人稱(視界内)

主格 マガ, トナ kini

屬格 マガ, トナ -ni, -ini

與格, 對格 マガ nija, トナ inianu

## 二人稱複數

マガ mumu, トナ ko:mu

マガ, トナ -mu, -imu

マガ mua, トナ imuanu

## 三人稱(視界外)

トナ kiða

マガ, トナ -ða, -iða

マガ dija, トナ idijanu

## 2. 物主代名詞

トナ一人稱單數 jaili, (マガ ijali), 一人稱複數(除對話者) jainamu, (含對話者) jaita,

二人稱單數 jaisu, 二人稱複數 jaimu, 三人稱(視界内) jaini, (視界外) jaiða.

## 3. 先行代名詞

一人稱單數, マガ, トナ ko-, ko-sulatu 私は書く。

一人稱複數(含對話者), マガ, トナ ta-, ta-su[atu] 我々は書く。

三人稱(視界外), マガ, トナ la<sup>2)</sup>, la-t-bi 彼は泣く <ut-bi 泣く。

## 3. 動詞

## 1. 過去 マガ, トナ ða

マガ okanu ða musu 汝食せしや。

マガ usulatu ða 書けり。

## 2. 未來, 1. マガ, トナ nu.

マガ nu-gja 歸らん &lt;ugja 歸る。

マガ nu-gja ma kuku 我は歸らん。

ma 或は mia, mi を動詞と代名詞の間に挿入す。

ða は元來完了を示す助辭なれば, 未來の時にも ða を用ふることあり。

nu-kanu ma ða これより直ちに食せん

## 2. 反覆

ku-a[-a] 我は取らん &lt;ama[a] 取る。

ta-sa-sijar-arku 我等は寝ることにせん &lt;sijarku 寝る。

## 3. 命令 マガ, トナ -a.

マガ tsupul-a 見よ &lt;tsupulu 見る。

トナ tobi-a 泣け &lt;ut-bi 泣く。

## 4. 否定 1. マガ, トナ i-

マガ i-tamaku 喫煙せず。

トナ i-kanu 食せず。

## 2. トナ -ija.

トナ kan-ija ka:ku 我は食せず。

## 5. 禁止 1. マガ aða i-

マガ aða i-kanu 食す勿れ。

## 2. トナ aði, -a:ða.

トナ aði da?ulo 降る勿れ。

トナ ma[a-a:ða] 取る勿れ。

## 4. 分詞 -a

マガ atsupl-a su 汝の見るもの &lt;utsupulu 見る。

トナ oalop-a ikowa 我の獵するもの, oalopu ka:ku 我は獵す。

マガ ase[-a] 娶るもの, 妻 &lt;ase[-i] 娶る。

## 5. 結辭

na マガ sovule na itso 男の人。

トナ atsilai na ma[agi?] 清水。

ka マガ uðalu ka nuvoja kuku 雨降れば我行かず。

マガ ina omuts na a?o na itso ka lasisilapu 犬を連れし人は追はんとす。

## 6. 助辭

la 繼續, マガ ikike ta la kine 我々は相變らず此處に居る。

マガ nukukne ma la knamu 我々は再び來らん。

mia 他人の言葉を傳ふる時, …と云つてゐた。

lea 曰く, 屬格代名詞に附屬することあり:

leli ka 我曰く, lesu ka 汝曰く, leni ka 彼曰く。

註1. 本來 i- 形は物主代名詞…のものといふ意を示す。

註2. 動詞の la 形はバイワン語 na に對比せば過去を示すものと推論し得れども, 説明者の説明を信じ, 三人稱に la 形の用ひらるゝ實例に鑑み, la を三人稱の先行代名詞と解せり。



1. マガ方言 (tordukana)

1. pobürü

- 4 mokani na büsübüsü / lasubürü ktsa- 此方へ来る 風 暴風吹く 下
5 [isi]isija si / nakuni sbürü mkani ki 三社蕃 而して 何故 嵐が来る 此方へ来る
6 mumu suabu / si / la[vei na atsü]e / si / 祖先(祖父) (人名) 而して 増加する 水 而して
7 labübürü pu[boa na itso moa tok-lulu / 逃げる 人 行く (山名)
8 lak(ü)la ki mumu soabu / "nako mo ab- 来る 祖先 (人名) 何故 汝等
9 übürü parve kükü na atsü]e / si muba[a- 逃げる 増加させる 我 水を 而して 我は
10 ŋkuwa na itso sobuŋu / "ijo nobemaknam 要求する 人に 牲(代償) 然り 我々は興ふ
11 suwa / "ijo spak(e)emla / nuva]ama kü- 汝に 然り 五日間 取除く 我は
12 kü / "ijo tak-]uge su mumu soabu / lova- 然り 感謝する 祖先 (人名) 取除く
13 [a na atsü]e / lak]ak]o na atsü]e / si / lak- 水な 消失する 水 而して 来
14 kne na sovlé na aþo ladudu / ipkadudu する 牡 犬 呑む 呑む事が出来ない
15 ŋitsulo / si / lakne aþo na abeja / ladudu / 總て 而して来る 犬 牝 呑む
16 eke tok-lulu ka [ak]do moab]eve / urgo 存す (山名) 恐怖する 歸村する 籠かに
17 miti mboalu ]a na pülüŋü / tavav(i)lisnə 我々 出づ 妖怪 猪となる

採録期: 昭和七年八月。
口授者: マガ社 sabla kanau.
説明者: マガ社 bibija.
3. pobürü 原義、煙を出す <ubürü 煙、地中より煙生じ 其後に彼等の祖先現出せりと云ふ傳説に依り 1. 創生す、2. 蕃社を創始す、の意義をも含む。
4. mokani moakne? na 冠詞、視界内。参照、概説 IV. 2. 1. la 三人稱先行代名詞。参照、概説 IV. 2. 2. ktsa[isi]isia / ktsa]isia 蕃人、下三社蕃。
6. la]vei <la+u]vei.
7. labübürü <la+abübürü.
9. parve <pa+a]vei <u]vei.

1. 人烟と共に生れ出づる話

風が此方へ来た、下三社蕃が嵐になつた、何故に嵐が来るか、祖先の スアブ が来て、水が増して、人々は トクルル山 に逃げた、祖先の スアブ がやつて来る、[スアブが云ふには]お前達何故に逃げるか、わしが増水せしめたのだ、わしは牲を人々に要求する[人々は答へて]はい、我々はあなたに興へます[スアブが云ふには]さうですか、五日経つと、わしは取除けよう[人々が云ふには]さうですか、スアブ様に感謝いたします、水を取除けて呉れますから、水が無くなつた、而して、牝犬が来て呑んだ、すつかり呑めません、而して、牝犬が来て、飲んだ、

muba]ŋkuwa = mba]a ŋkuwa.
10. no be ma knam <no...ma 未来。参照、概説 IV. 2. 3.
11. nu vala ma kükü <uva]a.
12. lova]a <la+uva]a.
13. la k]ak]o ~maqulalo 水無くなる。 la k-kne <kne 此處。
14. ipkadudu <dudu (動物が) 呑む、i-否定 -p- 使役。比較、ipka-kanu 食し切れず。
15. iþo na abeja, na は結辭的用法。
16. ka 結辭。参照、概説 IV. 2. 5.
17. tavav(i)lisnə <ta-va-v]isna 猪になる <vilisna 猪。 ta-0a-0kütsü <0akütsü 養仔。

- 1 taþa-0kütsü / ta]a]oŋu / takak-sisi / tasasi- 養となる 養となる 山羊となる 鹿
2 [eribu / lapobürü laisadona / lapobürü となる 煙出づ (地名) 煙出づ
3 saburna / sasana venu / ip]arigu lobalto (地名) 同 日 不知 外出する
4 ki bibika]u / patsüŋü-tsüŋülü / latsüŋülü (人名) 見懸す 見る
5 k]oo saburna / leke na itso / lagja m]o]du 彼方 (地名) 居た 人 行つた 下へ
6 ki bibikaru / moa saburna / "les(u)ka ekex- (人名) 行く (地名) 汝 此處に
7 ne tale / "ijo eke kükü knæ / tateli kükü 居る 友よ 然り 存する 我 此處 (人名) 我
8 þubula / ijo ekasu tale / lea ki tateli (地名) 然り 汝居る 友よ 日 (人名)
9 þubula "eke kükü k]oo laisadna / lea ki (地名) 居る 我 彼方 (地名) 日
10 bibika]u / "ijo lesu ka ekedia tale / "ijo (人名) 然り 汝 彼處(不見) 友よ 然り
11 nukukne ma kükü moa kne lo]du / 我 来る 此處 下
12 tata]sa tale / "ijo nakuani / lea ki tateli / 二人 友よ 然り 差支なし(?) 日 (人名)
13 "a]at]ini kinæ / lea ki bibika]u / "tsubakü 何 此 日 (人名) 壺
14 setsob-nani / "pinavæ / momunoni na 布を掛ける 刺繡附きの布 もの
15 tsubakli / "ijo lea ki bibika]u / 我の壺 然り 日 (人名)

トクルル山に居て、蕃社に歸るのが怖くなつた、必つとお化けが出るだらう、猪になる、雉になる、猿になる、山羊になる、鹿になる、ライサドナに煙が出た、サブルナに煙が出た、同じ日に、ビビカルは外へ出たが分らない、彼方此方と眺め見た、向うの サブルナを見た、人が居る、ビビカルは下へ行つた、サブルナへ行つた、[ビビカルが云ふには]あ、君は此處にゐるか、友よ、私は此處に居る、私は スブラの タテリです、君は何處に居るか、友よ、と スブラの タテリは云つた、[私は向うの ライサドナに居ます]と ビビカルが云つた、[さうかい、君は彼處に居るのかい]、さうです、私は此下へ降りて来ませう、二人一緒に居ませう、友よ、[差支ありません]と タテリが云つた、[これは何ですか]と ビビカルが云つた、[壺に被けてある布は、刺繡附の布は私の

1. ta-da-]oŋu <]a]oŋu 猿。 ta-ka-k]isi <k]isi 山羊。 ta-sa-sileribu <sileribu 鹿。
2. laisadana -na 場所を示す接尾辭(?) 其處を示す副詞(?)。比較、ina 彼、其 laisadana に創生せし族は laisada 系と稱す。(下方に下りて ladilia と改稱せり)、家系は 1. vivikaru。 2. spo]üŋna。 3. smok]ülü。 4. moli (女)。 5. dümdüma (女)。 6. lülüve (女)。 7. riripuno。 8. tonobuka。
3. saburna 0abulna (?) 此土地に發祥せし族を 0abula 系と稱す。 1. tateli。 2. k]i]ülü。 3. krimdo 4. smoli

(女)。 5. ruvosü (女)。 6. tonobuka。 7. moli (女)。 8. ravako。 9. lülüve。 laisada 系及び 0abula 系の外に ta]umukuru 系、kotoromo 系あり。 i-p]arigu <origu 知る。 lobalto <baltü 外庭。 4. patsüŋütsüŋülü <utsüŋülü 見る。 5. leke <la+eke。 6. ekex-ne ~ekek-ne。 8. ekasu <eke+su。 14. setsob-nani <setsobu na ini (?)。

壺のものです。さうですかとビビカル  
が云つた。

2. pobürü

- <sup>5</sup> urvei na bro si labübülu na itso / moa  
来る 海面して逃げた 人 行く
- <sup>6</sup> rügürügü lapkarimalu na venu eke rü-  
山に 五 日 存する
- <sup>7</sup> gürügü / eke ki mumu suabu / lasvoŋo /  
山 存する 祖先(祖父) (人名) 代償物を出した
- <sup>8</sup> bui na itso / si lovaŋa ki mumu soabu  
奥へ 人 面して取除く 祖先 (人名)
- <sup>9</sup> na bro / lagja na atsüle lakatiaŋa na  
海 行つた 水 消滅した
- <sup>10</sup> atsüle / leke na atsüle matikiŋsuno ladu-  
水 存する 水 極少量 呑ん
- <sup>11</sup> du na abeja na aŋo: / iduŋu niŋsuŋu dudu /  
だ 牝 犬 不能 總て 呑む
- <sup>12</sup> lova na sovŋai na aŋo: / ladudo ŋikrə /  
来る 牝 犬 呑んだ 總て
- <sup>13</sup> paleŋŋa pobürü ki bibikarü laisadana /  
最初 煙が出る (人名) (地名)
- <sup>14</sup> si lagja mbalta ki bibikarü [o]oŋu poŋomo /  
行つた 外出 (人名) 下に行く 見ると
- <sup>15</sup> eke na ubürü ŋabulna / "aratsini kini" ieja  
存する 煙 (地名) 誰 此れ 日
- <sup>16</sup> ki bibikarü / lova tsünülü / pŋomo eke  
(人名) 行く 見る 見ると 存する
- <sup>17</sup> na itso / "tateli aratsü kükü" / leja ki  
人 (人名) 名 我 日
- <sup>18</sup> tateli "ijo si lesü ka eke kine tale" / "ijo  
(人名) 然り 然り 汝 存する 此處に 友よ 然り
- <sup>19</sup> eke kükü kdoo" / "ekasu" / "eke kükü  
存する 我 向う 汝は居る 存する 我

2. 創生記

海が増来て人々は逃げ、山に行き山  
に五日間居た、祖先のスアブが来た、牲  
として、人を與へた、祖先のスアブは海  
を取除いた、水は行き消えた、水が少し  
あつて牝犬が飲んだ、飲む事が出来な  
い、牝犬が来た、すっかり飲んだ。

ライサドナに於て始めてビビカル

が烟と共に生れ出た、ビビカルは外へ  
出て下へ行つて見ると、サブルナに於  
て烟と共に出た者がある、誰かとビビ  
カルが云つた、見に行つた、人が居るの  
を見た、私の名はタテリですとタテリ  
が言つた、君は何處に居るか、友よはい

採録期：昭和七年八月。  
口授者：マガ社 sabla kanau。  
説明者：マガ社 tsakubü。  
5. labübülu <abüü 歸る。  
6. pkarimalu <rima 五。  
8. lovaŋa <la+ovaŋa。  
9. lagja <la+ugja。  
la-katiaŋa <tiaŋa~teŋa 無。

10. la-dudu <odudu。  
11. i-duŋu ~oduŋu 可能、i-否定。  
12. lova la+ova。  
14. mbalta <baltu 鋪石せる外庭。  
[o]oŋu <[o]du (下)の反覆。  
18. lesü ka -sü 二人稱代名詞、汝。比較 leli 一人稱、leni  
三人稱、ka 結辭、語根 le- 意義不明、le- ka は疑問  
を示す場合に用ひらる。

- <sup>1</sup> kdo:o laisadna" / "ijo lesü ka ekenia tale /  
向う (地名) 然り 汝 其處に居る 友よ
- <sup>2</sup> aratsini kini" / "tsübakü kini" / "aratsini  
何 此れ 壺 此れ 何
- <sup>3</sup> kini" / "pinavei tsobu ni na tsubakü li" /  
此れ 覆布 覆布 此れ 壺 我の

私は向うに居ます。君は何處に居るから  
「私は向うのライサドナに居ます。さう  
ですか、君は此處に居ますか、友よ、これ  
は何ですか。これは壺です。これは何で  
すか。私の壺の被覆の布です。」

- <sup>4</sup> eke ni tsubakü ta ka eke na tev(u)lakü  
存す 壺 我々の 存する 生れる
- <sup>7</sup> na itso / leka tevlaküŋa na tsubakü ta /  
人 (疑問を示す) 生れた 壺 我々の
- <sup>8</sup> manani abea kini sovule kini / boa sovule  
何 女 此れ 男 此れ おや 男
- <sup>9</sup> si: nako nusapuar(u)tsata / kaŋemdo taja /  
面して 何と 我々は命名する (人名) (間投詞)
- <sup>10</sup> si modipiŋa mite / ekeŋa ko spalapŋa ta /  
面して 暮す 我々 居た 多数となる 我々

此の我々の壺に人の子が生れた、我  
々の壺に子供が出来たか、それは女で  
すか、それは男ですか、おや男だ、我々は  
何と名前を附けよう、カレムドにしよ  
う、そして暮しが樂だ、我々は多人數に  
なつた[から]。

- <sup>12</sup> si lapurabu m-tia na iapü na bütsünjü /  
面して 播く 我々 種子を 粟の
- <sup>13</sup> ladoki na mude / ladoko na ate / ladoko  
植えた 龍宮玉 植えた 里芋 植えた
- <sup>14</sup> na bjaŋe / lasurukara na tsünjüŋo si  
薩摩薯 激しく 晴天 面して
- <sup>15</sup> lakamdo na makakanapa / si nukanaŋa /  
死んだ 食料 面して 食料なし
- <sup>16</sup> si mua puana na nusa na ave / si lova  
行つて 射つ 一個 太陽 行つた
- <sup>17</sup> puana ko avalvakaŋa / lakamdo na avae /  
射つ 彼等の子供の時 死んだ 太陽
- <sup>18</sup> si lakoŋdopapa si laklalapŋwe / koripoŋu-  
老人になつた 面して 歸つて来る (葉を)丸め結
- <sup>19</sup> ŋu na bŋŋu "aitsova / si kopsalikeŋkowa  
ぶ 壺 人になれ 面して 代償を與へよ

我々は粟の種子を蒔いた、龍宮玉を  
植えた、里芋を植えた、薩摩薯を植えた、  
餘りに旱天で食料が枯れた、我々には  
食料がない、そして一個の太陽を射ら  
に行く、そして子供の時に射ちに行つ  
た、太陽が死んだ、そして年寄になつて  
歸つて来た、壺の葉を丸く結び人に成  
れ、そして私の着物をお禮に呉れ、私の

1. ekenia <eke-nija <nija (視界内)。  
2. pivavei 黒布に黄、赤、白の色練にて刺繍しトシホ玉を  
以て縁取る古代の覆布、現代の覆布は tsobu と云  
ふ。  
6. ni nija の誤記 (?)  
te-v(u)lakü <vulakü 子。  
7. le ka, leni ka としても宜し。  
tevlakü ŋa, ŋa は完了。  
9. nusapuar(u)tsa ta <aratsü 名、nu- 未来、sa- in-

strumental, pu- 使役。  
13. ladoko <odoko。  
15. makakanapa <okanü 食ふ、-apa 分詞。  
17. avalvakaŋa <valakü 子。  
18. lakoŋdopapa <maŋdapa 老人。  
koripoŋuju 壺の葉を丸め結ぶ一種の呪、他社を訪問  
の時歸路に於て此の呪をなし病氣を拂ふ。  
19. aitsova 人に成れ、命令形 <itso 人。

- <sup>1</sup> na mom-nankowa / na kannankowa / 食物を呉れ、村に歸つた、そしてこれが  
 我的着物 我的食物  
<sup>2</sup> lakla bejeve / si nkanumaja mite na 我々に食料が出来た、夜と晝が我々  
 歸つた 村に 而して 食物あり 我々に  
<sup>3</sup> kanno / nurigumaja mite na venu na に分る様になつた、食料も種子も枯れ  
 食物 知られる 我々に 晝  
<sup>4</sup> masogu / nukamdejaja na kanno ta na ない様になつた。  
 夜 死なない 食物 我々  
<sup>5</sup> ijapü ta /  
 種子 我々の

3. sura püjüjü

- <sup>8</sup> ike spojuña / ollapü / [a]a na mka]o / そのスボルグナは、獵に行く、ムカロ  
 存する [人名] 狩獵に行く 探る [花名]  
<sup>9</sup> si [ivova]lu / loboalü na sura püjüjü / と、リボバルを探る、百歩蛇が出る、何故  
 而して [花名] 出た 蛇 精  
<sup>10</sup> "naka so mja spojuña ka mka]o / vuju- 何故に 汝 [人名] [花名] 我的  
<sup>11</sup> [e]i kini anu mda]musu na mka]o ka / 私のものだ、お前は此花が好きなら、お  
 物 之れ もし 汝は好む [花名]  
<sup>12</sup> nuse]ijima kükü ku vlaksu / eke sua na 前の子を私の妻とする、お前は女の子  
 娶る 我 汝の子 存す 汝  
<sup>13</sup> v]aku na bebibe" / "ijo eke tu]u na bebi- を持つてゐるか、と蛇が云つた、はい、娘  
 子 女 然り 存す 三 女  
<sup>14</sup> be" / labü]ü ki spoju]u]na / tü]ü]a ku v]a- が三人あります、とスボルグナが答へ  
 歸つた [人名] 相談する 彼の  
<sup>15</sup> v]ak]a / launu ku tka-tka nupoata d]ia ka した、スボルグナは村へ歸つた、彼の子供  
 子達 拒絶した 長女 欲しない 彼  
<sup>16</sup> sura / lakokne ku gege / aunu ku gegi / は相談した、長女は蛇が嫌ひ、次女は鳥  
 蛇 此處へ来た 次女 拒絶する 次女  
<sup>17</sup> lakokne ku gija-gija / "nakoninu mda]ma- から来る、次女も嫌ひ、三女が来る、私を  
 此處へ来た 三女 もし 我を  
<sup>18</sup> dapkowa" / laitso ku sura / labuts]itsilipi / 好くならよろしい、蛇は人間になる、[相  
 好む 人になつた 蛇 聞えた  
<sup>19</sup> sesemomanu]a na marigi / sebü]ü na 談が聞えた、(蛇は)美しい着物を着た、即  
 着用した 美麗な 皮を着る

2. lakla <ukla.  
 4. nu kamdeja ja <mamdo 死す, -eja 否定, ja 完了。  
 8. ike ~eke.  
 [a]a <ama]a 取る。  
 mka]o 香氣強き草, 黄色の小花を着く, 花冠に用ひらる。液を身體に塗れば蛇咬ますと云ふ。

12. nuse]iji ma <use]i 要る。  
 14. labü]ü <[o]abü]ü.  
 15. launu <[a+aunu <aunu 拒絶す。  
 18. labuts]itsilipi <ubuts]ilipi 聞ゆ。  
 19. sesemomanu]a <se-se-momanu <momanu 着物, se- 接頭辭, 着用す。  
 sebü]ü <bü]ü 毛皮。

- <sup>1</sup> ikulo / sikatsipi na ditsi / laselbete na ち豹の皮、刺繡附のズボン、刺繡附の袴、  
 豹 ズボンを穿く 刺繡 袴を穿く  
<sup>2</sup> ditsi / sime na pnavai / setsivaru na 刺繡附の掛布、雄の羽、家にはひる、館は  
 刺繡 掛布をかける 刺繡附きの 羽毛を穿す  
<sup>3</sup> the]iu / suvaja mdanu / tsü]gtsü]g sbak 外に立てる、蛇は家にはひつて腰掛に  
 雄 はひつた 家に 立つ 館  
<sup>4</sup> d]a / sudanuja moainunu sururu / "nakoso 坐つた、お父さんは何故に蛇といつた  
 彼の 家に入つた 坐す 腰掛 汝は何故に  
<sup>5</sup> p]aku mau sura mija leka itso" / eke のか、人ではありませんか、と長女が父  
 知らしめる 父(愛稱) 蛇 なり 人 存する  
<sup>6</sup> spoju]u]na "ka sura ku tsü]g]ü]ü li" / si に云つた、私の見たものは蛇だつた、と  
 [人名] 蛇 見る 我 我にて  
<sup>7</sup> nakuni a]tso]a dalasini na ma]abaru / スボルグナは云つた、人間になつて大  
 人になつた 非常に 美男子  
<sup>8</sup> lakavavaku giagge / lasel]ijidia k]co ge- へん美男子である、三女と戀になつた、  
 戀になる 三女 彼の妻となる 向う 三  
<sup>9</sup> ge / sutuvarkupa ku abeja / dalosini na 三女は妻となつた、女に子供が出来た、  
 女 子供を生んだ 次女 非常に  
<sup>10</sup> marigi ka v]av]akü sovlei / 大へんに美しい男の子だつた。  
 良好 子 男

4. tsme: si rikulo  
 熊 而して 豹

- <sup>12</sup> ol]apü ki [ü]mause / pasikiarü ki nini- 兄弟が獵に出た、彼女(母)は辨當を持  
 狩獵に行く 兄弟 辨當を持たす 彼の  
<sup>13</sup> dija iko kiarü]a ki kakidija ki spürü]ü- させたが、兄のスボルグナの辨當には  
 母 彼の 彼の辨當 彼の兄 [人名]  
<sup>14</sup> na ka ur-gur-gu na atabna / si iko 油蟲を入れた、そして弟の辨當には豚  
 混入する 油蟲 而して 彼の  
<sup>15</sup> kiarü]a ku gjagi ka ur-gur-gu na butolu / 肉を入れた、兄は性悪でした、そして互  
 彼の辨當 次男 混入する 豚肉を  
<sup>17</sup> lak]ekrü ku tika-tika / si lapsasü]atü / ひに紋様をつけた。  
 性悪 長男 而して 互に紋様をつけ合つた

4. 熊と豹

5. nu]a]o]u  
 5. 猿になつた話

1. sikatsipi <katsipi ズボン, si- ~ se-  
 laselbete <]bete 袴。  
 2. sime <ime 掛布。  
 setsivaru <tsivaru 羽毛。  
 4. moainunu <moa- 行く, inunu 坐す。  
 5. le ka itso 類例, le ka gipigipi 籠眼なり。  
 eke <]ea ki (?)

6. ku tsü]g]ü]ü li 私の見るもの, tsü]g]ü]ü は名詞の取換。  
 8. lakavava ~mavava [女を] 愛す, [女を] 訪問す。  
 13. pasikiarü <kiaru 辨當。  
 17. lapsasü]atü <sü]atü 紋様, sü]atü の反覆形に la-, p-  
 が附せられし形。

- <sup>1</sup> tekamu na bütsüjü / si "nako nusa-  
炊く 粟 而して何を以て(飯を)
- <sup>2</sup> tsitsiva li / si "satsitsiva rime su" / si  
掻き混ぜる 我 而して 掻き混ぜよ 手を以て 汝の
- <sup>3</sup> latsitsivi sarke rimeča / lapjatsü / "numa-  
混ぜた 手を以て 彼の手 叫聲を出した 何
- <sup>4</sup> m(u)nam(u)na li / nučačonu ma kükü" /  
にならう 我 猿となる 我
- <sup>5</sup> lakpüj-püja tsapa / "nolagjana li gutsa-  
乗る 棚 不可能 我 棚に
- <sup>6</sup> tsapa / nugja ma kükü moa tubukowa" /  
乗る 離別する 我 行く 山

粟を炊く、そして「私は何で飯を掻き  
混ぜませうか」「汝の手で混ぜなさい」そ  
して彼の手で混ぜました、叫び聲を出  
した、「私は何になりませうか、私は猿に  
なります、棚に止つた」「私は棚に止つて  
ゐる事が出来ません、私は別れを告げ  
て山へ行きます」。

6. nutatomuoa

- <sup>10</sup> "nukema kükü sörkü kne / si nupakaļa  
しようとする 我 寝る 此處 而して 何處
- <sup>11</sup> li sojjole / usopaļe kükü / si laga-utsuņ-  
我 睡を吐く 睡を吐く 我 而して 我を怒る
- <sup>12</sup> kowa ki papļe li / "si nutatomuoa kükü /  
兄弟 我 而して 鼠となる 我
- <sup>13</sup> si nuntanto ma kükü tsubarü mu si  
而して 齧ちる 我 山羊皮 汝の
- <sup>14</sup> momünömu / nuģutsipitsipija ma kükü  
品物 屋根の上を歩く 我
- <sup>15</sup> nurgoaamoņkowa puana" /  
我を知らず 射つ

6. 鼠になつた話

「私は此處に寝る、そして私は何處で  
睡を吐きませう、私は睡を吐く、そして  
私の兄弟は私に對し怒つた」「そして私  
は鼠になる、私はあなたの山羊皮と品  
物を齧ります、私は屋根の上を歩きま  
す、射たうとしても私[の居所]が分らな  
い」。

1. tekamu te- 作る, kanu 食物.  
nusatšitsiva <utsitsivi 混和す, nu- 未来, sa- 接頭  
辭, 道具.  
3. rimeča <arima-iča 手, 比較 rimeli <rima-ili 私の  
手.  
numam(u)nam(u)na nu- 未来, ma-mana-mana <ma-  
na の三重反復.  
4. nučačonu nu- 未来, čačonu 猿.  
5. lakpüj-pü ja <ukpükpü [木の枝等に] 止まる, la-  
kpükpü ~ lakpüj-pü ja, pü に揚音あるために k>ja  
になることあり.  
nolagjana li(?) <nugja(?), 参考, nugja は將に去ら  
んとする意にて, nugja は出来すといふ意味を有す  
と云ふ説明を得たり, 遂に信す可からずと雖も, 恐ら  
く nugja も nugja 同じき語にして, 去るといふ第一

義より, 堪へず, 爲し得ずといふ第二義を生ぜしもの  
ならん.  
ģutsatsapa <tsapa 棚, pu- 比較 註14.  
6. nugja ma <ugja 去る, nu...ma 未来.  
11. sojjole <joje 睡.  
laga-utsuņkowa ~maga-utsu 怒れる, ģkowa 我に,  
我な.  
12. nutatomuoa <tamuoa 鼠.  
13. nuntanto ma 未来形 <untantu 齧る.  
14. nuģutsipitsipija <ģipi 屋根, pu- 接頭辭.  
15. nurgoaamoņkowa ur(i)ģo 知る, iriģo 知らず, nurg-  
oaamo 探求すれども所在不明といふ否定の説明をせ  
り, -mo は汝等(?)

7. numamo:le

- <sup>2</sup> "nokema kükü kn sörkü" / "ini" / nop-ke:  
しようとする 我 此處 寝る 不 置く
- <sup>3</sup> ma kükü ģitsü:li / "numamnamna:li / numa-  
我 我的烟管 我は何にならう 南京蟲
- <sup>4</sup> mo:le ma: kükü / nutütütü ma kükü noa" /  
にならう 我 嘔まう 我 汝等を
- <sup>5</sup> lak-pisöla lasitü tsukuļu / lapka:pa na  
分裂した 満ちた 白 沸かした
- <sup>6</sup> atsü:le / si laöulu:duku / lasiņaņsa ģija /  
水を 而して 注いだ 一匹 逃げる

7. 南京虫になつた話

「私は此處に寝ます」「いけません、私は  
私の烟管を此處に置いたか」「私は何に  
なりませう、私は南京虫になりませう、  
私はお前達を嘔みませう、分裂して白  
一杯になつた、水を沸かした、そして注  
ぎかけた、一匹逃げ出した」。

8. polotsuņkü ku iteli si povulise

ku ģtal

- <sup>11</sup> ollapü ki spurüģuna labüjü moaģogļa /  
狩獵に行く (人名) 歸る フグロ(鳴鳥)に行く
- <sup>12</sup> si latsüģülü ka eke ki tenüģuro / lap-  
而して 見た 存する (人名女) 延長
- <sup>13</sup> ģak[ajü ku iteli ģa / kusüpaluģa lea ku  
した 陽物 彼の 和合する 斯の通り
- <sup>14</sup> küģuģum ģa / si latsüģülü ki tenüģuro /  
考 彼 而して 見た (人名女)
- <sup>15</sup> laļa na sačģo tük-tükü / lasülüģü / si  
取つた 刀 切る 縮少した 而して
- <sup>16</sup> lotsuņkü psitü ptsüģa / povulise ku ģtal  
刺 満ちた 小籠 齒が有る 女陰
- <sup>17</sup> ģa ki ten-ģuro /  
彼女の (人名女)

8. 刺のある陽物と齒のある

女陰

スブルグナは獵に行く、フグロに歸  
つて来た、そしてテヌグロの居るのを  
見た、彼の陽物が延びた、姦姪が彼の考  
である、そしてテヌグロは見た、刀をと  
つて切つた、縮まつた、そして[陽物につ  
いてゐた]刺は籠一杯だつた、テヌグロ  
の女陰には齒が生えてゐた。

9. tatigaga

- <sup>20</sup> ollapü ki spurüģuna / "aģa ipdavtsa  
狩獵に行く (人名) 勿れ 鳥へ連れ行く
- 2. nop-ke <p-ke <p-kija 置く, no- 未来.
- 3. numamo:le <mamo:le, mo:le (南京蟲)の反復.
- 4. nutütütü <utütü (嘔む)の反復.
- 5. lak-pisöla ~mapisöla 分裂す.
- lasitü <sitü 充滿す.  
lapka:pa lapkaģpa(?) ~makarüpa 沸せ.
- 6. lasiņaņsa <siņaņsa 一匹, この la の用法は接續詞の  
如し.

9. 鳥になつた話

スブルグナは獵に行く、「我々の子を  
11. ollapü ~o[lapü.  
13. lea ~leia 考は斯の如し, 斯くの如く云へり.  
15. lotsuņkü <la otšünükü, tsünükü 刺.  
p.vlise <po-vlise, vlise 齒.  
20. aģa ipdavtsa <aģa i- 勿れ, -a 命令, pdavtsu 鳥へ  
連れ行く, ~odavtsu 鳥へ行く.